本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

◎ **お車を安全･快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。**
◎ **「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。**

- 本書の中で使用しているマークと意味は次のようになっています。

安全のために守っていただきたいこと。	
⚠ 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注意	守らないと傷害につながるおそれがあります。
お車のために守っていただきたいこと。	
アドバイス	守らないと装備品や車両の破損につながるおそれがあります。
お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。	
知識	知っておくとお車の性能を十分にお使い頂けるとともに、いろいろな装備を上手に使うことができます。
	安全のためにしてはならない行為。（イラスト内に表示されています）

- コントロールパネルのスイッチは［＊＊＊］、操作画面に表示されるメニューや項目は［＊＊＊］と表示しています。
- 参照して読んでいただきたいページなどを、➔ マークで表示しています。
- 日産販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検･整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- 別冊のナビゲーションシステム取扱説明書も合わせてお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザーにお申しつけください。

- 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護に配慮してください。
- 本書と別冊のメンテナンスノートはお車の中に保管してください。
- お車をゆずられるときは次に所有される方のために、本書をお車に付けておいてください。
- 車両の仕様変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

目次

■ 外観フロント **.2**
■ 運転席まわり **.5**
■ 警告灯一覧 **.8**
■ 外観リヤ **.3**
■ インストルメントパネル **.6**
■ 表示灯一覧 **.9**
■ 車室内 **.4**
■ メーター **.7**

イラスト目次 P.2

■ 日産ハイブリッドシステムの特徴 **.12**
■ 安全にご利用いただくために **.16**
■ 日産ハイブリッドシステムと上手に付き合うために **.18**

日産ハイブリッドシステムとは P.11

■ 運転する前に **.20**
■ ポップアップエンジンフード **.47**
■ シートベルト **.27**
■ お子さまの安全のために **.52**
■ エアバッグ **.34**
■ 盗難防止機能 **.66**

安全なドライブのために P.19

■ 計器類 **.68**
■ ヘッドアップディスプレイ **.95**
■ 警告灯·表示灯 **.75**
■ メーターの明るさの調節 **.105**
■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ **.80**

メーターの見かた P.67

■ キー **.108**
■ ハンドルの調節 **.135**
■ 燃料補給口の開閉 **.151**
■ ドアの施錠と解錠 **.115**
■ ミラーの調節 **.136**
■ エアコンの操作 **.155**
■ シートの調節 **.126**
■ 窓ガラスの開閉 **.141**
■ ナビゲーションシステム **.167**

各部の操作 P.107

■ 始動する **.177**
■ 運転支援機能 **.229**
■ 運転する **.183**
■ ランプをつける、ワイパーを使う **.211**

運転のしかた P.175

■ 室内灯 **.446**
■ 収納装備 **.450**
■ その他の室内装備 **.458**

室内装備 P.445

■ まずはじめに **.472**
■ 緊急時の対処方法 **.479**

トラブルがおきたときは P.471

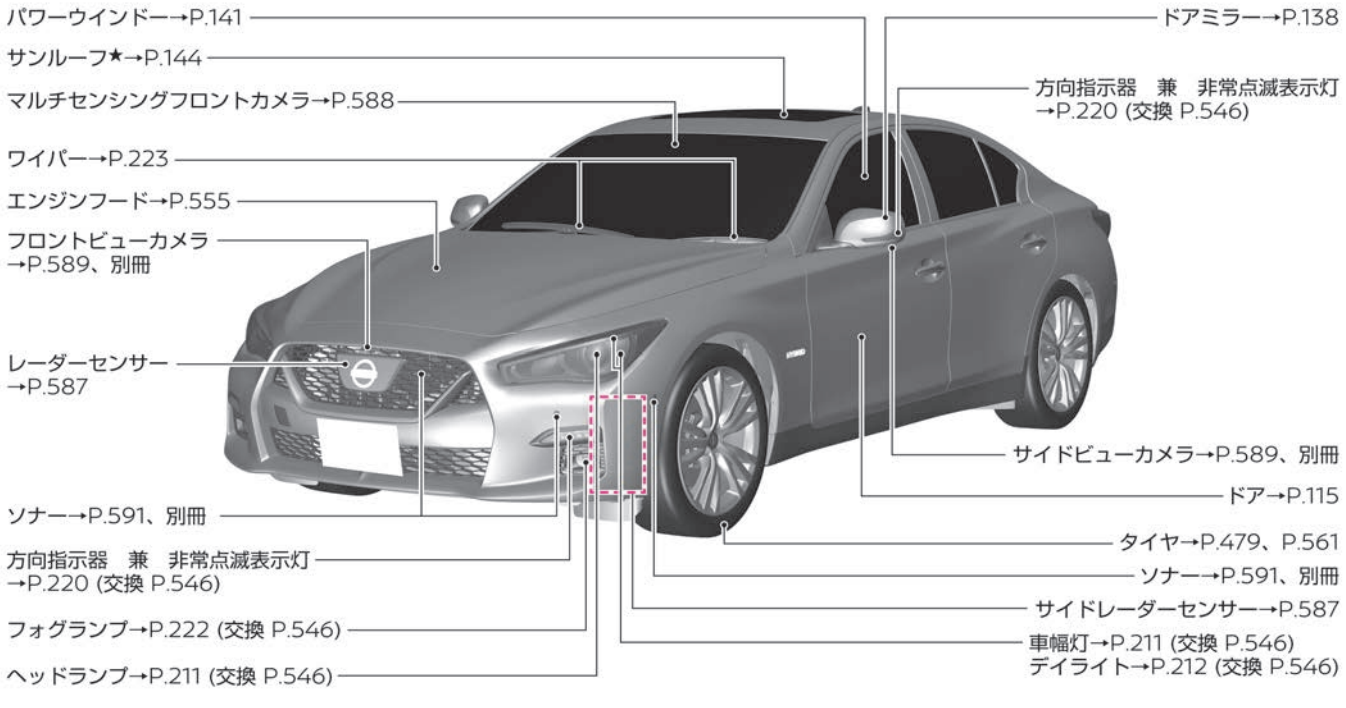
■ メンテナンスの前に **.548**
■ 清掃·お手入れ **.580**
■ 工具·ジャッキ **.549**
■ サービスデータ **.595**
■ 点検と整備 **.554**

メンテナンス P.547

索引 P.603

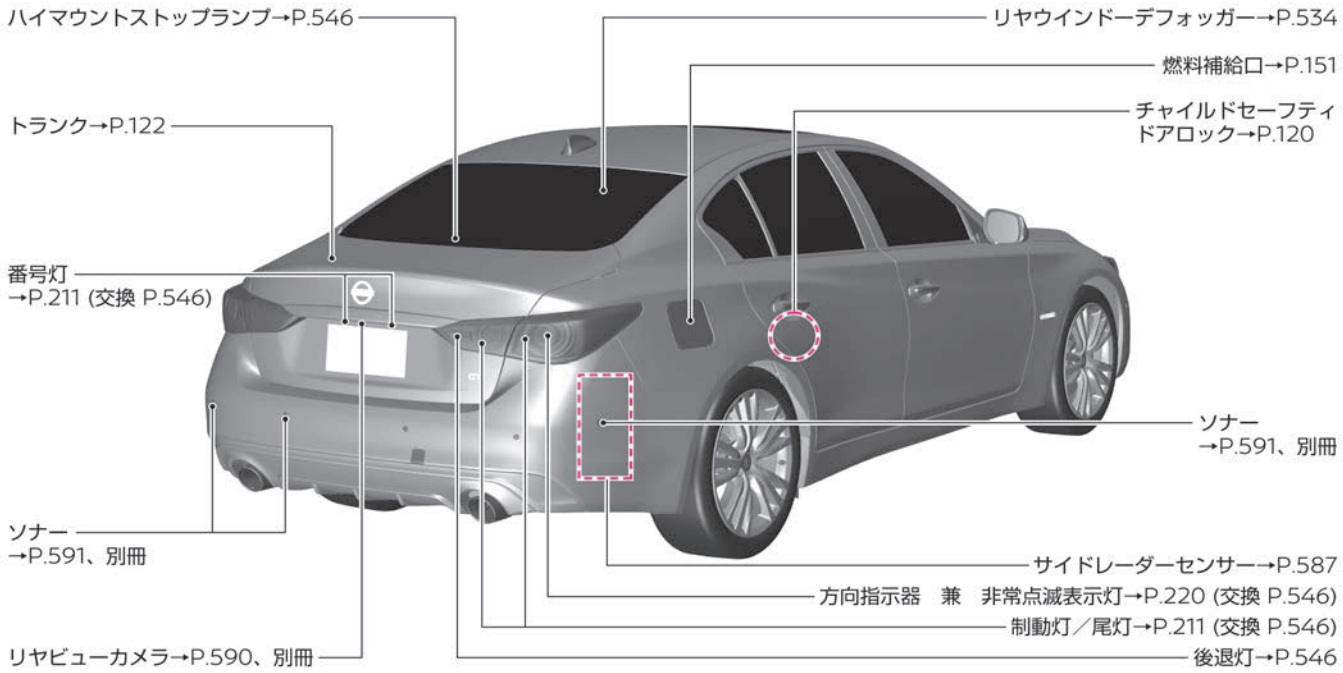
外観フロント

別冊：ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



外観リヤ

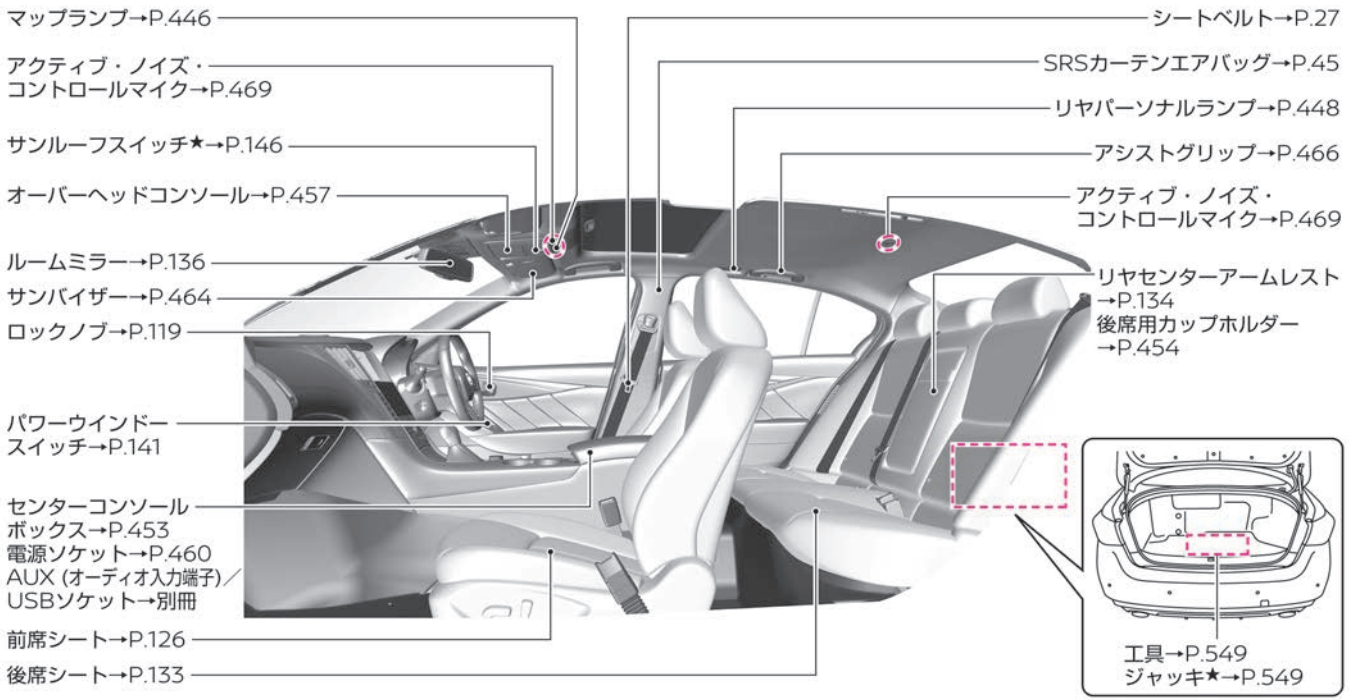
別冊：ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

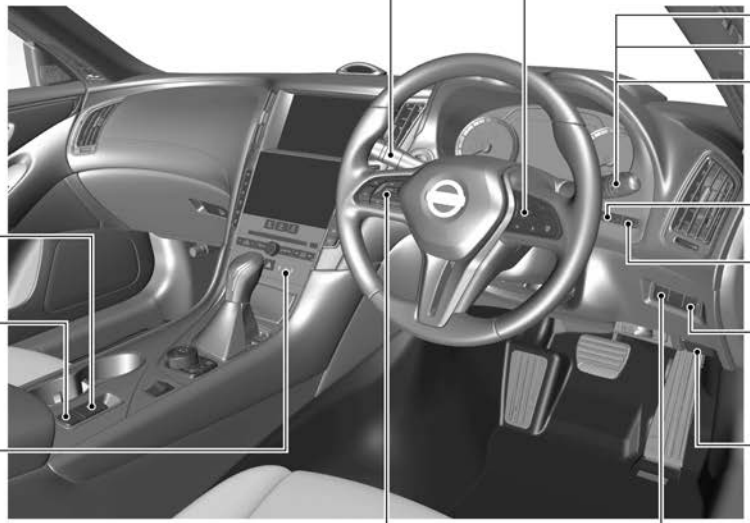
車室内

別冊：ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



運転席まわり

別冊：ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



ワイパー・ウォッシャースイッチ→P.223

ステアリングスイッチ
－アドバンスドドライブアシストディスプレイ→P.80
－プロパイロット2.0→P.252

ライトスイッチ→P.211

方向指示器スイッチ→P.220

フォグランプスイッチ→P.222

イルミネーション
コントロールスイッチ→P.105

トリップ切り替えスイッチ
→P.71

ヘッドアップディスプレイ
スイッチ→P.101

エンジンフードオープナー
→P.555

トランクオープナースイッチ
→P.123

電動パーキングブレーキ
スイッチ→P.191

オートブレーキホールド
スイッチ→P.196

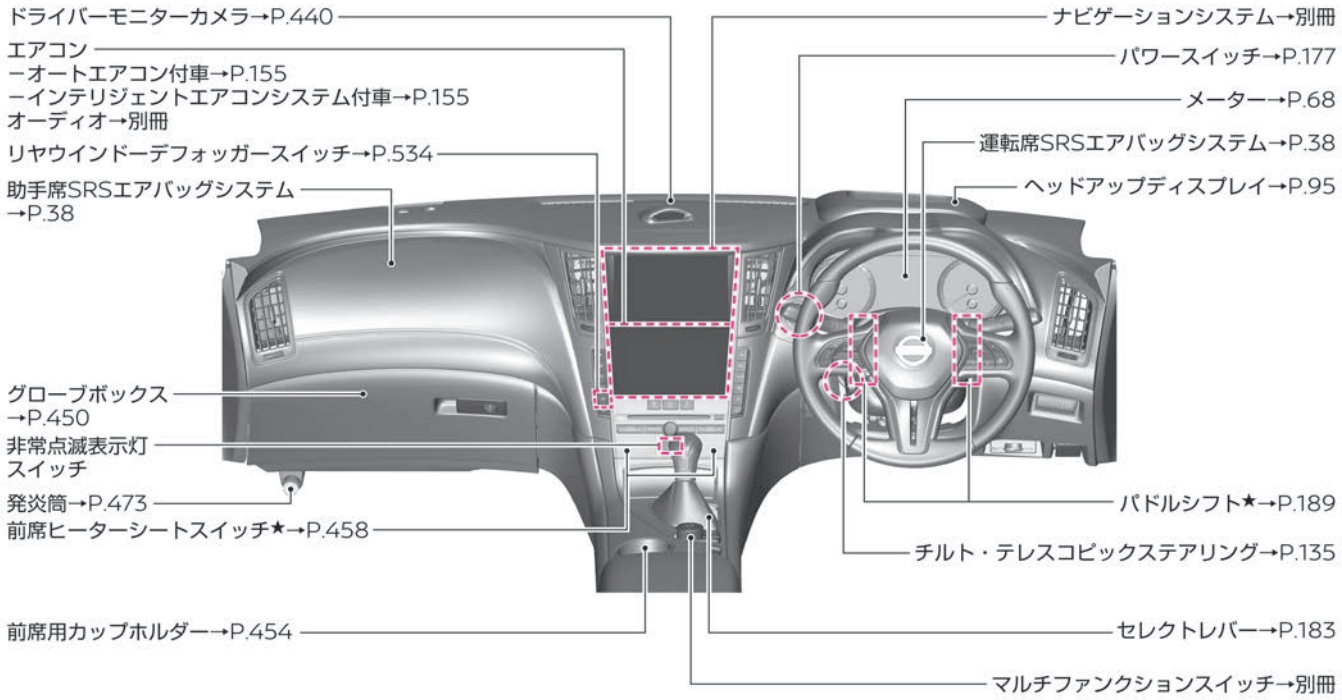
後席シートベルト警告灯
→P.493

ステアリングスイッチ (オーディオ、ナビゲーションシステム)
→別冊

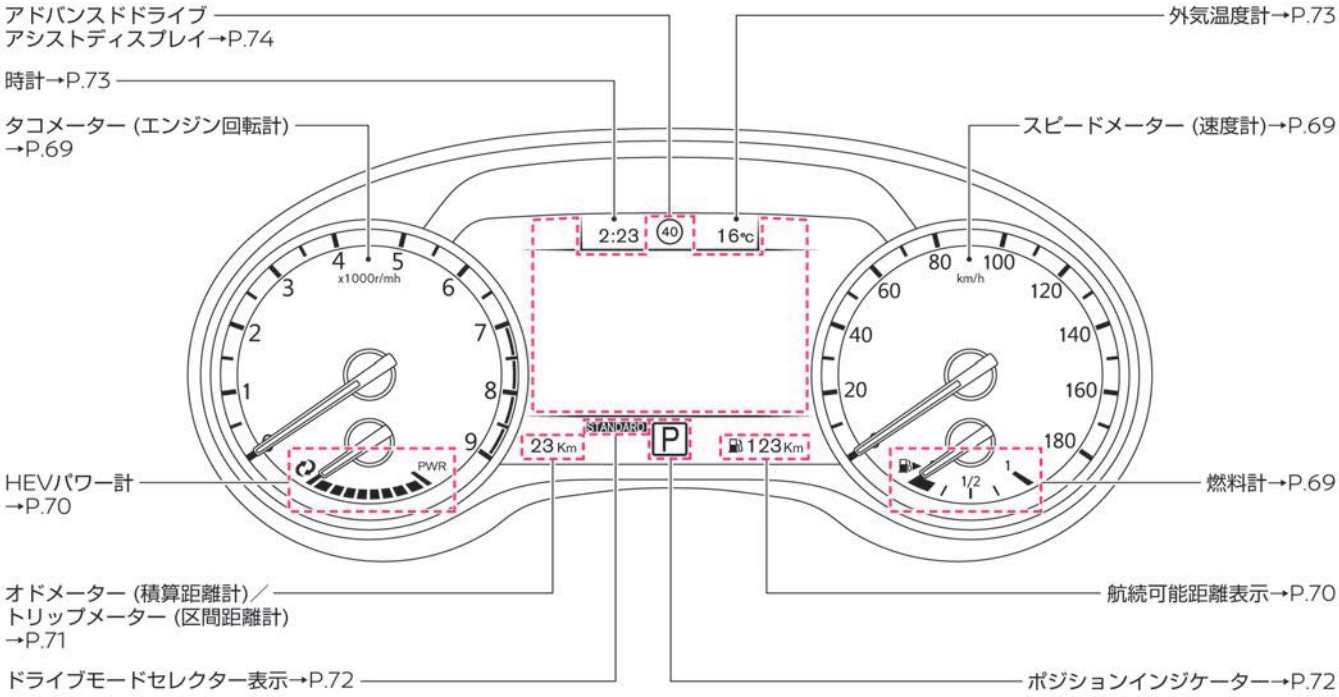
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

インストルメントパネル

別冊：ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

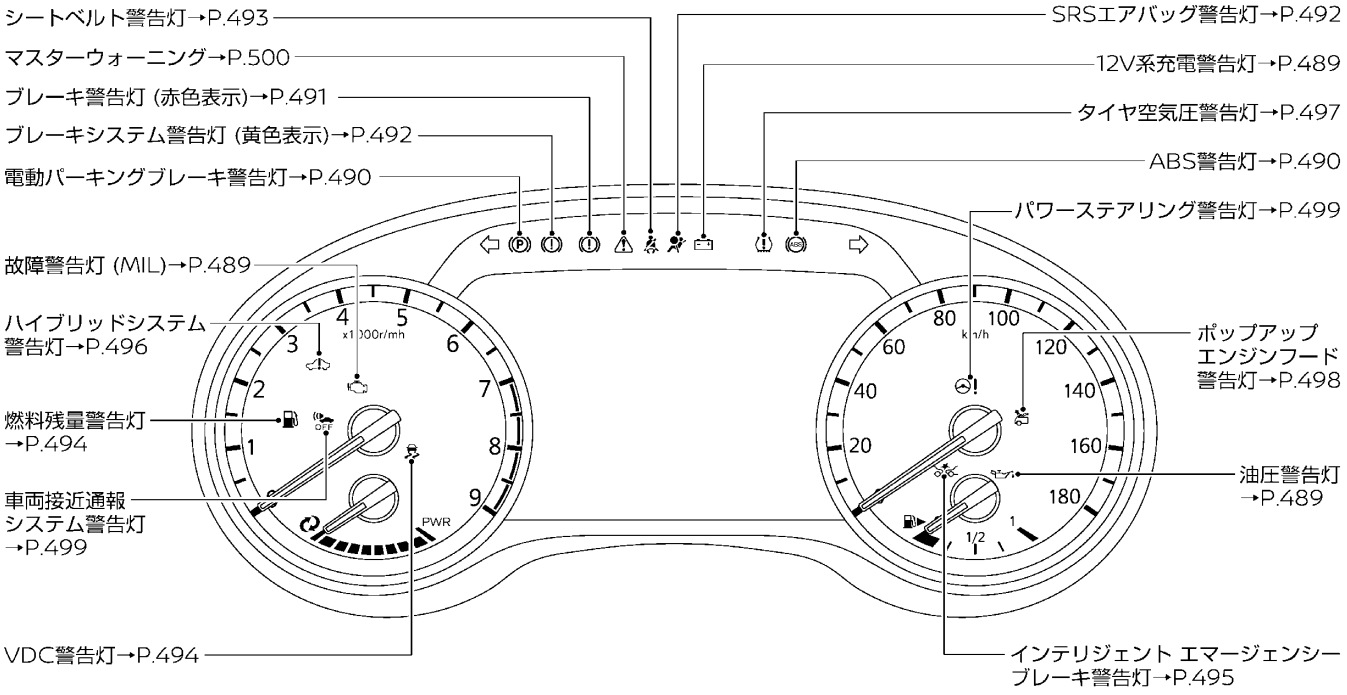


メーター

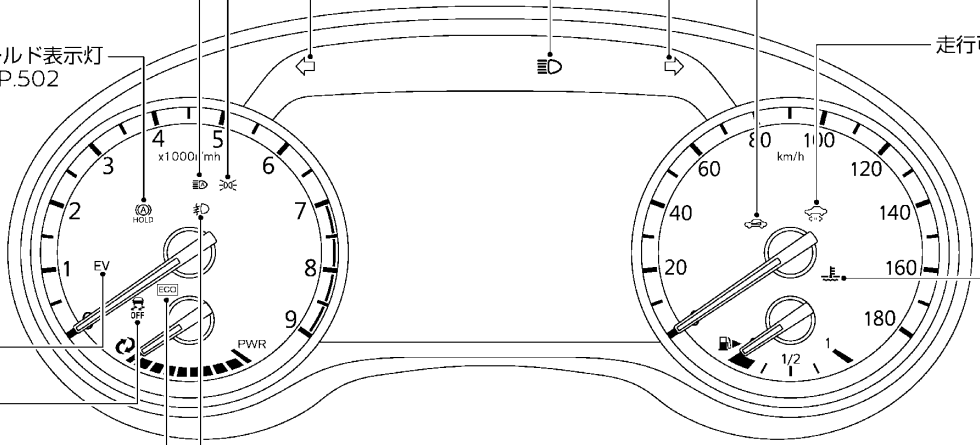


☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯一覧


シートベルト警告灯→P.493
マスターウォーニング→P.500
ブレーキ警告灯 (赤色表示)→P.491
ブレーキシステム警告灯 (黄色表示)→P.492
電動パーキングブレーキ警告灯→P.490
故障警告灯 (MIL)→P.489
ハイブリッドシステム警告灯→P.496
燃料残量警告灯→P.494
車両接近通報システム警告灯→P.499
VDC警告灯→P.494
SRSエアバッグ警告灯→P.492
12V系充電警告灯→P.489
タイヤ空気圧警告灯→P.497
ABS警告灯→P.490
パワーステアリング警告灯→P.499
ポップアップエンジンフード警告灯→P.498
油圧警告灯→P.489
インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯→P.495
x1,000r/min
km/h
PWR

表示灯一覧



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

MEMO

日産ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッド車ってどんな車? P.12

安全にご利用いただくために

日産ハイブリッドシステムの取り扱いに関する注意事項 P.16

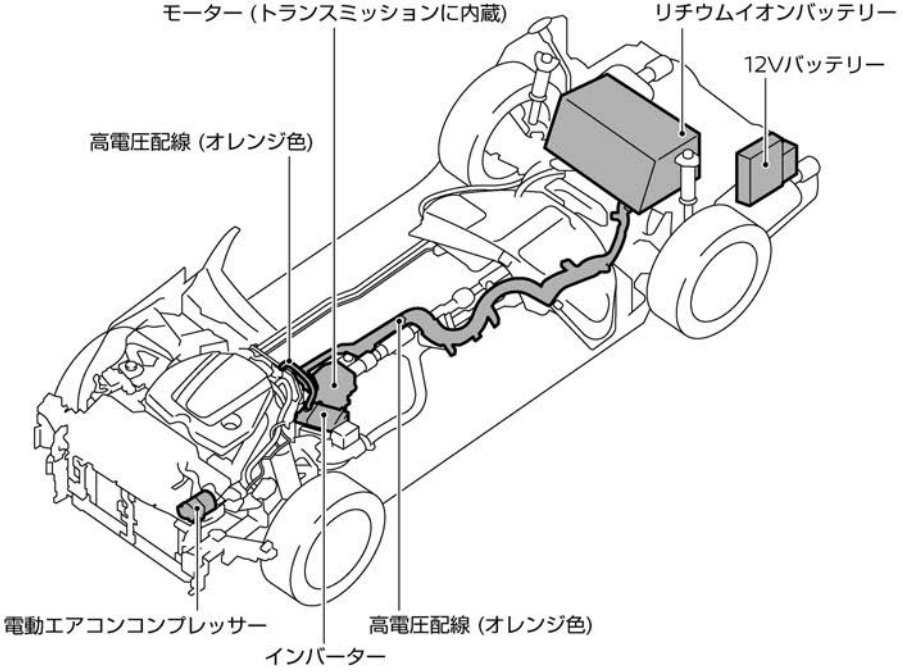
事故が起きたときの注意事項 P.17

日産ハイブリッドシステムと上手に付き合うために

航続距離を延ばすためのポイント P.18

ハイブリッド車ってどんな車?

ガソリンエンジンとモーターという2つの異なる動力を効率的に組み合わせて走行する自動車です。
日産独自の高性能ハイブリッドシステムにより大幅な燃費向上と優れた動力性能の両立を達成しています。



ハイブリッドシステムの作動

ハイブリッドシステムは次のように作動します。走行中でもエンジンが停止することがあるため、メーター内の走行可能表示灯（➔P.503）の点灯･消灯でハイブリッドシステムの始動･停止を確認します。
また、メーター内アドバンスドドライブアシストディスプレイのエネルギーモニターにエンジン、リチウムイオンバッテリーおよびタイヤ間のエネルギーの流れを表示します。エネルギーモニターの詳細については、エネルギーモニター（➔P.85）をお読みください。

➔ ハイブリッドシステムの始動のしかた (P.177)

■ 発進時･低速走行時

エンジンを停止し、モーターだけで走行します。

■ 通常走行時（中高速）

エンジンとモーターを燃費効率が最適になるように制御します。
リチウムイオンバッテリーの残量が少ない場合は、走行しながらモーターで発電させて充電します。

■ 急加速時

エンジンとモーターの両方を使い、力強く加速します。

■ 減速時、制動時

タイヤの回転力をモーターで電気エネルギーに変換し、リチウムイオンバッテリーに充電します。（回生ブレーキ）

■ 停車時

エンジンを停止し、ガソリンを節約します。

■ エネルギーモニター

アドバンスドドライブアシストディスプレイにエンジン、リチウムイオンバッテリーおよびタイヤ間のエネルギーの流れを表示します。エネルギーモニターの詳細については、エネルギーモニター（➔P.85）をお読みください。

次ページに続く

■ その他

発進時･低速走行時、または停車時でも次の場合はエンジンが始動します。

- リチウムイオンバッテリーの残量が少ないとき（発電のため）
- エンジン冷却水の温度が低いとき（暖機のため）
- セレクトレバーを**P**に入れ、運転席シートベルトを外して運転席ドアを開けたとき（パワースイッチをOFFにし忘れることを防止するため）

回生ブレーキ

- セレクトレバーが**D**またはマニュアルシフトゲートで走行中に次の場合は、減速するとともにタイヤの回転力をモーターで電気エネルギーに変換し、リチウムイオンバッテリーを充電することができ、航続距離を延ばすことができます。
  - アクセルペダルから足を離しているとき
  - ブレーキペダルを踏んだとき
  - ブレーキシステムまたはハイブリッドシステムに異常がないとき
- 指定以外のタイヤ･ロードホイールを装着した場合は、回生ブレーキが正常に作動しないことがあります。
  ➔ 回生協調ブレーキについて (P.232)

リチウムイオンバッテリー

- リチウムイオンバッテリーの残量が低下すると、エンジンが始動し充電を行うため、電気自動車のような外部からの充電は必要ありません。
  ただし、車両を長期間放置すると少しずつ放電するため、少なくとも２～３か月に一度、約30分間は運転してください。（リチウムイオンバッテリーがダメージを受け、使用できなくなるおそれがあります。）
  万一、リチウムイオンバッテリーがあがり、ハイブリッドシステムを始動できない場合は、日産販売会社にご連絡ください。
- 長時間停車するときや車を離れるときはセレクトレバーを必ず**P**に入れてください。

渋滞時なども D またはマニュアルシフトゲートで走行してください。セレクトレバーが N 、 D 、 R でアクセルペダルおよびブレーキペダルを共に踏んでいない状態（例えば、セレクトレバーが D のままパーキングブレーキのみで停車する状態など）で長時間放置するとシステムが停止する場合があります。

ハイブリッドシステム特有の音や振動

ハイブリッドシステム始動後は、次のような特有の音や振動が発生する場合がありますが異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステムの始動･停止による、車両後方からの音
- エンジンの始動･停止による音や振動
- アクセルペダルから足を離したときや、ブレーキペダルを踏んだときの作動音やモーター音
- 急加速時のエンジン音
- 後席背もたれの左右両端にある空気取入口からのファン作動音
- エアコンの作動音
- 歩行者に車両の接近を知らせるための音

➔ 車両接近通報装置 (P.246)

知識

- 従来のガソリンエンジン車に比べ、アイドリング時のエンジン回転数が高めに設定されています。これはアイドリング中でもリチウムイオンバッテリーを充電するためで、異常ではありません。

日産ハイブリッドシステムの取り扱いに関する注意事項

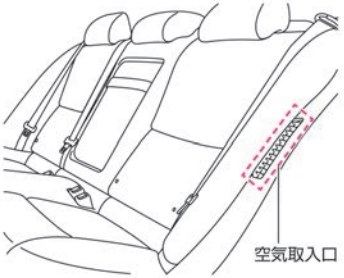
日産ハイブリッドシステム搭載の車両を安全に使用するため、次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- **高電圧部品には触れない**
  高電圧部位、サービス·プラグ、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターには絶対に触れないでください。重大な傷害を受けるおそれがあります。

アドバイス

- 冷却用空気取入口をふさがないでください。後席背もたれの右側にリチウムイオンバッテリーを、左側にDC/DCコンバーターを冷却するための空気取入口があります。性能低下や車両故障につながるため、荷物や衣類などを置いて取入口をふさがないでください。また、液体や砂など、異物が入らないように注意してください。



- リチウムイオンバッテリーに水をかけないでください。トランクルーム内にふたのないバケツや水槽など、水がこぼれるおそれがあるものは置かないでください。リチウムイオンバッテリーに水がかかると故障の原因になります。

事故が起きたときの注意事項

事故が起きたときは次のようなことに注意してください。

⚠ 注意

- **ハイブリッドシステムを停止し、車両が移動しないようにするため、次の操作をする。**
  - ブレーキペダルを踏み、セレクトレバーを P に入れる
  - パーキングブレーキをかける
  - パワースイッチをOFFにする
- **高電圧部位（リチウムイオンバッテリーなど）およびこれらを接続する配線（オレンジ色）には絶対に触らない。**
  車体が大きく破損･変形しているとき、破損の状態によっては漏電や感電のおそれがあります。
- **万一、車両火災が発生したときは、電気火災にも使用可能な消火器（ABC消火器など）を使用して消火する。**
  水をかける場合には、消火栓などから水を大量にかけてください。

アドバイス

- 衝突時やハイブリッドシステムに異常があると、高電圧システムがOFFになり走行可能表示灯が消灯する場合がありますが、これはケガや事故につながる危険を最小限に抑えるもので、異常ではありません。 衝突後は、走行可能表示灯が点灯していても、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

航続距離を延ばすためのポイント

次のようなことに気をつけると、1回の給油でより長い距離を走ることができます。

- **加減速はスムーズに行う。**
  急加速、急減速を控えると、リチウムイオンバッテリーの残量低下を抑えることができます。
- **長時間停車するときや車を離れるときはセレクトレバーを P に入れる。**
  また、渋滞走行時などは D またはマニュアルシフトゲートのままで走行する。
- **メーター（➔P.82）およびナビゲーションシステムの画面に表示される燃費表示を参考にして走行する。**
  ナビゲーションシステムで次の操作をすると、燃費表示を表示できます。
  MENU ⇒ 情報 ⇒ 車両情報 ⇒ 燃費情報
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

運転する前に

運転前の準備 P.20
運転するときに注意すること P.22
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項 P.26

シートベルト

3点式シートベルト P.27

エアバッグ

SRSエアバッグ P.34
運転席·助手席SRSエアバッグシステム P.38
運転席·助手席SRSサイドエアバッグシステム P.43
SRSカーテンエアバッグシステム P.45

ポップアップエンジンフード

ポップアップエンジンフード P.47

お子さまの安全のために

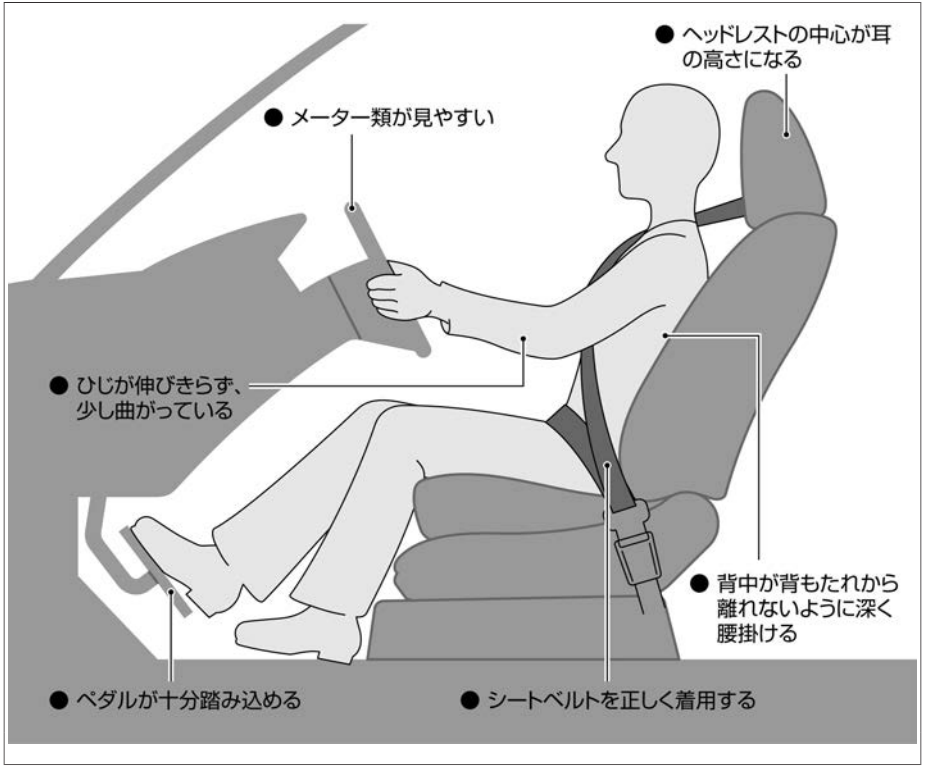
お子さまを乗せるときに注意すること P.52
チャイルドシート P.55

盗難防止機能

イモビライザー（盗難防止装置） P.66

正しい運転姿勢をとれるよう、ハンドル（P.135）、シート（P.126）、ミラー（P.136）を調節し、シートベルトを着用してください。

正しい運転姿勢について



⚠ 警告

- **ハンドル、シート、ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ハンドルやシートを調節したあとは、確実に固定されていることを確認する。**
  固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートベルトの着用

- 必ず走行前にシートベルトを正しく着用してください。
  シートベルト (P.27)
- 小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご使用ください。
  チャイルドシート (P.55)

ミラーの調節

- シートおよびハンドルの調節が完了したら、ミラーを調節します。確実に後方確認ができる位置に、ドアミラーおよびルームミラーを調節してください。
  ドアミラー (P.138)
  ルームミラー (P.136)

⚠ 警告

排気ガスには十分注意する

- **排気ガスには無色無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと一酸化炭素中毒になり、重大な健康障害におよぶか、死亡につながるおそれがあります。**
- **以下の状況では、暖機運転をしたりエンジンをかけたままにしたりしない。**
  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりするおそれがあります。
  - 雪が積もった場所に駐停車するとき
  - 降雪時に駐停車するとき
  - 車庫や屋内、壁などに囲まれた換気が悪い場所に駐停車するとき
  - 仮眠や長時間の駐車をするとき
  - 排気管が腐食または損傷しているおそれがあるとき
  - 他車の排気口が近くにあるとき
- **走行する前に、トランクが確実に閉まっていることを確認する。**
  走行中に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- **車室内に排気ガスが侵入したと感じたときは、窓を開けて十分に換気をする。**
- **排気管に穴や亀裂がある場合や排気音に異常があるときは、日産販売会社で点検を受ける。**
  排気ガスが車室内に侵入するおそれがあり危険です。

車室内に人やペットを残さない

- **お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。**
  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

診断機接続用のコネクターにはご注意を

⚠ 警告

- **診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けないでください。12Vバッテリーがあがったり、警告灯が点灯したりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。**

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- **ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まない。**
  引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- **操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしない。**
  荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。
- **灰皿を使ったあとは、マッチやタバコの火が消えていることを確認し、必ずふたを閉める。**
  紙くずなど燃えやすいものは入れないでください。出火するおそれがあります。

故障や破損したまま走行しない

- **排気音が大きくなったときは、日産販売会社で点検を受ける。**
  排気管が腐食したり路面干渉などで損傷したりしているおそれがあります。また、排気管に穴が開いたまま走行を続けると、高温の排気ガスが漏れ、排気ガスが車室内に侵入し、火災につながるおそれがあります。
- **事故などでランプが破損したまま走行しない。**
  内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

空ぶかしをしたり、エンジンをかけたまま仮眠をしない

- **無用な空ぶかしや、エンジンをかけたまま仮眠をしない。**

次ページに続く

⚠ 警告

万一、セレクトレバーがPレンジ以外に入っていると、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。 また、無意識にセレクトレバーを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

アクセサリーをウインドーに取り付けない

- **ウインドーにアクセサリーを取り付けない。**
  視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造しない

- **市販の不適合品のマフラー取り付けや、日産純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しない。**
  正常な性能を発揮できないだけでなく、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **電装品などを取り付けるときは、必ず日産販売会社にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。**

アドバイス

改造しない

- 12Vバッテリーの端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。
- 日産自動車が国土交通省に届け出をした部品以外を装着すると、違法改造になることがあります。

無線送信機の取り付けについて

- お車に無線送信機を取り付けると、電装システムに影響をおよぼす可能性があります。悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ず日産販売会社にご相談ください。お客さまのご要望により、無線送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域･電力レベル･アンテナ位置･取り付け条件）を日産販売会社にてご提供します。

性能を十分に引き出すため、ならし運転を行う

- エンジン本体、駆動系などこの車両の持っている性能を十分に引き出すためには、ならし運転が必要です。
  走行距離約1,600kmまでは適度な車速、エンジン回転数で運転してください。

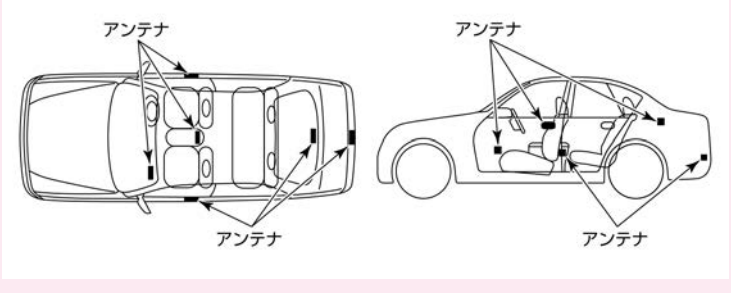
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項

心臓ペースメーカーなどをご使用の方は、次のことにご注意ください。

⚠ 警告

インテリジェントキーについて

- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**
  ドア（トランク）開閉時、各タッチセンサーおよびドアハンドルのスイッチ操作時、ハイブリッドシステム始動時などにキーの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。



- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**
  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

3点式シートベルト

シートベルトは、シートに身体を固定することで安全を確保するための安全装置です。
走行するときは、必ずシートベルトを正しく着用してください。

ELR（緊急固定）付シートベルトについて

- 身体の動きに合わせて伸縮し、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトがロックし身体を固定します。

⚠ 注意

- **プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理したり、電気テスターを使用してプリテンショナーのシステムの回路診断をしない。**
  誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト（後席中央を除く）について

- 正面衝突などで車両前方から強い衝撃を受けたときに、装着したシートベルトを瞬時に巻き取るプリテンショナーと乗員に加わるシートベルトの拘束力を一定レベルに保つロードリミッターが付いています。
- 運転席·助手席SRSエアバッグシステムと同時に作動します。
  ➔ SRSエアバッグ (P.34)
- 運転席および助手席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。ラップアウタープリテンショナーが腰部シートベルトの緩みを引き込み、肩部のロードリミッター付プリテンショナーと合わせて乗員の拘束性能を高めます。

⚠ 警告

- **メーター内のSRSエアバッグ警告灯 が点灯しているときは走行しない。**
  パワースイッチをONにしてから約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーが作動しません。必ずSRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

⚠ 注意

- **廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社に相談する。**

次ページに続く

アドバイス

- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルトについて

走行中、次のような場合に電動モーターでシートベルトを巻き取り、ベルトのたるみを減少させます。

- 走行中（約15km/h以上）に運転者のブレーキ操作が緊急ブレーキであることをシステムが判断したとき
- インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.335）が作動したとき
- カーブを走行中（約30km/h以上）に車両が横滑りを起こしそうな状況であることをシステムが判断したとき
- 走行中（約60km/h）に運転者のハンドル操作が緊急回避であることをシステムが判断したとき

⚠ 警告

- **正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。**
  正しく着用しないと、システムの効果が十分発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **システムを過信しない。**
  常に周囲の状況、天候、路面状況に注意し、急ブレーキをかけなくても停止できるように心がけてください。

知識

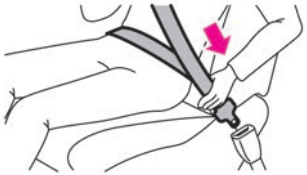
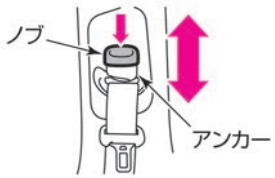
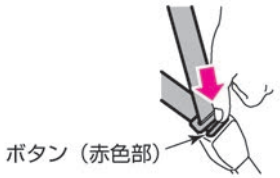
コンフォート機能

- 次の場合には、電動モーターでシートベルトの巻き取りを補助します。
  - シートベルトを着用したとき
  - シートベルトを外したとき
  - 前席ドアを開けたとき
- コンフォート機能を連続作動させると、システム保護のために一時的に連続作動が行えなくなります。数分後に通常の作動に戻ります。
- シートベルトを外した場合に上記のシステム保護以外でシートベルトの巻き取りが作動しないときは、プリ

次ページに続く

知識
クラッシュシートベルトのシステムに異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

シートベルトの着用のしかた

1	正しい姿勢でシートに座り、タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。 ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。	
2	ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。	
3	アンカーの高さを調節します。（前席のみ） ノブを押しながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。 手を離したあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。	
4	外すときは、バックルのボタンを押し、タングを持ってゆっくり戻します。	

⚠ 警告

- **ベルトが肩に確実にかかる位置にアンカーの高さを調節する。また、アンカーが確実に固定されていることを確認する。**
  万一のときに肩からベルトが外れるなど、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **後席シート中央席のシートベルトを使用するときは、バックルに「CENTER」と表示されているものを使用する。**
  シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

- ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

次ページに続く

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

- **走行する前に全員がシートベルトを着用する。**
  着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- **シートベルトを着用するときは、次のことを必ず守る。**
  シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
  - 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
  - 2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
  - ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
  - 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腰部に強い圧迫を受けることがあります。
  - 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分に掛かっていないと、上半身を拘束しないことがあります。
  - クリップなどで故意にベルトにたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果を発揮しないことがあります。
- **シートの背もたれを倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **バックルや巻き取り装置の中に異物を入れない。**
  シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
- **妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用する。**
  ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認

⚠ 警告

してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**
  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**
  ➔ チャイルドシート (P.55)
- **事故などで衝撃を受けたり傷がついたりしたシートベルトは、日産販売会社に点検を依頼する。**
  一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分に発揮しないことがあります。

⚠ 注意

- **シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使用しない。**
  ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分に発揮しないことがあります。シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。

SRSエアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、乗員への衝撃を緩和します。
シートベルトと併用することで安全性を高めるため、シートベルトは必ず着用してください。

SRSエアバッグの種類

①運転席・助手席SRSエアバッグシステム
②運転席・助手席SRSサイドエアバッグシステム
③SRSカーテンエアバッグ

アドバイス

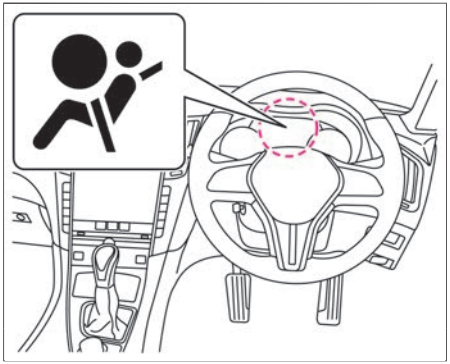
- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度ふくらむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

知識

- SRSエアバッグは高温のガスにより高速でふくらむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグがふくらむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。
- SRSとは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

SRSエアバッグの作動

SRSエアバッグは、パワースイッチがONのときに作動可能です。
パワースイッチをONにしたあと、約7秒間はメーター内のSRSエアバッグ警告灯が点灯し、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。
SRSエアバッグは、正面衝突や側面衝突で衝撃を受けたときに作動します。ただし、衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならないときは、作動しないことがあります。



⚠ 警告

- **SRSエアバッグ警告灯が次の状態のときは走行しない。**
  - パワースイッチをONにした直後、SRSエアバッグ警告灯が約7秒間点灯しないとき（消灯したままのとき）
  - SRSエアバッグ警告灯が点灯し続けるとき
  - SRSエアバッグ警告灯が点滅し続けるとき

  SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。

📖 知識

- 助手席SRSエアバッグ、助手席側のSRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

次ページに続く

SRSエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。**
  SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。また、SRSエアバッグの効果が発揮されないおそれがあります。
- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**
  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。
  ➔ チャイルドシート (P.55)

- **必ず次のことを守る。**
  SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- SRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついていたりひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。
  運転席･助手席SRSエアバッグの格納場所は（➔P.38）をお読みください。
  運転席･助手席SRSサイドエアバッグの格納場所は（➔P.43）をお読みください。
  SRSカーテンエアバッグの格納場所は（➔P.45）をお読みください。
- SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
- 電気テスターを使用してSRSエアバッグの回路診断をしたり、回路を変更しないでください。
- エアロパーツなどを取り付けたりサスペンションを改造したりするときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

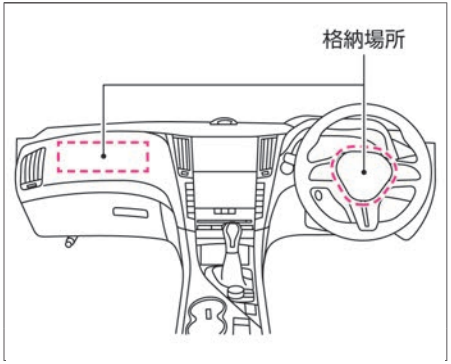
- **SRSエアバッグが作動したときは、30分経過するまでエアバッグにさわらない。**
  高温になるため、やけどをするおそれがあります。
- **SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流す。**
  皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

運転席・助手席SRSエアバッグシステム

車両前方から強い衝撃を受けたときSRSエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

運転席SRSエアバッグは、ハンドル部に格納されています。
助手席SRSエアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。
乗員がいなくても運転席と同時に作動します。



SRSエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
- 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）

- 高速で縁石などに衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき
- ジャンプして地面にぶつけたとき

アドバイス

- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃でフロントガラスが割れることがあります。

知識

- 運転席、助手席SRSエアバッグはふくらんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。

エアバッグ展開連動ハザードランプ

- エアバッグが作動したときは、自動で非常点滅表示灯が点滅します。

SRSエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h 以下の速度で正面衝突したとき
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRSエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

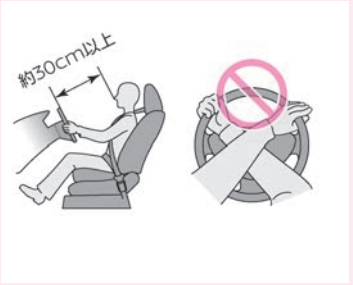
- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

次ページに続く

運転席・助手席SRSエアバッグシステムの注意事項

⚠ 警告

- **運転席のSRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、内がけでのハンドル操作はしない。**
  ハンドルから顔をできるだけ（約30cm以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど、手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



- **不適正なハンドルに交換したり、SRSエアバッグ格納部にステッカーなどを貼らない。**
  SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

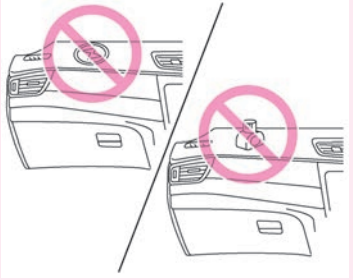
- **フロントガラスにアクセサリーなどを付けない。**
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- **助手席のSRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、お子さまを近づかせない。**
  SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
  SRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを不必要に近づけたりしないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりせず、後席シートに乗せてください。
- **チャイルドシートは後席シートに取り付ける。**
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
  やむをえず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。
- **チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

次ページに続く

⚠ 警告

固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

- **SRSエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼らない。また、アクセサリーや芳香剤などを置かない。**
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。



運転席・助手席SRSサイドエアバッグシステム

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSサイドエアバッグは、シート背もたれ側面（外側）に格納されています。助手席は乗員がいなくても作動します。

⚠ 警告

- **SRSサイドエアバッグの格納部に近づかない。**
  ドアにもたれるなど、前席シートの背もたれ側面（外側）に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **前席シートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かない。**
- **シートカバーは、前席シート背もたれ側面を覆わないものを使用する。**
  SRSサイドエアバッグが正しく作動しないおそれがあります。日産純正シートカバーをおすすめします。

⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**
  SRSエアバッグが誤作動するおそれがあります。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

SRSサイドエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSサイドエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（トランクルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSサイドエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

📖 知識

エアバッグ展開連動ハザードランプ

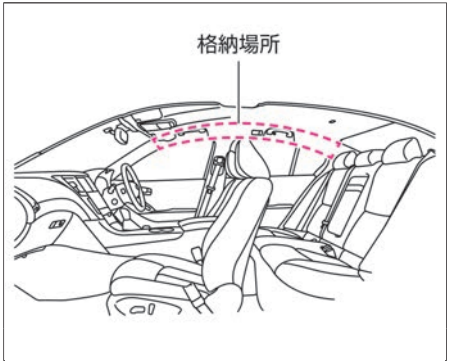
- エアバッグが作動したときは、自動で非常点滅表示灯が点滅します。

SRSカーテンエアバッグシステム

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSカーテンエアバッグは、運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。助手席側は乗員がいなくても作動します。



⚠ 警告

- **SRSカーテンエアバッグの格納部に近づかない。**
  万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けない。**
  SRSカーテンエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**
  SRSカーテンエアバッグが誤作動するおそれがあります。

次ページに続く

SRSカーテンエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSカーテンエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（トランクルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSカーテンエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

知識

エアバッグ展開連動ハザードランプ

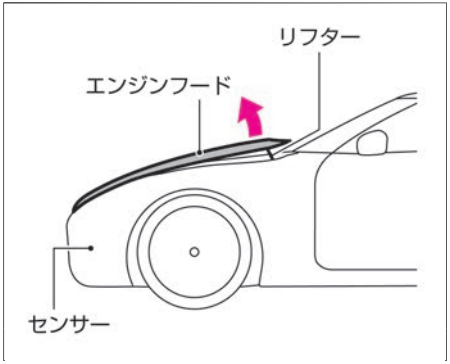
- エアバッグが作動したときは、自動で非常点滅表示灯が点滅します。

ポップアップエンジンフード

歩行者と衝突したときにエンジンフードの後端を瞬時に持ち上げ、エンジンフード下の部品との空間を広く保つことで、歩行者の頭部がエンジンフードへ衝突したときの衝撃を緩和します。

ポップアップエンジンフードについて

- 衝突によりセンサーがある一定以上の衝撃を感知すると、システムが作動し、リフターによりエンジンフードの後端が瞬時に持ち上がります。
- パワースイッチがONのとき作動します。



⚠ 注意

- **ポップアップエンジンフードが作動した直後は、リフターが高温になるため触れない。**
  やけどをするおそれがあります。

次ページに続く

ポップアップエンジンフード

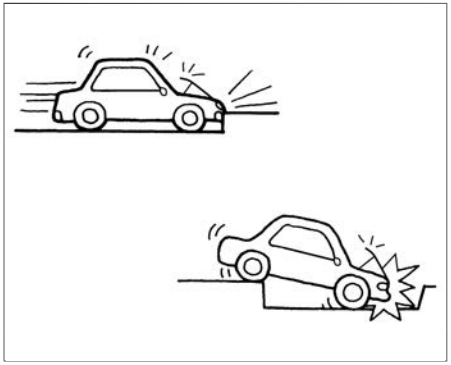
ポップアップエンジンフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 約20～60km/hの間で走行中、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を受けたとき
  （衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、ある一定のレベルを超えた衝撃が加われば作動します。また、軽い物･小動物･雪のかたまりや他の小さな物体でも、衝突の状況、速度によっては作動することがあります。）

次のような車両下部やバンパー下部に衝撃を受けたときも作動することがありますので、車両下部やバンパー下部に衝撃を受けそうな路面を走行するときは速度を落として注意して走行してください。

- 縁石に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ち込んだとき



⚠ 警告

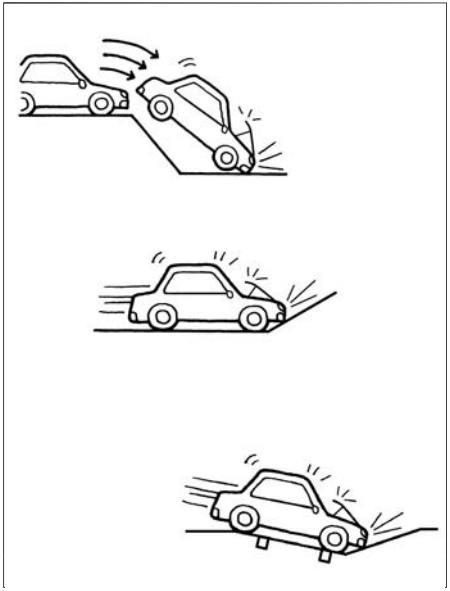
- **ポップアップエンジンフードが作動したときは、フードオープナーを引かない。**
  フードオープナーを引くと、さらにフードが上がり視界の妨げとなるため危険です。また、フードを無理に押し戻さないでください。作動したフードは手動で下げることができないため、フードが変形したり、思わぬケガをするおそれがあります。ポップアップエンジンフードが作動したときは、必ず日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- ポップアップエンジンフードは、一度作動すると再使用できません。日産販売会社で交換してください。

ポップアップエンジンフード

- ジャンプして地面にぶつけたとき
- 駐車場のスロープや落下物などにフロントバンパーをぶつけたとき
- 踏み切りなどのうねりのある路面にフロントバンパーをぶつけたとき



次ページに続く

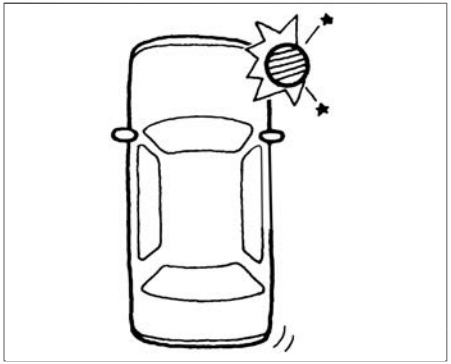
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ポップアップエンジンフード

ポップアップエンジンフードが作動しにくいとき

次のような場所に衝突したときは衝撃を感知しにくいため、作動しないことがあります。

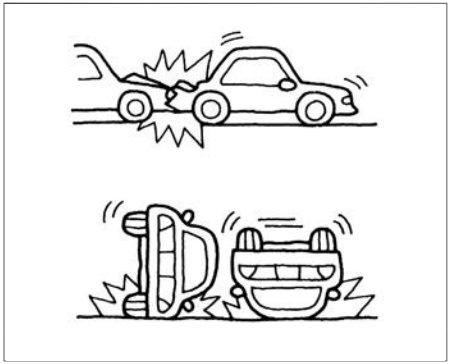
- 走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったとき
- 車両が横滑りするなどして、車速が正しく検知できないとき



ポップアップエンジンフードが作動しないとき

一度、ポップアップエンジンフードが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときにも作動しません。

- ポップアップエンジンフードが作動する速度の範囲外で走行中フロントバンパーに衝撃を受けたとき
- 横方向や後ろから衝撃を受けたとき
- 横転、転覆したとき



ポップアップエンジンフード

ポップアップエンジンフードの注意事項

⚠ 警告

- **フロントバンパーに衝撃が加わったときは、必ず日産販売会社に相談する。**
  ポップアップエンジンフードが作動しなくてもセンサーが故障している可能性があるため、必ず日産販売会社にご相談ください。
- **警告灯が消灯してから走行する。**
  パワースイッチをON後、約7秒間はメーター内のポップアップエンジンフード警告灯が点灯します。その間はシステムチェックを行うため、ポップアップエンジンフードは作動しません。

⚠ 注意

- **ポップアップエンジンフードの部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってシステムの回路診断をしない。**
  誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- **フロントバンパーの交換やエアロパーツの取り付けなどを行うときは、日産販売会社に相談する。**
  不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。
- **不適正なエンジンフードに交換しない。**
  正常に作動しなくなるおそれがあります。
- **廃車にするときやポップアップエンジンフードのアクチュエータを破棄するときは、必ず日産販売会社に相談する。**
  アクチュエータの作動により、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを乗せるときに注意すること

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

⚠ 警告

お子さまにもシートベルトを着用する

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**
  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
  ➔ シートベルトの着用のしかた (P.31)

小さなお子さまにはチャイルドシートを使用する

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**
  ➔ チャイルドシート (P.55)

チャイルドシートは後席シートに取り付ける

- **チャイルドシートは後席シートに取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認する。**
  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**
  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

⚠ 警告

- **チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、トランクなどに収納する。**
  車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまは後席シートに乗せる

- **お子さまを助手席に乗せるのは避ける。**
  お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになるおそれがあります。
  また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドア、ウインドーなどは大人が操作する

- **ドアやウインドーなどの開閉は、お子さまには操作させない。**
  開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **チャイルドセーフティドアロック（➔P.120）やパワーウインドーロックスイッチ（➔P.141）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。**

次ページに続く

お子さまを乗せるときに注意すること

⚠ 警告

窓やサンルーフ★から手や顔を出さない

- **お子さまが腕や顔を出さないように注意する。**
  急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- **車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろす。**
  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。
- **お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

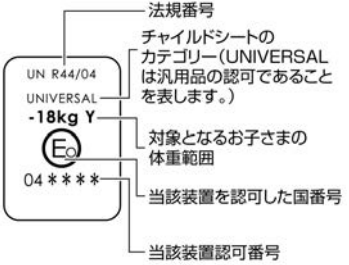
お子さまの年齢や体格にあわせたチャイルドシートを選択し、車両に適切に取り付けてください。

チャイルドシートについて

- チャイルドシートには、乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの3種類があります。お子さまの年齢や体格にあわせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- チャイルドシートの固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- この車はUN R44の基準に適合したISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーを標準装備しています。

知識

- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートを総称してチャイルドシートと呼んでいます。
- UN R44はチャイルドシートに関する国際法です。UN R44の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。



次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

チャイルドシートの種類

UN R44の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重により次のように分類されます。

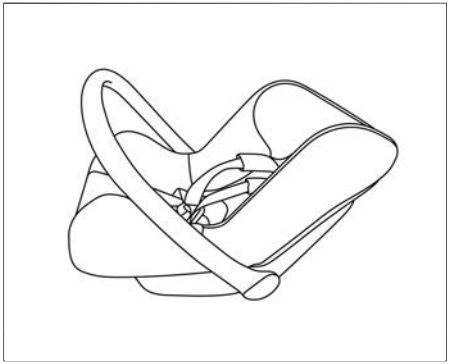
質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0^+	13kgまで
グループⅠ	9～18kgまで
グループⅡ	15～25kgまで
グループⅢ	22～36kgまで

⚠ 警告

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**
  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

乳児用チャイルドシート

UN R44 基準のグループ0、0+に相当します。



チャイルドシート

UN R44 基準のグループ0+、Ⅰに相当します。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ジュニアチャイルドシート

UN R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当します。

チャイルドシートの選びかた

この車両には、シートベルトで取り付けるチャイルドシートと、ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることができます。ISO FIX対応チャイルドシートは、シートベルトを使わずに固定するため、簡単に取り付けできます。

■ シートベルト固定タイプのチャイルドシート

シートベルトを使用してチャイルドシートを固定します。

使用できるシートベルト固定タイプのチャイルドシート (P.59)

■ ISO FIX対応チャイルドシート

後席シートに付属しているISO FIX対応チャイルドシート用アンカー（固定装置）で固定します。

ISO FIX対応チャイルドシートについて (P.62)

使用できるシートベルト固定タイプのチャイルドシート

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。
「選択の目安」から使用できるチャイルドシートを確認してください。

■ 選択の目安

質量グループ	チャイルドシート取り付け位置		
	前席シート（助手席）	後席シート	
		左右	中央
0 (10kgまで)	X	U	X
0^+ (13kgまで)	X	U	L
Ⅰ (9～18kg)	UF※1	U	X
Ⅱ (15～25kg)	UF※1	U	X
Ⅲ (22～36kg)	UF※1	U	X

U： この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）区分のチャイルドシートに適合しています。
UF： この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）区分の前向きチャイルドシートに適合しています。
L： 次の表に記載されている日産純正チャイルドシートの取り付けが可能です。
X： チャイルドシートを取り付けることはできません。
※1： チャイルドシートを取り付けるときは、必ず座面を最上段にしてください。
➔ シートの調節のしかた (P.126)

- 詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

知識

- 表に記載されていないチャイルドシートを使用するときは、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

次ページに続く

■ 日産純正チャイルドシート

「選択の目安」で、チャイルドシート取り付け位置にLと記載されている場合は、日産純正チャイルドシートをご使用ください。

質量グループ	取り付け向き	商品名
0^+ (13kgまで)	後向き	チャイルド セーフティシート (E4 04443812)

シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた

1	チャイルドシートを座席に置きます。 シートベルトをチャイルドシートに通し、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。	
2	チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って固定します。 チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。	

⚠ 警告

- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**
  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

次ページに続く

ISO FIX対応チャイルドシートについて

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。
「選択の目安」から使用できるチャイルドシートを確認してください。

■ 選択の目安

質量グループ	サイズ等級	固定具	チャイルドシート取り付け位置
			後席左右
キャリコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	X
0^+ (13kgまで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	X
	C	ISO/R3	X
Ⅰ (9～18kg)	D	ISO/R2	X
	C	ISO/R3	X
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ (15～25kg)	-	(1)	X
Ⅲ (22～36kg)	-	(1)	X

IUF： この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルドシートに適合しています。

IL： この質量グループでの使用を認可された、次の表に記載されている「日産純正ISOFIX対応チャイルドシート」に適合しています。

X： チャイルドシートを取り付けることはできません。
(1)： サイズ等級表示の無いチャイルドシートの各シート位置でのISO FIX対応チャイルドシート固定機構の取り扱いについては販売業者にご相談ください。

- 詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

■ 日産純正ISO FIX対応チャイルドシートについて

「選択の目安」で、チャイルドシート取り付け位置にILと記載されている場合は、日産純正ISO FIX対応チャイルドシートをご使用ください。

質量グループ	サイズ等級	固定具	商品名	取り付け向き	カテゴリー
0^{+}（13kgまで）	E	ISO/R1	日産純正 ISO FIX対応 ベビーシート（H8000-79923）	後向き	準汎用

知識

- ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にUN R44の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書を参照してください。

知識

- 日産純正ISO FIX対応ベビーシートの取り付けには別売りのベースキットが必要です。

次ページに続く

ISO FIX対応チャイルドシートの取り付けかた

1

ISO FIX対応チャイルドシート用ロアアンカーはマーク下側にあります。
ヘッドレストをロックする位置まで上げて、チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってロアアンカーに固定します。
ヘッドレストの調節のしかた (P.128)

2

テザーアンカーはリヤパーセルにあります。
テザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締めます。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。
取り付けかたおよび取り外しかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

⚠ 警告

- **ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、後席シートのヘッドレストをロックする位置まで上げる。**
- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**
  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。
- **チャイルドシートを取り付けるときは、アンカー部周辺に異物がないことやシートベルトなどがかみ込んでいないことを確認する。**
  チャイルドシートが確実に固定されず、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

知識

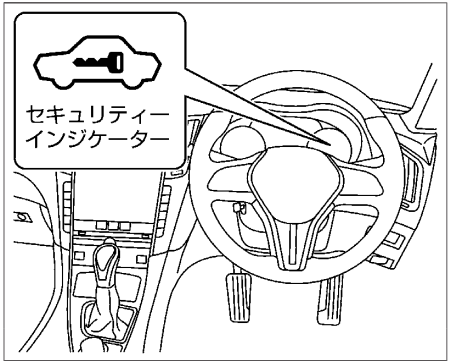
- ISO FIX対応チャイルドシート用アンカー（固定装置）は、ロアアンカーとテザーアンカーの2種類があります。

知識
ロアアンカーは背もたれと座面のすき間にあり、テザーアンカーはリヤパーセルにあります。 ● シートカバーを装着するときは、スリットがあるものを使用してください。

イモビライザー（盗難防止装置）について

車両盗難への防御性能を高めるため、あらかじめ登録されているインテリジェントキー以外での始動を禁止するシステムです。

- イモビライザーが働いているときは、セキュリティーインジケーター（➔P.502）が点滅します。



アドバイス

- パワースイッチをONにしたときにセキュリティーインジケーターが点灯し続ける場合は、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。

知識

- キーに登録された信号は、キーごとに異なります。

メーターの見かた

計器類

各部名称 P.68
メーター P.69

警告灯・表示灯

警告灯の表示位置 P.75
警告灯 P.76
表示灯の位置 P.78
表示灯 P.79

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは P.80
車両情報画面 P.81
エネルギーモニター P.85
警告メッセージ P.87
走行支援機能画面 P.88

ヘッドアップディスプレイ

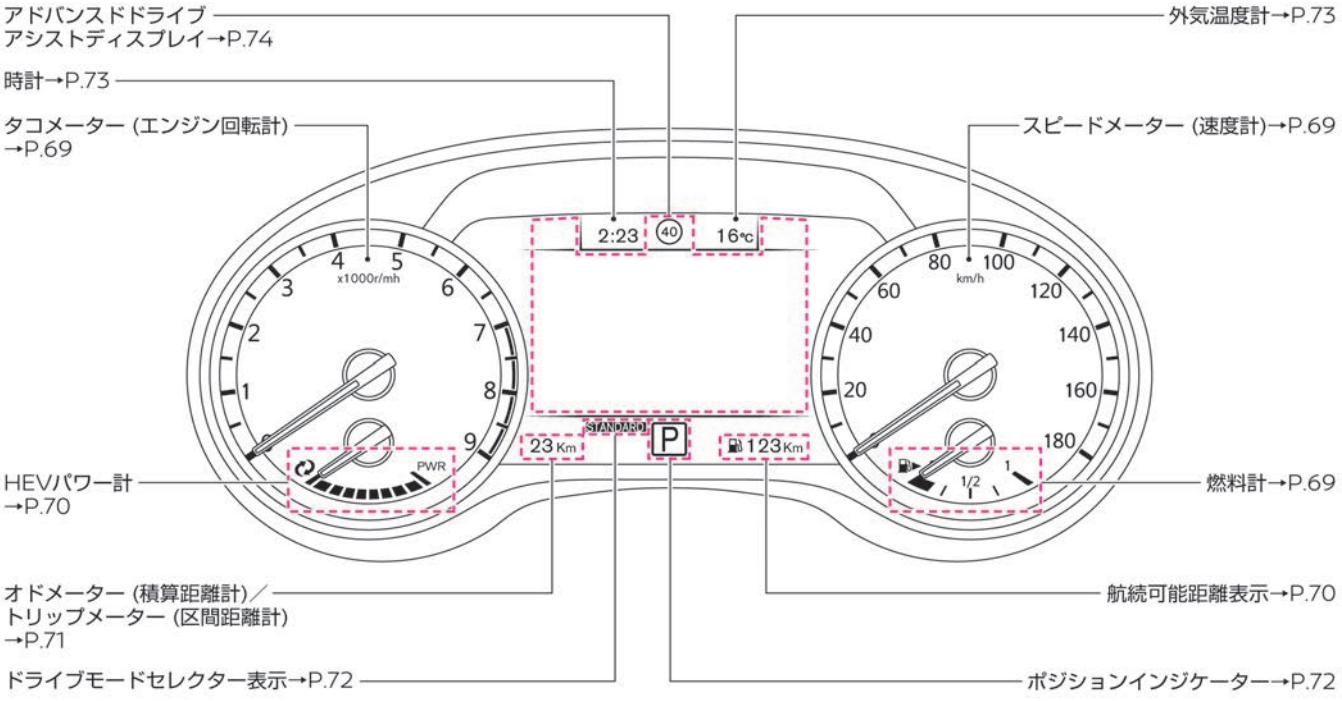
ヘッドアップディスプレイとは P.95
走行支援機能画面 P.96
各種設定画面 P.101

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール P.105

各部名称

パワースイッチをONにすると、計器類が表示されます。
それぞれの計器の説明は、参照先のページをお読みください。



メーター

メーターには、スピードメーター（速度計）、タコメーター（エンジン回転計）、ポジションインジケーターなどがあります。
パワースイッチをON にすると表示します。

スピードメーター（速度計）

走行速度を表示します。

知識

- メーター演出がONのときは、ハイブリッドシステムを始動すると指針がスイープ動作（スピードメーターおよびタコメーターの指針が一度最大値付近を指し戻る）します。
- パワースイッチをOFFにしてからしばらくして指針が振れることがありますが故障ではありません。

タコメーター（エンジン回転計）

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

アドバイス

- レッドゾーン（赤色表示部）ではエンジンが過回転となり故障の原因になります。レッドゾーンに入らないように運転してください。

燃料計

燃料の残量を表示します。

- 燃料タンクの容量は約70 ℓ です。

知識

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、正しく表示されない場合があります。燃料が少なくなってきたら、早めの給油を心がけてください。

次ページに続く

HEVパワー計

モーターの作動状態を表示します。

- 針が目盛りの中心から右側にあるときは、モーターが駆動している状態であることを示しています。
- 針が目盛りの中心から左側にあるときは、モーターが発電している状態であることを示しています。

航続可能距離表示

現在の燃料残量と平均燃費から航続可能な距離を表示します。

- 燃料残量警告灯（➔P.494）が表示されると、航続可能距離表示のアイコンが白色から黄色になります。
- 燃料残量警告灯表示後も燃料を補給しないと「---」と表示します。

知識

- 航続可能距離表示の数値は約30秒ごとに算出します。

オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）

オドメーター（積算距離計）

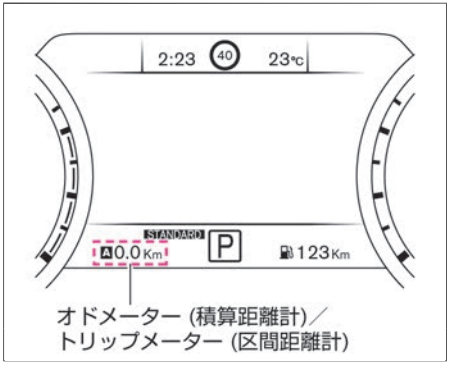
- 総走行距離をkmで表示します。

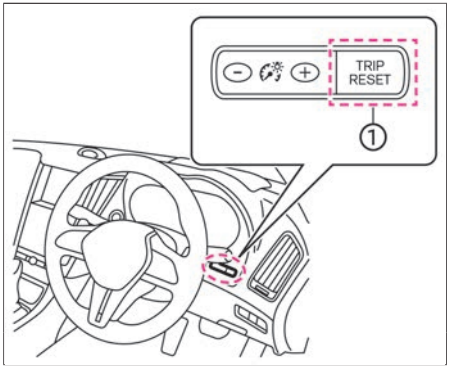
トリップメーター（区間距離計）

- リセットしてからの走行距離をkmで表示します。Aと Bでそれぞれ使い分けることができます。
- リセットするときは0にしたいほうを表示させ、トリップ切り替えスイッチ①を1秒以上押します。

表示の切り替えかた

- トリップ切り替えスイッチ①を押すと次の順で切り替わります。
  オドメーター→トリップ A→トリップ B→オドメーター





知識

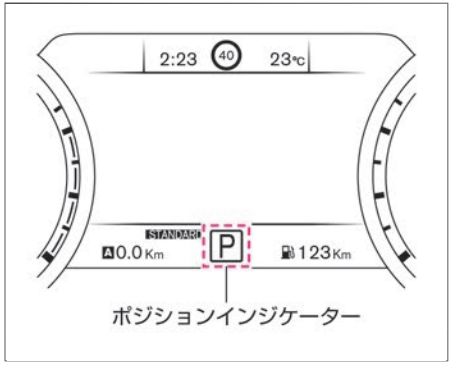
- 12Vバッテリーを外したときは、トリップメーターのAとBの記憶が消去され0に戻ります。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

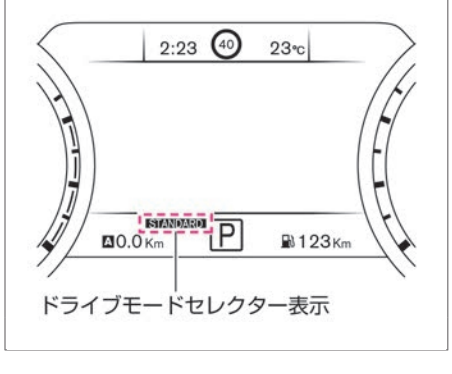
ポジションインジケーター

- セレクトレバーの位置を表示します。



ドライブモードセレクター表示

- 現在のドライブモードセレクターのモードをメーター内のディスプレイに表示します。
  ドライブモードセレクター (P.206)

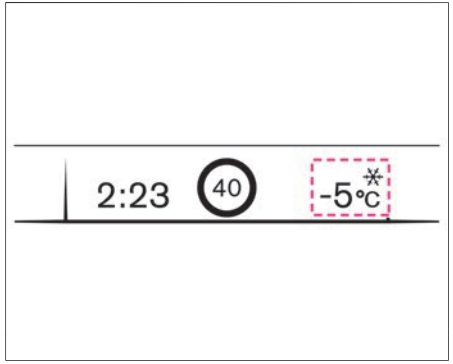


時計

- 時刻を表示します。
- 時刻はナビゲーションシステムの時計と連動しており、時刻は自動的に調整されます。
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、表示を切り替えることができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ 時計
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

外気温度計

- 外気温を表示します。



知識

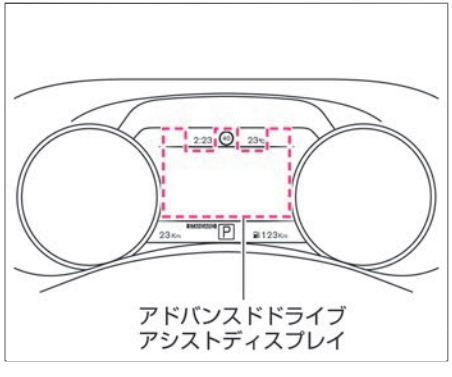
- 外気温センサー取付部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。
- 外気温が3°C以下になると、凍結注意表示 ✲ が表示されます。

次ページに続く

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示できます。

- 車両情報画面（P.81）
- 警告メッセージ（P.87）
- 走行支援機能画面（P.88）

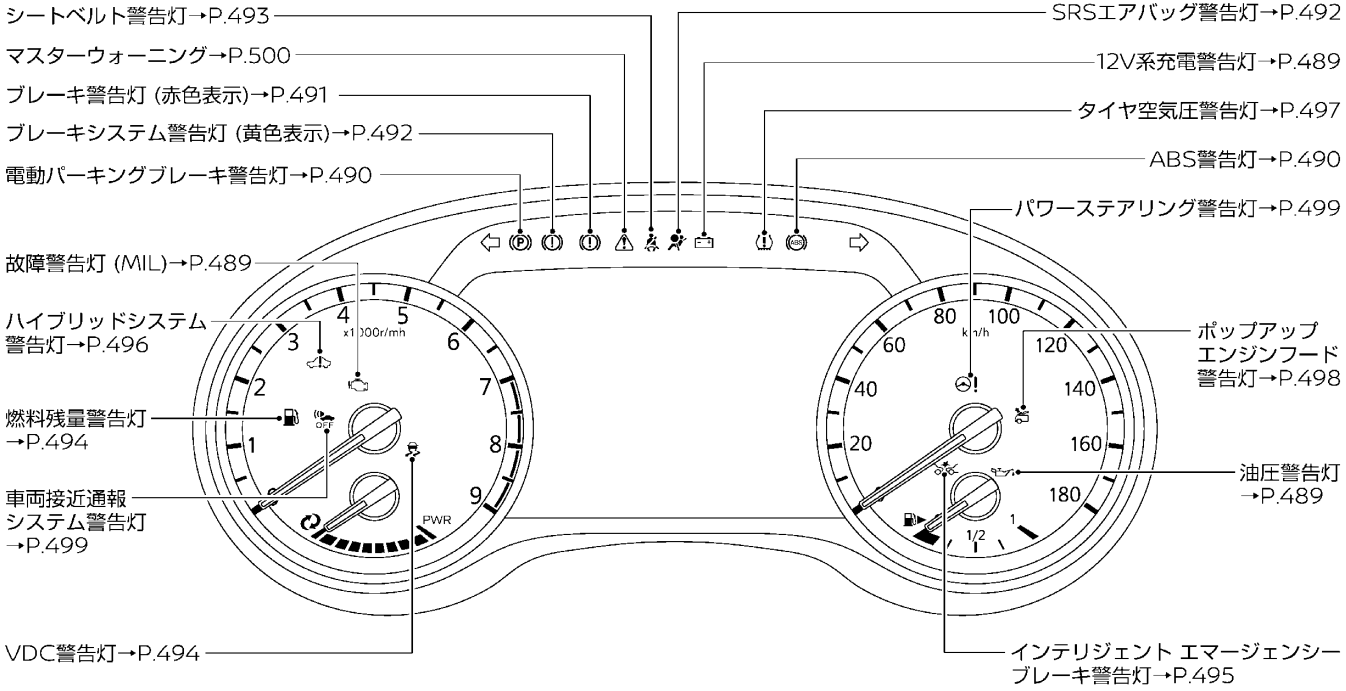


知識

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、表示したい項目を選択することができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ メインメニュー選択
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイについては、（P.80）をお読みください。

警告灯の表示位置

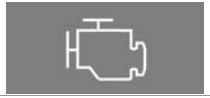
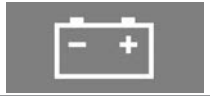
次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。
通常は警告すべき事象がおこったときに、該当の警告灯のみ点灯または点滅します。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯・点滅したときは、参照先に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。

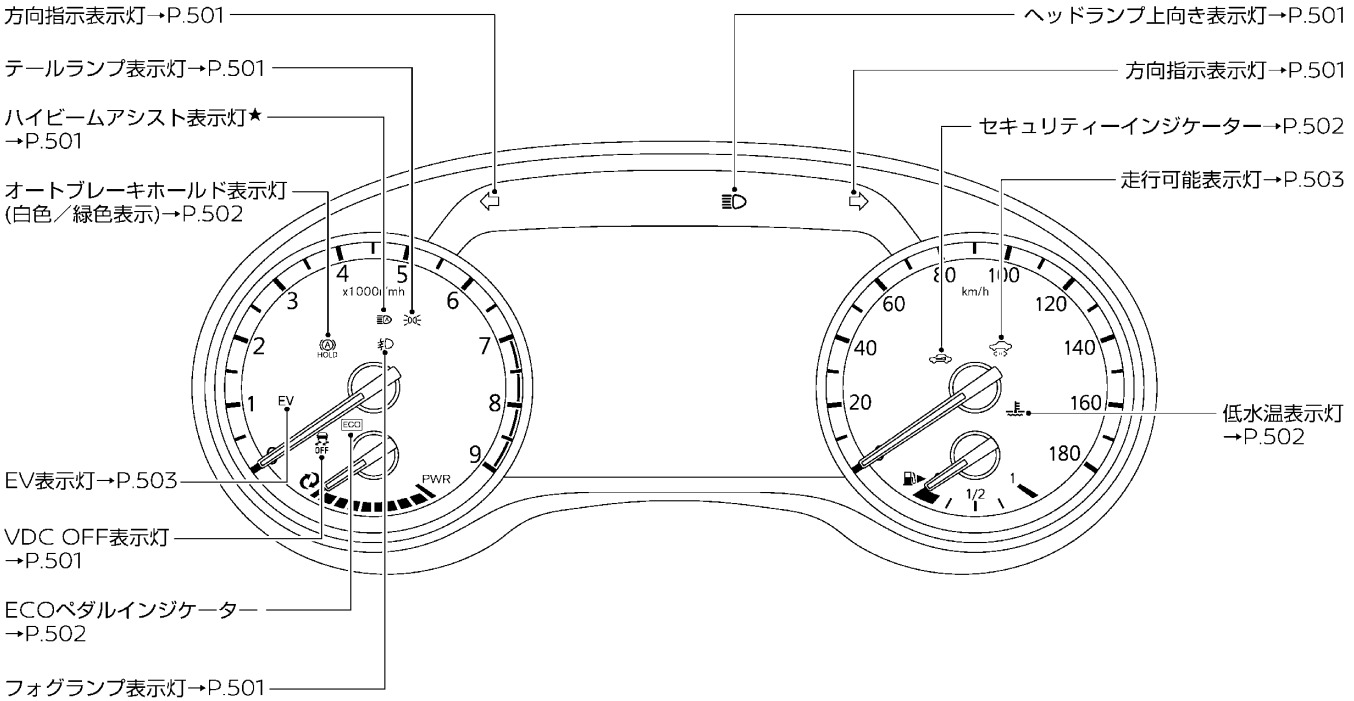
警告灯	名称	警告灯	名称
	油圧警告灯（P.489）		故障警告灯（MIL）（P.489）
	12V系充電警告灯（P.489）		ABS警告灯（P.490）
	電動パーキングブレーキ警告灯（P.490）		ブレーキ警告灯（赤色表示）（P.491）
	ブレーキシステム警告灯（黄色表示）（P.492）		SRSエアバッグ警告灯（P.492）
	シートベルト警告灯（P.493）		燃料残量警告灯（P.494）
	VDC警告灯（P.494）		インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯（P.495）
	ハイブリッドシステム警告灯（P.496）		タイヤ空気圧警告灯（P.497）

警告灯

警告灯	名称	警告灯	名称
	ポップアップエンジン フード警告灯（➔P.498）		パワーステアリング警告灯（➔P.499）
	車両接近通報システム警告灯（➔P.499）		マスターウォーニング（➔P.500）

表示灯の位置

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。
通常は事象がおこったときに、該当の表示灯のみ点灯します。



表示灯

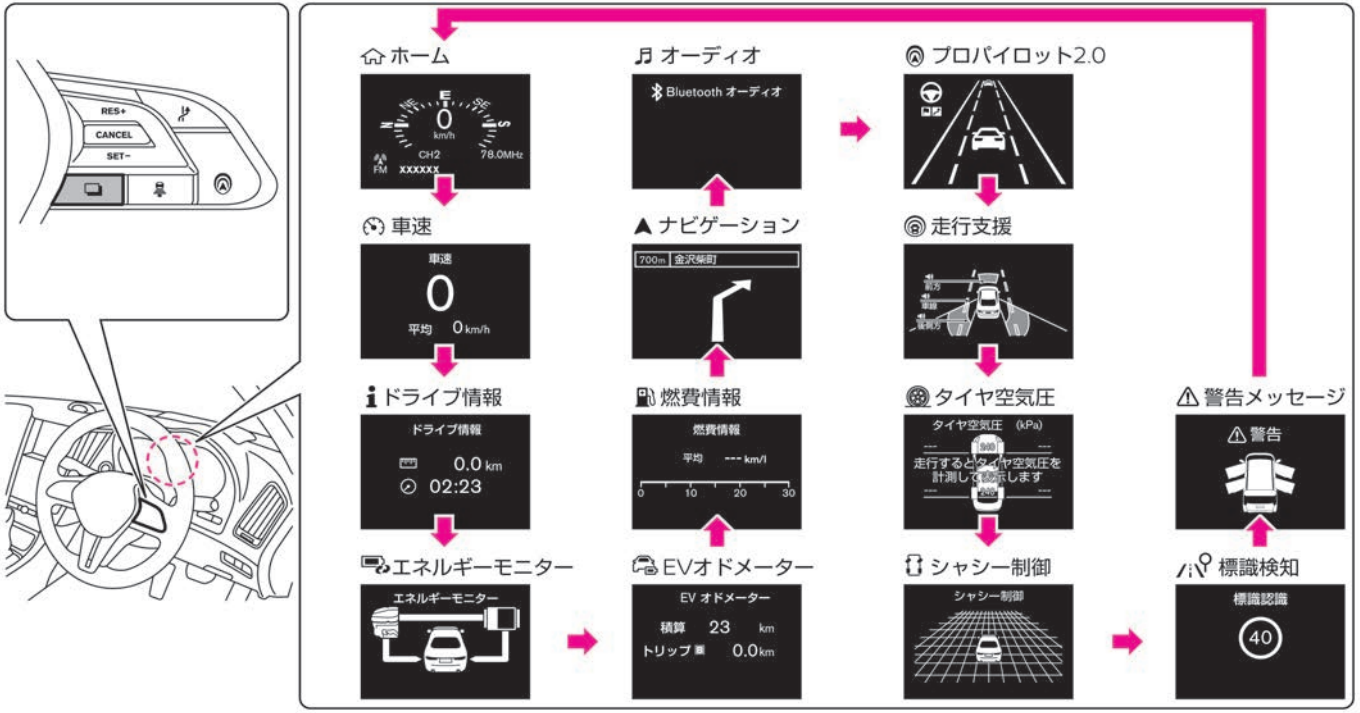
表示灯	名称	表示灯	名称
	方向指示表示灯（P.501）		ヘッドランプ上向き表示灯（P.501）
	テールランプ表示灯（P.501）		フォグランプ表示灯（P.501）
	ハイビームアシスト表示灯★（P.501）		VDC OFF表示灯（P.501）
	セキュリティーインジケーター（P.502）		オートブレーキホールド表示灯（白色表示）（P.502）
	オートブレーキホールド表示灯（緑色表示）（P.502）		ECOペダルインジケーター（P.502）
	低水温表示灯（P.502）		走行可能表示灯（P.503）
	EV表示灯（P.503）		

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは

パワースイッチがONのとき、ハンドル右側にある選択スイッチ を押すと次の順で画面が切り替わります。
機能の詳細および表示項目については、車両情報画面（P.81）、警告メッセージ（P.87）、走行支援機能画面（P.88）をお読みください。

画面の切り替えかた



車両情報画面

様々な車両情報を表示することができます。

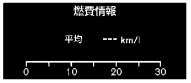
車両情報（表示項目）

パワースイッチがONのとき、ステアリングスイッチの選択スイッチ を押すと画面が切り替わります。

画面表示	名称	概要	詳細説明
	ホーム	● 次の情報を表示します。 – 走行速度 – オーディオ情報 – ナビゲーション情報	● オーディオやナビゲーションシステムの使用状況によって、表示される項目は変わります。
	車速	● 瞬間車速と、リセットしてからの平均車速を表示します。 ● リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの選択スイッチ を1秒以上押します。	知識 ● 12Vバッテリー接続後やリセット後は「---」と表示します。 ● 数値は約30秒ごとに更新します。
	ドライブ情報（走行距離･走行時間）	● リセットしてからの走行距離、走行時間を表示します。 ● リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの選択スイッチ を1秒以上押します。（走行距離と走行時間を同時にリセットします）	-
	エネルギーモニター	● ハイブリッドシステムに関するエネルギーの流れを表示します。	● リチウムイオンバッテリーの残量は、走行状態により増減します。それに応じて残量表示も左右に増減します。 ● ナビゲーションシステムの画面に表示されるエネルギーモニターの簡易画面を表示します。 詳しくは、エネルギーモニター（P.85）をお読みください。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面表示	名称	概要	詳細説明
	EVオドメーター（積算・トリップ）	**EVオドメーター** ● モーターのみで走行した総走行距離を表示します。 **EVトリップメーター** ● モーターのみで走行した区間距離を表示します。TRIP Aと TRIP Bで2種類の区間を記録できます。 ● トリップ切り替えスイッチを押すとAとBが切り替わります。 ● リセットするときは0にしたい方を表示させ、トリップ切り替えスイッチを1秒以上押します。スイッチの位置については（➔P.71）をお読みください。	知識 ● EVトリップメーターは12Vバッテリーを外すと、AとBの記憶が消去され0.0kmに戻ります。
	燃費情報	● リセットしてからの平均燃費、および走行中の瞬間燃費を表示します。 ● 平均燃費をリセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの選択スイッチ を1秒以上押します。	● 平均燃費は、12Vバッテリー接続後やリセット後は「---」と表示します。 ● 平均燃費は約30秒ごとに更新します。 ● ドライブモードセレクター（➔P.206）をECOにすると、表示がECOペダルガイド（➔P.210）に切り替わります。
	ナビゲーション	● ナビゲーションシステムでルートガイドを設定していると、ルート案内を表示します。	● 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ナビゲーション」の章をお読みください。 ● ナビゲーションシステムで目的地を設定していないときは、コンパス（車両の進行方位）を表示します。

画面表示	名称	概要	詳細説明
	オーディオ	● オーディオの情報を表示します。	● 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「オーディオ」の章をお読みください。
	プロパイロット2.0	● プロパイロット2.0の作動状態を表示します。 ● ステアリングスイッチのプロパイロット2.0スイッチ を押すとプロパイロット2.0画面に切り替わります。	● 詳しくは、プロパイロット2.0の説明をお読みください。 ➔ プロパイロット2.0 (P.249)
	走行支援	● 次のシステムの作動状態を表示します。 – インテリジェント エマージェンシーブレーキ – インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） – LDW（車線逸脱警報） – インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） – BSW（後側方車両検知警報） – インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） – インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）	● 詳しくは、各システムの説明をお読みください。 – ➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.335) – ➔ LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） (P.385) – ➔ BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） (P.368) – ➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.407) – ➔ インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム） (P.413)

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面表示	名称	概要	詳細説明
	タイヤ空気圧	● 走行中のタイヤ空気圧を表示します。	● タイヤ空気圧は走行中に計測されるため、パワースイッチをONにしてから25km/h以上で走行しデータを取得するまでは、「走行するとタイヤ空気圧を計測して表示します」というメッセージが表示され、タイヤ空気圧は表示されません。 ● ナビゲーションシステムで空気圧の単位を切り替えることができます。詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
	シャシー制御	● 走行中、次のシステムの作動状態を表示します。 – インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム） – オートブレーキホールド	● 詳しくは、各システムの説明をお読みください。 – ➔インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム） (P.239) – ➔オートブレーキホールド (P.196)
	標識検知	● 標識検知機能の検知状態を表示します。	● 標識検知機能については、（➔P.432）をお読みください。

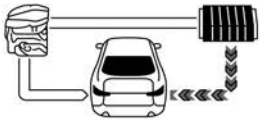
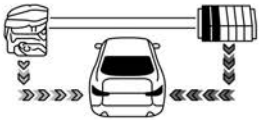
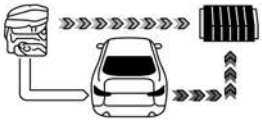
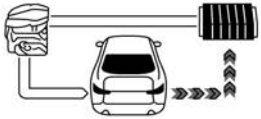
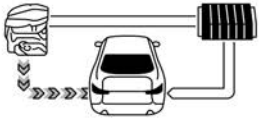
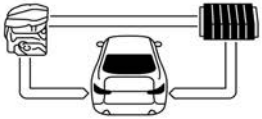
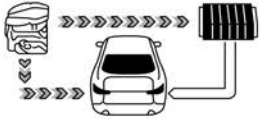
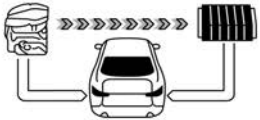
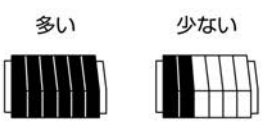
エネルギーモニター

ハイブリッドシステムの作動状況や燃費に関する情報などを、アドバンスドドライブアシストディスプレイおよびナビゲーションシステムの画面に表示します。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイ（➔P.80）とナビゲーションシステムの画面にエンジン、リチウムイオンバッテリーおよびタイヤ間のエネルギーの流れを表示します。
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、エネルギーモニターを表示できます。
  MENU ⇒ 情報 ⇒ 車両情報 ⇒ エネルギーモニター
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
- 画面は実際の表示とは異なる場合があります。
- オレンジ色表示がエンジン、青色表示がリチウムイオンバッテリーのエネルギーの流れを示します。

次ページに続く

エネルギーモニター

情報ディスプレイ		
		
リチウムイオンバッテリーのエネルギーで走行している状態 (青色表示) ※1	エンジンとリチウムイオンバッテリー、両方のエネルギーで走行している状態 (青色表示+オレンジ色表示)	エンジンと回生ブレーキ、両方のエネルギーで充電している状態 (青色表示+オレンジ色表示)
		
回生ブレーキを使って、リチウムイオンバッテリーを充電している状態 (青色表示) ※1	エンジンのエネルギーで走行している状態 (オレンジ色表示)	エネルギーの流れがない状態 ※1
		
エンジンのエネルギーで走行と充電の両方をしている状態 (オレンジ色表示)	エンジンのエネルギーでリチウムイオンバッテリーを充電している状態 (オレンジ色表示)	リチウムイオンバッテリーの残量表示

※1：走行状況によっては、エンジンが始動している場合があります。

警告メッセージ

警告について

- 異常を検知するとメーター内のマスターウォーニング が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示します。
  警告を一時的に消すときは、ステアリングスイッチの選択スイッチ を押します。
- 警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

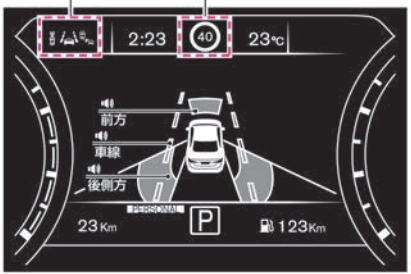
確認のしかた

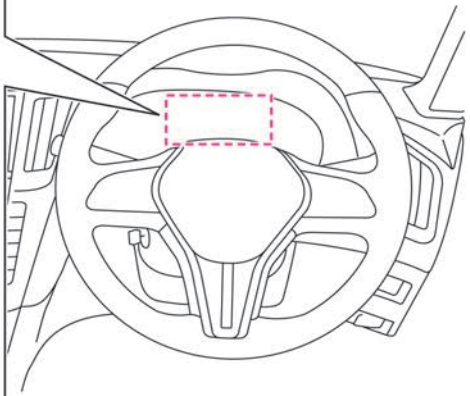
パワースイッチがONのとき、ステアリングスイッチの選択スイッチ で、警告メッセージ を選択すると、異常を検知している警告が確認できます。
警告メッセージの表示画面については、（P.504）をお読みください。
ステアリングスイッチの使いかたは（P.80）をお読みください。

走行支援機能画面

・インテリジェント LI (車線逸脱防止支援システム) 表示
・LDW (車線逸脱警報) 表示
・インテリジェント BSI (後側方衝突防止支援システム) 表示
・BSW (後側方車両検知警報) 表示
・インテリジェント FCW (前方衝突予測警報) 表示
・インテリジェント ペダル (車間距離維持支援システム) 表示
・インテリジェント エマージェンシーブレーキ表示
・速度標識表示

・プロパイロット2.0表示

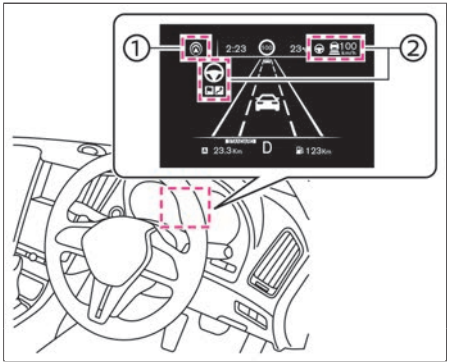




プロパイロット2.0表示

- プロパイロット2.0スイッチ をONにすると①が表示されます。
- プロパイロット2.0の作動状態は②に表示されます。
- プロパイロット2.0に異常があると、オレンジ色に点灯します。

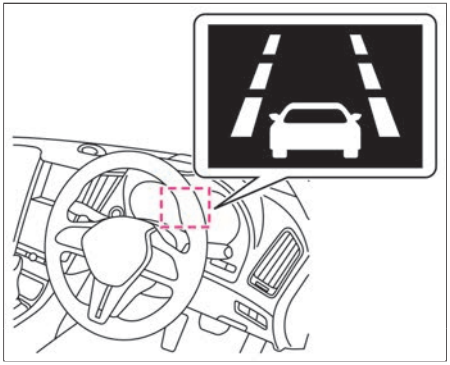
プロパイロット2.0については、（➔P.249）をお読みください。



インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示

- 車両が右側もしくは左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、オレンジ色に点滅します。
- インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）に異常があると、オレンジ色に点灯します。

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）については、（➔P.385）をお読みください。



アドバイス

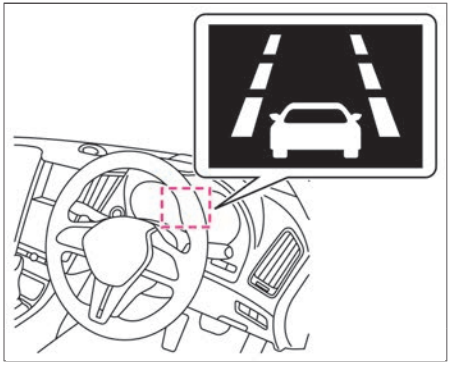
- 警告灯がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。
  ハイブリッドシステム再始動後もオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

LDW（車線逸脱警報）表示

- 車両が右側もしくは左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、オレンジ色に点滅します。
- LDW（車線逸脱警報）に異常があると、オレンジ色に点灯します。

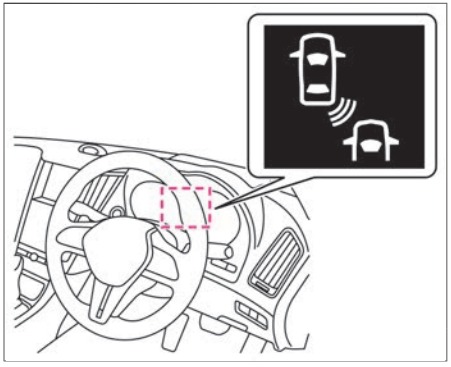
LDW（車線逸脱警報）については、(➔P.385)をお読みください。



インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示

- 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると点滅します。
- インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）に異常があると、オレンジ色に点灯します。

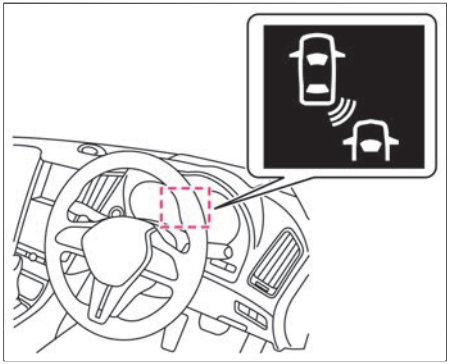
インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）については、（➔P.370）をお読みください。



BSW（後側方車両検知警報）表示

- 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると点滅します。
- BSW（後側方車両検知警報）に異常があると、オレンジ色に点灯します。

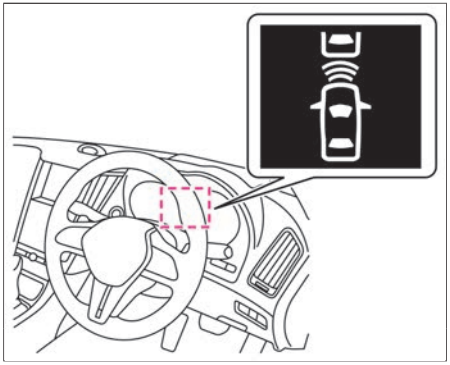
BSW（後側方車両検知警報）については、（➔P.369）をお読みください。



インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）表示

- 自車の回避操作が必要と判断すると、オレンジ色に点滅するとともに警報音を鳴らして、運転者に注意を促します。
- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）に異常があると、オレンジ色に点灯します。

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）については、（➔P.408）をお読みください。

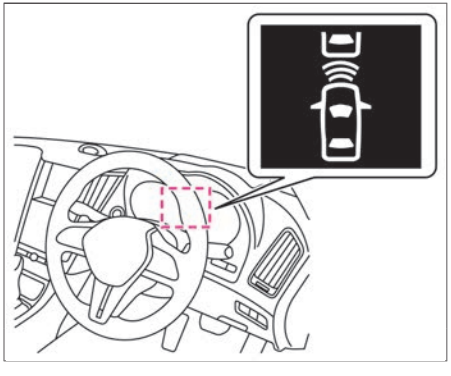


次ページに続く

インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）表示

- 運転者によるブレーキ操作が必要だとシステムが判断すると、オレンジ色に点滅するとともにブザーを鳴らして警告を行います。
- インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）に異常があると、オレンジ色に点灯します。

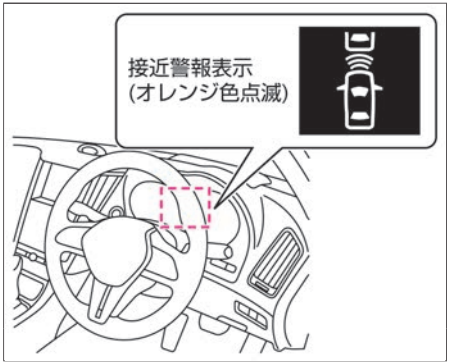
インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）については、（P.413）をお読みください。

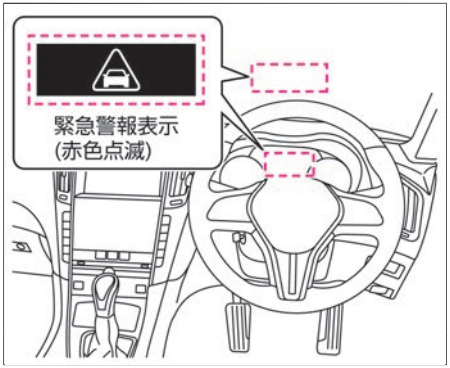


インテリジェント エマージェンシーブレーキ表示

- 衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイの接近警報表示がオレンジ色に点滅します。
  アクセルペダルを踏んでいる場合は、アクセルペダルを押し戻す力を発生させ、ブレーキペダルへの踏み替え操作を支援します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突の危険性が高まったときには、アドバンスドドライブアシストディスプレイとヘッドアップディスプレイが赤色の緊急警報表示になり、警報音とともに軽いブレーキがかかります。
- さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。

インテリジェント エマージェンシーブレーキについては、(➔P.335)をお読みください。





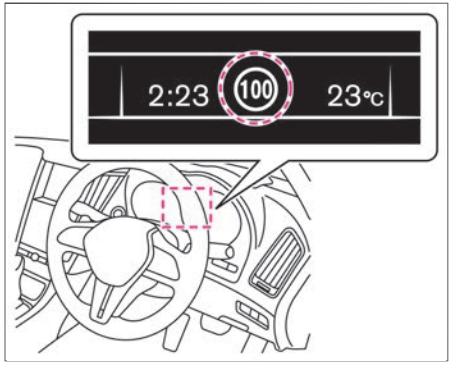
次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

速度標識表示

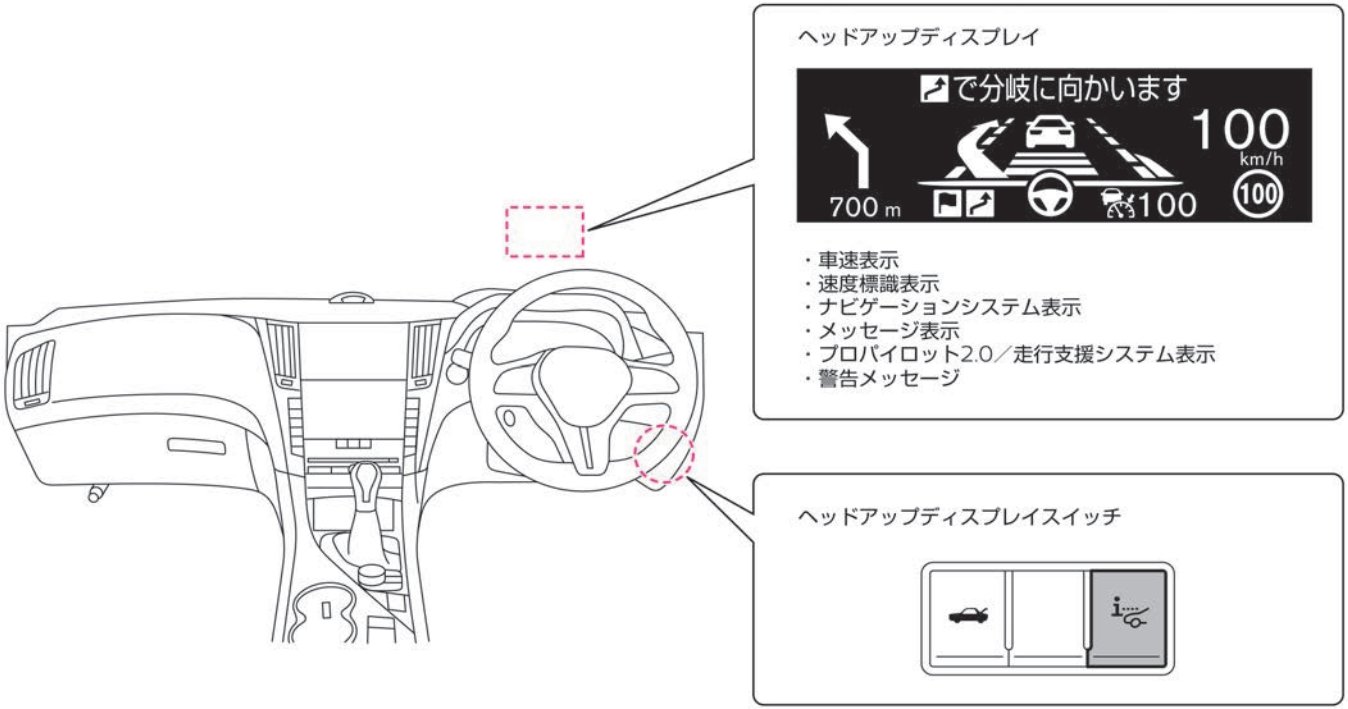
- フロントガラス上部にあるマルチセンシングフロントカメラにより、速度標識を検知し表示します。

速度標識表示については、(➔P.433)をお読みください。



ヘッドアップディスプレイとは

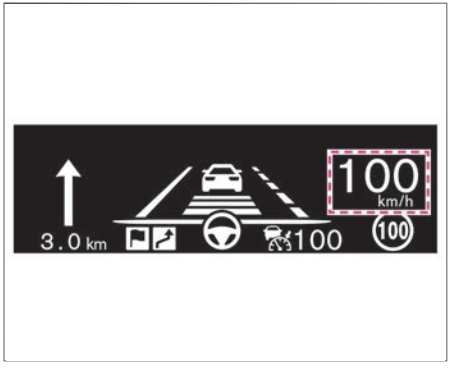
ヘッドアップディスプレイは車速、走行支援システム、ナビゲーションのルートガイドなど、様々な機能の作動状態をフロントガラスに投影することができます。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車速表示

- 走行速度を表示します。

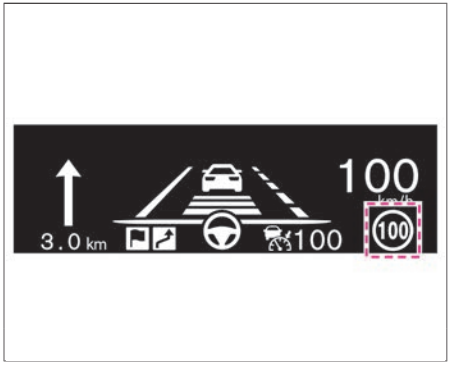


知識

- パワースイッチをONにしたときは、車速のみが表示されます。

速度標識表示

- 検知した速度標識を表示します。

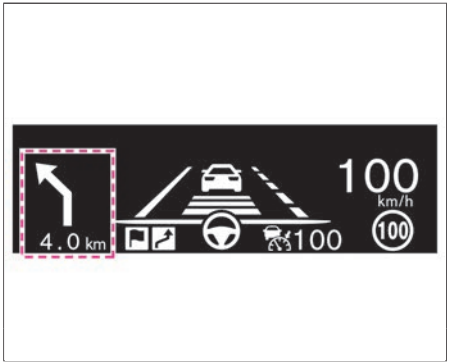


知識

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、表示･非表示の設定ができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ ヘッドアップディスプレイ ⇒ 表示項目 ⇒ 標識認識
  詳しくは、ヘッドアップディスプレイ (P.174)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

ナビゲーションシステム表示

- ナビゲーションシステムで目的地を設定していると、ナビゲーションシステムと連動し、次の右左折地点までの距離などを表示します。



知識

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、表示･非表示の設定ができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ ヘッドアップディスプレイ ⇒ 表示項目 ⇒ ナビゲーション
  詳しくは、ヘッドアップディスプレイ (P.174)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

次ページに続く

メッセージ表示

- プロパイロット2.0操作ガイドなどが表示されます。

知識

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、表示･非表示の設定ができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ ヘッドアップディスプレイ ⇒ 表示項目 ⇒ 走行支援
  詳しくは、ヘッドアップディスプレイ (P.174)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

プロパイロット2.0／走行支援システム表示

- プロパイロット2.0の作動状態、先行車や車線の検知状態を表示します。
  詳しくは、プロパイロット2.0の説明をお読みください。
  プロパイロット2.0 (P.249)

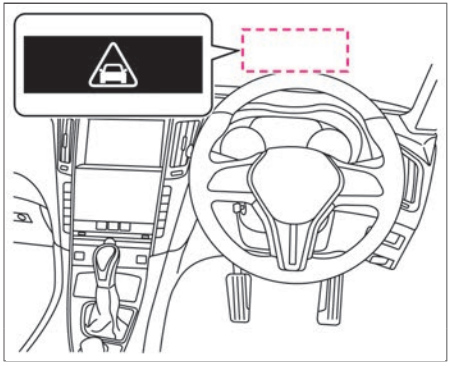
知識

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、表示･非表示の設定ができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ ヘッドアップディスプレイ ⇒ 表示項目 ⇒ 走行支援
  詳しくは、ヘッドアップディスプレイ (P.174)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

次ページに続く

警告メッセージ

- 次のシステムが作動すると警告メッセージが表示されます。
  詳しくは、各走行支援システムの説明をお読みください。
  - プロパイロット2.0（➔P.249）
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキ（➔P.335）
  - 踏み間違い衝突防止アシスト（➔P.346）
- 警告メッセージの表示画面については、（➔P.504）をお読みください。

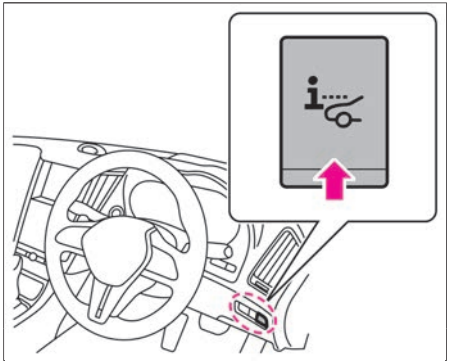


知識

- ヘッドアップディスプレイスイッチがOFFの場合でも、警告メッセージは表示されます。

ON･OFFのしかた

- パワースイッチがONのとき、ヘッドアップディスプレイスイッチを押すと表示します。
- ヘッドアップディスプレイスイッチを押すごとに、ON･OFFを切り替えることができます。
- ヘッドアップディスプレイスイッチのON･OFF設定は、ハイブリッドシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。



⚠ 注意

- **ヘッドアップディスプレイの明るさ、および表示位置を適正に調整する。**
  運転者の視界が妨げられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ヘッドアップディスプレイを見続けない。**
  車両、歩行者、障害物などが見えにくくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ヘッドアップディスプレイの調整は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調整すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

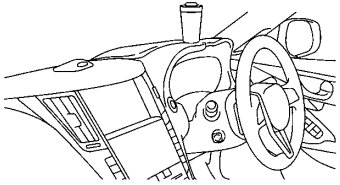
アドバイス

- ヘッドアップディスプレイの映写部に物を置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示の妨げとなります。
- ヘッドアップディスプレイ部には手を触れないでください。故障の原因となります。
- ヘッドアップディスプレイ周辺には

次ページに続く

アドバイス

飲み物を置かないでください。液体が映写部にかかると故障する原因になります。



- ヘッドアップディスプレイの映写部に強く触れたり、とがったものを押し付けたりすると故障する原因になります。

アドバイス

- ヘッドアップディスプレイには、映像の明るさをコントロールするためのセンサーが内蔵されています。センサーを物で塞いでしまうとディスプレイが暗くなってしまい、表示が見えにくくなります。
- ヘッドアップディスプレイのセンサーに強い光を当てないでください。故障する原因になります。

知識

- 偏光サングラスを着用すると表示が見えにくくなることがあります。
- 気象条件（雨、雪、太陽の光、温度など）によっては、表示が見えにくくなることがあります。
- ナビゲーションシステムで 走行支援 をONに設定していると、プロパイロット2.0スイッチ と連動して、ヘッドアップディスプレイスイッチがOFFになっていても表示されます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ ヘッドアップディスプレイ ⇒ 表示項目 ⇒ 走行支援
  詳しくは、ヘッドアップディスプレイ (P.174)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

知識

- ナビゲーションシステムで 走行支援 をONに設定していると、 標識認識 をOFFにしていても、プロパイロット2.0スイッチ と連動して、ヘッドアップディスプレイに速度標識が表示されます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ ヘッドアップディスプレイ ⇒ 表示項目 ⇒ 標識認識
  詳しくは、ヘッドアップディスプレイ (P.174)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
- ナビゲーションシステムで 走行支援 をONに設定していると、 ナビゲーション をOFFにしていても、プロパイロット2.0スイッチ と連動して、ヘッドアップディスプレイにナビゲーションが表示されます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ ヘッドアップディスプレイ ⇒ 表示項目 ⇒ ナビゲーション

知識

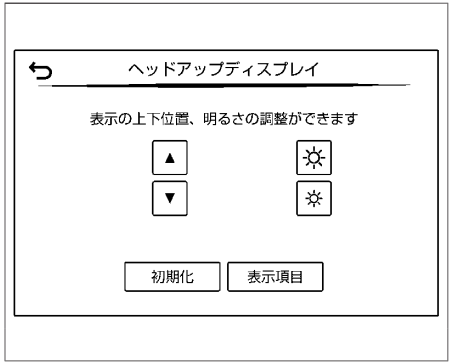
詳しくは、ヘッドアップディスプレイ (P.174)をお読みください。
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

- 本製品には、以下のソフトウェアが含まれています。
①パナソニック株式会社（「パナソニック」）により、またはパナソニックのために開発されたソフトウェア
②パナソニックにライセンスされた第三者所有のソフトウェア
③オープンソースソフトウェア
上記③に分類されるソフトウェアには、以下のライセンス情報が適用される様々なソフトウェアを含むオープンソースソフトウェア（OSS）が含まれています。
また、下記webサイトにもライセンス情報が記載されています。
http://car.panasonic.jp/oss/xs9ejrf4

次ページに続く

ヘッドアップディスプレイの調整のしかた

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ヘッドアップディスプレイの表示の高さと明るさを調整することができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ ヘッドアップディスプレイ
  詳しくは、ヘッドアップディスプレイ (P.174)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。



知識

- ヘッドアップディスプレイは走行環境に合わせて、フロントガラスに投影する画像の明るさを自動で調整します。
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ヘッドアップディスプレイの設定を初期化できます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ ヘッドアップディスプレイ ⇒ 初期化
  詳しくは、ヘッドアップディスプレイ (P.174)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

メーターの明るさの調節のしかた

自動調節

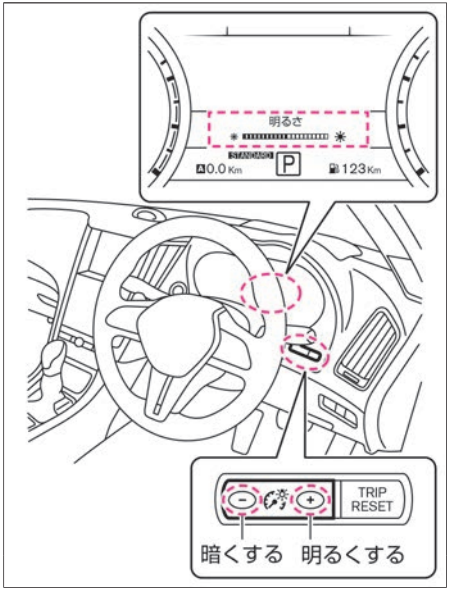
パワースイッチがONでランプが点灯しているとき、車外の明るさに応じて照明の明るさを調節します。

ランプ	車外の明るさ	照明の明るさ
消灯	-	明
点灯	明るいとき	明
	暗いとき	暗

手動調節

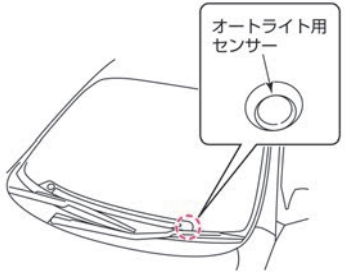
パワースイッチがONのとき調節できます。

- スイッチを押して調節します。
- 明るさのレベル表示は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示されます。



アドバイス

- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。



知識

- 12Vバッテリーを外すと調節した記憶は消去されます。
- 照明の明るさを、明るいときと暗いときそれぞれに調節できます。調節した内容は記憶されます。

MEMO

キー

キー（インテリジェントキー） P.108
キー（インテリジェントキー）に関する注意事項 P.112

ドアの施錠と解錠

ドア P.115
トランク P.122

シートの調節

前席シート P.126
後席シート P.133

ハンドルの調節

ハンドル P.135

ミラーの調節

ルームミラー P.136
ドアミラー P.138

窓ガラスの開閉

パワーウインドー P.141
電動ガラスサンルーフ★ P.144

燃料補給口の開閉

燃料補給口 P.151

エアコンの操作

オートエアコン★／インテリジェントエアコンシステム★ P.155
吹き出し口 P.162
エアコンを使うときに注意すること P.163

ナビゲーションシステム

各種設定画面 P.167

キー（インテリジェントキー）

キーを携帯するだけでドアの施錠･解錠および始動操作ができます。
ドアの施錠･解錠のしかたは（➔P.115）、始動操作は（➔P.177）をお読みください。

各部名称と機能

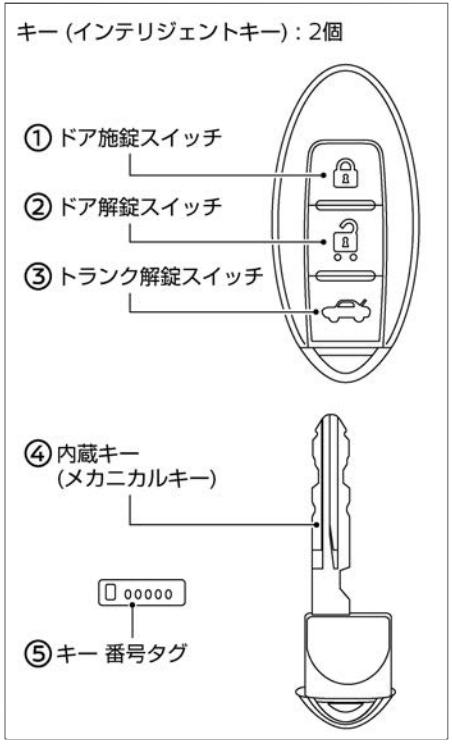
① ドア施錠スイッチ
スイッチを押すと、全ドアおよび燃料補給口が施錠されます。

② ドア解錠スイッチ
スイッチを押すと、全ドアおよび燃料補給口が解錠されます。

③ トランク解錠スイッチ
スイッチを1秒以上押すと、トランクが解錠されます。

④ 内蔵キー（メカニカルキー）
キーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどにドアの施錠･解錠ができます。
➔ 内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた (P.481)

⑤ キー番号タグ
キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。



知識

- キーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。
- キーの電池が切れても、ドアの施錠･解錠やハイブリッドシステムの始動を行うことができます。
➔ ドアが開かないときは (P.481)
➔ キー（インテリジェントキー）で始動できないときは (P.482)

キー（インテリジェントキー）の機能について

アンサーバック機能

- ドアの施錠･解錠時に、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）
- トランク解錠時に、作動確認のためのブザーが作動します。（解錠時４回）
- アンサーバック機能のブザーを停止することができます。日産販売会社にご相談ください。

アンサーバックエクステリアライト機能

- ドアの施錠･解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が作動します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）
- ナビゲーションシステムで次の操作 をすると、アンサーバックエクステリアライト機能のON･OFFを切り替えることができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両 ⇒ アンサーバックエクステリアライト
  詳しくは、車両 (P.172)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

キー連動室内照明システム

- ドアを解錠すると、室内照明が約15秒間点灯します。
  詳しくは、室内灯（P.446）をお読みください。

オートロック機能

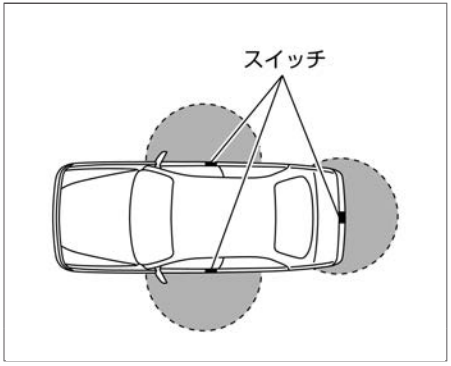
- タッチセンサーまたはドアハンドルのスイッチ（またはキー（インテリジェントキー）のドア解錠スイッチ）を押して、解錠後約30秒以内に以下のいずれかの操作も行わなかった場合は、盗難防止のため全ドアが施錠されます。（施錠されるまでの間に、再度キーの解錠スイッチを押すと、その時点から約30秒後に施錠されます。）
  – ドアを開ける
  – パワースイッチを押す

次ページに続く

ドアの施錠・解錠の作動範囲

作動範囲は各ドアハンドルのスイッチから周囲約80cm以内です。作動範囲は各ドアハンドルのスイッチを中心に球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。
キーが作動範囲内にある場合は、キーを携帯している人以外でもドアハンドルのスイッチを押して施錠・解錠できます。

- ドアハンドルのスイッチを押してドアを施錠したあとは、ドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- ドアハンドルのスイッチを押す前にドアハンドルを引かないでください。ドアは解錠されますが、開きません。一度ドアハンドルを離してから再び引いて開けてください。
- 車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ずパワースイッチをOFFにして施錠してください。



パーソナルアシスタント機能

あらかじめユーザー情報を登録しておくと、キー（インテリジェントキー）を携帯して車両へ乗り込んだとき、 ユーザーを認識します。

- パワースイッチをONにすると、キーで認識したユーザーへのおもてなし案内画面をナビゲーションシステム画面に表示し、 ログインすることができます。
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
- 前回とキーの使用者が異なるときは、ユーザーへのおもてなし案内画面からユーザーを切り替えることができます。
- ユーザー情報はゲストに加えて3名分登録でき、運転ポジション★、エアコンの設定などの各種設定を記憶します。
- パーソナルアシスタント機能では、次の機能について設定することができます。
  - エンジン･トランスミッション
  - ステアリング
  - 運転支援の設定
  - インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）（➔P.239）
  - 運転ポジション★（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度）（➔P.129）
  - メーターの設定※
  - エアコンの設定（➔P.155）
  - ナビゲーションシステムの設定※
  - オーディオの設定※
  - ヘッドアップディスプレイの設定（➔P.95）

  ※:詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

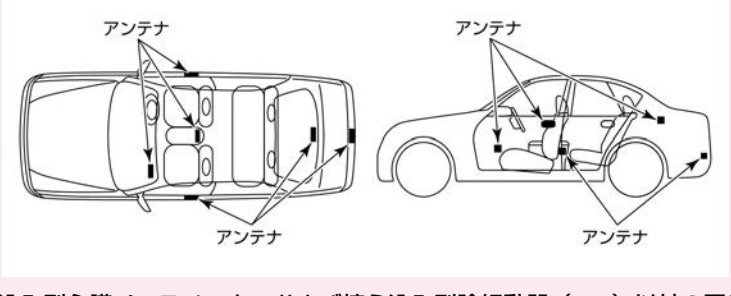
知識

- ユーザー名（User1、User2、User3）は、登録した順に登録されます。また、1人のユーザーに複数のキーを登録することもできます。登録済みのユーザーはユーザーリストで確認できます。
- ゲストの名前と写真は変更できません。

キー（インテリジェントキー）に関する注意事項

⚠ 警告

- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**
  ドア（トランク）開閉時、各タッチセンサーおよびドアハンドルのスイッチ操作時、ハイブリッドシステム始動時などにキーの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。



- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**
  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。
- **航空機内ではキーのスイッチを押さない。**
  万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

キー（インテリジェントキー）に関する注意事項

アドバイス

- キーは運転者が必ず携帯してください。
- キーは、ハイブリッドシステムの始動やドアの施錠･解錠など、車を操作するためにはなくてはならないものです。大切に保管してください。
- キーは、必ず内蔵キー（メカニカルキー）を内蔵した状態で携帯してください。
- キーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるときの衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込めるおそれがあります。
- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。
- キー番号を打刻したタグは大切に保管してください。キー番号を日産販売会社に連絡すると購入できます。
- キーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、ドアハンドルのスイッチやキーのスイッチが正常に作動しない場合があります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき
  - 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
  - キーが金属製の物に接したり、覆われたりしているとき
  - 近くで電波式のリモコンスイッチを操作しているとき
  - キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
  - 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき
  - 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）
- キーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。

次ページに続く

キー（インテリジェントキー）に関する注意事項

アドバイス

- ― 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）
- ― 日本国内のみで使用する

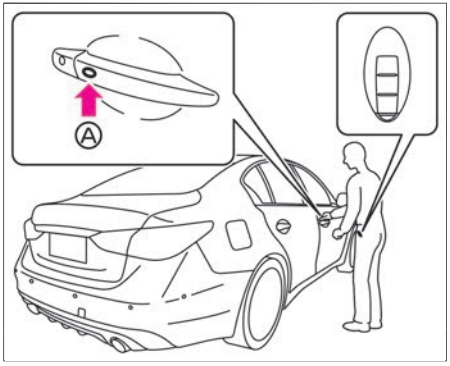
- キーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年程度です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。
  キー（インテリジェントキー）の電池交換 (P.575)
- キーをテレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。電池を著しく消耗することがあります。
- キーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- キーは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  - ― 長時間高温になる場所に置かない
  - ― 分解しない
  - ― 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない
  - ― 水にぬらさない
  - ― 超音波洗浄器などにかけない
  - ― 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけない
  - ― テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない

ドアハンドルのスイッチやキー（インテリジェントキー）のスイッチで施錠･解錠します。
施錠したあとは、必ず施錠されていることを確認してください。

インテリジェントキー機能による施錠･解錠のしかた

- 施錠するときは、運転席または助手席ドアハンドルのスイッチⒶを押します。
- 解錠するときは、運転席または助手席ドアのドアハンドルを握ります。
  ドアハンドル裏側のタッチセンサーⒷに触れるようにドアハンドルを握ると解錠されます。
  （施錠した直後の約2秒間は解錠できません）

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅



アドバイス

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 手袋などを着用したままドアハンドルを握ると、タッチセンサーが反応しないことがあります。
- 急にドアハンドルを引くと、ドアが解錠される前にドアハンドルが引かれるため、解錠できないことがあります。その場合、一度ドアハンドルを戻すと解錠されます。再度ドアハンドルを引いてください。
- ドアハンドルを握る前にドアハンドルのスイッチを押してしまうと、約2秒間解錠できなくなります。また、解錠できないときにドアハンドルを握った場合、約2秒経過しても解錠することができません。一旦ドアハンドルから手を離し、約2秒経過してからもう一度ドアハンドルを握ってください。
- キーが施錠･解錠の作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などで多量の水がドアハンドルにかかるとドアが施錠･解錠されることがあります。

次ページに続く

知識

- キーを検知しているセンサーおよびドアハンドルのスイッチでのみ施錠・解錠を行うことができます。
- ドアの施錠・解錠時には、アンサーバック機能、オートロック機能、アンサーバックエクステリアライト機能が作動します。
➔ 各部名称と機能 (P.108)
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、インテリジェントキー機能での施錠・解錠機能のON・OFFを設定できます。
MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両 ⇒ リクエストスイッチ ロック・アンロック
詳しくは、➔ 車両 (P.172)をお読みください。
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ドアハンドル裏側のタッチセンサーの作動をOFFにし、ドアハンドルのスイッチで解錠できるように設定を変更できます。
MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両 ⇒ タッチドアセンサー

知識

詳しくは、➔ 車両 (P.172)をお読みください。
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
- 次のような場合は、作動しません。
  - パワースイッチがONまたはアクセサリーのとき
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  - キーが施錠・解錠の作動範囲内にないとき
  - 携帯しているキー以外に自車のキーが車室内またはトランク内にあるとき
（解錠のみできます）
  - キーの電池が切れているとき

衝撃感知式ドアロック解除システム

- パワースイッチがONのとき、車両が前後方向または側面から強い衝撃を受けるとシステムが作動し、約3秒後に全ドアが解錠されます。
衝撃の強さなどによっては、作動しないことがあります。システム作動後にシステムを解除させる（ドアをロックする）には、一旦パワースイッチをOFFにしてください。

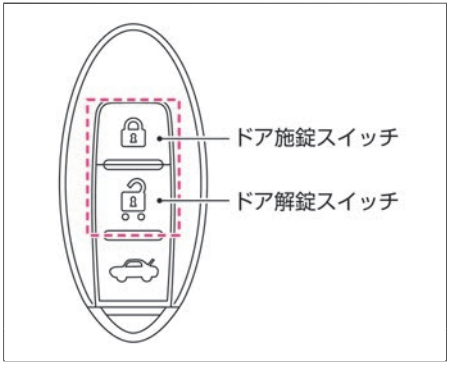
知識

後にシステムを解除させる（ドアをロックする）には、一旦パワースイッチをOFFにしてください。

キー（インテリジェントキー）のスイッチでの施錠･解錠のしかた

- 全ドアを施錠するときは、ドア施錠スイッチ を押します。
- 全ドアを解錠するときは、ドア解錠スイッチ を押します。
- 作動範囲は、車両から約1mです。
- 施錠･解錠をしたときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅



知識

- キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。日産販売会社にご相談ください。
  ➔ キー（インテリジェントキー）の電池交換 (P.575)
- キーの電池が切れ、施錠･解錠ができないときは、内蔵キー（メカニカルキー）で施錠･解錠ができます。
  ➔ 内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた (P.481)
- 次のような場合は、作動しません。
  - パワースイッチがONまたはアクセサリーのとき
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき（解錠のみできます）
  - 車から離れすぎているとき
  - キーの電池が切れているとき

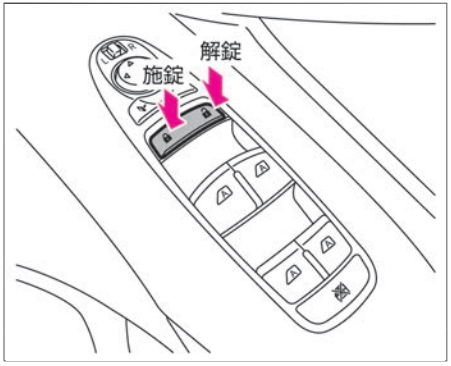
オートロック機能

- 盗難防止のため、施錠する機能です。ドア解錠スイッチを押して解錠したときは、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

次ページに続く

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

- ドアロックスイッチは、運転席および助手席にあります。
- 施錠するときは、ドアロックスイッチを施錠側 に押します。
- 解錠するときは、ドアロックスイッチを解錠側 に押します。



知識

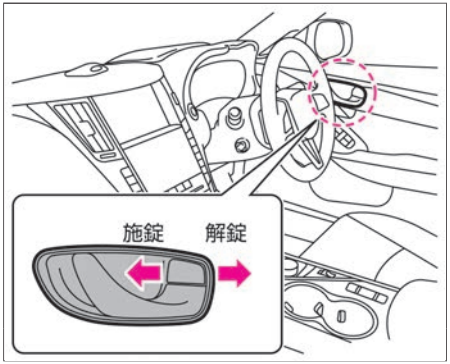
- ドアロックスイッチを押すと、全ドアが施錠または解錠します。

衝撃感知式ドアロック解除システム

- パワースイッチがONのとき、車両が前後方向または側面から強い衝撃を受けるとシステムが作動し、約3秒後に全ドアが解錠されます。衝撃の強さなどによっては、作動しないことがあります。システム作動後にシステムを解除させる（ドアをロックする）には、一旦パワースイッチをOFFにしてください。

ロックノブでの施錠・解錠のしかた

- 施錠するときは、施錠するドアのロックノブを施錠側に押し込みます。
- 解錠するときは、解錠するドアのロックノブを解錠側に引きます。



知識

- 運転席のロックノブで全ドアが施錠または解錠します。
- 運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、全ドアが同時に解錠します。

キーを使用しない施錠のしかた

前席ドア

- ロックノブを押し込み、車外のドアハンドルを引きながらドアを閉めます。

後席ドア

- ロックノブを押し込み、そのままドアを閉めます。

知識

キー封じ込み防止機能

- キー（インテリジェントキー）が車室内（トランク内も含む）にあるときは、施錠できません。キーを車室内に置き忘れたまま施錠することを防ぐ機能です。

次ページに続く

チャイルドセーフティドアロック

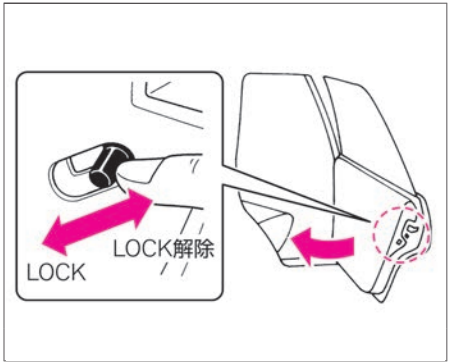
後席シートに乗せたお子さまなどが、誤って後席のドアを開けないようにロックできます。

ロックするには

- 後席ドアにあるロックレバーをLOCK位置にしてドアを閉めます。

ドアを開けるには

- チャイルドセーフティドアロックがかかっているときは、車外のドアハンドルを引いて開けます。



知識

- 車室内から開けるときは、ドアロックノブが解錠していることを確認し、窓ガラスを下げ、手を外に出して車外のドアハンドルを引きます。

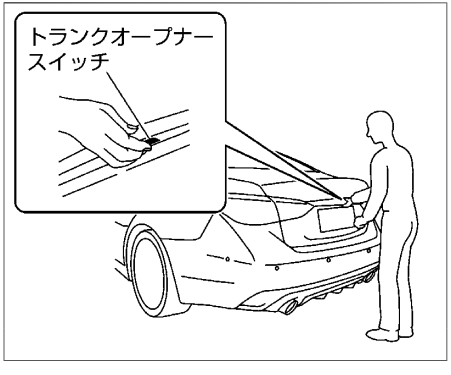
ドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **ドアの開閉はお子さまにはさせない。**
  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- **走行する前にドアを確実に閉める。**
  走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

トランクの開けかた

- キー（インテリジェントキー）を携帯し、トランクオープナースイッチを押すと、トランクが解錠されます。
- 開けるときは、解錠後トランクリッドを持ち上げ、全開にします。



アドバイス

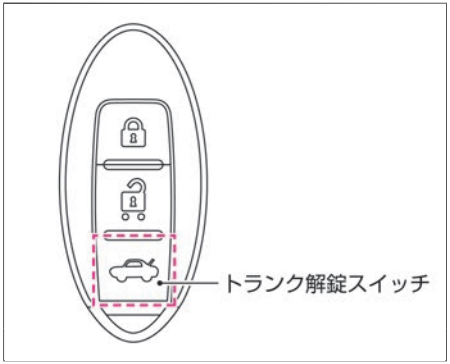
- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 作動範囲はトランクオープナースイッチを中心に約80cmの球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。
- キーをトランク内に置き忘れないでください。

知識

- 次のような場合は作動しません。
  - キーが作動範囲にないとき
  - キーの電池が切れているとき

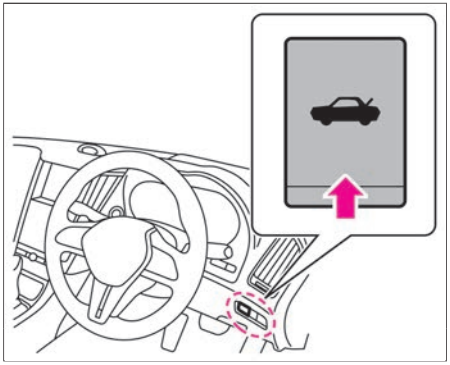
キー（インテリジェントキー）での開けかた

- 車に近づき、キーのスイッチを1秒以上押します。
  作動範囲は、車両から約1mです。（作動範囲は周囲の状況によって変化します。）



トランクオープナースイッチでの開けかた

- トランクオープナースイッチを押すと解錠されます。



アドバイス

- 以下の場合は、解錠してもトランクリッドが半ドア状態になることがあります。その場合は、トランクオープナースイッチで再度解錠し、手でトランクリッドを持ち上げてください。
  - トランクリッドに雪やアクセサリーなどの重量物が付いているとき
  - トランクリッドが凍結しているとき

次ページに続く

トランクの閉めかた

- 閉めるときは、トランクリッドを降ろし、確実にロックするまで押し付けます。

アドバイス

- キーをトランク内に置き忘れないでください。

トランクに関する注意事項

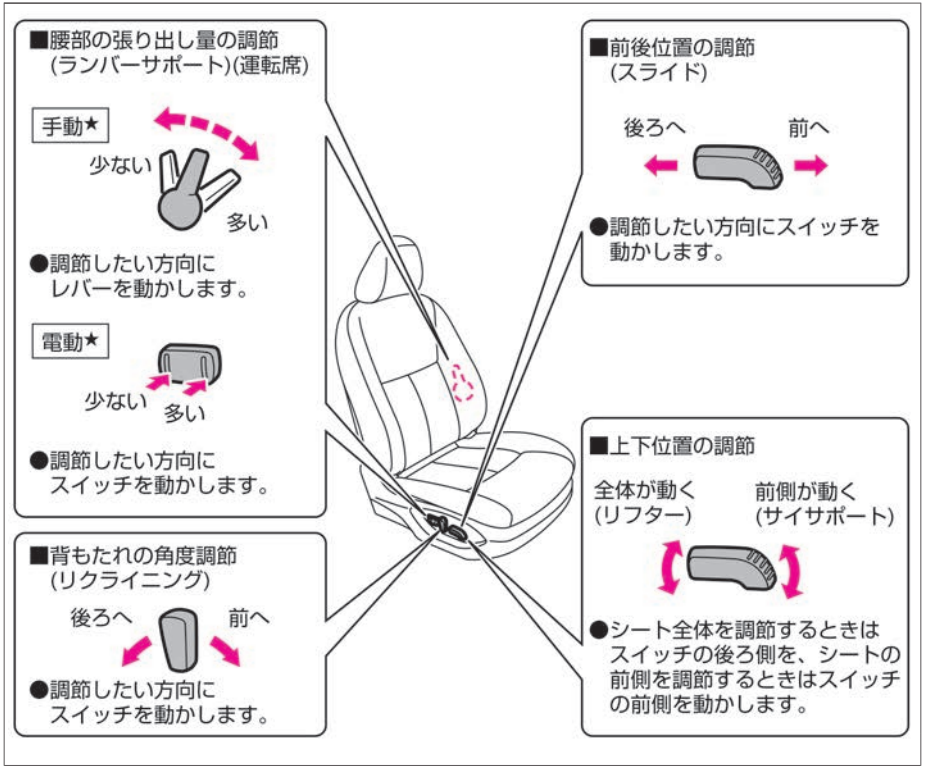
⚠ 警告

- **走行前にトランクが確実に閉まっていることを確認する。**
  トランクを開けたまま走行すると、車室内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **トランクリッドを開けるときは、必ず全開にする。**
  途中で止めると突然閉まるおそれがあります。
- **風が強いときにトランクリッドを開ける場合は特に注意する。**
  風にあおられ、急に閉まることがあります。
- **トランクリッドを閉めるときは、手などを挟まないように注意する。**

シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**
  車室内を清掃するときやシートの下に

⚠ 注意

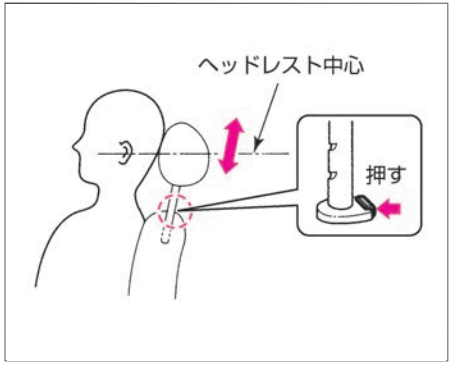
落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームにあたり、ケガをするおそれがあります。

次ページに続く

ヘッドレストの調節のしかた

ヘッドレストの中心が、耳の高さになる位置に調節します。

- 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。
- 低くするときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。



⚠ 警告

- **ヘッドレストを外したまま走行しない。**
  万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**
  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**
  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。

パーソナルドライビングポジションメモリーシステム★の設定のしかた

パーソナルドライビングポジションメモリーシステムは、パーソナルアシスタント機能で認識されたユーザーのドライビングポジションを復帰させることができ、次のような機能があります。

パーソナルアシスタント機能 (P.111)

- シートおよびハンドルの退避･復帰機能
- パーソナルアシスタント連動メモリー機能
- スイッチメモリー機能

知識

- すべての機能は、セレクトレバーがPのときに作動します。
- ハイブリッドシステム始動時は作動が一時停止しますが、ハイブリッドシステム始動後に再開します。
- 以下のいずれかの操作を行うと作動が停止します。
  - セレクトレバーをP以外にしたとき
    （シートの復帰機能は停止しません。）
  - シート、ハンドル、ドアミラーの調節スイッチを操作したとき
  - セットスイッチ、メモリースイッチのいずれかを押したとき

次ページに続く

■ シートおよびハンドルの退避･復帰機能

運転席シートとハンドルが動き、乗り降りを楽にします。

退避機能

パワースイッチをOFFにして運転席ドアを開けると、運転席シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に動きます。

復帰機能

パワースイッチをアクセサリーまたはONにすると、運転席シートとハンドルが選択しているユーザーの設定した位置に戻ります。

知識

- パワースイッチがアクセサリーのときは、携帯しているキー（インテリジェントキー）を前回使用したユーザーが、設定していた位置に戻ります。

■ パーソナルアシスタント連動メモリー機能

次の手順でパーソナルアシスタント機能（➔P.111）に運転ポジション（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度）を記憶することができます。

① あらかじめユーザー登録の完了しているキーを携帯し、パワースイッチをONにします。

② 運転席のシートポジション、ハンドルの位置、ドアミラーの鏡面角度を調節し、パワースイッチをOFFにします。

次回から、キーを携帯してパワースイッチをONにすると、記憶した運転ポジション（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度）を呼び出します。

知識

- パーソナルアシスタント機能には運転ポジション以外（エアコン、ナビゲーションシステムなど）の設定も記憶されます。
  ➔パーソナルアシスタント機能 (P.111)

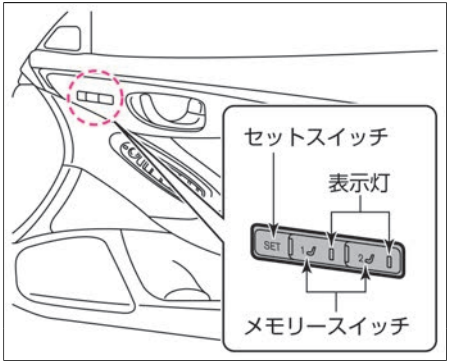
■ スイッチメモリー機能

2名分の運転ポジション（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度）をスイッチに記憶させ、呼び出すことができます。

記憶のしかた

① 正しい運転姿勢が取れる運転ポジションに調節します。
➔ ハンドルの調節 (P.135)
➔ シートの調節のしかた (P.126)
➔ ドアミラーの格納のしかた (P.139)

② セットスイッチを押し、押してから5秒以内に記憶させたい方のメモリースイッチを1秒以上押します。
記憶が完了すると、ブザーが鳴るとともに記憶させたスイッチの表示灯が5秒間点灯します。



呼び出しかた

セレクトレバーを P にします。
記憶を呼び出したいメモリースイッチを呼び出しが開始するまで押し続けます。
呼び出し中はスイッチの表示灯が点滅し、完了すると約5秒間点灯します。

知識

- パーソナルアシスタント機能で記憶した運転ポジションとは別にスイッチに記憶されます。
- 運転ポジション以外の設定はスイッチに記憶しません。
- セットスイッチを押したとき、記憶されていると約5秒間表示灯が点灯します。
- 状況により、メモリースイッチを押してから呼び出しが開始するまで数秒かかることがあります。

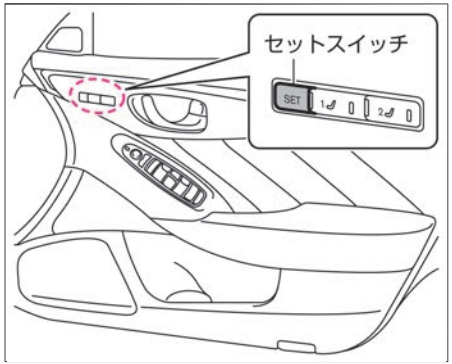
次ページに続く

■ 設定の切り替えかた

シートおよびハンドルの退避･復帰機能の作動･非作動を切り替えることができます。

① パワースイッチをOFFにします。
➔パワースイッチでのモードの切り替えかた (P.180)

② セットスイッチを10秒以上押し続け、作動と非作動を切り替えます。



知識

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、シートおよびハンドルの退避･復帰機能の設定を切り替えることができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両 ⇒ 降車時シート退避 / 降車時ステアリング跳ね上げ
  詳しくは、➔車両 (P.172)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

ヘッドレストの使いかた

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。

アドバイス

- 後席シートのヘッドレストは、格納状態では機能が十分に発揮できません。ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してください。

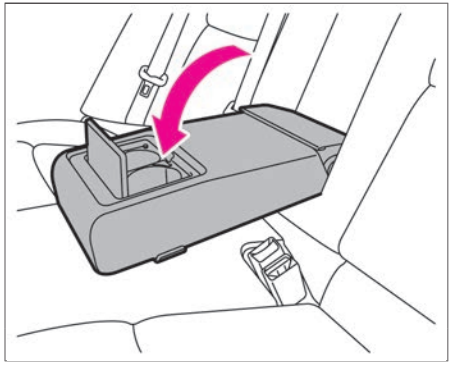
■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 脱着のしかたは、前席シートと同じです。
➔ ヘッドレストの外しかた、付けかた (P.128)

次ページに続く

リヤセンターアームレストの使いかた

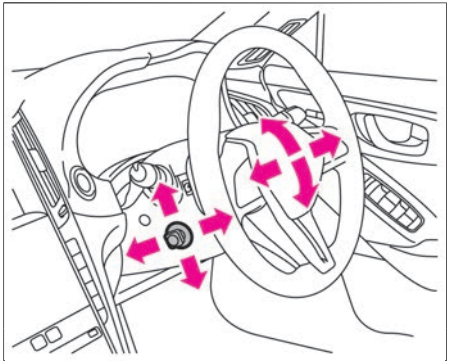
- アームレストを前に倒します。
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。



適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドル位置を調節します。

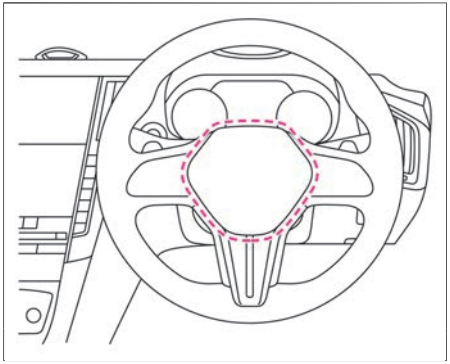
ハンドル位置の調節のしかた

スイッチを前後上下に押して調節します。



ホーンの鳴らしかた

ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。



⚠ 警告

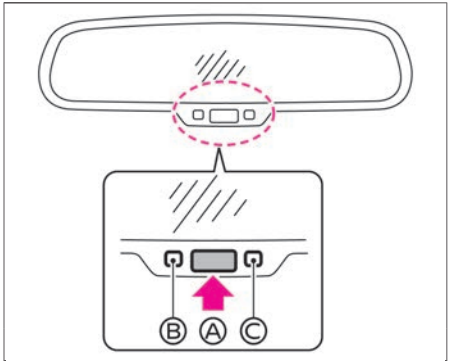
- **ハンドルの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーは、後方が十分確認できるように、正しい運転姿勢で座ってから調節します。

自動防眩式ルームミラーの調節のしかた

- 自動防眩式ルームミラーは、後続車両のヘッドランプの明るさに応じて反射率を調整します。
- ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。
- パワースイッチをONにすると自動防眩が作動し、後続車両のヘッドランプによるまぶしさが軽減されます。（インジケーターⒷが点灯）
- スイッチⒶを押すと、自動防眩がOFFになります。（インジケーターⒷが消灯）
- もう一度スイッチⒶを押すか、一度パワースイッチをOFFにし、再度パワースイッチをONにすると自動防眩がONになります。



⚠ 警告

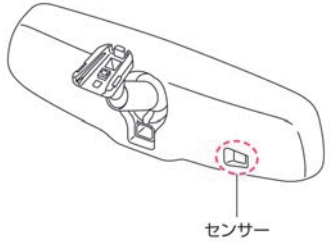
- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。また、防眩への切り替えは必要なときのみ行う。**
  走行中にミラーを調節したり、不必要に防眩へ切り替えたりしていると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ルームミラーに物をかけたり、ガラスクリーナーを使用しないでください。センサーⒸの感度が低下し、作動不良の原因となるおそれがあります。

知識

- ミラー裏側にあるセンサーをドライブレコーダーなどでふさがないでください。防眩機能が作動しない場合があります。

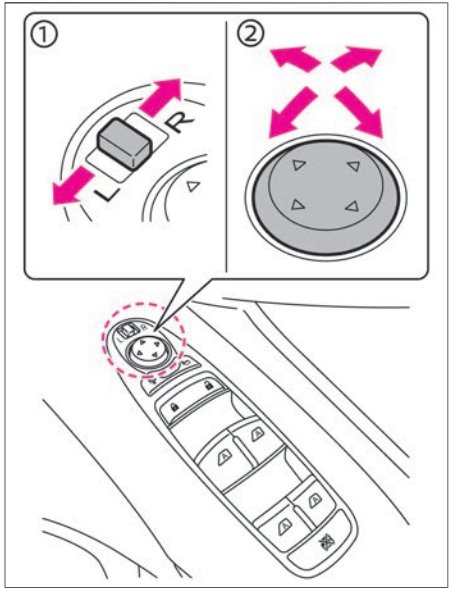


ドアミラー

ドアミラースイッチは運転席のアームレストにあります。
パワースイッチがアクセサリーまたはONのときに操作できます。

ドアミラーの角度調節のしかた

① 左右切り替えスイッチを調整する側に動かします。(左側はL、右側はR)
② 角度調整スイッチを前後･左右に押して、後方が十分確認できる位置に調節します。



警告

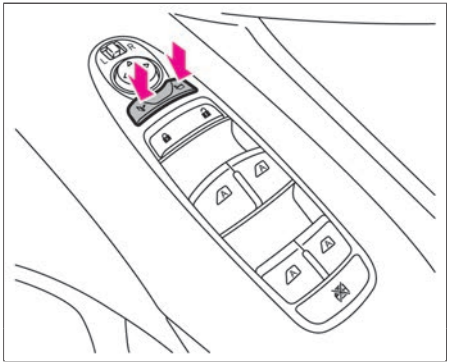
- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中にミラーを調節すると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ミラーの映像は実際より遠くに見えるので注意してください。

ドアミラーの格納のしかた

- 開閉スイッチの左側を押すと、左右のミラー本体が格納されます。
- 開閉スイッチの右側を押すと、元に戻ります。



⚠ 注意

- **ミラーが動いているときは手を触れない。**
  手を挟んだり、ミラーが故障するおそれがあります。
- **ミラーを格納したまま走行しない。**
  後方確認ができないため危険です。

アドバイス

- 手動でミラーを開閉しないでください。手動で開閉すると、走行中にミラーが規定位置より前方または後方に倒れ、後方確認ができなくなるおそれがあります。手動で開閉してしまったときは、走行前にスイッチで開閉操作を行ってください。

知識

- スイッチ操作を連続して行うと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
- 手動で開閉した場合、開閉スイッチの位置により、パワースイッチをアクセサリーまたはONにしたときにミラーが動き出すことがあります。

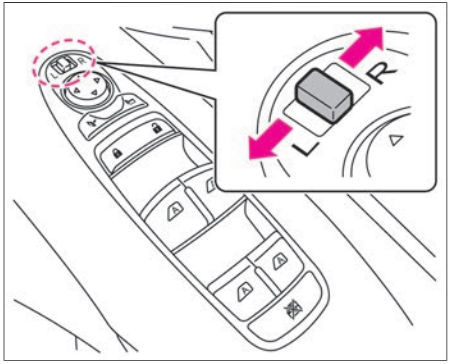
次ページに続く

ドアミラーヒーターの使いかた

- パワースイッチがONのとき、リヤウインドーデフォッガースイッチ（P.534）を押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりが取れます。

リバース連動下向きドアミラー★の使いかた

- セレクトレバーを R にすると（後退時）、左右のドアミラーの角度が両側同時に後輪の外側付近を映すように作動します。
  左右切り替えスイッチを左右どちらかにすると作動し、中立にあると作動が停止します。
- セレクトレバーを R 以外にするか、左右切り替えスイッチを中立位置にすると元の角度に戻ります。



知識

- パワースイッチをON以外にしてもドアミラーは元の角度に戻ります。
- 使用している鏡面角度によっては、リバース時に鏡面が作動範囲まで動いたあとも動こうとしますが異常ではありません。

パワーウインドー

パワースイッチがONのとき操作できます。

パワーウインドーの開けかた、閉めかた

運転席のスイッチで、各席の窓ガラスの開閉ができます。助手席のスイッチおよび後席のスイッチでは自席の窓ガラスの開閉ができます。

開けるには

- スイッチを軽く押すと、押している間だけ開きます。

閉めるには

- スイッチを軽く引き上げると、引き上げている間だけ閉まります。

自動開閉するには

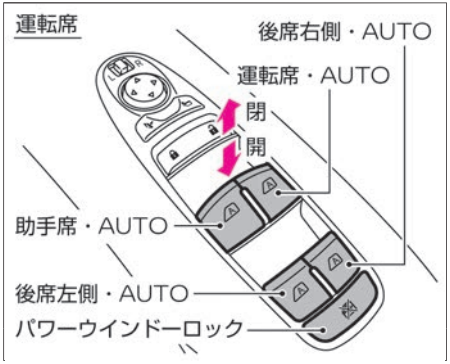
窓ガラスはワンタッチで自動開閉できます。

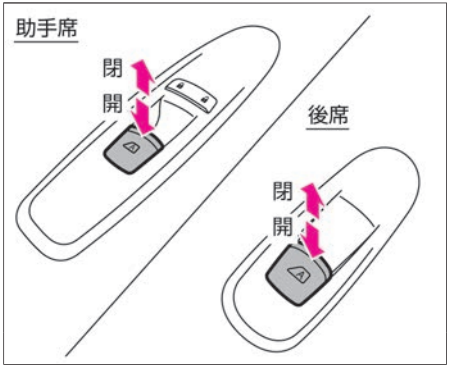
- スイッチを強く押すと全開します。
- スイッチを強く引き上げると全閉します。
- 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引き上げます。

開閉操作をロックするには

お子さまが誤って窓ガラスを開閉することを防止できます。

- パワーウインドーロックスイッチを押し込むと、運転席以外の窓ガラスの開閉ができなくなります。
- スイッチを押し戻すとロックが解除されます。





⚠ 警告

- **乗員の操作を含めすべての窓ガラス開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。**
  - 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
  - 窓ガラスを開閉するときは、窓から手や顔などを出したり、故意に挟み込み防止機構を働かせたりしないでください。手や顔、腕などを窓ガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害につながるおそれがあります。
  - お子さまにはパワーウインドーを操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあるため、パワーウインドーロックスイッチを押し込んでください。
  - 窓ガラスを開閉するときはお子さまに声をかけ、手や腕などが窓ガラス付近にないことを確認してから操作を行ってください。
  - 車から離れるときはパワースイッチをOFFにし、キーとお子さまを

次ページに続く

⚠ 警告

車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

キーOFF後作動機構

- 窓ガラスは、パワースイッチをアクセサリーまたはOFFにしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、前席ドアが開いているとき、または前席ドアを開けると、窓ガラスの開閉はできなくなります。

挟み込み防止機構

- 窓ガラスをワンタッチ開閉で閉めているときやキーOFF後作動機構で閉めているときに、車体と窓ガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し開きます。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると作動することがあります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを上側へ引き続けて閉めてください。

⚠ 注意

- **指などを挟まれないように注意する。**
  窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

正常に作動しないとき

窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないときは、次の操作を行い初期設定してください。

① ハイブリッドシステムを始動します。
② スイッチを押して、窓ガラスを全開にします。
③ スイッチを引き上げ続け、窓ガラスが全閉して3秒以上たってから手を離します。
④ 正常に作動することを確認します。正常に作動しないときは、再度上記の操作を行ってください。
上記の操作で作動できない場合は、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 初期設定を行うときは、ドアを閉めて操作してください。

電動ガラスサンルーフ★

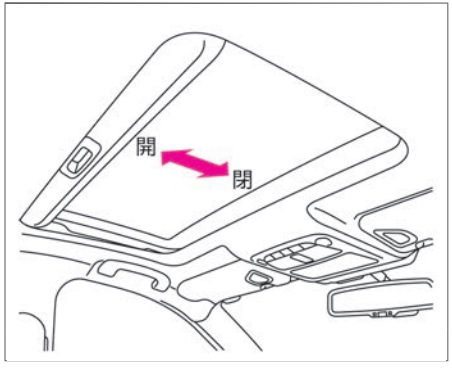
パワースイッチがONのときに操作できます。

サンルーフについて

- サンルーフには、下記の機能があります。
  - サンルーフの前後開閉（P.147）
  - サンシェードの開閉（P.144）
  - サンルーフのチルトアップ（P.146）

サンシェードの開けかた、閉めかた

- 手動で開閉します。
- サンルーフを開けると連動して開きます。
- サンルーフを開けているときは、開けているところまで閉めることができます。



⚠ 警告

- **乗員の操作を含めサンルーフ開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。**
  - 走行中は手や顔、物などを車外に出さないでください。走行時に車外のものに当たる、また急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります
  - サンルーフを開閉するときは、手や首などを挟まないよう注意してください。また、お子さまには操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあります。
  - 車から離れるときはパワースイッチをOFFにし、キーとお子さまを車内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

電動ガラスサンルーフ★

アドバイス

- 開口部に腰を掛ける、または荷物を載せるなど、大きな力をかけないでください。ルーフが変形するおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車するときは、盗難や故障などを防ぐためサンルーフを必ず閉めてください。

次ページに続く

サンルーフのチルトアップのしかた

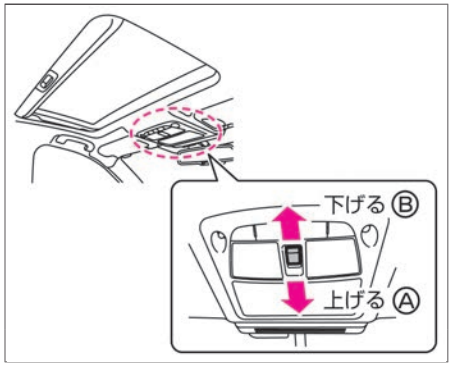
サンルーフが閉まっているときに操作できます。

チルトアップするには

- スイッチをⒶ側に押すと、後部が上がります。

閉めるには

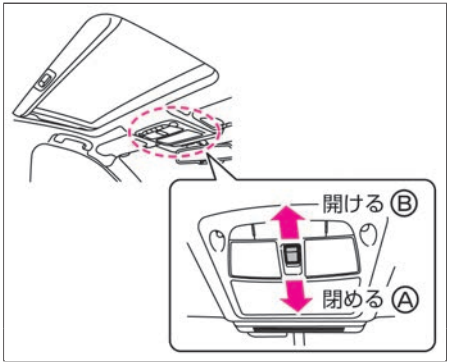
- スイッチをⒷ側に押すと、後部が下がります。



知識

- チルトアップしたまま、サンルーフの前後開閉はできません。

サンルーフの開けかた、閉めかた



開けるには

- スイッチをⒷ側に押すと、自動で全開します。

閉めるには

- スイッチをⒶ側に押すと、自動で全閉します。
- 途中で止めたいときは、再度スイッチを押します。

次ページに続く

挟み込み防止機構

自動でサンルーフを閉めるときに、車体とサンルーフの間に異物の挟み込みを感知すると、サンルーフが停止し、自動で開き始めます。

⚠ 注意

- **指などを挟まれないように注意する。**
  サンルーフを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

アドバイス

- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、サンルーフを自動で閉めることができないときは、サンルーフスイッチを閉方向に繰り返し押して閉めてください。

知識

- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重がサンルーフに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

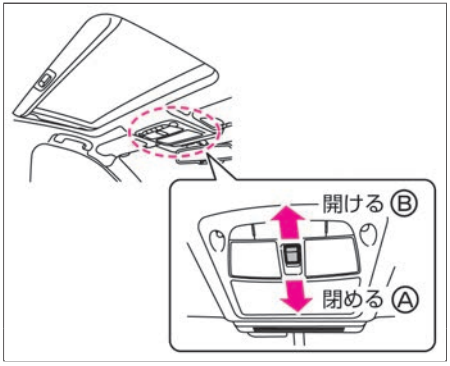
正常に作動しないとき

サンルーフが正常に作動しないときは、以下の操作を行い初期設定し直してください。

① サンルーフをチルトアップ状態にします。
サンルーフが動かなくなるまでスイッチをⒶ側に繰り返し押し、チルトアップ状態にします。

② スイッチをⒶ側に押し続けます。
サンルーフが上下に少し動くまでスイッチを押し続けます。

③ スイッチをⒷ側に押し、全閉状態にしてから正常に作動するか確認します。



アドバイス

- 手順①から③の操作で作動できない場合は、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

サンルーフの注意事項

⚠ 警告

- **走行中は顔や腕、物などを車外に出さない。**
  走行中に車外の物に当たる、または急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- **サンルーフを開閉するときは、手や首などを挟まないよう注意する。また、お子さまには操作させない。**
  重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **運転中はサンルーフの開閉操作を行わない。**
  前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。操作は信号待ちなどの停車中に行ってください。
- **ルーフに水や雪などがあるときは開けない。**
  突然の水や雪に驚き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

燃料補給口

燃料補給口は運転席側の車両後方にあります。

燃料の補給

燃料タンクの容量は、約70 ℓ です。

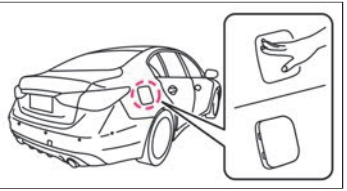
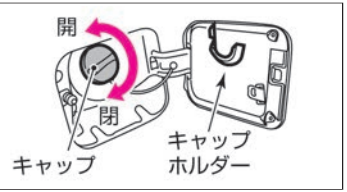
エンジン型式	指定燃料
VQ35HR	無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン

アドバイス

- 指定以外の燃料は補給しないでください。
- 無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合、無鉛レギュラーガソリンも使用できますが、エンジン出力低下などの現象が発生します。

次ページに続く

開けかた、閉めかた

1	運転席、または助手席のドアロックスイッチを押して解錠します。 燃料補給口のリッドロックは、ドアロックスイッチの施錠･解錠に連動しています。	
2	リッドを開けます。 リッドの車両後方上側を押すとリッドが少し開きます。開いたすき間に手を入れて全開します。	
3	キャップを左にゆっくり回して開けます。 補給時、キャップはリッドのキャップホルダーに置きます。	
4	閉めるときは、キャップを“カチッ、カチッ”と、2回以上音がするまで右に回して閉めます。	

⚠ 警告

- **キャップは確実に閉める。**
  閉まっていないと走行中に燃料が漏れ、火災につながるおそれがあります。
- **日産純正品以外のキャップは使用しない。**

5	リッドを閉めます。

次ページに続く

燃料補給時の注意事項

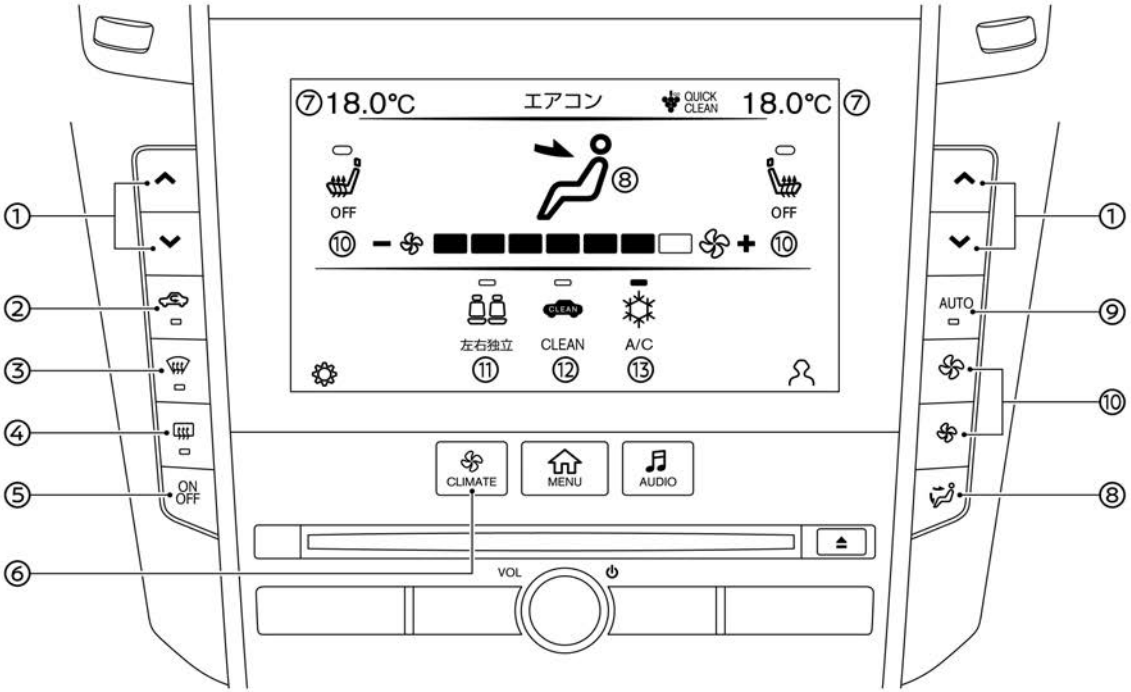
⚠ 警告

- **燃料補給時は、次のことを必ず守る。**
  - パワースイッチをOFFにする
  - 車のドアや窓を閉める
  - タバコなどの火気を近づけない
  - 気化した燃料を吸わない
- **補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去する。**
  放電による火花でやけどをしたり、燃料に引火したりするおそれがあります。
- **補給作業はひとりで行う。**
  作業中に車室内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。
- **キャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外す。**
  急に開けると、燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- **給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。**
  給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。
- **給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしない。**
  継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。
- **ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る。**

オートエアコン★／インテリジェントエアコンシステム★

吹き出し温度、吹き出し口、風量を自動で制御し、設定した温度に保ちます。
また、内気循環／外気導入を自動制御モードに設定することで自動制御に切り替えます。

各スイッチの名称と機能



次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

オートエアコン★／インテリジェントエアコンシステム★

① ＜ / ＞
スイッチを押して希望の温度に調節します。左右独立モードがOFFのときは、運転席側で温度を調節すると助手席側も同時に温度調節します。

②
スイッチを押すごとに内気循環／外気導入が切り替わります。

③ (デフロスタースイッチ)
フロントガラスのくもりを取るときに使います。

④ (リヤウインドーデフォッガースイッチ)
リヤの窓ガラスのくもりを取るときに使います。

⑤ ON/OFF
スイッチを押すごとに、エアコンのON／OFFが切り替わります。

⑥ CLIMATE
スイッチを押すとエアコン画面を表示します。

⑦ **設定温度表示**
運転席、助手席それぞれの設定温度を表示します。

⑧ /
スイッチを押すか、画面を直接タッチするごとに吹き出し口が切り替わります。

⑨ AUTO
自動制御に切り替えます。吹き出し温度、吹き出し口、風量の切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。

⑩ / 、 /
を押すか、画面を直接タッチするごとに、風量が切り替わります。
風量表示バーの□■をタッチすると、直接お好みの風量に調節できます。

⑪ 左右独立
タッチするごとに左右独立モードのON／OFFが切り替わります。
ONにすると、ディスプレイに左右独立と表示します。

⑫ CLEAN ★
車外の排気ガスやにおいに応じて、吸い込み口を自動制御させるときに使います。

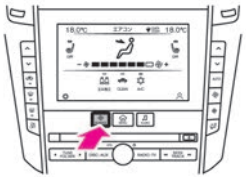
⑬ A/C
タッチするごとに冷房･除湿機能のON／OFFが切り替わります。

知識

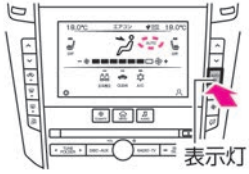
- 内気循環のときに スイッチの表示灯が点灯します。
- デフロスタースイッチの表示灯が点灯しているときは、左右独立モードに切り替えることができません。
- デフロスタースイッチの表示灯が点灯しているときは、CLEAN をONにすることができません。
- 助手席側の温度調節を行っても、左右独立モードに切り替わります。
- 各吹き出し口の使用目的
  - ：上半身に送風
  - ：上半身と足元に送風
  - ：主に足元に送風
  - ：窓のくもり取りと足元に送風

オートエアコンの使いかた

1 CLIMATE を押します。
（エアコン操作画面が表示）

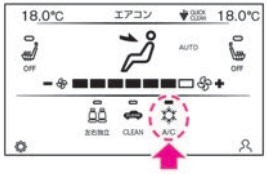


2 AUTO を押します。
（スイッチの表示灯が点灯、ディスプレイのAUTOが表示）



3 ∧ / ∨ を押して、設定温度を調節します。
∧：設定温度を上げる
∨：設定温度を下げる

4 A/C の表示灯が消灯しているときは、A/C をタッチして点灯させます。
点灯時：冷房除湿機能ON
消灯時：冷房除湿機能OFF



知識

- オートで使用すると、風量、吹き出し口を自動で制御して室内温度を一定に保ちます。
- オートで使用中に風量の調整または、吹き出し口の切り替えを行うとAUTOスイッチの表示灯は消灯しますが、操作した機能以外については引き続き自動制御されます。
  また、内気循環／外気導入が自動制御モード中に、以下の手順を行うとマニュアルモードに切り替わります。
  - オートエアコン付車
    を押す。（表示灯が点灯の場合は内気循環、消灯の場合は外気導入の状態になります。）
  - インテリジェントエアコン付車
    ディスプレイのCLEAN をタッチすると表示灯が消灯します。
- 吹き出し口の調節は、吹き出し口（P.162）をお読みください。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

5

以下の手順を行うことにより、内気循環/外気導入を自動制御モードに切り替えます。

Ⓐオートエアコン付車

を約2秒間押し続けると、表示灯が2回点灯します。

Ⓑインテリジェントエアコン付車

ディスプレイの CLEAN をタッチすると表示灯が点灯します。

を押すごとに、内気循環/外気導入を切り替えます。

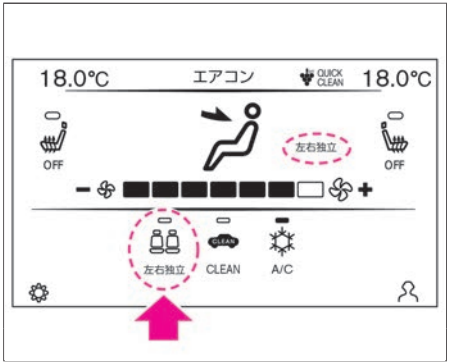
知識

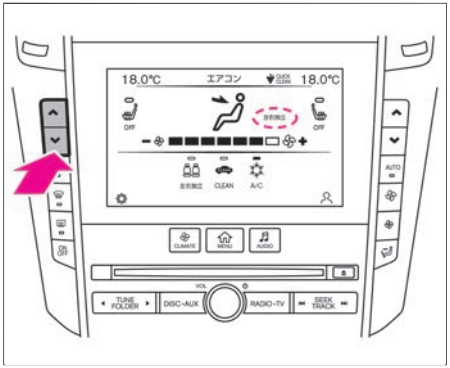
- パワースイッチをOFFにし、再度パワースイッチをONにすると、エアコンの条件によっては、内気循環／外気導入が自動制御モードになる場合があります。

左右独立モードの使いかた

運転席と助手席の温度を別々に調節するときに使います。

- 左右独立 をタッチする、または助手席側の ∧ / ∨ で希望の設定温度に調節すると左右独立モードになります。
（表示灯が点灯し、ディスプレイの左右独立が表示）
- 解除するときは、左右独立 をタッチします。
（表示灯が消灯し、ディスプレイの左右独立が消灯）





知識

- （デフロスタースイッチ）の表示灯が点灯しているときは、左右独立モードに切り替えることができません。

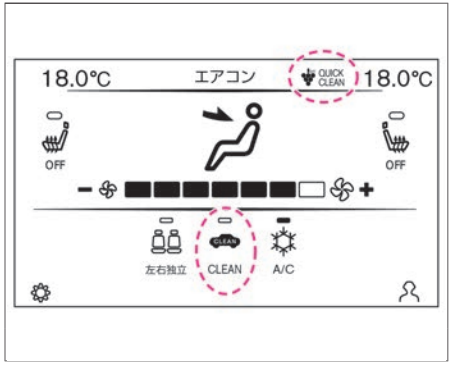
次ページに続く

インテリジェントエアコンシステムの使いかた

- インテリジェントエアコンシステムには次の機能があります。

プラズマクラスターイオンフルオートエアコン（除菌機能付）

- 濃度を高めたプラズマクラスターイオンをエアコンの吹き出し風に含ませ、除菌とともに内装に染みついたにおいを低減します。さらに肌の保湿効果をプラスします。
  風量により、CLEANモードとQUICK CLEANモードが切り替わります。



知識

- プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよびPlasmaclusterはシャープ株式会社の商標です。

においセンサー・排出ガス検知式内外気自動切換え機
構

- 排気ガスや不快なにおい（家畜臭、工場の排気臭など）を車両前部のセンサーで検知し、吸い込み口を切り替えるシステムです。
- CLEAN をタッチすると作動します。（表示灯が点灯）
- 作動後約5分間は、吸い込み口が内気循環に固定され、花粉などの侵入を防ぎながら車室内を素早く除菌します。
- 5分以降は、ガスセンサーの働きにより、内気循環⇔外気導入を自動で切り替えます。

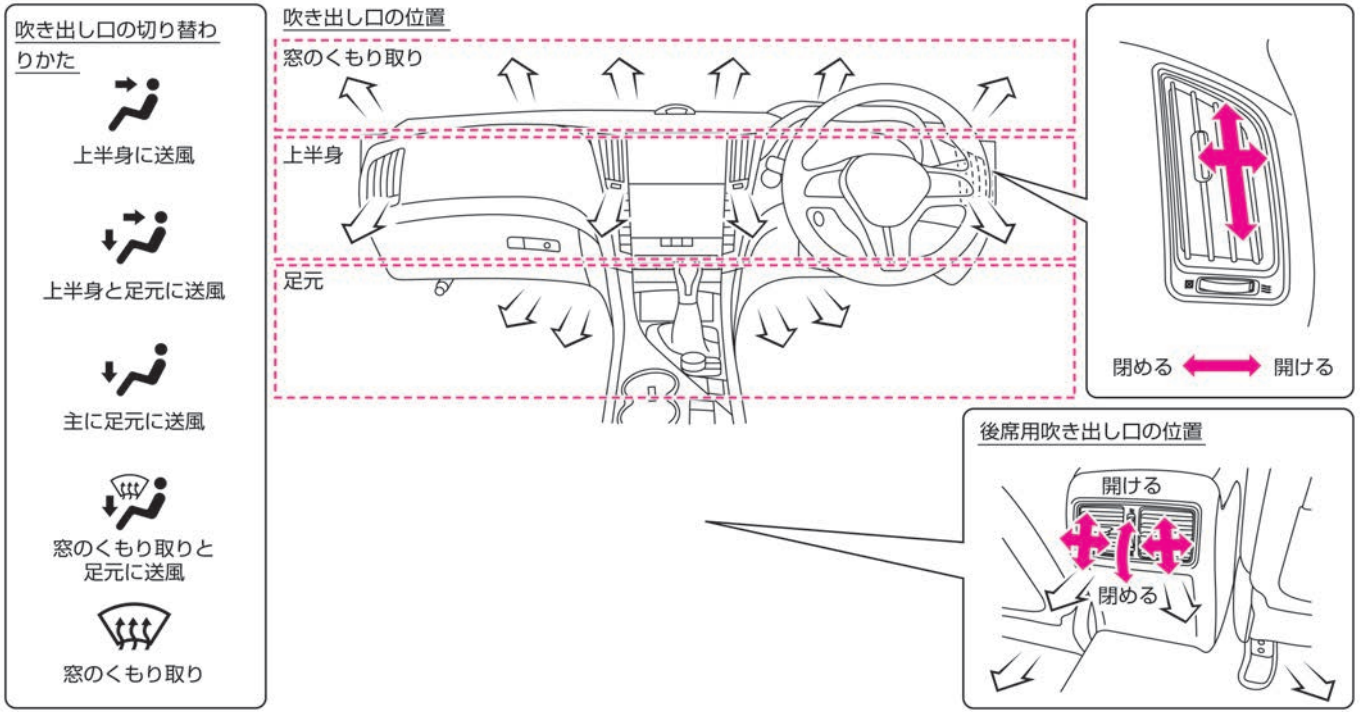
高性能フィルター

- 通常のクリーンフィルター （脱臭機能付）★の機能に加えアレル物質（花粉およびダニの糞・死がいなど）を除去します。
- 高性能フィルターは定期的なメンテナンスや交換が必要です。メンテナンスや交換については（➔P.165）をお読みください。

知識

- 次のような場合は CLEAN スイッチを押しても作動しません。
  - — （デフロスタースイッチ）の表示灯が点灯しているとき
  - — 外気温が約0°C以下のとき
- 風向きによっては排気ガスやにおいを検知できない場合がありますが異常ではありません。

吹き出し口


吹き出し口の切り替わりかた
上半身に送風
上半身と足元に送風
主に足元に送風
窓のくもり取りと足元に送風
窓のくもり取り
吹き出し口の位置
窓のくもり取り
上半身
足元
閉める
開ける
後席用吹き出し口の位置
開ける
閉める

エアコンに関する注意事項

⚠ 警告

- **内気循環で長時間使用しない。**
  窓ガラスがくもりやすくなり、視界が損なわれ危険ですので、一時的にご使用ください。

⚠ 注意

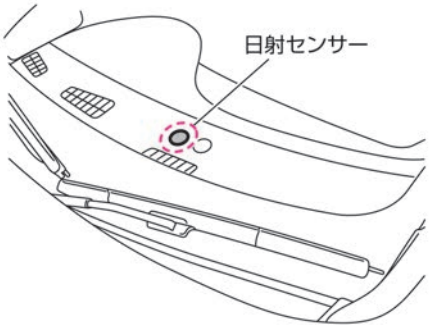
- **吹き出し風を長時間連続して身体にあてない。**
  特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間あたらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- **デフロスタースイッチをONにしているときに、エアコンの設定温度を低くしない。**
  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

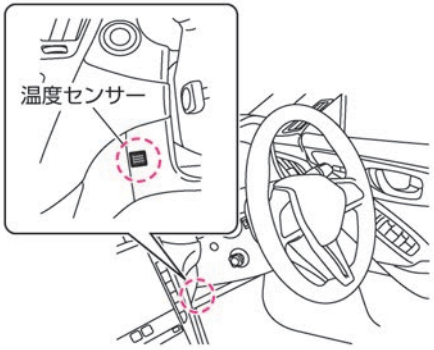
アドバイス

- 自動温度調節は、日射センサーと温度センサーで行っています。センサーをふさいだり、クリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

次ページに続く

アドバイス





エアコンを使うときに注意すること

アドバイス

- ほこり、花粉、粉じんなどを集じんするためのクリーンフィルター（脱臭機能付）★を装着しています。集じん性能を維持するため、クリーンフィルター（脱臭機能付）★は定期的に交換してください。
  交換時期：1年ごとまたは12,000km走行ごと
- クリーンフィルター（脱臭機能付）★が交換時期に満たない場合でも、吹き出し風量が極端に減少したり、窓ガラスがくもりやすくなった場合は交換してください。なお、取り付け、交換などについては、日産販売会社にご相談ください。
- 外気導入に固定していると、夏場など外気温が高いときは、冷房の効きが悪くなる場合があります。その場合は、一時的に内気循環にしてください。
- エアコン装置のオイル循環を切らさないために、ときどき A/C をONにしてください。なお、外気温が0°C近くまで下がるとエアコン装置が作動しないことがあるため、暖かい日に行ってください。
- エアコンガスは必ずHFC134a（R134a）を入れてください。
- 地球温暖化防止のためエアコンガスを大気放出しないでください。

知識

- 冷房時、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので、異常ではありません。
- 外気温が0°C近くまで下がると、A/C の表示灯が点灯していてもエアコンが作動しないことがあります。
- 始動直後で吹き出し風の温度が低いときは、足元への吹き出し風量が少なくなります。

エアコンのにおいについて

次ページに続く

エアコンを使うときに注意すること

知識
● エアコン装置は、空気中のいろいろなにおいが混ざり合うため、吹き出し風からにおいを感じることがあります。 ● エアコン作動時のにおいを抑えるため、駐車時などは外気導入にしておくことをおすすめします。

ナビゲーションシステムで各機能の設定をすることができます。
本書に記載されていない項目については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

運転支援設定

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、運転支援の各機能の設定をすることができます。
MENU ⇒ 運転支援
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

項目1	項目2	機能
VDC	VDC	● VDC機能のON･OFFを設定します。 ➔ VDC（ビークルダイナミクスコントロール） (P.235)
側方支援	車線逸脱警報	● LDW（車線逸脱警報）のON･OFFを設定します。 ➔ LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） (P.385)
	車線逸脱防止支援	● インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）のON･OFFを設定します。 ➔ LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） (P.385)
インテリジェントクルーズコントロール	ルート減速支援	● プロパイロット2.0の車速･車間制御機能の、カーブ減速機能のON･OFFを設定します。 ➔ カーブを走行するとき (P.266) ● ルート減速支援機能をOFFにしても、下記の設定がONの場合はカーブでの減速が作動します。 MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 車線中央維持支援 ⇒ ハンドル支援
	制限速度支援	● 標識検知機能で検出した速度をプロパイロット2.0の設定車速に反映させる機能のON･OFFを設定します。 ➔ 標識検知機能により新しい速度標識を検出したとき (P.267)
	制限速度支援設定	● 標識検知機能で検出した速度を、プロパイロット2.0の設定車速に反映させるときのオフセット速度（-10/-5/0/+5/+10 km/h）を選択します。 ➔ 標識検知機能により新しい速度標識を検出したとき (P.267)

次ページに続く

項目1	項目2	機能
車線変更支援	ルート走行支援	● ルート走行支援機能のON･OFFを設定します。 ➔ ルート走行支援機能について (P.303)
	方向指示器スイッチ連動	● 車線変更支援機能の方向指示器との連動のON･OFFを設定します。 ➔ 車線変更支援機能について (P.291)
	追い越し支援	● 追い越し支援機能のON･OFFを設定します。 ➔ 追い越し支援機能について (P.296)
前方支援	インテリジェントペダル	● インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）のON･OFFを設定します。 ➔ インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム） (P.413)
	カーブ減速支援	● ナビ協調（インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム））のON･OFFを設定します。 ➔ ナビ協調機能（インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム））について (P.426)
	ドライバーモニター	● ドライバーモニターシステムのON･OFFを設定します。 ➔ ドライバーモニターシステムについて (P.440)
後側方支援	後側方車両検知警報	● BSW（後側方車両検知警報）のON･OFFを設定します。 ➔ BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） (P.368)
	後側方衝突防止支援	● インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）のON･OFFを設定します。 ➔ BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の使いかた (P.377)
	インジケータ輝度	● インジケーターの明るさを、明るい、標準、暗いから選択します。 ➔ BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の使いかた (P.377)

項目1	項目2	機能
車線中央維持支援	ハンドル支援	● 車線維持機能のON･OFFを設定します。 ➔ 車線維持機能について (P.277)
ドライビングスタイル	追い越し支援判断	● 追い越し支援の判断を、スポーツ/標準/コンフォートから選択します。 ➔ 追い越し支援機能について (P.296)
	ルート走行支援モード	● ルート走行支援機能の連続/単一/OFFの選択をします。 連続：複数車線を連続した車線変更の提案、支援をします。 単一：1車線毎に車線変更の提案、支援をします。 OFF：ルート走行支援機能をOFFにします。 ➔ ルート走行支援機能について (P.303)
標識検知支援	制限速度標識表示	● 速度標識表示機能のON･OFFを設定します。 ● 速度標識表示機能の設定をOFFにしても、プロパイロット2.0が作動しているときはヘッドアップディスプレイに検出した速度標識を表示します。 ➔ 速度標識検知の停止のしかた (P.435)
	進入禁止標識表示	● 進入禁止標識表示機能のON･OFFを設定します。 ➔ 進入禁止標識の停止のしかた (P.435)
緊急支援	エマージェンシーブレーキ	● インテリジェント エマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシスト、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）のON･OFFを設定します。 ➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.335) ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.346) ➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.407)
運転支援サウンド設定	警報音量設定	● 運転支援の警報音の音量を選択します。（3段階）

次ページに続く

☆/★：車両型式、オプションなどで異なる装備

項目1	項目2	機能
		プロパイロット2.0 (P.249) インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.335) 踏み間違い衝突防止アシスト (P.346) BSW（後側方車両検知警報）について (P.369) インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）について (P.370) LDW（車線逸脱警報）について (P.386) インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）について (P.387) インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）について (P.396) インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.407) インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム） (P.413) 標識検知機能 (P.432)

ドライブモードセレクター

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ドライブモードセレクター（P.206）でPERSONALを選択したときの運転特性の設定をすることができます。

MENU ⇒ ドライブモードセレクター

ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

項目1	機能
エンジン･トランスミッション	● スポーツ、エコ、標準、スノーの中から選択します。
ステアリング	● ステアリングのモードは、次の項目から選択します。 – スポーツ – 標準 ● ステアリングの操舵応答は、次の項目から選択します。 – 速い – やや速い – 標準
インテリジェントトレースコントロール	● インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）の作動、非作動を切り替えます。 インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム） (P.239)
設定を初期状態に戻す	● PERSONALモードの設定を初期化します。

次ページに続く

車両

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、各機能の設定をすることができます。
MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

項目1	項目2	機能
車両	ドアロック解除時自動ルームランプ点灯	● キー連動室内照明システムのON･OFFを設定します。 ➔ マップランプの使いかた (P.446) ➔ リヤパーソナルランプの使いかた (P.448)
	オートライト感度調整	● インテリジェント オートライト（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）を点灯させるセンサーの感度を、低、中、高、最高から選択します。 ➔ AUTO（自動点灯･消灯）の使いかた (P.214)
	レインセンサー	● 雨滴感知機能のON･OFFを設定します。 ➔ 雨滴感知式ワイパーの使いかた (P.224)
	バッテリーセーバーモード	● パワースイッチがアクセサリーまたはONのとき、ハイブリッドシステムが停止した状態で一定時間経過するとパワースイッチがOFFになる機能のON･OFFを設定します。 自動電源OFF表示（➔P.513）
	リクエストスイッチ ロック･アンロック	● ドアハンドルのスイッチでの施錠･解錠機能のON･OFFを設定します。 ➔ インテリジェントキー機能による施錠･解錠のしかた (P.115)
	タッチドアセンサー	● ドアハンドル裏側のタッチセンサーでドアを解錠させる機能のON･OFFを設定します。 ➔ インテリジェントキー機能による施錠･解錠のしかた (P.115)
	車線変更（3回点滅）	● コンフォートフラッシャー機能のON･OFFを設定します。 ➔ 方向指示器の使いかた (P.220)

項目1	項目2	機能
	ワイプドリップ	● ドリップ拭き取りのON･OFFを設定します。 ➔ ウォッシャーの使いかた (P.226)
	デイライト	● デイライトのON･OFFを設定します。 ➔ ライトスイッチの使いかた (P.211)
	アンサーバックエクステリアライト	● アンサーバックエクステリアライト機能のON･OFFを設定します。 ➔ キー（インテリジェントキー）の機能について (P.109)
	降車時ステアリング跳ね上げ★	● ハンドルの退避･復帰機能のON･OFFを設定します。 ➔ パーソナルドライビングポジションメモリーシステム★の設定のしかた (P.129)
	降車時シート退避★	● シートの退避･復帰機能のON･OFFを設定します。 ➔ パーソナルドライビングポジションメモリーシステム★の設定のしかた (P.129)
	車両設定の初期化	● 車両の設定を初期化します。

Drive Mode拡張機能

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、各機能の設定をすることができます。
MENU ⇒ 設定 ⇒ Drive Mode拡張機能
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

項目1	項目2	機能
Drive Mode拡張機能	ECOペダル	● ECOペダルの運転操作アシストをOFF、弱、標準から選択します。 ➔ ECOペダル反力調整機能について (P.209)

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ヘッドアップディスプレイ

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、各機能の設定をすることができます。
MENU ⇒ 設定 ⇒ ヘッドアップディスプレイ
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

項目1	項目2	機能
ヘッドアップディスプレイ		● ヘッドアップディスプレイの表示の高さと明るさを設定します。 ➔ ヘッドアップディスプレイの調整のしかた (P.104)
	初期化	● ヘッドアップディスプレイの設定を初期設定に戻します。 ➔ ヘッドアップディスプレイの調整のしかた (P.104)
	表示項目	● ヘッドアップディスプレイは、次の表示項目のON･OFF設定ができます。 – 走行支援（➔P.99） – 標識認識（➔P.96） – ナビゲーション（➔P.97）

始動する

パワースイッチ P.177

運転する

セレクトレバー P.183
電動パーキングブレーキ P.191
オートブレーキホールド P.196
発進 P.201
停車・駐車 P.204
ドライブモードセレクター P.206
ECOペダル P.208

ランプをつける、ワイパーを使う

ライトスイッチ P.211
フォグランプスイッチ P.222
ワイパー・ウォッシャースイッチ P.223

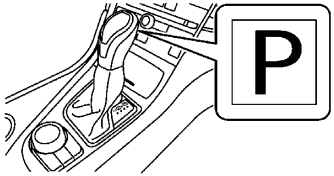
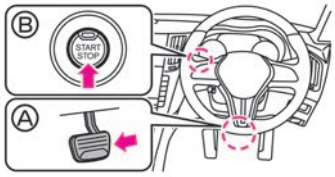
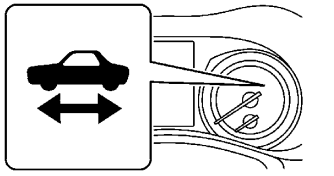
運転支援機能

4WD（4輪駆動）車の扱いかた★ P.229
アテーサE-TS★ P.231
回生協調ブレーキ P.232
エマージェンシーストップシグナル P.233
ABS（アンチロックブレーキシステム） P.234
VDC（ビークルダイナミクスコントロール） P.235
インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム） P.239
ヒルスタートアシスト P.241
ダイレクトアダプティブステアリング P.243
車両接近通報装置 P.246
走行支援システム P.247
プロパイロット2.0 P.249
インテリジェント エマージェンシーブレーキ P.335
踏み間違い衝突防止アシスト P.346
BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） P.368
LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） P.385
インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム） P.395
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） P.407
インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム） P.413
ナビ協調機能（インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）） P.426
標識検知機能 P.432

（次のページに続く）

ドライバーモニターシステム P.440

ハイブリッドシステムの始動のしかた

1	アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（➔P.20）がとれるようにハンドル、シート、ミラー位置を調節します。	
2	パーキングブレーキがかかっていることと、セレクトレバーがPに入っていることを確認します。	
3	ブレーキペダルⒶをしっかりと踏み込みながら、パワースイッチⒷを1度押します。	
4	メーター内の走行可能表示灯が点灯し、ハイブリッドシステムが始動します。	

⚠ 警告

- **ハイブリッドシステムを始動する前にペダルの位置を確認する。**
  ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。
- **換気の悪い場所では、暖機運転をしたりエンジンをかけたままにしたりしない。**
  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ハイブリッドシステムを始動するときは、必ず運転席に座る。**
  運転席以外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **セレクトレバーの操作は必ず走行可能表示灯が点灯したことを確認してから行う。**
  走行可能表示灯が点灯する前にセレク

次ページに続く

⚠ 警告

トレバーを操作すると、ハイブリッドシステム始動が中止され、思わぬ事故につながるおそれがあります。

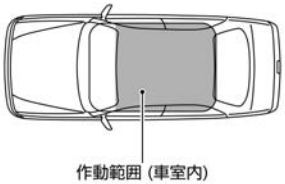
知識

- ハイブリッドシステム始動前のブレーキ操作などにより、ブレーキペダルが硬くなっている場合があります。この場合、ブレーキペダルを軽く踏んだ状態ではペダル踏み込み操作が検知されず、ハイブリッドシステムが始動しません。ブレーキペダルを通常よりも強く踏み込んでください。

エンジンがかかりにくいときは

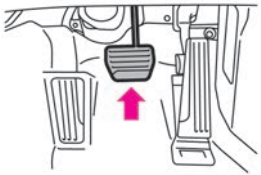
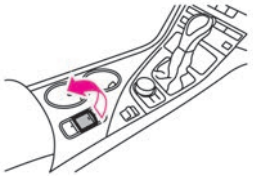
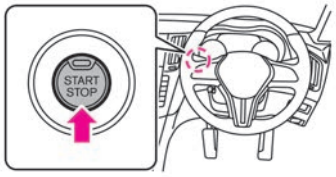
- ブレーキペダルを踏みながら、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでパワースイッチを一度押してください。
  ブレーキペダル、アクセルペダルは離さず、約5秒後にもう一度パワースイッチを押してください。その後、再度手順3の操作をしてください。
- キーが作動範囲（車室内）にあるときに、ハイブリッドシステムを始動することができます。（トランクルーム内は除きます。）

知識



- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、“カチッ”と音が聞こえることがありますが異常ではありません。

ハイブリッドシステムの停止のしかた

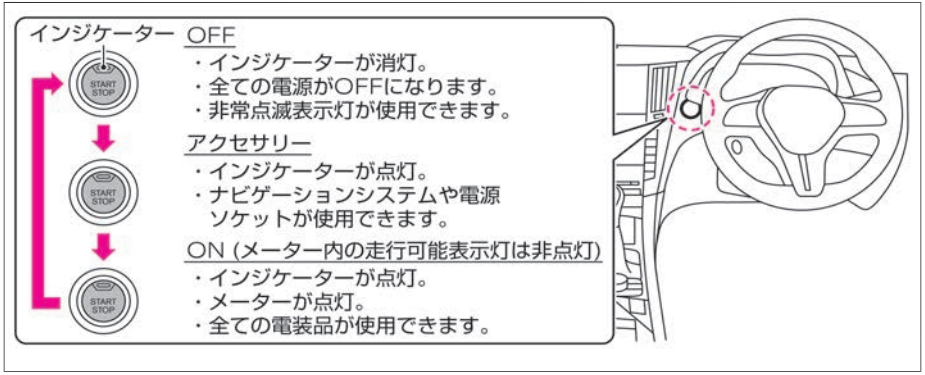
1	ブレーキペダルを踏んで、車両を完全に停車させます。	
2	ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。 ➔ 電動パーキングブレーキ (P.191)	
3	セレクトレバーを P に入れます。 ➔ セレクトレバーの操作 (P.183)	
4	パワースイッチを1度押します。 メーター内の走行可能表示灯が消灯し、ハイブリッドシステムが停止します。	

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

パワースイッチでのモードの切り替えかた

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、次のようにモードが切り替わります。



アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、電装品（ナビゲーションシステムや電源ソケットなど）はハイブリッドシステムを始動した状態でご使用ください。ハイブリッドシステムを始動しないときは、電装品を長時間使用することや同時に複数使用することは避けてください。
- 次の条件がそろうとパワースイッチがOFFになります。
  - パワースイッチがアクセサリーのとき（パワースイッチがONでメーター内の走行可能表示灯が消灯の場合は、約10分経過するとOFFになります。）
  - 全ドアが閉まっているとき
  - セレクトレバーがPのとき

知識

- ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動してメーター内の走行可能表示灯が点灯します。
  ➔ハイブリッドシステムの始動のしかた (P.177)
- パワースイッチがOFFの場合、ハン

知識
ドルロック（ステアリングロック）がかかっていないときは、いずれかのドアを開けるか、または閉めるとハンドルロック（ステアリングロック）が作動します。 ハンドルがロックし、ハイブリッドシステムの始動ができないときは (P.483)

次ページに続く

ハイブリッドシステムの非常停止のしかた

緊急時など、走行中に強制的にハイブリッドシステムを停止させるときは、次のいずれかの操作を行ってください。

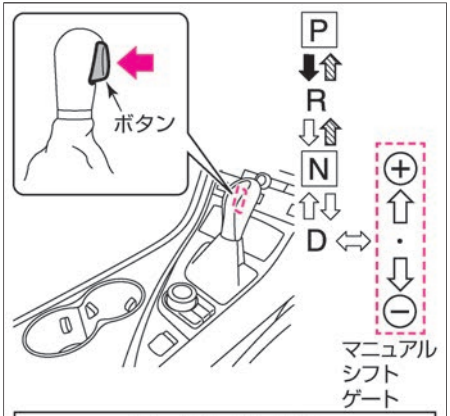
- パワースイッチを素早く3回押す。
- パワースイッチを2秒以上押し続ける。

⚠ 警告

- **非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。**
  非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

セレクトレバーの操作

- セレクトレバー位置は目で確認し、メーター内のポジションインジケーターも合わせて確認してください。
➔ ポジションインジケーター (P.72)
- パワースイッチがONのとき、すべてのセレクトレバー位置に操作することができます。



セレクトレバー操作	
➡	ブレーキペダルを踏んだままボタンを押して操作します。
⇨	ボタンを押さずにそのまま操作します。
⇨	ボタンを押して操作します。

⚠ 警告

- **次のような操作は、絶対に行わない。**
トランスミッションを破損し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 車が完全に停止する前にPに入れる
  - 車を前進させているときにRに入れる
  - 車を後退させているときにD、マニュアルシフトゲートに入れる
- **セレクトレバーの操作は必ず走行可能表示灯が点灯したことを確認してから行う。**
走行可能表示灯が点灯する前にセレクトレバーを操作すると、ハイブリッドシステム始動が中止され、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ⇨の操作は、ボタンを押さないで操作する習慣をつけてください。ボタンを押して操作すると、意に反してP、Rに入れてしまうおそれがあります。

次ページに続く

アドバイス

- Pから操作するとき、ボタンを押したままブレーキペダルを踏むと、セレクトレバーを動かせないことがあります。ボタンは、ブレーキペダルを踏んでから押してください。

知識

- セレクトレバーをRに入れるとブザーが鳴ります。
- 万一12VバッテリーあがりなどでセレクトレバーをPから動かせないときは、➔ セレクトレバーが動かないときは (P.537)をお読みください。

各セレクトレバー位置の働き

セレクトレバー位置	働き
P	**駐車およびハイブリッドシステムを始動する** パワースイッチをOFFにすることができます。 （P以外ではパワースイッチをOFFにできません。）
R	**後退する** 車室内でブザーが鳴り運転者に知らせます。 （車外の人に注意するものではありません）
N	**動力が伝わらない状態** （Nでもハイブリッドシステムの始動ができますが、安全のためPで始動してください。）
D	**通常走行する** 速度に応じて1速～ 7速に自動変速します。また走行状況によってアダプティブシフトコントロール（➔P.186）が働き、より適切に変速します。
マニュアルモード	**マニュアルモード走行する** 走行中に手動でシフトポジションを切り替えることができます。

次ページに続く

アダプティブシフトコントロールについて

急な上り下りや、カーブが連続するような道路状況でも快適で安全な走りを実現できるよう適切なギヤチェンジを行います。

上り坂やカーブでの制御

変速回数の少ないなめらかな走行ができるように、坂の勾配やカーブに応じて低速ギヤを保持します。

下り坂での制御

エンジンブレーキを併用させることで、フットブレーキを使う回数を低減させるように坂の勾配に応じて低速ギヤに切り替えます。

スポーティな走行での制御

アクセルペダルを踏み込んだときにもたつきのないスムーズな加速が得られるように、加減速を繰り返すような連続するカーブでは低速ギヤを保持します。

アドバイス

- トランスミッションが、走行開始直後で暖まっていないときや、低速で高負荷な走行を繰り返し過熱しているときは制御が作動しない場合があります。その場合は必要に応じてマニュアルシフトゲートに入れ、シフトダウンしてください。

マニュアルモードの使いかた

セレクトレバーまたはパドルシフト★を操作すると、マニュアルモードになります。
（ポジションインジケーターに、シフトポジションを表示します。）

知識

- 安全や走行性能を確保するために、セレクトレバーまたはパドルシフト★を操作しても希望するギヤに変速しなかったり、シフトポジションが切り替わる場合があります。
- セレクトレバーまたはパドルシフトを操作しても希望するギヤに変速しない場合は、ポジションインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。
- 車両が停止すると、1速へシフトダウンします。

■ 各シフトポジション位置の働き

シフトポジション位置	働き
1	1速に固定されます。より強いエンジンブレーキが必要なときに使います。
2	2速に固定されます。強いエンジンブレーキが必要なときに使います。
3	3速に固定されます。エンジンブレーキが必要なときに使います。
4	4速に固定されます。下り坂で軽いエンジンブレーキをかけたいときなどに使います。
5	5速に固定されます。上り坂でなめらかな走行をしたいときなどに使います。
6	6速に固定されます。
7	7速に固定されます。

次ページに続く

■ 各シフトポジション位置の限界速度

シフトポジションを切り替えるときは、エンジンを回転させすぎないために、下表の速度を超えないようにしてください。

エンジン型式	シフトポジション位置					
	1	2	3	4	5	6
VQ35HR	65km/h	100km/h	160km/h	180km/h	180km/h	180km/h

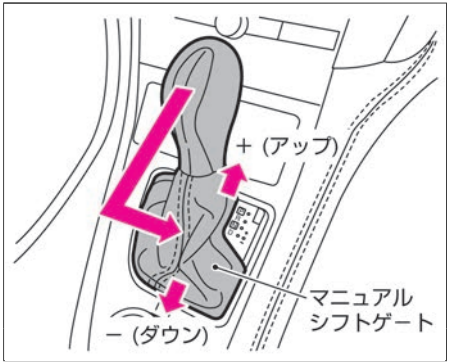
アドバイス

- 限界速度を超えると、エンジンが破損するおそれがあります。

■ 切り替えかた

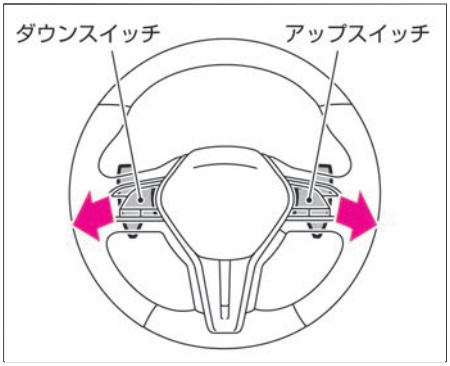
セレクトレバーで操作するとき

- セレクトレバーをマニュアルシフトゲートに入れ、前後に操作します。
  - – シフトポジションアップ:
    セレクトレバーを+（アップ）側に動かします。
  - – シフトポジションダウン:
    セレクトレバーを-（ダウン）側に動かします。



パドルシフト★で操作するとき

- パドルシフトを手前に引いて操作します。
  - – シフトポジションアップ
    右側のパドルシフトを引きます。
  - – シフトポジションダウン
    左側のパドルシフトを引きます。



知識

- 次のときにパドルシフトで切り替えられます。
  - – セレクトレバーがDで走行中（21km/h以上）のとき

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 解除のしかた

- セレクトレバーをマニュアルシフトゲートからメインゲートに戻します。
- パドルシフト付車

  セレクトレバーがDでパドルシフトで切り替えているときは、パドルシフトを約2秒間手前に引きます。

知識

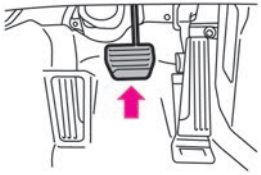
パドルシフト付車

- パドルシフトでマニュアルモードにしたあとに、セレクトレバーで解除したいときは、メインゲートからマニュアルシフトゲートに入れ、再度メインゲートに戻します。
- 次のとき、マニュアルモードが解除され、通常のDに戻ります。
  - セレクトレバーがDのとき、パドルシフトでマニュアルモードにして所定の距離を定速走行したとき
  - 車両が約12km/h以下になったとき

電動パーキングブレーキ

停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキをかけると、後輪が固定されます。電動パーキングブレーキスイッチで操作します。

電動パーキングブレーキのかけかた

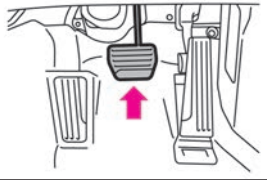
1	ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。	
2	電動パーキングブレーキスイッチを引き上げます。 スイッチを引き上げると電動パーキングブレーキスイッチ表示灯が点灯し、メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯（赤色）(Ⓟ)が、約2秒後に点灯します。	

知識

- オートブレーキホールドが作動しているときにセレクトレバーをPにすると、パーキングブレーキがかかります。
  その他、オートブレーキホールドについては（➔P.196）をお読みください。

次ページに続く

電動パーキングブレーキの解除のしかた

1	ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。	
2	電動パーキングブレーキスイッチを押し下げます。 スイッチを押し下げると、電動パーキングブレーキが解除され、電動パーキングブレーキスイッチの表示灯とメーター内の電動パーキングブレーキ警告灯（赤色） (P) が消灯します。	

⚠ 警告

- **電動パーキングブレーキを作動させたまま走行しない。**
  ブレーキおよびトランスミッションに不具合が生じ、事故につながるおそれがあります。

知識

- 電動パーキングブレーキは、パワースイッチがONのときのみ解除できます。

自動解除のしかた

電動パーキングブレーキスイッチを操作しなくても、パーキングブレーキを解除することができます。
渋滞や上り坂での発進に便利です。

- 電動パーキングブレーキがかかっている状態でセレクトレバーを**D**、マニュアルシフトゲート、または**R**にし、アクセルペダルをゆっくり踏んでください。
  パーキングブレーキが解除され、電動パーキングブレーキ警告灯が消灯します。
- パーキングブレーキの自動解除は、以下の条件を満たしている必要があります。
  - 運転席シートベルトを着用している
  - ハイブリッドシステムが始動している（メーター内の走行可能表示灯が点灯している）
  - セレクトレバーが**P**、**N**以外のとき

次ページに続く

電動パーキングブレーキに関する注意事項

⚠ 警告

- **車両を離れるときは、電動パーキングブレーキをかけたあと、セレクトレバーをP位置に切り替える。**
- **電動パーキングブレーキをかけたり、解除したりの操作を短時間に繰り返さない。**
  システムの過熱を防ぐために電動パーキングブレーキが作動しなくなる場合があります。約1分間経過してから再度操作してください。

アドバイス

- 寒冷時に駐車するときは、電動パーキングブレーキをかけずにセレクトレバーをP位置に入れ、電動パーキングブレーキを解除したまま車輪の前後に適切な輪留めをしてください。寒冷時に電動パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが凍結し、解除できなくなるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキが12Vバッテリーあがりや故障などで解除できなくなったときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

知識

- 電動パーキングブレーキをかけたり解除したりすると、車両の後方部から作動音が聞こえることがありますが、これは異常ではありません。
- 走行中、非常事態で電動パーキングブレーキをかける必要が生じたときは、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げ続けてください。ブザーが鳴り、電動パーキングブレーキがかかります。スイッチから手を離すと、電動パーキングブレーキは解除されます。

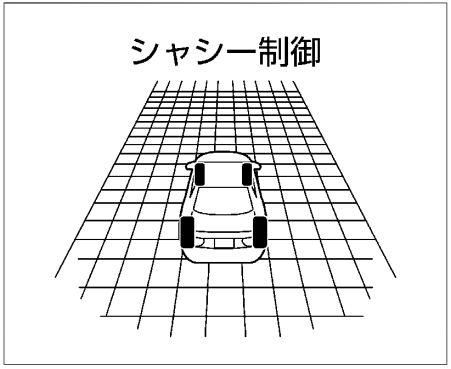
知識
● パワースイッチがOFFまたはアクセサリー状態のときに、電動パーキングブレーキスイッチを引くと、電動パーキングブレーキスイッチの表示灯がしばらく点灯状態になることがあります。

オートブレーキホールド

オートブレーキホールド機能は、信号待ちなどで停車中にブレーキ力を保持する機能です。

オートブレーキホールド機能について

- オートブレーキホールド機能は、運転者のブレーキ操作によって停車した際にブレーキ力を保持する機能です。
  ブレーキ力が保持されているときにアクセルペダルを踏むと、ブレーキが解除され発進することができます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイをシャシー制御に切り替えると、オートブレーキホールドの作動を画面で確認することができます。詳しくは、（➔P.84）をお読みください。



オートブレーキホールド機能の作動について

オートブレーキホールド機能をONにする

- パワースイッチをONにし、オートブレーキホールドスイッチを押すと、オートブレーキホールドスイッチ表示灯が点灯します。
- オートブレーキホールド機能は、次の条件が満たされたときのみ、メーター内のオートブレーキホールド表示灯（白色）が点灯し、待機状態になります。（➔P.502）
  - 運転席シートベルトを着用している
  - 電動パーキングブレーキが解除されている
  - セレクトレバーがP以外の位置にある
  - 急な坂道の途中に停車していない

オートブレーキホールド機能をOFFにする

オートブレーキホールド機能がONのとき、オートブレーキホールドスイッチを押すと、スイッチの表示灯が消灯しオートブレーキホールド機能がOFFになります。
停車中にオートブレーキホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかり踏んで、オートブレーキホールドスイッチを押します。

⚠ 注意

- **オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されているときに、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**
  ブレーキが解除され車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

📖 知識

- パワースイッチをONにしたときは、オートブレーキホールド機能はOFFになっています。

次ページに続く

オートブレーキホールド機能の使いかた

■ ブレーキ力を保持させる

オートブレーキホールド機能が待機状態（メーター内のオートブレーキホールド表示灯が白色に点灯）のとき、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させると、オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されます。
ブレーキ力が保持されているときは、メーター内のオートブレーキホールド表示灯が緑色に点灯します。（P.502）

■ 発進する

セレクトレバーがPまたはN以外の位置にあり、ブレーキ力が保持されている状態でアクセルペダルを踏むと、保持されているブレーキ力が解除されて発進します。
ブレーキ力の保持が解除されると、メーター内のオートブレーキホールド表示灯が白色に点灯し、待機状態に戻ります。

知識

- 急な坂道などでは、オートブレーキホールドが作動開始するまでブレーキペダルを強く踏み込む必要があります。

オートブレーキホールド機能使用時の注意事項

⚠ 警告

- **急な坂道や滑りやすい路面で使用しない。**
  オートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。
- **オートブレーキホールド機能が作動していても停止状態を維持できないときは、ブレーキを使用して車両を停車させる。**
  ブレーキ力保持状態のときに外的要因で車両が動くと、警告音が鳴り、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。
  警告メッセージ（➔P.507）
- **次の場合はオートブレーキホールド機能をOFFにする。**
  – 洗車機を使用するとき
  – 車両にけん引されるとき
- **次の場合はセレクトレバーをP位置にしてパーキングブレーキが確実にかかっているか確認する。**
  – 駐車するとき
  – 人が乗降するとき
  – 荷物の積み下ろしをするとき
  車両が不意に動き出し重大な傷害や事故を起こすおそれがあります。
- **メーター内のVDC警告灯 （➔P.494）、電動パーキングブレーキ警告灯 （➔P.490）、またはメーター内のマスターウォーニング （➔P.500）が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「シャシー制御表示」の警告メッセージ（➔P.510）が表示されたときは、オートブレーキホールド機能は作動しません。**
- **ブレーキ力を保持しているときは、車両の停車状態を維持するため、作動音が発生する場合がありますが、異常ではありません。**

次ページに続く

アドバイス

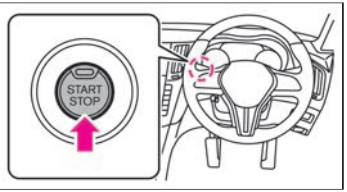
- 次の場合は、システムに異常が発生しているおそれがあります。ただちに日産販売会社で点検を受けてください。
  - アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告メッセージが表示されたとき
  - オートブレーキホールドスイッチを押してもスイッチの表示灯が点灯しないとき

知識

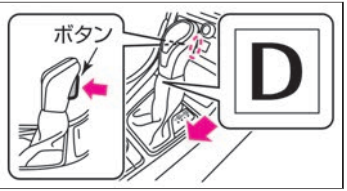
- オートブレーキホールド機能がONでブレーキ力が保持されているときに、次の状態になるとパーキングブレーキがかかり、ブレーキ力が解除されます。
  - オートブレーキホールド機能によるブレーキ力の保持が3分以上継続されたとき
  - 運転席シートベルトを外したとき
  - パワースイッチをOFFにしたとき
  - オートブレーキホールド機能に不具合が生じたとき
  - セレクトレバーを**P**位置にしたとき
  - 電動パーキングブレーキスイッチを引き上げたとき

発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押して、ハイブリッドシステムを始動します。
ハイブリッドシステムの始動のしかた (P.177)

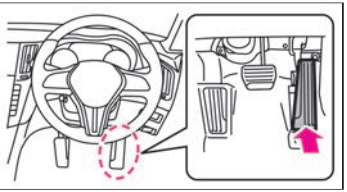


2 ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、ボタンを押してセレクトレバーを**D**に入れます。
セレクトレバーの操作 (P.183)



3 パーキングブレーキを解除します。

4 ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。



⚠ 警告

- **発進するときは、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。**
  急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。
- **停車中、セレクトレバーが**P**、**N**以外に入っているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**
  クリープ現象により車が動き出し、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 電動パーキングブレーキをかけ、運転席シートベルトを着用せずにアクセルペダルを踏むと、電動パーキングブレーキおよびトランスミッションが故障するおそれがあります。

知識

- 急な上り坂で発進するときは、ヒルスタートアシスト（P.241）が作動します。

次ページに続く

走行のしかた

- セレクトレバーを D またはマニュアルシフトゲートに入れたまま走行します。
- アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
  アクセルペダルの踏み加減と走行速度や走行状況などにより、適切なギヤに自動変速されます。
- 高速道路の入り口などで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
  キックダウンし急加速します。
- 下り坂では、エンジンブレーキを併用して走行します。セレクトレバーが D のときブレーキペダルを踏むと坂の勾配に応じてシフトダウンし、エンジンブレーキが効きやすい状態にします。
  また、坂の勾配に応じてマニュアルモードに入れます。強いエンジンブレーキが必要な場合は、マニュアルモードの2速または1速にします。
- 勾配のゆるい下り坂では、マニュアルモードの4速または3速にすると、軽いエンジンブレーキが得られます。

⚠ 警告

- **下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用する。**
  セレクトレバーが D のときは、低速ギヤを保持してエンジンブレーキが効きやすい状態に制御しますが、スピードが出すぎるときは坂の勾配に応じてマニュアルモードを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあり危険です。
- **走行開始直後でトランスミッションの油温が暖まっていないときや、アクセルペダルを深く踏み込んだ高負荷な状態で長く走り続けると低速ギヤを保持しない場合があります。その場合には、坂の勾配に応じてマニュアルモードを低速ギヤに入れてください。**
- **滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキは効かせない。**
  タイヤがスリップするおそれがあり危険です。
- **走行中はセレクトレバーを N に切り替えない。**
  エンジンブレーキが全く効かなくな

⚠ 警告

り、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、トランスミッションが故障する原因となります。

- **リチウムイオンバッテリーの充電状態によっては、減速度合いが小さくなる場合があります。**
- **回生ブレーキの効きが弱くなった場合はブレーキペダルを踏んで減速する。**

アドバイス

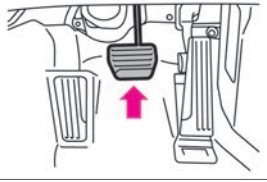
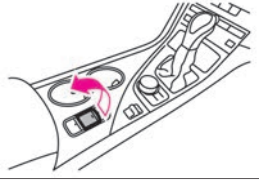
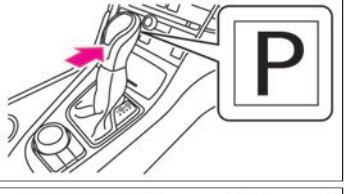
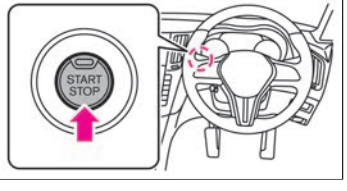
- 上り坂ではクリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。車両故障につながるおそれがあります。
- 上り坂でセレクトレバーを**D**またはマニュアルシフトゲートのまま故意に車両を後退させたり、下り坂で**R**のまま故意に車両を前進させたりしないでください。車両故障につながるおそれがあります。
- 冠水路など深い水たまりは無理に走行しないでください。エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。
- ブレーキペダルとアクセルペダルを

アドバイス

同時に踏まないでください。トランスミッションが故障するおそれがあります。

- 極端に低車速で走行すると、車速がわずかに変化する場合がありますが、システム特有の動きで異常ではありません。

停車・駐車のしかた

1	停車するときは、セレクトレバーはDのままブレーキペダルをしっかりと踏みます。	
2	そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。	
3	ブレーキペダルを踏んだままボタンを押してセレクトレバーをPに入れます。	
4	パワースイッチを押します。 メーター内の走行可能表示灯が消灯していることを確認してから、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。	

⚠ 警告

- **駐車するときは、ガスライターなどに注意する。**
  操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。
- **停車中の空ぶかしはしない。**
  万一、セレクトレバーがP、N以外に入っていると急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。停車後に再発進するときは、セレクトレバーの位置を目で確認してください。
- **換気の悪い場所では、エンジンをかけたままにしない。**
  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- **車から離れるときは、必ずセレクトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを停止する。**

⚠ 警告

ハイブリッドシステムが作動したままで、セレクトレバーがP、N以外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むと急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐停車しない。**
  排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。
- **長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があるので注意する。**

アドバイス

- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形するおそれがあります。

ドライブモードセレクター

ドライブモードセレクターは5種類のドライブモード（PERSONAL、SPORT、STANDARD、ECO、SNOW）を備え、モードを選択することにより、エンジンやモーター、トランスミッションなどを各モードに適した特性で制御するシステムです。

ドライブモードについて

ドライブモード	特徴	推奨する使用環境
PERSONAL	お好みの運転特性を設定したドライブモード	次の機能をお好みの設定で走行したいとき ● エンジン･トランスミッション ● ハンドルの重さと応答速度 ● インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）のON･OFF ※1
SPORT ※2	レスポンスが良い特性のドライブモード	登坂時やワインディングなどで、スポーティな走行をしたいとき
STANDARD ※3	幅広い走行状況に適したドライブモード	通常走行 ※4
ECO	おだやかな特性のドライブモード	燃費を考慮したおだやかな走行をしたいとき ※5、6
SNOW	滑りやすい路面環境に適したドライブモード	雪道やぬかるみなどの滑りやすい路面を走行するとき

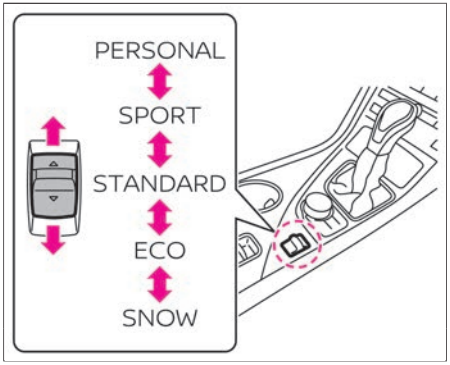
※1　PERSONALでの運転特性は、ナビゲーションシステムで次の操作をして設定します。
MENU ⇒ ドライブモードセレクター ⇒ エンジン･トランスミッション / ステアリング / インテリジェントトレースコントロール / 設定を初期状態に戻す
詳しくは、ドライブモードセレクター (P.171)をお読みください。
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

※2　SPORTを選択したままだと、燃費が悪化することがあります。

※3　ハイブリッドシステム始動時は、毎回STANDARDが選択されます。
※4　通常時はSTANDARDで走行することをおすすめします。
※5　運転のしかたによっては必ずしも燃費が向上するわけではありません。
※6　燃費向上に適したドライブモードのため、加速力が低下することがあります。

モードの切り替えかた

- パワースイッチがONのときスイッチを上側または下側に押すと、ナビゲーション画面にモードリストが表示されます。
- モードを切り替えると、メーター内のディスプレイに切り替わったモードが表示されます。
- 走行状態によってはモードがすぐに切り替わらないことがあります。
- ドライブモードがECOで走行しているときは、メーター内のECOペダルインジケーターが走行状態によって点灯します。
  ECOペダルインジケーター（P.502）



アドバイス

- ドライブモードセレクターを操作してもモードが切り替わらない場合は、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。

ECOペダル

ECOペダルは、アクセルペダル操作に応じてアクセルペダルの踏力を少し重くすることで、エコドライブをサポートするシステムです。

ECOペダルの使いかた

- ドライブモードセレクターでドライブモードをECOにして走行中に、ECOペダルが作動します。
  ➔ モードの切り替えかた (P.207)
- ECOペダルインジケーター（➔P.209）と連動して作動します。

アクセルペダル踏み込み状態	なし<停車時>	エコ運転領域内	エコ運転領域を超えそうなとき	エコ運転領域を超えたとき
ECOペダルインジケーター表示	<消灯>	ECO（緑色点灯）	ECO（緑色点滅）	<消灯>
ECOペダルの作動				

知識

- 次の場合にはECOペダルは作動しません。
  - セレクトレバーがNまたはRのとき
  - プロパイロット2.0が作動しているとき
- ECOペダルの反力はアクセルペダル操作を妨げるものではありません。加速が必要な場合は通常通り加速することができます。
- ECOペダル反力発生中にドライブモードセレクターをECOモードから他のモードに切り替えた場合は、一旦、アクセルペダルから足を離すまでECOペダル反力を保持します。
- 素早くアクセルペダルを踏み込んだ場合は、ECOペダル反力は発生しません。
- 故障が原因でECOペダル反力を発生できない場合は、ECOペダル制御が中止されますが、通常のアクセルペダルとして走行することができます。

ECOペダル反力調整機能について

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ECOペダルの強さを調整することができます。
MENU ⇒ 設定 ⇒ Drive Mode 拡張機能 ⇒ ECOペダル
詳しくは、Drive Mode拡張機能 (P.173)をお読みください。
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

知識

- ECOペダルの反力設定はハイブリッドシステムを停止しても、再度設定を変更するまで維持されます。
- ECOペダルをOFFに設定した場合は、ECOペダル制御を停止し、通常のアクセルペダルとして使用できます。

ECOペダルインジケーター

- メーター内にあります。
  ECOペダルインジケーター（P.502）
- ドライブモードセレクターでドライブモードをECOにしたときに、点灯･点滅します。
- アクセルペダルの操作に応じて表示灯の点灯･点滅を変えることでエコドライブをサポートします。

表示灯	説明
緑色点灯	エコ運転領域内のときに緑色点灯します。
緑色点滅	エコ運転領域を超えそうなとき、緑色点滅します。
消灯	エコ運転領域を超えたときは、緑色点滅から消灯に変わります。

知識

- 次の場合は、ECOペダルインジケーターが作動しません。
  - セレクトレバーがRのとき
  - 低車速または高車速のとき
  - プロパイロット2.0が作動しているとき

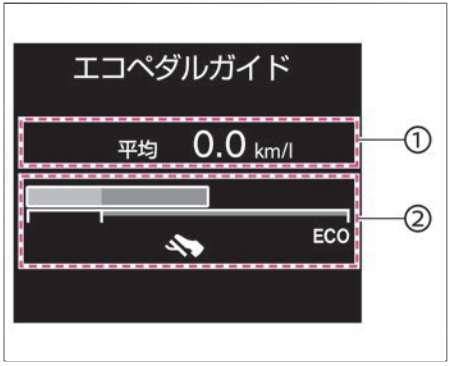
次ページに続く

ECOペダルガイド

- ドライブモードセレクターがECOのとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイを「燃費情報」に切り替えると表示します。

① 平均燃費
リセットしてからの平均燃費を表示します。

② アクセルガイド
走行中に、車速に応じたアクセルペダルの踏み加減を表示します。エコ運転領域内になるように調整することで、エコドライブにつながります。



知識

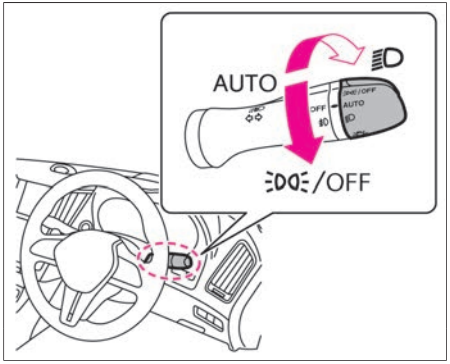
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、表示･非表示の設定ができます。
MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ メインメニュー選択 ⇒ 燃費情報
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

ライトスイッチの使いかた

スイッチを回すと、次のように点灯、消灯します。

スイッチ位置	点灯するランプ
/OFF（ /OFFの位置に回しても手を離すと自動でAUTOの位置に戻ります。）	停車時に /OFFの位置に回すと、車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。 停車時に /OFFの位置に回して1.5秒以上保持すると、全ランプが消灯します。 走行を開始すると、周囲の明るさに応じてランプが自動点灯･消灯します。
AUTO	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯･消灯します。
	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

- 車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているときはメーター内のテールランプ表示灯 が点灯します。



アドバイス

- メーター内の走行可能表示灯が点灯していないときは、長時間点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

知識

- ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがありますが異常ではありません。
- 通常時はAUTOの位置で使用してください。

バッテリーセーバー

- ランプを点灯したままパワースイッチをOFFにし、リモコンまたはドアハンドルのスイッチで施錠すると、バッテリーあがりを防止するためランプが消灯します。
- 次回、次の操作を行うとランプが再点灯します。
  - ハイブリッドシステムを始動する
  - パワースイッチをアクセサリーにする
  - ライトスイッチを操作する

オートレベライザー

次ページに続く

知識

- ヘッドランプが下向き点灯時に乗車人員や荷物量の違いにより車両姿勢が変化すると、照射方向を調整するシステムです。

デイライト

- 周囲の車や歩行者などからの視認性を向上させます。
- パワースイッチがONでライトスイッチがAUTOの位置のとき、車幅灯、尾灯、番号灯が消灯しているとデイライトが点灯します。
- パーキングブレーキをかけているとデイライトは点灯しませんが、パーキングブレーキを解除すると点灯します。また、デイライトが点灯しているときにパーキングブレーキをかけてもデイライトは消灯しません。
- 次の場合はデイライトが消灯します。
  - 車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているとき
  - 停車時にライトスイッチを ≡DC≡ / OFFの位置に回して1.5秒以上保持したとき
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、デイライトのON・OFFを切り替えることができます。

知識

MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両 ⇒ デイライト
詳しくは、車両 (P.172)をお読みください。
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

≡D⊂ /OFFの使いかた

- ライトスイッチは ≡D⊂ /OFFの位置に回しても手を離すと自動でAUTOの位置に戻ります。
- ランプの点灯状態は次のとおりです。

ライトスイッチを ≡D⊂ /OFFの位置に回したとき

- 停車時にライトスイッチを ≡D⊂ /OFFの位置に回すと、車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。
- 停車時にライトスイッチを ≡D⊂ /OFFの位置に回しても、走行すると周囲の明るさに応じてヘッドランプが自動点灯します。
- 走行中にライトスイッチを ≡D⊂ /OFFの位置に回すと、周囲が明るいときは車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。周囲が暗いときはライトスイッチを ≡D⊂ /OFFの位置に回しても、点灯しているヘッドランプを消灯できません。（停車時またはフォグランプ点灯時のみ消灯可能です。）
- フォグランプ点灯時、車両が完全に停止する前にライトスイッチを ≡D⊂ /OFFの位置に回してヘッドランプを消灯した場合、再度走行してもヘッドランプは点灯しません。再度ヘッドランプを点灯させるときは、ライトスイッチを ≡D⊂ /OFFまたは 𝌆 の位置に回すか、フォグランプをOFFにします。

ライトスイッチを ≡D⊂ /OFFの位置に回して1.5秒以上保持したとき

- 停車時にライトスイッチを ≡D⊂ /OFFの位置に回して1.5秒以上保持すると、全ランプが消灯します。
- 停車時にライトスイッチを ≡D⊂ /OFFの位置に回して1.5秒以上保持しても、走行すると周囲が暗いときはヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
- 走行中にライトスイッチを ≡D⊂ /OFFの位置に回して1.5秒以上保持しても、点灯しているランプを消灯できません。

知識

- 次の操作をすると、AUTO（自動点灯･消灯）に戻ります。
  - 再度ライトスイッチを ≡D⊂ /OFFの位置に回す
  - 𝌆 の位置にしてからAUTOの位置にする

運転のしかた

次ページに続く

AUTO（自動点灯･消灯）の使いかた

- パワースイッチがOFFのときは消灯します。
- パワースイッチがONのときは次のように作動します。

周囲が明るいとき

- 停車中、走行中ともにヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が消灯します。

周囲が暗いとき

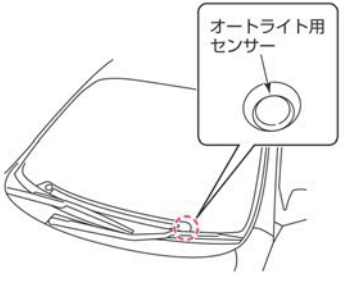
- 停車中、走行中ともにヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯します。

■ フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能

- 歩行者事故が多く発生している夕暮れ時や雨天でのワイパー使用時にもランプを自動点灯します。
- 周囲が明るいときにフロントワイパーに連動してヘッドランプが点灯したときは、ライトスイッチを ≡D⊂ /OFFの位置に回すと、パワースイッチをOFFにするまでの間、ヘッドランプを消灯することができます。
  ヘッドランプを消灯したあとは、パワースイッチをOFFにするまでフロントワイパーに連動してヘッドランプは点灯しません。

アドバイス

- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。



知識

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）の感度を調整することができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両 ⇒ オートライト感度調整

知識

詳しくは、車両 (P.172)をお読みください。
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

次ページに続く

の使いかた

- ライトスイッチを の位置に合わせるとヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

自動点灯ランプの消灯のしかた

ヘッドランプの消灯方法

- 停車中、ライトスイッチを /OFFの位置に回すと、ヘッドランプが消灯します。
- 走行中、フォグランプがONの状態でライトスイッチを /OFFの位置に回すと、ヘッドランプが消灯します。

すべてのランプの消灯方法

- 停車中、ライトスイッチを /OFFの位置に回して1.5秒以上保持すると、全ランプが消灯します。

知識

- フォグランプ点灯中を除き、ヘッドランプは走行中に消灯できない仕様となっています。

ハイビームアシスト★について

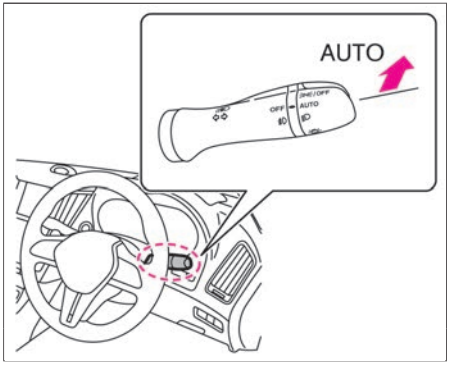
先行車または対向車や周囲の明るさなどに応じ、上向きと下向きを切り替えます。

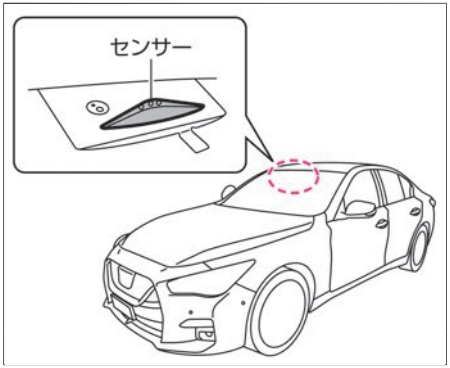
- ライトスイッチがAUTOの位置でレバーを前方に押すと、ハイビームアシストがONになります。
- 約30km/h以上で走行中、ヘッドランプが点灯すると作動します。
  （メーター内のハイビームアシスト表示灯 が点灯）
- 約10km/h以下になると、下向きに切り替わります。

センサーについて

ルームミラーの前方に周囲の状況を感知するためのセンサーがあります。
ハイビームアシストを正しく作動させるため、次のことをお守りください。

- フロントガラスが汚れたら清掃してください。
- センサーの周辺にアクセサリーやステッカーなどを取り付けないでください。
- センサーのレンズには触れないでください。
- センサーおよびその周囲に強い衝撃を与えないでください。





⚠ 警告

- **システムを過信しない。**
  常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。
- **次のようなときは、ハイビームアシストが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。**
  - 悪天候のとき（雨、霧、雪、強風など）
  - 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき
  - 対向車または先行車が無灯火のとき
  - 対向車のヘッドランプが汚れていたり、光軸がずれているとき
  - 明るさの急激な変化が連続しているとき
  - 段差や起伏のある道路を走行しているとき
  - カーブが多い道路を走行しているとき
  - ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき

次ページに続く

⚠ 警告

- トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
- 対向車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- パンクやけん引などで車両が傾いているとき

アドバイス

- ハイビームアシストが正しく作動しなかったり、作動中にメーターにハイビームアシスト表示灯 が点灯しなかったりしたときは、ハイビームアシストが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。
  ハイビームアシスト表示灯（P.501）

知識

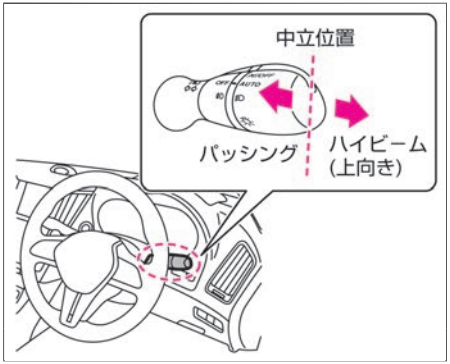
- 次のような原因で、上向きと下向きの切り替わるタイミングが変化することがあります。
  - 対向車または先行車のランプの明るさ
  - 対向車または先行車の向きや動き
  - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している

知識

- 対向車または先行車が二輪車
- 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
- 乗車している人数や荷物の量

ハイビーム（上向き）への切り替えかた

- ヘッドランプが点灯しているとき、ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。
- 元の位置（中立位置）に戻すとロービームに戻ります。
- パッシングするときは、ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引きます。
- ハイビームに切り替えているときは、ヘッドランプ上向き表示灯 が点灯します。
- ライトスイッチがAUTOの位置でハイビームに切り替えると、ハイビームアシスト（P.217）がONになります。（ハイビームアシスト付車）



アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。

知識

- ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがありますが異常ではありません。

次ページに続く

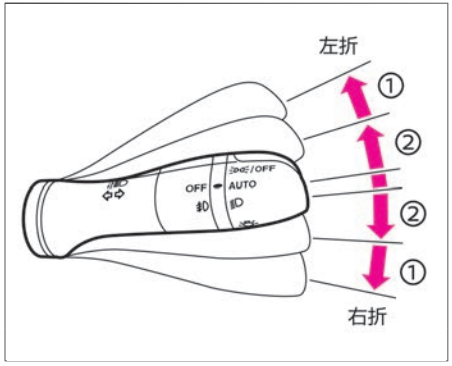
方向指示器の使いかた

パワースイッチがONのとき使えます。

- 右折または左折するときは、ライトスイッチを①の位置まで動かします。
- 車線変更などのときは、ライトスイッチを②の位置まで動かし軽く押さえます。スイッチを押さえている間、方向指示表示灯が点滅します。
  また、スイッチを②の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離したときは3回点滅し消灯します。（コンフォートフラッシャー機能）

方向指示表示灯をOFFにする方法

- 方向指示表示灯が点滅している方向とは逆側の②の位置に動かします。



アドバイス

- 方向指示器のランプとメーター内の方向指示表示灯の点滅が速くなった場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
- 方向指示器はスイッチ操作後、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

知識

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、コンフォートフラッシャー機能のON·OFFを切り替えることができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両 ⇒ 車線変更（3回点滅）
  詳しくは、車両 (P.172)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

アクティブAFS★について

ヘッドランプが進行方向を照射し、夜間走行時に曲路の視覚認識を高めるシステムです。

- ヘッドランプ点灯時、カーブや交差点などでハンドルを操作すると作動します。

アドバイス

- ランプの脱着、バルブの交換は、日産販売会社にご相談ください。

知識

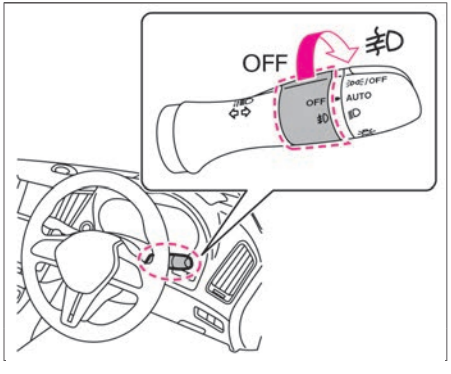
- アクティブAFSはセレクトレバーがP、R以外のとき、次のように作動します。
  - 車速が0km/hでも左側のヘッドランプは作動します。
  - 車速が約5km/h以上になると、右側のヘッドランプも作動します。
  - 減速して車速が約0km/hになる（停車する）と、右側のヘッドランプは再び作動を停止します。
- ハイブリッドシステム始動時、ヘッドランプが細かく動きますが、システムの作動をチェックしているためで異常ではありません。
- AFSに異常があるときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告（P.513）が表示されます。

フォグランプスイッチ

雨、霧、雪などで視界が悪いとき、ヘッドランプや尾灯の補助として使用できます。

フォグランプの使いかた

- ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。
- スイッチを回して を の位置に合わせて使用します。
- フォグランプが点灯しているときは、フォグランプ表示灯 が点灯します。



知識

- 濃霧時にヘッドランプを消灯して走行したい場合は、次の操作を行うと車幅灯とフォグランプの点灯で走行することができます。
  - フォグランプが点灯しているときに、ライトスイッチをAUTOから /OFFの位置に回す、または から /OFFの位置に回す

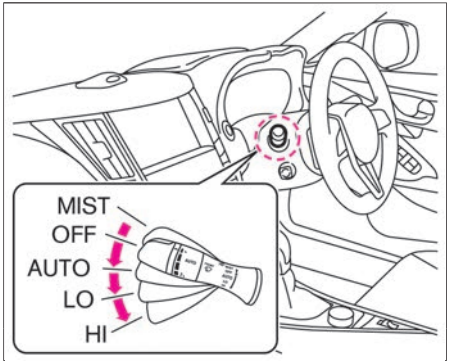
ワイパー・ウォッシャースイッチ

パワースイッチがONのとき使用できます。

フロントワイパーの使いかた

スイッチを動かすと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
MIST	レバーを上げている間作動します。 手を離すとOFFに戻ります。
OFF	停止します。
AUTO	自動制御
LO	低速で連続して作動します。
HI	高速で連続して作動します。



知識

- インテリジェント オートライト（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）は、ライトスイッチがAUTOの位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくランプが点灯します。
AUTO（自動点灯･消灯）の使いかた (P.214)

次ページに続く

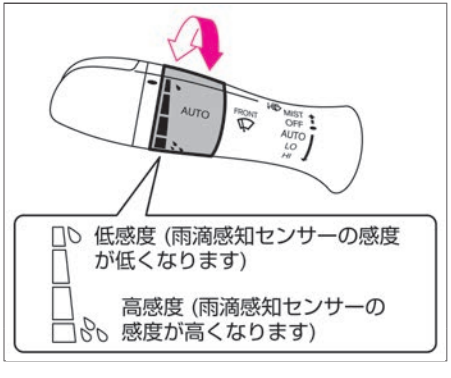
雨滴感知式ワイパーの使いかた

スイッチ位置がAUTOのとき、ルームミラー部にある雨滴感知センサーによって降雨を感知し、降雨量と車速に応じて作動（低速および高速）の調節を自動で行います。

センサー感度

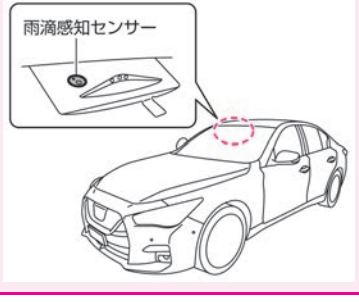
- センサーの感度を調節するときは、スイッチを回します。

高感度：雨滴感知センサーの感度が高くなります。
低感度：雨滴感知センサーの感度が低くなります。



⚠ 注意

- **パワースイッチがONでスイッチ位置をAUTOにしているとき、雨滴感知センサー上部のフロントガラスに手で触れたり、水分を含んだ布などを近づけない。**
  ワイパーが作動しケガやワイパーの破損につながるおそれがありますので、注意してください。また、洗車時にはスイッチ位置を必ずOFFにしてください。



アドバイス

- 降雨時でも雨滴が雨滴感知センサー

アドバイス

にあたらないと、雨滴感知センサーが降雨を検知しないためワイパーが作動しない場合があります。

- 雨滴感知センサーに泥、指紋、油膜、虫などが付着したり、排気ガスをあびたりするとワイパーが作動することがあります。また、夜間などは目視しづらいわずかな水滴も検知し、ワイパーが作動することがあります。
  降雨時以外はなるべくスイッチ位置をOFFにしてください。
- フロントガラスに撥水処理を施している場合は、施工していないときに比べ、雨滴が流れやすくなるため、雨滴感知センサーが多いと感知してワイパーの作動回数が多くなる場合があります。
- ワイパーブレードの長さや形状が異なると、正常に作動しないことがあります。サイズにあった日産純正品をおすすめします。

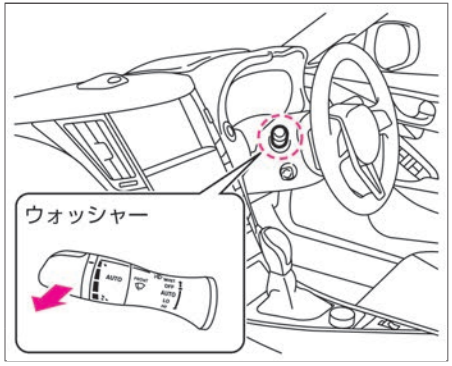
知識

- パワースイッチがONのとき、スイッチ位置をAUTOにすると、1回ワイパーが作動し、その後は雨滴量に応じてワイパーが作動します。
- スイッチ位置をAUTOにしているとき、パワースイッチをONにすると、雨滴感知センサーが雨滴を検知した場合のみワイパーが作動します。
- 自動制御のときは、降雨量と車速に応じてワイパー作動の調節を自動で行います。
  ナビゲーションシステムで次の操作をすると、雨滴感知機能のON・OFFを切り替えることができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両 ⇒ レインセンサー
  詳しくは、車両 (P.172)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

次ページに続く

ウォッシャーの使いかた

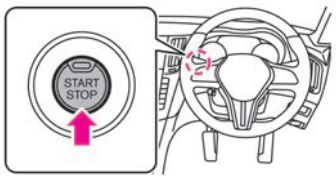
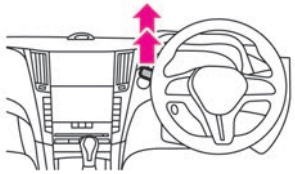
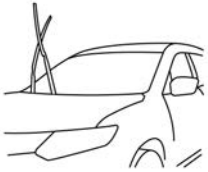
- スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
- スイッチを引いている間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。



知識

- ウォッシャースイッチを操作したあと、ガラスに残ったウォッシャー液をふき取るため、約3秒後に一度ワイパーが作動します。（ドリップ拭き取り機能）
  また、ナビゲーションシステムで次の操作をすると、作動･非作動を切り替えることができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両 ⇒ ワイプドリップ
  詳しくは、車両 (P.172)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

ワイパーアームの起こしかた（ライズアップ機能の使いかた）

1	パワースイッチをONからOFFにします。	
2	OFFにしてから1分以内にスイッチを2回連続で素早く(0.5秒以内)上（MIST位置）に動かします。	
3	ワイパーアームの作動が途中で止まった後、ワイパーアームを起こします。	
4	元に戻すときは、ワイパーアームを倒してから、パワースイッチをONにし、ワイパーを1回作動させます。	

⚠ 注意

- **パワースイッチがONのときに、ライズアップ機能を使いワイパーアームを起こすときは、思わぬ事故やケガをしないように次のことを守る。**
  - セレクトレバーがPに入っていることを確認する
  - 同乗者が誤ってスイッチ操作しないように注意する

アドバイス

- ワイパーアームを起こした状態でワイパーを作動させると、破損するおそれがあります。

知識

- **ライズアップ機能**
  ワイパーアームを起こすために、ワイパーの作動を途中で止める機能です。寒冷時の駐車やワイパー交換などのときに起こします。

次ページに続く

ワイパー･ウォッシャーを使うときの注意事項

⚠ 警告

- **寒冷時は、ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターでガラスを温める。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にする。**
  寒冷時は、ガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。
- ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチをOFFにし障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分程度）待ってから、再度スイッチを操作してください。ワイパーが作動を開始します。
- 凍結などでワイパーゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障するおそれがあります。
- 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーをご使用ください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、連続して30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。
- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、日産販売会社にご相談ください。

4WD（4輪駆動）車の扱いかた★

4WD車は、滑りやすい路面などで優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。
4WD車特有の取り扱いかたを十分理解し、正しい運転をしてください。

走行するとき

- オフロード（不整地）走行やラリー走行用ではありません。走行するときは以下のことを必ずお守りください。
  - 河川などの水中走行はしない
  - 砂地、ぬかるみなど、後輪が空転しやすいところでの連続走行はしない
  - 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない
- 運転操作は一般車と同様です。ハンドル、アクセルおよびブレーキペダルなどの操作は慎重に行い、安全運転に心がけてください。

知識

- 砂地などのオフロード走行や脱輪時の無理な操作などにより、前後輪間の回転数差が大きい（車輪が空転する）状態が続くと駆動系部品の油温が上昇します。
  この場合、駆動系部品の保護のため、2WDまたは弱4WDになりますが、通常の走行は可能です。ただしスピードは控えめにしてください。
  アドバンスドドライブアシストディスプレイに「4WDシステム高油温 車両を安全なところに止めてください」という警告が表示されたときは、アイドリング状態でしばらく停車し、表示が消えると2WD状態から復帰し、通常通り走行できます。
  警告メッセージ（➔P.511）
- 4WD車は、2WD車に対し、制動距離が短くなるわけではありません。

次ページに続く

4WD（4輪駆動）車の扱いかた★

タイヤについて

- タイヤの交換は4輪とも同時に行い必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差が大きいものやサイズが異なるタイヤを装着すると車の機構を破損するおそれがあります。
  冬用タイヤも必ず4輪同じものを装着してください。
  タイヤ交換は日産販売会社にご相談ください。

4WD車の特性

■ タイトコーナーブレーキング現象

乾燥した舗装路を4WD状態で走行中、ハンドルをいっぱいに切って旋回するとブレーキをかけたような状態になることがあります。この現象をタイトコーナーブレーキング現象といいます。
この現象は旋回するとき前後輪に回転差が生じるために起きる4WD車特有の現象で異常ではありません。この現象が発生したときはハンドルの操作力が重くなります。

アドバイス

- タイトコーナーブレーキング現象が起きると、タイヤのスリップ音や駆動系のきしみ音などが発生することがあります。

アテーサE-TS★

アテーサE-TSシステムは前輪と後輪の駆動力を最適な配分に制御し、FR車の優れた旋回性能と4WD車の安定性を両立させた4WDシステムです。電子制御の働きにより走行状態や路面状況に応じて前後輪の駆動力配分を0:100（後輪駆動状態）～50:50（4輪駆動状態）まで連続制御し、エンジンおよびモーターの出力（駆動力）をタイヤを通して路面に有効に伝えます。

アテーサE-TSについて

- アテーサE-TSシステムに異常があるとアドバンスドドライブアシストディスプレイに「4WDシステム異常 取扱説明書を見てください」という警告を表示します。
- 走行中、前後輪の回転数の差が大きい状態が続き、駆動系部品の油温が異常に高くなると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「4WDシステム高油温　車両を安全なところに止めてください」という警告を表示します。
- 前後輪のタイヤ径差が大きすぎると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「タイヤサイズ異常　取扱説明書を見てください」という警告（P.511）を表示します。

⚠ 注意

- **「4WDシステム異常 取扱説明書を見てください」という警告が表示されたときは、すみやかに日産販売会社で点検を受ける。**
- **「タイヤサイズ異常　取扱説明書を見てください」という警告が表示されたときは、装着タイヤの種類およびタイヤ空気圧などを点検する。**
  タイヤが異なるときは同一のタイヤを装着してください。また、タイヤ空気圧が不足のときは空気を入れてください。それでも表示が消えないときは日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 「4WDシステム異常　取扱説明書を見てください」または「4WDシステム高油温 車両を安全なところに止めてください」という警告が表示されたときは、2WDまたは弱4WDになりますが、通常の走行は可能です。ただしスピードは控えめにしてください。

回生協調ブレーキについて

セレクトレバーがDまたはマニュアルシフトゲートで走行中にブレーキペダルを踏んでも回生ブレーキによる制動力が十分に得られないときは、摩擦ブレーキを制御することにより制動力を発生させます。
回生ブレーキについては、（P.14）をお読みください。

知識

- 次の場合は回生協調ブレーキが作動しません。
  - ハイブリッドシステム、ブレーキシステム、ダイレクトアダプティブステアリングシステムのいずれかに異常があるとき
  - ABSまたはVDCが作動しているとき

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、急ブレーキを踏んだとき、後続車に追突される可能性を低減させるため、制動灯を点滅させて後方へ急ブレーキを知らせます。

エマージェンシーストップシグナルについて

- 60km/h以上の速度で走行中、急ブレーキを踏むと作動します。
- 次の場合は作動が停止します。
  - ブレーキペダルから足を離したとき
  - ブレーキペダルを踏んでいても急ブレーキではなくなったとき
  - 非常点滅表示灯をONにしたとき

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABSとは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させるとともにハンドル操作による障害物回避をしやすくするシステムです。

ABSについて

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これはABSの正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- パワースイッチをONにしたときや、始動後最初の発進時に、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停車させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。

⚠ 警告

- **カーブの手前では十分に減速する。**
  ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早めの操作で安全運転を心がけてください。
- **でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、特に速度を控え、車間距離を十分にとる。**
  ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を控え、車間距離を十分にとって運転してください。
- **タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着する。**
  ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

VDCは、横滑りや駆動輪の空転を抑えて走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

VDCの機能について

- VDCのシステムには次の機能があります。
  - VDC機能：走行中の横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させる機能です。
  - トラクションコントロール機能（TCS）：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、エンジン出力もしくはモーター出力を抑えることにより、駆動力およびハンドルの操作性を向上させる機能です。
  - ブレーキLSD機能：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、もう一輪の駆動力を確保する機能です。
  - ABS機能：ABS（P.234）

⚠ 警告

- **滑りやすい路面やカーブの手前では速度を落とす。**
  この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では、特に速度を落とし安全運転を心がけてください。
- **次の場合、メーター内のVDC警告灯 が点灯し正常に作動しないことがあるので注意する。**
  - サスペンション、タイヤ、ブレーキ、エンジン関係部品などを純正品以外に交換したり、改造したとき
  - サスペンション、タイヤ、ブレーキなどの関係部品が著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき
- **VDC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着する。**

知識

- VDC作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

VDCの作動について

- VDCの作動と警告灯
  - VDCが作動しているときは、メーター内のVDC警告灯 が点滅します。
  - トラクションコントロール機能のみが作動しているときもVDC警告灯 が点滅します。VDC警告灯が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっていますので特に慎重に運転してください。
- 次の場合、VDC警告灯 が点灯することがあります。一度パワースイッチをOFFにし、再度ハイブリッドシステムを始動するとVDC警告灯は消灯します。
  - 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき
  - 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき

ブレーキ効き感向上機能について

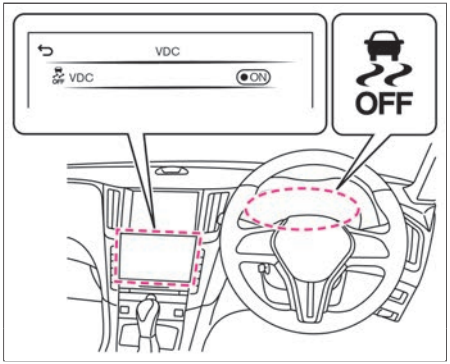
走行状態に応じて、運転者のブレーキ踏力に対する制動力を補正することによって、運転者の意思を反映するように『効きが良い』と感じられるブレーキ効き感を得ることができます。

左右制動力分配機能について

ブレーキ操作時、カーブの大きさに応じて各車輪の制動力分配を制御することで、しっかりしたブレーキをかけることができます。

VDCのON・OFFのしかた

- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ VDC を選択すると、VDC機能のON・OFFを切り替えることができます。
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
- VDC機能をOFFに切り替えると、VDCが停止し、VDC OFF表示灯 が点灯します。
- 再度、VDCを使用（ON）するときは、もう一度ナビゲーションシステムでVDC機能をONに切り替えます。VDC OFF表示灯 が消灯し、VDCがONになります。



アドバイス

- VDCが作動しているときは、ぬかるみや雪道から脱出するときに、スリップ状態を検知するため、アクセルペダルを踏み込んでもタイヤの回転数が上がらないことがあります。タイヤの回転数を上げたいときは、ナビゲーションシステムでVDCを停止してください。
- ナビゲーションシステムでVDCの設定をOFFにすると、VDCのすべての機能と、次の機能が停止します。（ABS機能およびブレーキLSD機能を除く）
  - プロパイロット2.0（P.249）
  - インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）（P.239）
  - インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.370）
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.335）
  - 踏み間違い衝突防止アシスト（P.346）
  - インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.385）

次ページに続く

アドバイス

- インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）（P.413）
- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.407）

知識

- パワースイッチをONにするたびに、VDCはONになります。
- VDCが作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。
- パワースイッチをONにしたときや、ハイブリッドシステム始動後最初の発進時に、エンジンルーム内から音が聞こえることがありますが、システムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）

山道や高速道路のカーブで運転者のハンドル操作やブレーキ操作に応じて、4輪それぞれのブレーキ制御を調整することによって、車両の動きをより滑らかにすると同時に応答性を高めるなどして、安定感のあるコーナリングを実現します。

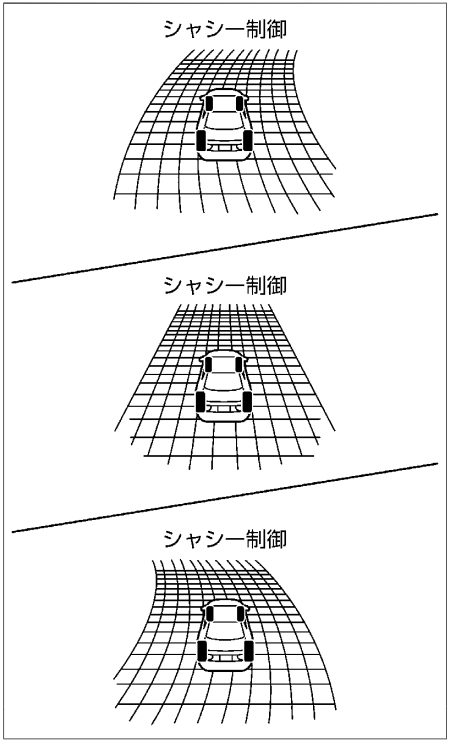
インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について

ドライブモードセレクターでドライブモードをSPORTに設定すると、STANDARDに対し、各輪のブレーキ制御特性を変更することにより、運転者が挙動をコントロールする領域が広がります。また、PERSONALでは、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）のON·OFFが設定できます。

ドライブモードセレクター (P.206)

- アドバンスドドライブアシストディスプレイをシャシー制御に切り替えると、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）の作動を画面で確認することができます。

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは (P.80)



警告

- **インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）の機能を過信しない。**
  インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）は、すべての走行環境において効果があるわけではないため、機能を過信せず安全運転を心がけてください。

アドバイス

- アドバンスドドライブアシストディスプレイに「シャシー制御システム故障 取扱説明書を見てください」と警告が表示されたときは、故障により機能が正しく作動しないことがあります。警告が表示されたときは、日産販売会社で点検を受けてください。
  警告メッセージ（P.510）

次ページに続く

知識

- VDCをOFFにすると、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）も停止します。
  VDC（ビークルダイナミクスコントロール） (P.235)
- インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）をOFFにしていても、急ハンドル時などにはシステムが作動する場合があります。
- システムが作動すると、ブレーキペダルに振動を感じたり、音が聞こえたりする場合がありますが、システムの作動音で異常ではありません。また、減速感を感じることがありますが、異常ではありません。

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、上り坂での発進を補助するシステムです。

ヒルスタートアシストについて

- 上り坂で発進するとき、ブレーキペダルからアクセルペダルへ踏み替える間に発生する車両の後退を防ぎます。
- セレクトレバーがP、N以外のとき、ブレーキペダルから足を離すと、約2秒間ブレーキ力を保持します。

⚠ 警告

- **ヒルスタートアシストの機能を過信しない。**
  凍結している路面や泥状の坂道では、車両がスリップして後退することがあります。特に安全運転に心がけてください。
- **坂道での駐停車にヒルスタートアシストを使用しない。**
  思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **停車するときは、ブレーキペダルを踏み続ける。**
  この装置は、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。駐車するときは確実にセレクトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけてください。

アドバイス

- セレクトレバーを操作した直後は、ブレーキを踏んだ状態で約1秒待ってから発進してください。セレクトレバーをPからDまたはNからDに操作した直後は、ヒルスタートアシストが作動しないことがあります。

次ページに続く

知識

- ヒルスタートアシストが作動しないときは、ブレーキシステム警告灯（黄色）(P.492)、VDC警告灯(P.494）のいずれかが点灯します。
- ヒルスタートアシストが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。
- 緩やかな坂道ではヒルスタートアシストが作動しない場合があります。

ダイレクトアダプティブステアリング

ダイレクトアダプティブステアリングは、車両の速度とハンドルの操舵量に応じて、ハンドルの操舵力と角度を制御するシステムです。
ドライブモードセレクターで、お好みの特性を選択することができます。

ダイレクトアダプティブステアリングについて

アドバイス

- ハイブリッドシステム始動中、パワーステアリング警告灯が点灯したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。このとき、ダイレクトアダプティブステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。
- 停車中または極低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけた状態を長く続けると、ダイレクトアダプティブステアリングシステムの過熱を防ぐためにシステムの働きを制限します。そのためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控えると、ダイレクトアダプティブステアリングシステムの温度が下がり、通常のハンドル操作力に戻ります。
  ダイレクトアダプティブステアリングシステムが過熱するようなハンドル操作を繰り返すと、ダイレクトアダプティブステアリングシステムが故障する原因となります。
- 指定のサイズではないタイヤまたはホイールを装着すると、ダイレクトアダプティブステアリングが正しく作動せず、パワーステアリング警告灯が点灯することがあります。
- 次の部品を純正品以外に交換したり改造すると、ダイレクトアダプティブステアリングが正しく作動せず、パワーステアリング警告灯が点灯することがあります。
  - ステアリング関連部品（ステアリングホイールなど）
  - サスペンション関連部品（ショックアブソーバー、ストラット、スプリング、ブッシュ類など）
  - タイヤ、ホイール（指定サイズ以外）
- パワーステアリング警告灯とVDC警告灯が同時に点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを一旦停止してから再始動してください。再始動してもパワーステアリング警告灯が点灯し続けるときは、すみやかに日産販売会社へご連絡ください。

次ページに続く

アドバイス

- ステアリングホイールまたはタイヤを取り外しているときは、パワースイッチをONにしないでください。
- パワースイッチがON以外のときは、ハンドルをいっぱいまで切らないでください。
- ステアリングホイールにアクセサリーを取り付けたり、ステアリングホイールを交換したりしないでください。

知識

- 2輪のシャシダイナモ測定などを行うと、パワーステアリング警告灯が点灯することがあります。この場合は、ハイブリッドシステムを一旦停止し、再始動してからしばらく走行すると消灯します。
- パワースイッチがONのときに比べると、OFFおよびアクセサリーのときのほうがハンドルの遊びが大きくなりますが、異常ではありません。
- ハイブリッドシステム始動直後、ハンドルがセンターからわずかにずれていることがありますが、異常ではありません。この場合、しばらく直進するとハンドルの位置は元に戻ります。
- パワースイッチがOFFまたはアクセサリーのとき、ハンドルをいっぱいまで切ると、パワースイッチをONにしたときハンドルが少し戻されますが、異常ではありません。
- 次の場合、直進中でもハンドルがまっすぐにならないことがありますが、システムの保護機構によるもので異常ではありません。
  - 12Vバッテリーがあがったとき
  - ハイブリッドシステムが停止したとき
  - シャシダイナモの上で走行しているとき

知識

– ハンドルをいっぱいまで切った状態から、さらに切り増そうとしたとき
– 前輪が障害物に当たっているとき
保護機構による制御が終了するか、ハイブリッドシステムを一旦停止し再始動してからしばらく走行すると、ハンドルの位置は元に戻ります。

● 次のような場合、ハンドル付近から音が聞こえますが異常ではありません。
– ハイブリッドシステムを始動または停止したとき
– ハンドルをいっぱいまで切ったとき

車両接近通報装置

車両接近通報装置は、低速走行中に車両が接近していることを音で歩行者に知らせるシステムです。

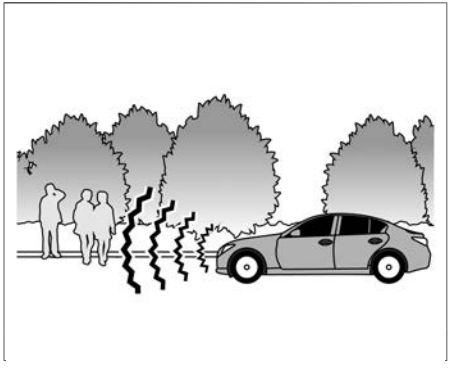
車両接近通報装置について

車両接近通報装置は、メーター内の走行可能表示灯が点灯しているとき、次の場合に作動します。

- 発進時、車速が30km/h以下のとき
- 減速時、車速が25km/h以下になったとき
- セレクトレバーがRのとき

車両接近通報装置の故障について

- システムに異常があると、メーター内の車両接近通報システム警告灯が点滅します。
  車両接近通報システム警告灯（➔P.499）



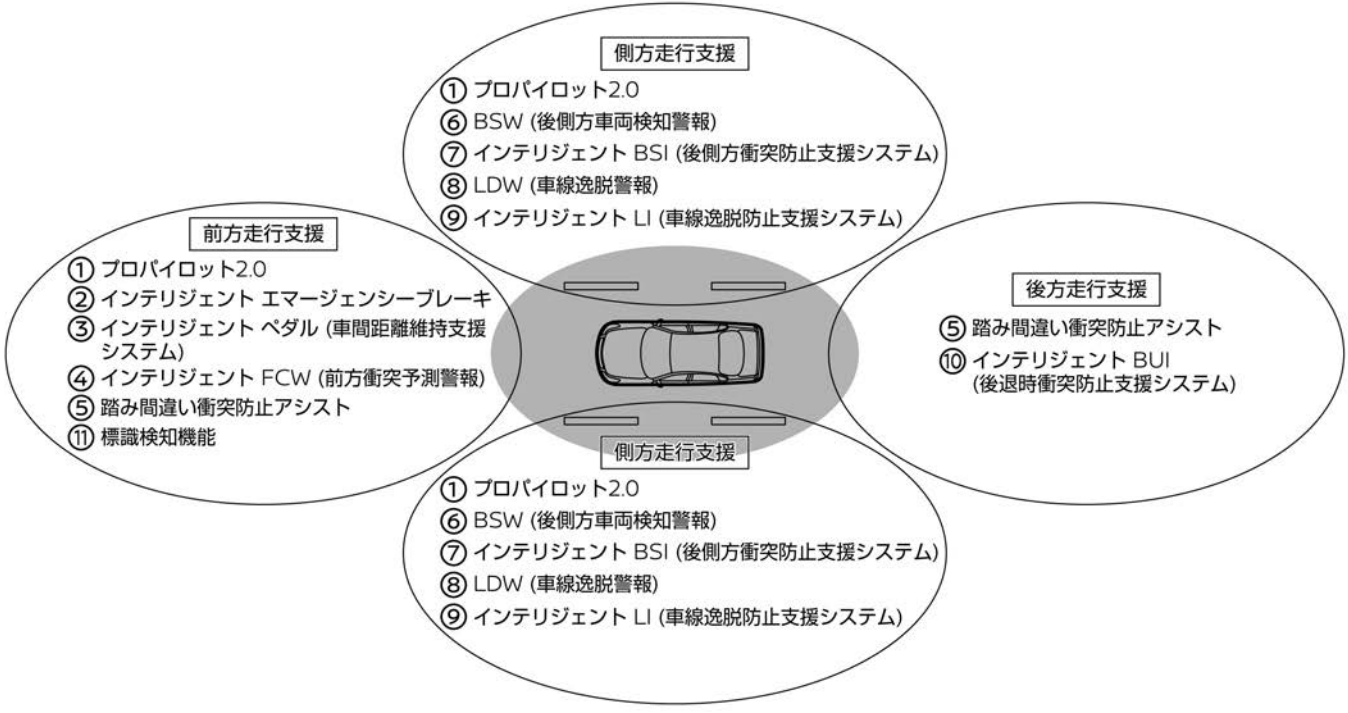
⚠ 警告

- **車両接近通報装置の音が聞こえないときは、日産販売会社で点検する。**
  車両接近通報装置の音が聞こえないときは、安全で静かな場所に停車し、音が聞こえるか確認してください。ブレーキペダルを確実に踏みながら、セレクトレバーをRにし、窓を開けて音が聞こえるか確認します。車両前方から音が聞こえないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

知識

- 車両接近通報装置の音を大きくしたい場合は、日産販売会社へご相談ください。音を小さくすることはできません。

走行支援システムについて



次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

① **プロパイロット2.0**
走行中、前方車両との車間距離を自動制御し、前方車両停車時は停車してその状態を保持します。また、走行車線内を走行するようにハンドルを自動制御することで運転操作の負担を減らします。（P.249）

② **インテリジェント エマージェンシーブレーキ**
前方の車両や歩行者と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。（P.335）

③ **インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）**
先行車との車間距離や相対速度に応じてブレーキを制御するとともに、アクセルペダルを踏んでいる場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させることで、運転者の車間距離維持操作を支援するシステムです。（P.413）

④ **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）**
前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。（P.407）

⑤ **踏み間違い衝突防止アシスト**
進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者（前進時のみ）などがいる場所で、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違えやブレーキ操作が遅れたとき、音と表示で警告し、さらに過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。（P.346）

⑥ **BSW（後側方車両検知警報）**
車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合には警報によって運転者に注意を促します。（P.368）

⑦ **インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）**
隣接車線に車両がいるときに運転者が車線変更を開始した場合、警報とともに車両をもとの車線内に戻す方向に力を発生し、隣接車両との接触を回避するよう支援します。（P.370）

⑧ **LDW（車線逸脱警報）**
運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。（P.385）

⑨ **インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）**
運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。（P.387）

⑩ **インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）**
後退時に後方の障害物や、後方を横切ろうとする車両に衝突するおそれがあるとき、警報と短時間のブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援するシステムです。（P.395）

⑪ **標識検知機能**
走行中に検知した進入禁止標識、および速度標識の情報をアドバンスドドライブアシストディスプレイとヘッドアップディスプレイ（速度標識のみ）に表示し、運転者にお知らせする機能です。（P.432）

プロパイロット2.0

プロパイロット2.0は、高速道路や自動車専用道路を運転者が設定した車速を上限に、先行車と車速に応じた車間距離を保ちながら、車線中央付近を走行するための運転操作や車線変更操作を支援します。またナビゲーションシステムで目的地を設定すると、ルート上の高速道路の出口までアクセル、ブレーキ、ステアリングを制御し支援します。

プロパイロット2.0 について

プロパイロット2.0のシステムには次の機能があります。

車速･車間制御機能

- 先行車を検出していない場合、運転者が設定した車速を維持するように制御します。
- 先行車を検出している場合、運転者が設定した車速を上限に、車速に応じた車間距離を保つように制御します。
- 前方にカーブがあるとき、カーブの大きさに応じて減速します。
- 標識検知機能により、検出した速度を設定車速にすることができます。

車速･車間制御機能について (P.264)

車線維持機能

- 車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。
- 運転者が常に前方に注意し、道路･交通･自車の状況に応じ、ただちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて、ハンドルから手を離すことが可能となります。

車線維持機能について (P.277)

車線変更支援機能

- 運転者が方向指示器を作動させるとステアリングを制御し、車線変更に必要なハンドル操作を支援します。

車線変更支援機能について (P.291)

⚠ 警告

- **プロパイロット2.0は自動で運転する装置ではありません。**
  運転者は常に周囲に注意し、道路･交通･自車の状況に応じハンドル、ブレーキ、アクセルを確実に操作し、安全な運転を行う責任があります。
- **車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方の車両が近づいてきても反応しません。**

アドバイス

- 3D高精度地図データを使用している機能をご利用になるには、別途ご契約が必要です。

3D高精度地図データについて (P.314)

次ページに続く

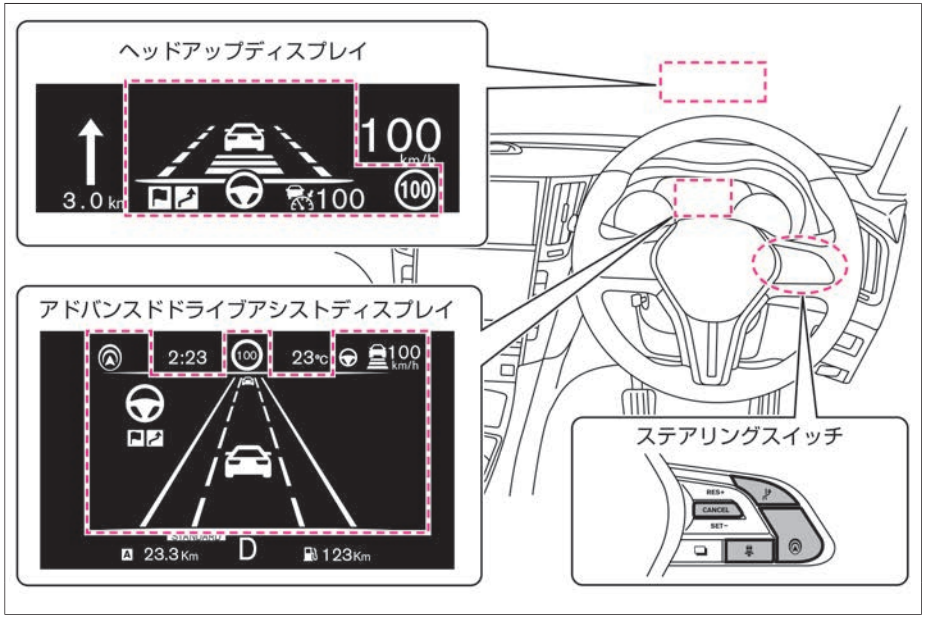
追い越し支援機能

- 設定車速よりも遅い車両を前方に検出すると、運転者に追い越しを提案します。
- 運転者がスイッチ を押すと、ステアリングを制御し追い越し操作を支援します。
  追い越し支援機能について (P.296)

ルート走行支援機能

- 運転者が目的地を設定している場合、ルートに従って走行するために必要な車線変更地点に到達すると、運転者に車線変更を提案します。
- 運転者がスイッチ を押すと、ステアリングを制御し、車線変更操作を支援します。
  ルート走行支援機能について (P.303)

システムに関連する表示とスイッチ



次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ステアリングスイッチ

① **プロパイロット2.0スイッチ**
プロパイロット2.0のON･OFFができます。

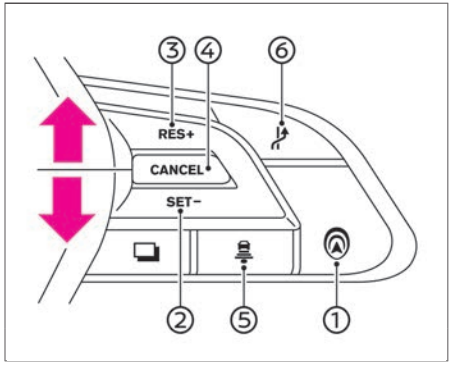
② **SET-スイッチ（下押し）**
プロパイロット2.0を開始できます。
設定車速を下げることができます。

③ **RES+スイッチ（上押し）**
プロパイロット2.0を解除後、解除前の設定車速で再び開始することができます。
設定車速を上げることができます。

④ **CANCELスイッチ**
プロパイロット2.0の解除ができます。

⑤ **車間設定スイッチ**
車間設定を「長」「中」「短」の3段階に切り替えることができます。

⑥ **車線変更支援スイッチ**
プロパイロット2.0が車線変更を運転者に提案したとき、車線変更の支援を開始できます。
車線変更の支援を中止することができます。



知識

- プロパイロット2.0スイッチを押すと、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）のON･OFFを同時に行います。
➔インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）について (P.370)
➔インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）について (P.387)
➔インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）について (P.413)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

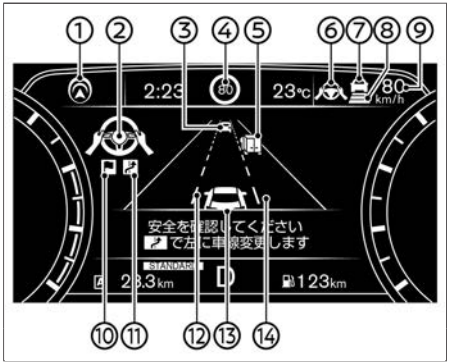
① **プロパイロット2.0作動灯**
プロパイロット2.0の状態を表示します。

② **ハンドル支援作動表示**
ハンドル支援の作動状態を表示します。
➔ 車線維持機能について (P.277)
➔ 車線変更支援機能について (P.291)
➔ 追い越し支援機能について (P.296)
➔ ルート走行支援機能について (P.303)

③ **先行車検出表示**
先行車検出の有無を表示します。乗用車、トラック、バイクを判別し表示します。

④ **速度標識表示**
標識検知機能で検出された速度標識を表示します。
➔ 標識検知機能について (P.433)

⑤ **周辺車両検出表示**
周辺車両検出の有無を表示します。乗用車、トラック、バイクを判別し表示します。

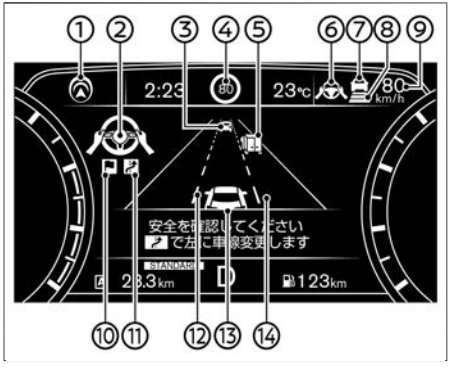


知識

- 車線変更支援が作動できないとき、車線変更支援作動灯 が灰色に点灯します。
- 車線変更支援が作動できないとき、周辺車両検出表示を行いません。
- 車線変更支援が作動できないとき、車線検出表示は白の実線になり、複数の車線を表示しません。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備



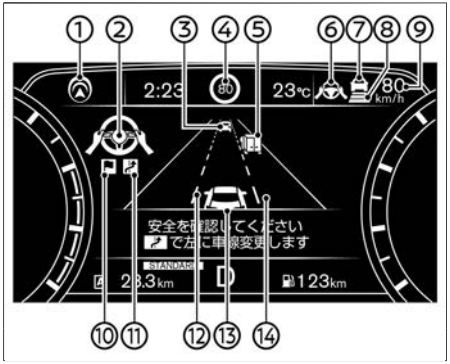
⑥ **ハンドル支援作動灯／警告灯**
ハンドル支援の状態を表示します。
➔ 車線維持機能について (P.277)
➔ 車線変更支援機能について (P.291)
➔ 追い越し支援機能について (P.296)
➔ ルート走行支援機能について (P.303)

⑦ **車速･車間制御作動灯／警告灯**
車速･車間制御の状態を表示します。
➔ 車速･車間制御機能について (P.264)

⑧ **車間設定表示**
車間設定を表示します。
➔ 車間距離設定の変更のしかた (P.271)

⑨ **設定車速表示**
設定車速を表示します。

⑩ **ナビ連動制御作動灯**
ナビ連動制御の状態を表示します。
➔ ルート走行支援機能について (P.303)



⑪ **車線変更支援作動灯**
車線変更支援の状態を表示します。
➔ 車線変更支援機能について (P.291)
➔ 追い越し支援機能について (P.296)
➔ ルート走行支援機能について (P.303)

⑫ **車線検出表示**
車線検出の有無を表示します。車線の種別を判別し表示します。

⑬ **自車表示**
制動灯や方向指示表示灯の状態を表示します。

⑭ **側方注意表示**
自車の側方に車両がいる場合、注意喚起します。

次ページに続く

ヘッドアップディスプレイ

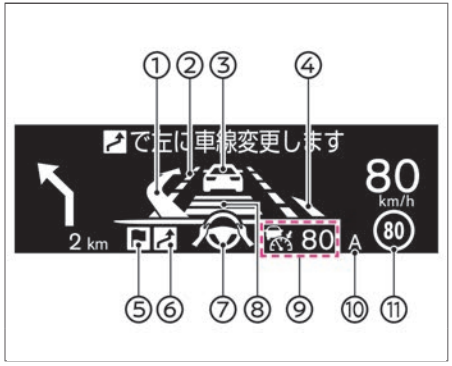
① **車線変更支援作動表示**
車線変更支援の提案、作動状態を表示します。
車線変更支援機能について (P.291)
追い越し支援機能について (P.296)
ルート走行支援機能について (P.303)

② **車線検出表示**
車線検出の有無を表示します。

③ **先行車検出表示**
先行車検出の有無を表示します。乗用車、トラック、バイクを判別し表示します。

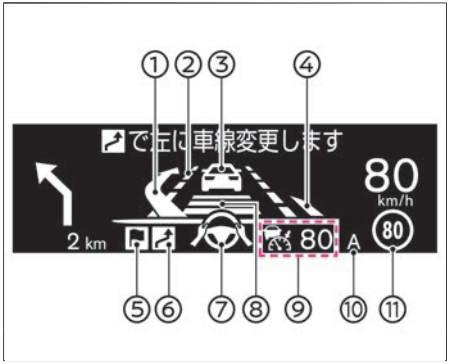
④ **側方注意表示**
自車の側方に車両がいる場合、注意喚起します。

⑤ **ナビ連動制御作動灯**
ナビ連動制御の状態を表示します。
ルート走行支援機能について (P.303)



知識

- 車線変更支援が作動できないとき、車線変更支援作動灯は白色で点灯します。
- 車線変更支援が作動できないとき、車線検出表示は白の実線になります。



⑥ **車線変更支援作動灯**
車線変更支援の状態を表示します。
➔ 車線変更支援機能について (P.291)
➔ 追い越し支援機能について (P.296)
➔ ルート走行支援機能について (P.303)

⑦ **ハンドル支援作動表示**
ハンドル支援の作動状態を表示します。
➔ 車線維持機能について (P.277)
➔ 車線変更支援機能について (P.291)
➔ 追い越し支援機能について (P.296)
➔ ルート走行支援機能について (P.303)

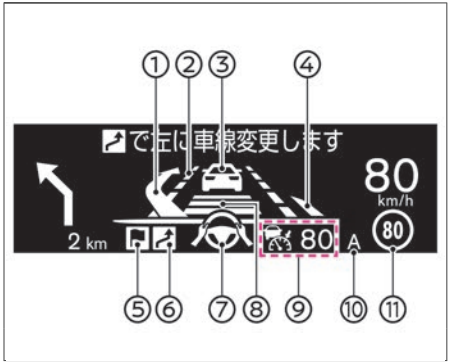
⑧ **車間設定表示**
車間設定を表示します。
➔ 車間距離設定の変更のしかた (P.271)

⑨ **設定車速表示**
設定車速を表示します。
（アイコンはプロパイロット2.0の作動状態を表示しています）

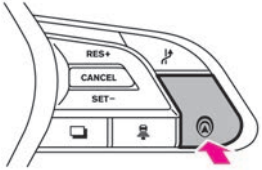
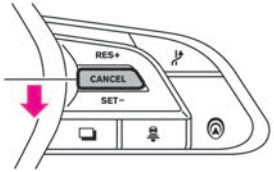
次ページに続く

⑩ **速度標識支援表示**
標識検知機能により検出した速度を設定車速に反映したとき表示します。
➔ 標識検知機能により新しい速度標識を検出したとき (P.267)

⑪ **速度標識表示**
標識検知機能で検出された速度標識を表示します。
➔ 標識検知機能について (P.433)



プロパイロット2.0の使いかた

1	プロパイロット2.0スイッチ を押します。（1.5秒未満） — プロパイロット2.0がONになります。	
2	設定したい速度まで加速または減速します。	
3	SET-スイッチ（下押し）を押します。 — 高速道路や自動車専用道路の本線を走行しているときは、標識検知機能で検出している速度が設定車速になり、プロパイロット2.0の作動が開始します。 — 高速道路や自動車専用道路の本線以外を走行しているときは、スイッチを押したときの速度が設定車速になり、プロパイロット2.0の作動が開始します。	

⚠ 警告

- **プロパイロット2.0は、高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。**
  一般道路での使用は思わぬ事故につながるおそれがありますので使用しないでください。
- **次のような状況では適切な制御ができず、思わぬ事故につながるおそれがありますので使用しないでください。**
  - 急カーブや曲がりくねった道を走行しているとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき
  - 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
  - 急な上り坂、下り坂を走行しているとき
  - 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき

次ページに続く

知識

- ハイブリッドシステムを停止すると、プロパイロット2.0は自動的にOFFになります。
- プロパイロットスイッチを約1.5秒押し続けると、定速制御機能に切り替わります。
- ナビゲーションシステムで次の設定がOFFの場合、定速制御機能に切り替えることができます。
  MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 前方支援 ⇒ インテリジェントペダル
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

プロパイロット2.0の作動表示

プロパイロット2.0は3つの作動状態を、プロパイロット2.0表示の色（青、緑、白）とハンドル支援作動表示で表示します。

プロパイロット2.0表示		プロパイロット2.0表示の色	説明
		青	車速･車間制御機能、車線維持機能が作動します。 ● 運転者が常に前方に注意し、道路･交通･自車の状況に応じただちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて、ハンドルから手を離すことが可能となります。
		緑	車速･車間制御機能、車線維持機能が作動します。 ● 運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。
	---	白	車速･車間制御機能が作動します。 ● 車線維持機能は作動しません。

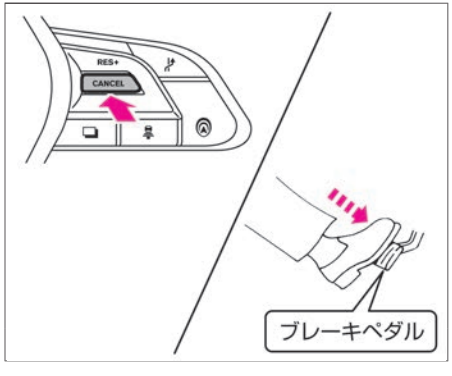
次ページに続く

プロパイロット2.0の解除のしかた

次のいずれかの操作でプロパイロット2.0が解除されます。

- CANCELスイッチを押す
- ブレーキペダルを踏む
  （車速･車間制御機能により、自車が停止しているときを除く）

解除前の設定車速で再び開始したいときは、RES＋スイッチ（上押し）を押します。



知識

- 車速･車間制御機能により自車が停止しているとき、システムを解除すると電動パーキングブレーキが作動します。

プロパイロット2.0に関する注意事項

⚠ 警告

- **プロパイロット2.0をOFFにせず降車しないでください。**
  降車する場合はプロパイロット2.0スイッチ を押してシステムをOFFにし、セレクトレバーを P に入れ、電動パーキングブレーキを作動させてください。
  ➔ 電動パーキングブレーキ (P.191)
- **次のような状況ではプロパイロット2.0は正しく機能しません。プロパイロット2.0を使用しないでください。**
  - タイヤの空気圧が適正ではないとき
  - 摩耗しているタイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
  - 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき
  - レーダー、カメラ、ソナーの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
  - 極端に重い荷物を積んでいるとき
  - けん引しているとき

次ページに続く

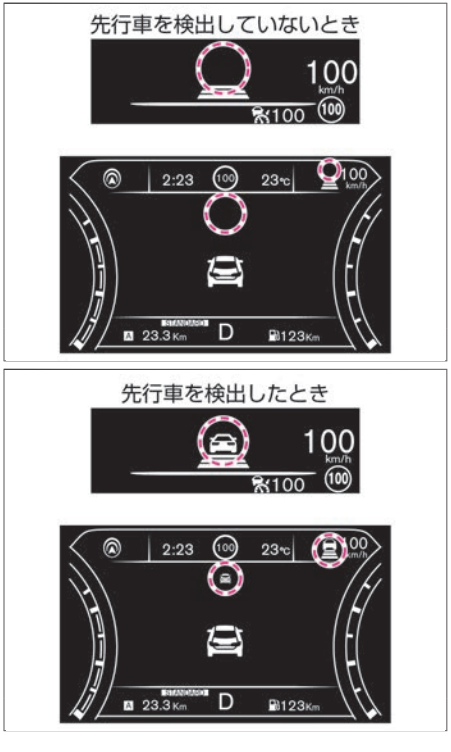
車速･車間制御機能について

先行車がいないとき

- 運転者が設定した車速を維持するように制御します。

先行車を検出したとき

- 先行車検出表示が点灯し、運転者が設定した車速を上限に、車速に応じた車間距離を保つように制御します。
- 先行車がいなくなると先行車検出表示が消灯し、運転者が設定した車速まで加速します。
- 車間設定スイッチ により、車間を設定することができます。
➔ 車間距離設定の変更のしかた (P.271)
- 車速･車間制御機能の制御によりブレーキが作動した場合、自車の制動灯が点灯します。

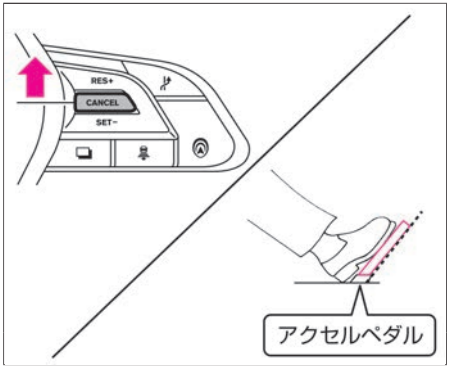


⚠ 警告

- **システムの性能には限界があります。**
  自車の前への急な割り込みや前方の車両が急ブレーキをかけたとき、見通しの悪いカーブの先に停止した車両が現れたとき、悪天候などでは適切な減速が行えず、前方の車両に接近することがあります。
  前方の車両との車間距離、周囲の状況に応じて自らアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。
- **歩行者や自転車、工事用のパイロンなどの車両以外のものに反応しません。**
  運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキやハンドルを操作してください。

先行車が停止したとき

- 高速道路や自動車専用道路の本線を車速･車間制御機能で走行中に先行車が停止した場合、先行車に続いて自車も停止し、約30秒間まで先行車に追従走行します。
- 約30秒を超えて停止した場合、「RES+発進します」とメッセージが表示され、停止した状態を保持します。
  先行車が発進した後、RES+スイッチ（上押し）を押す、またはアクセルペダルを踏むと、再び車速･車間制御機能による追従走行を開始します。



⚠ 警告

- **運転者は周囲の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルを操作してください。**
  車速･車間制御機能で停止した後、前方に車両が割り込んできた場合、位置や車両の向きによっては検出することができず、先行車が発進すると自車も動きだし割り込んできた車両に接近するおそれがあります。

知識

- 先行車が発進したとき、運転者が前を向いていないと判断した場合は音と表示で警告します。

- 次の場合は車速･車間制御機能により停止した後、追従走行しません。
  - 停止後、約30秒を経過したとき
  - 停止後、ブレーキペダルを踏んだとき
  - 3D高精度地図データのない道路で停止したとき

次ページに続く

カーブを走行するとき

- 前方にカーブがあるとき、カーブの大きさに応じて減速します。

知識

- 3D高精度地図データのない道路ではカーブの大きさに応じた減速をしません。
- ハンドル支援の設定をOFFにして走行するとき、次の条件をすべて満たす場合に前方のカーブの大きさに応じて減速します。
  - カーブ減速支援の設定がONのときナビゲーションシステムで次の操作をすると、カーブ減速支援のON･OFF設定を切り替えることができます。
    MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 前方支援 ⇒ カーブ減速支援
    詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
    ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
  - 車速･車間制御機能が作動しており、先行車を検出していないとき
  - ナビゲーションシステムによる目的地へのルートガイドを行っていて、そのルート上を走行しているとき

標識検知機能により新しい速度標識を検出したとき

- 標識検知機能により新しい速度標識を検出した場合、速度標識支援表示が点灯するとともに「設定車速が変更されました」と表示し、新しい速度を設定車速に反映します。
  標識検知機能について (P.433)
- RES+スイッチ（上押し）を押して、設定車速を標識検知機能が検出している速度よりも高い速度に設定した後では、新しい速度標識を検出しても設定車速を超えない場合は反映しません。

⚠ 警告

- **運転者は交通法規を遵守し、安全な速度で走行する責任があります。**
  運転者は走行している道路の制限速度を確認し、設定車速を適切に設定し、安全運転に心がけてください。
- **標識検知の性能には限界があります。**
  工事や悪天候などでの一時的な速度標識を検出できなかったり、走行している道路と並行な道路にある速度標識を誤って検出してしまうことがあります。

知識

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、標識検知機能により検出した速度を設定車速に反映しないようにすることができます。
  MENU ⇒ 運転支援 ⇒ インテリジェントクルーズコントロール ⇒ 制限速度支援
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法

次ページに続く

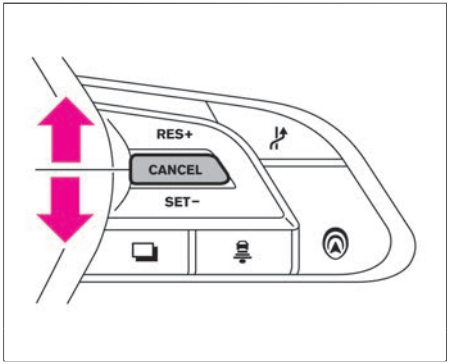
知識
は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

設定車速の変更のしかた

設定車速が5km/hきざみで変更できます。

- 設定車速を上げたいときは、RES+スイッチ（上押し）を押します。
- 設定車速を下げたいときは、SET-スイッチ（下押し）を押します。

スイッチを押し続けると設定車速が5km/hずつ連続して変わります。希望の速度でスイッチを離してください。



⚠ 注意

- **車間制御しているときは、先行車に合わせた車速に制御されるため、RES+スイッチ（上押し）を押して設定車速を上げても加速しません。**
  先行車がいなくなると設定車速まで加速します。設定車速は設定車速表示を確認しながら変更してください。

次ページに続く

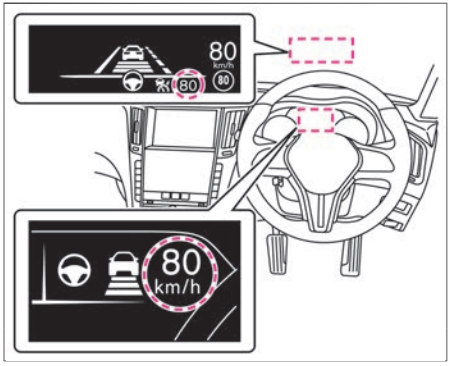
一時的に加速、減速をしたいとき

加速したいとき

- ハンドルを持ってアクセルペダルを踏むと加速します。
- アクセルペダルを踏んで加速したときなど、設定車速より実際の車速が高くなった場合は、設定車速表示が点滅します。
- アクセルペダルを離すと再び車速･車間制御を行います。

減速したいとき

- ブレーキペダルを踏むと減速します。（プロパイロット2.0は解除されます。）
- 解除前の設定車速で再び開始したいときは、RES+（上押し）を押します。



⚠ 警告

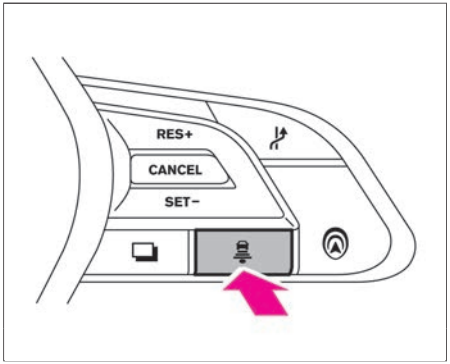
- **車速が約10km/h以上でプロパイロット2.0の表示が青色のとき、ハンドルを持たずにアクセルペダルを踏んだ場合は加速しません。**

⚠ 注意

- **アクセルペダルを操作して加速しているときは、ブレーキ制御、接近警報、カーブ警報を行いません。**
  通常、車間制御中は先行車の速度に合わせて自動的に加速、減速を行います。
  車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

車間距離設定の変更のしかた

- 先行車との車間距離を交通状況に応じて選ぶことができます。車速･車間制御機能が作動しているときに車間設定を切り替えることができます。
- 車間設定スイッチ を押すごとに「長」→「中」→「短」→「長」の順に切り替わります。



⚠ 警告

- **運転者は常に先行車と安全な距離を保って走行する責任があります。**
  車間制御に頼った運転をせず、状況に応じてアクセル、ブレーキを操作し、安全運転を心がけてください。

知識

- 車間距離は車速に応じて変わり、速度が高いほど長くなります。
- プロパイロット2.0をOFFにすると、車間設定は「長」に戻ります。

次ページに続く

● 車間距離は車速に応じて変わり、速度が高いほど長くなります。

車間設定	長	中	短
ヘッドアップディスプレイ			
アドバンスドドライブアシストディスプレイ			

車速・車間制御機能の解除のしかた

車速・車間制御機能の解除のしかたについては、プロパイロット2.0の解除のしかた（➔P.262）をお読みください。

車速・車間制御機能の自動解除

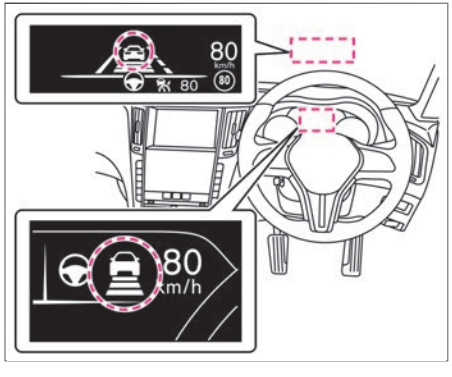
次の場合は、警告音とともに車速・車間制御機能が自動的に解除されます。

- 先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき
- 運転席、助手席、後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを解除したとき
- 車速・車間制御機能により自車が停止後、約3分が経過したとき
- セレクトレバーを D、またはマニュアルモード以外にしたとき
- 電動パーキングブレーキをかけたとき
- ドライブモードをSNOWにしたとき
- VDCをOFFにしたとき
- VDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき
- タイヤが空転したとき

次ページに続く

割り込み検知

- 自車に近い位置に他車が割り込んできたときは、“ポーン”という音とともにヘッドアップディスプレイの先行車検出表示と、アドバンスドドライブアシストディスプレイの車速･車間制御作動灯が点滅し、運転者にお知らせします。

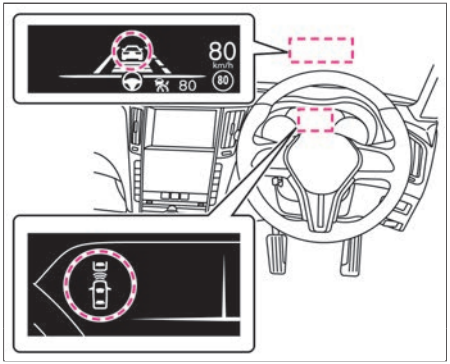


⚠ 警告

- **割り込み検知や接近警報、カーブ警報が頻繁に作動するような状況では適切な制御ができず、思わぬ事故につながるおそれがありますので、車速･車間制御機能を使用しないでください。**

接近警報

- 車間制御中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、“ピッ、ピッ、ピッ･･･”という警報音とともに接近警報表示と先行車検出表示がオレンジ色に点滅し、運転者に注意を促します。
- ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

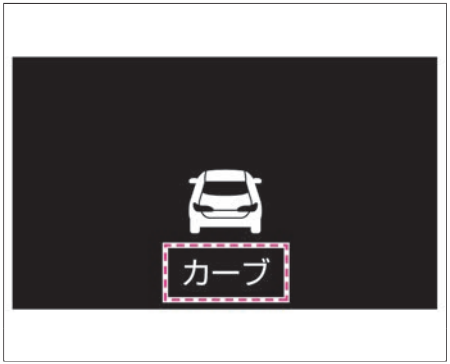


知識

- 短い車間距離でも、次の場合には接近警報が作動しないことがあります。
  - 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走行しているとき）
  - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）

カーブ警報

- 前方のカーブの大きさに応じた減速制御中に十分な減速ができないと判断したときは、“ピッ、ピッ、ピッ･･･”という警報音とともに「カーブ」と表示され、運転者に注意を促します。
  ブレーキを踏んで、適切な車速まで減速してください。



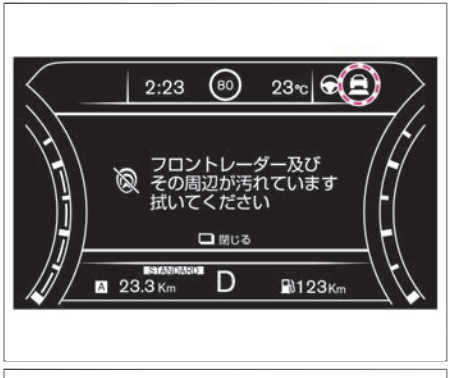
アドバイス

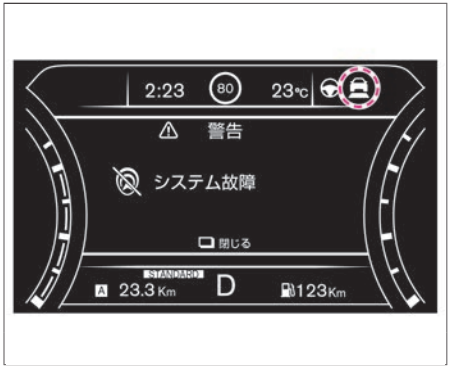
- ハンドル支援の設定をONにして走行するときは、カーブ警報を行いません。

次ページに続く

車速･車間制御機能に異常があるとき

- フロントレーダー部が汚れ先行車の検出が困難になったと判断すると、警告音とともに車速･車間制御警告灯（オレンジ）が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「フロントレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」と表示され、車速･車間制御機能は自動的に停止します。
プロパイロット2.0警告メッセージ (P.324)
- 車速･車間制御機能に異常があると、警告音とともに車速･車間制御警告灯（オレンジ）が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障」と表示され、車速･車間制御機能は自動的に停止します。
プロパイロット2.0警告メッセージ (P.324)





アドバイス

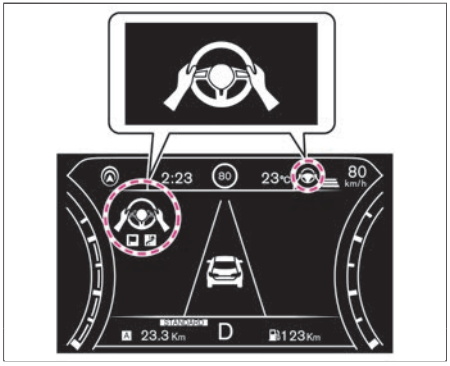
- フロントレーダー部の汚れにより警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、レーダー部の汚れを取り除いてからハイブリッドシステムを一旦停止して再始動してください。
レーダーセンサーの取り扱い (P.587)
- 異常により警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動してください。
上記の操作をしても警告灯が点灯し続けるときは、通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

車線維持機能について

車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。
次の条件を満たすとハンドル支援作動表示が緑色で点灯し、作動を開始します。（プロパイロット2.0の表示が緑色になります。）

- 車速･車間制御機能が作動しているとき
  車速･車間制御機能について (P.264)
- 両側のレーンマーカーを検出しているとき
- 運転者がハンドルを持っているとき
- 車線の中央付近を走行しているとき
- 方向指示器が作動していないとき
- ワイパーが高速で作動していないとき
- ナビゲーションシステムでハンドル支援がONのとき
  MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 車線中央維持支援 ⇒ ハンドル支援
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

レーンマーカーとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。



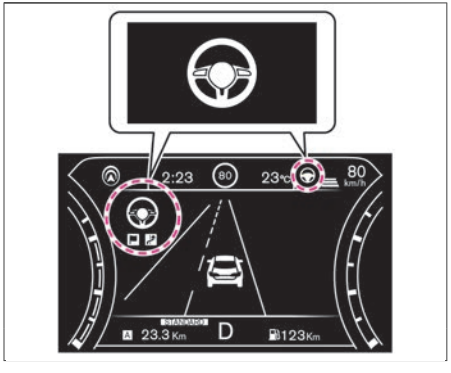
⚠ 警告

- **車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方の車両が近づいてきても反応しません。**

次ページに続く

3D高精度地図データのある高速道路、または自動車専用道路を走行しているとき、プロパイロット2.0の表示が青色になり、運転者が常に前方に注意し、道路･交通･自車の状況に応じ、ただちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて、ハンドルから手を離すことが可能となります。
ただし、次の場合は青色で点灯しません。

- 標識検知機能が検出している速度を超えて走行しているとき
- 近くに料金所、出口、合流、交差点、車線数が減少する地点があるとき
- GPS信号を受信していないとき
- 対向車線と分離されていない道路を走行するとき
- ワイパーが低速または高速で作動しているとき
- 運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断しているとき
- 運転者が前方を向いていないとき
- アクセルペダルを踏んで加速しているとき
- 接近警報が作動しているとき
- 車線逸脱警報が作動しているとき



アドバイス

- アドバンスドドライブアシストディスプレイに「一部のハンドル支援機能が作動できません」と表示された場合、ハンドル支援作動表示、プロパイロット2.0の表示は青色になりません。
プロパイロット2.0警告メッセージ (P.324)

知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

次の場合は、音とともにプロパイロット2.0の表示が青色から緑色になり、「ハンドルを持ってください」と表示されます。

- 走行している道路が高速道路、または自動車専用道路ではなくなったとき
- 3D高精度地図データがない区間に近づいたとき
- 標識検知機能により検出された速度を超えたとき
- 急カーブ、料金所、出口、合流、交差点、車線数が減少する地点に近づいたとき
- 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき
- 対面通行区間に近づいたとき
- トンネル内を走行しているとき
- GPS信号が受信できなくなったとき
- 分合流が続く区間を走行しているとき
- 車線幅の狭い道路を走行しているとき
- 工事区間など交通規制のある区間を検出したとき
- 運転者を検出できなくなったとき
- 運転者が前方を向いていない状態が継続したとき
- ワイパーが低速で作動しているとき
- 接近警報が作動したとき

次の場合は、音とともにプロパイロット2.0の表示が青色から緑色になり、ハンドル操作を要求する画面（赤）が表示されます。

- 3D高精度地図データと実際の道路が異なっていると判断したとき
- 車線逸脱警報が作動したとき

ハンドルを持ってアクセルペダルを踏むと、プロパイロット2.0の表示が青色から緑色になります。

⚠ 警告

- **プロパイロット2.0の表示が緑色に変わったときは、すみやかにハンドルを持ってください。**

知識

- ガードレールとガードレールの間があいているときなどでは、対向車線と分離されていない対面通行区間と判断し、プロパイロット2.0の表示が青色から緑色になり、「ハンドルを持ってください」と表示されることがあります。
- ワイパースイッチ位置がAUTOのとき、降雨量と車速に応じてワイパーが高速、または低速で作動することがあります。

次ページに続く

車線維持機能の解除

次の場合は、音とともにハンドル支援作動表示が消灯し、車線維持機能が解除されます。（プロパイロット2.0の表示が白色になります。）

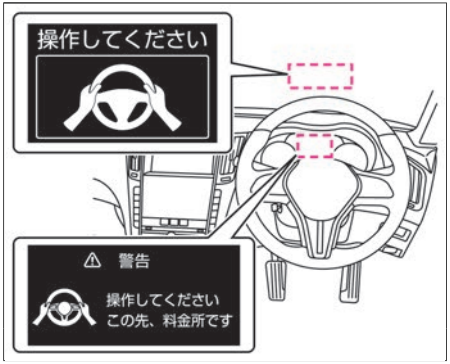
- 車速･車間制御機能が解除されたとき
  車速･車間制御機能について (P.264)
- レーンマーカーを検出しなくなったとき
- 料金所、出口、合流、交差点、車線数が減少する地点付近になったとき（3D高精度地図データがある道路を走行しているとき）
- 運転者がハンドル操作をしたとき
- 方向指示器を作動させたとき（プロパイロット2.0の表示が緑色のとき）
- ワイパーが高速で作動しているとき
- 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき
- 前方から強い光を受けたとき
- カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき

知識

- 3D高精度地図データがない道路の付近になると高速道路、または自動車専用道路の出口と判断し、解除します。
- ワイパースイッチ位置がAUTOのとき、降雨量と車速に応じてワイパーが高速、または低速で作動することがあります。
- ワイパーが高速で作動し、車線維持機能が解除された場合、一度プロパイロット2.0を解除しないと車線維持機能は開始できません。

料金所、合流、交差点などに近づいたとき

- プロパイロット2.0の表示が青色で走行しているとき、料金所、合流、交差点などに近づくとプロパイロット2.0の表示が緑色になります。
- プロパイロット2.0の表示が緑色になった後、さらに近づくと、音とともにハンドル操作を要求する画面（赤）が表示されます。
- 運転者がハンドルを操作すると、車線維持機能は解除されます。



アドバイス

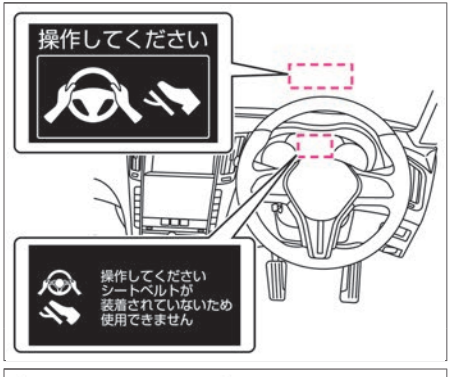
- 運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに「減速します」と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察·消防·医療機関）に救援要請を行います。
- 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

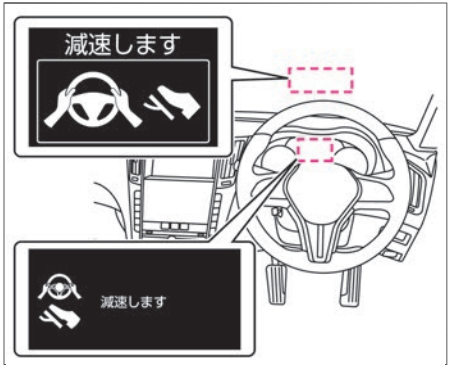
次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

プロパイロット2.0の表示が青色の場合に、システムが解除されたとき

- プロパイロット2.0が解除されると警告音とともにハンドル操作を要求する警告画面（赤）が表示されます。
- 運転者がハンドルを操作すると、車速・車間制御機能、車線維持機能は解除されます。





⚠ 警告

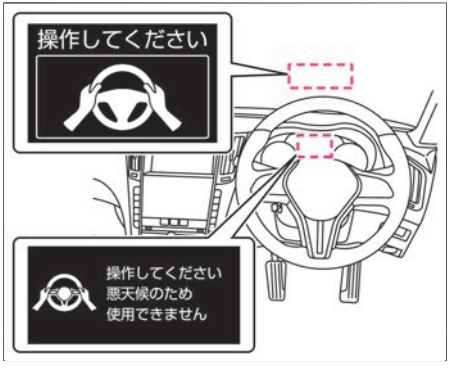
- **警告画面が表示されたときは、すみやかにハンドルを操作してください。**

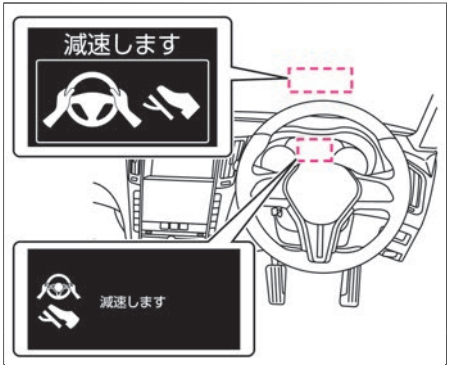
アドバイス

- 運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに「減速します」と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察·消防·医療機関）に救援要請を行います。
- 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

プロパイロット2.0の表示が青色の場合に、車線維持機能が解除されたとき

- 車線維持機能が解除されると警告音とともにハンドル操作を要求する警告画面（赤）が表示されます。
- 運転者がハンドルを操作すると、車線維持機能は解除されます。





⚠ 警告

- **警告画面が表示されたときは、すみやかにハンドルを操作してください。**

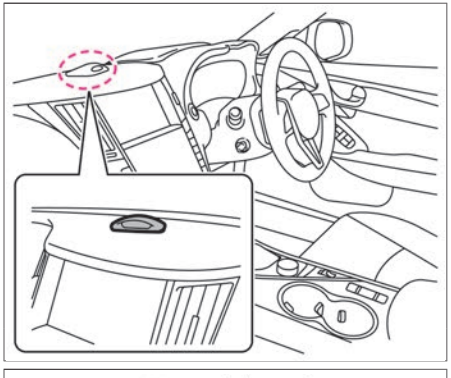
アドバイス

- 運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに「減速します」と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察·消防·医療機関）に救援要請を行います。
- 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

次ページに続く

運転者が前方の状況に注意していないと判断したとき

- ドライバーモニターカメラで運転者の顔の向きや眼の開閉状態をモニターしています。
- プロパイロット2.0の表示が青色のとき、運転者が前方の状況に注意していないと判断した場合、前方の状況に注意するよう音、表示により警告をします。
- 前方の状況に注意していない状態が継続した場合、運転者にハンドルを操作するよう音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 警告後、運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに「減速します」と表示され、車両を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察·消防·医療機関）に救援要請を行います。



⚠ 警告

- **運転者は常に前方に注意し、運転してください。**

アドバイス

- サングラス、マスク、眼帯、帽子、マフラーなどを着用している場合など目、鼻、口や顔の輪郭が隠れている場合、ドライバーモニターカメラは運転者を検知できないことがあります。
- 緊急警報音が作動し車両が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

警告表示		概要	対処
ヘッドアップディスプレイ	アドバンスドドライブアシストディスプレイ		
		● 運転者が前方の状況に注意していないと判断したときに表示します。 – 音、表示（赤）により警告します。	● 運転者は前を向き、常に前方の状況に注意して運転してください。 ● 運転者が前を向くと警告は消灯します。
		● 運転者が前方の状況に注意していない状態が継続したときに表示します。 – 音、表示（赤）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
		● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 – 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、プロパイロット2.0が解除されます。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき

- 車線維持機能が作動しているとき、運転者がハンドルを持っているまたは操作しているかをモニターしています。
- プロパイロット2.0の表示が緑色の場合に、運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断すると、運転者にハンドルを操作するよう表示により警告をします。
- 運転者がハンドルを操作しない場合には音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに「減速します」と表示され、車両を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察·消防·医療機関）に救援要請を行います。

⚠ 警告

- **プロパイロット2.0の表示が緑色のときは、必ずハンドルを持って運転してください。**

知識

- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  - 運転者が手袋を着用しているとき
  - ハンドルにカバーが取り付けられているとき
  - 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき
- 緊急警報音が作動し車両が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

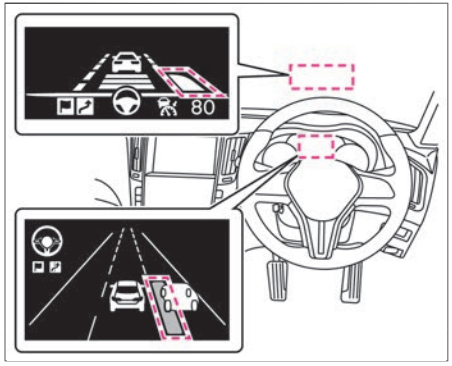
警告表示		概要	対処
ヘッドアップディスプレイ	アドバンスドドライブアシストディスプレイ		
		● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに表示します。 – 表示（赤）により警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
		● 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。 – 音、表示（赤）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
		● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 – 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、プロパイロット2.0が解除されます。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

側方注意検知

- プロパイロット2.0の表示が青色のとき、自車の側方に車両がいる場合、表示により注意喚起します。

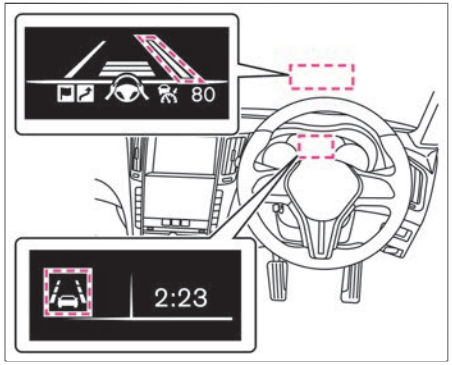


⚠ 警告

- **側方の車両が近づいてきても反応しません。**
  合流部、カーブを走行するとき、また大型車両が隣の車線を走行しているときは特に周辺車両に注意し、必要に応じてハンドル操作をしてください。

車線逸脱警報

- 車線維持機能が作動しているとき、走行車線の右側もしくは左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのLDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示と車線検出表示がオレンジ色に点滅し、運転者に注意を促します。
- プロパイロット2.0の表示が青色のときに、車線逸脱警報が作動した場合はさらに運転者にハンドルを操作するよう表示で警告します。



車線維持機能に異常があるとき

- 車線維持機能に異常があると、警告音とともにハンドル支援警告灯（オレンジ）が点灯し、車線維持機能は自動的に停止します。
プロパイロット2.0警告メッセージ (P.324)

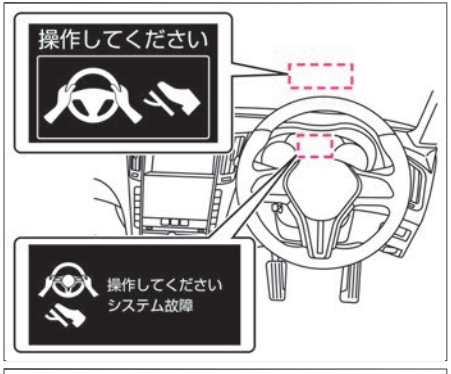
アドバイス

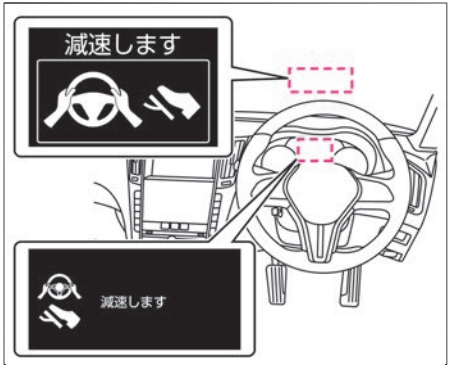
- 異常により警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動してください。
上記の操作をしても、警告灯が点灯し続ける場合、通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

プロパイロット2.0の表示が青色の場合に、システムに異常を検出したとき

- プロパイロット2.0に異常があると緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに「操作してください」「減速します」と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察･消防･医療機関）に救援要請を行います。





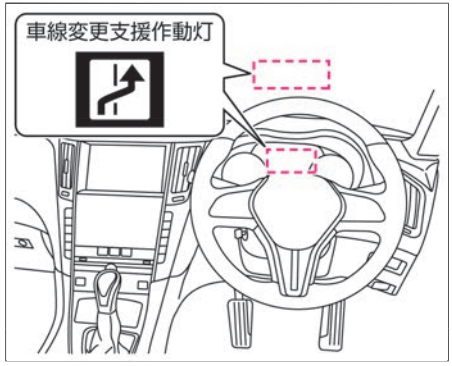
知識

- 緊急警報音が作動し自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

車線変更支援機能について

車線変更支援作動灯 が青色で点灯しているとき、運転者がハンドルを持ち目的の車線の方向へ方向指示器を作動させると、車線変更の支援を開始します。
次の条件を満たすとき、車線変更支援作動灯 が青色で点灯します。

- プロパイロット2.0の表示が青色のとき
- 車速が約60km/h以上で走行しているとき
- 2車線以上の道路を走行しているとき
- 目的の車線の方向のレーンマーカーが白の破線であるとき
- 直線または緩やかなカーブを走行しているとき
- 制限速度が70km/h以上の道路を走行しているとき



⚠ 警告

- **運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。**
  車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。
- **車線変更支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。**
  車線変更をするときは、必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

知識

- 新しい分岐や出口などができ、3D高精度地図データがまだ整備されていない区間を走行する場合は、「道路状況に注意してください（高精度地図メンテナンス区間）」と表示され、車線変更支援機能は作動しません。
- ナビゲーションシステムで次の設定がOFFの場合、車線変更支援作動灯 が青色で点灯していても、方向指示器の操作による車線変更支援機能は作動しません。

次ページに続く

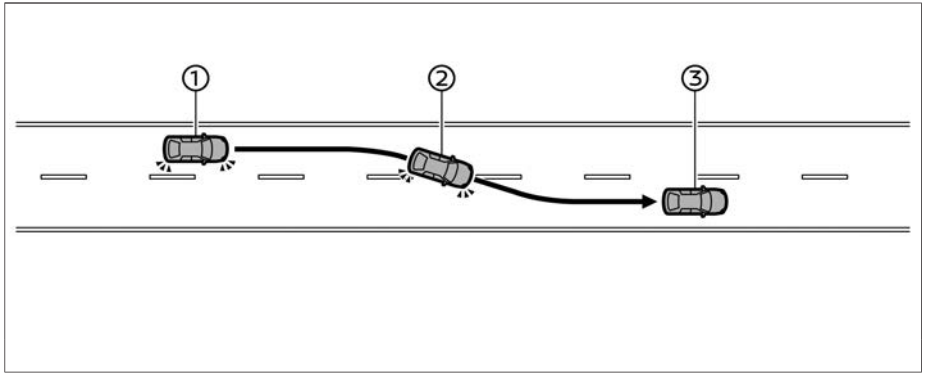
知識

MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 車線変更支援 ⇒ 方向指示器スイッチ連動
詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

- ナビゲーションシステムで車線変更支援のいずれかの設定がONのとき、車線変更支援作動灯が青色で点灯します。
  MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 車線変更支援 ⇒ ルート走行支援 / 方向指示器スイッチ連動 / 追い越し支援
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

車線変更支援機能の作動

① 目視により目的の車線の安全を確認し、ハンドルを持って方向指示器を操作し、目的の車線の方向指示器を作動させます。
② 車線変更支援作動表示が緑色で点滅し、その後ステアリング制御により目的の車線への移動を支援します。
③ 目的の車線へ移動が完了すると、方向指示表示灯は自動で消灯し、再び車線維持機能が作動します。



知識

- 車線変更の支援を開始すると、ヘッドアップディスプレイの車線変更支援作動表示が緑色で点滅します。

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

次ページに続く

車線変更支援機能の中止

次のいずれかの操作で、車線変更の支援を中止します。
（車線変更支援作動表示が消灯します）

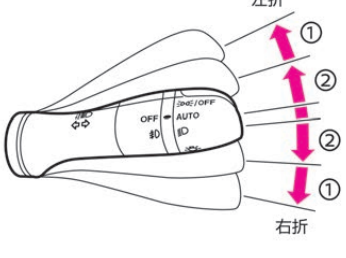
- 方向指示器を目的の方向とは反対方向の位置に操作したとき
- ハンドル操作をしたとき

次のような状況では、音とともに車線変更支援作動表示が消灯し、車線変更の支援を中止します。

- 目的の車線に車両を検出したとき
- レーンマーカーが検出できなくなったとき
- 車速が約60km/hを下回ったとき
- 運転者がハンドルを持っていないことを検出したとき
- 車速･車間制御機能が解除されたとき
  車速･車間制御機能について (P.264)

知識

- 車線変更の支援を開始した車線内で中止したときは、開始した車線の中央付近に戻る方向にステアリングを制御します
- 方向指示器の①の位置の操作で車線変更の支援を開始したときは、中止しても方向指示表示灯は消灯しません。
  ②の位置の操作で開始し、方向指示器が3回以上点灯した後で作動が中止したときは、作動の中止とともに方向指示表示灯は消灯します。



運転者がハンドルを持っていないと判断したとき

- 運転者がハンドルを持っている、または操作しているかモニターしています。
- 車線変更の支援をしているとき、運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断すると、運転者にハンドルを操作するよう表示により警告をします。
- 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しない場合には音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに「減速します」と表示され、自車を減速、緊急停止させます。

ヘッドアップディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

⚠ 警告

- **車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。**

アドバイス

- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  - 運転者が手袋を着用しているとき
  - ハンドルにカバーが取り付けられているとき
  - 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき

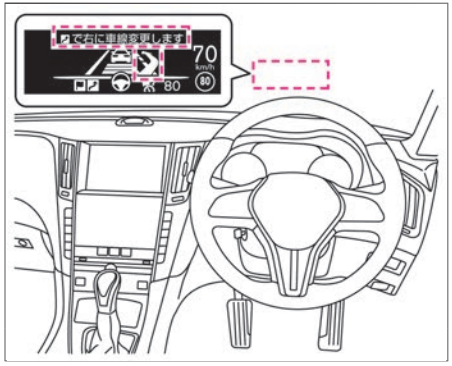
次ページに続く

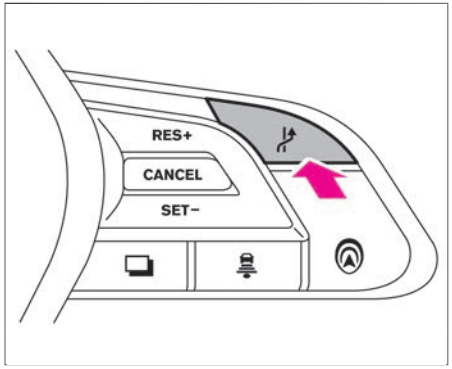
追い越し支援機能について

設定車速よりも遅い車両を前方に検出すると、表示により運転者に追い越しを提案します。運転者が車線変更支援スイッチ を押した場合、ステアリングを制御し追い越し操作を支援します。
次の条件を満たすと、運転者に追い越しを提案します。

- 車線変更支援作動灯 が青色のとき
- 設定車速よりも遅い車両を前方に検出したとき
- 右側の車線に車両がいないとき

運転者がハンドルを持ち車線変更支援スイッチ を押すと、ステアリングを制御し右側の車線への移動を支援します。





⚠ 警告

- **運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。**
  車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。
- **追い越し支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。**
  車線変更をするときは必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

知識

- ナビゲーションシステムで次の設定がOFFの場合、追い越し支援機能は車線変更の提案をしません。
  MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 車線変更支援 ⇒ 追い越し支援
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

次の条件を満たすと、運転者に左側の車線に移動を提案します。

- 車線変更支援作動灯 が青色のとき
- 左側の車線に車両がいないとき

運転者がハンドルを持ち車線変更支援スイッチ を押すと、追い越し支援機能により左側への車線変更支援を開始します。

知識

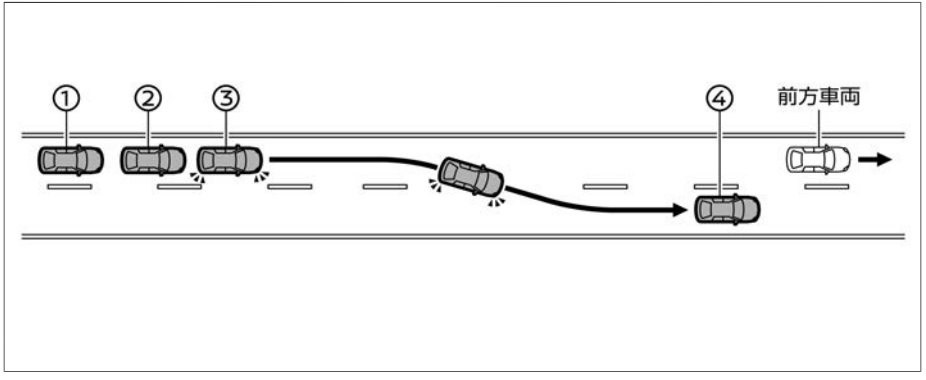
- 追い越し支援機能は周辺に車両がいない場合、左側の車線を走行するよう提案します。

次ページに続く

追い越し支援機能の作動

前方に遅い車両を検出したとき

① 前方に遅い車両を検出すると、ヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動表示が白色で点灯し、「 で右に車線変更します」と表示されます。
② 目視により右側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って車線変更支援スイッチ を押します。
③ 車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により右側の車線への移動を支援します。
④ 右側の車線へ移動が完了すると方向指示表示灯は消灯し、再び車線維持機能が作動します。

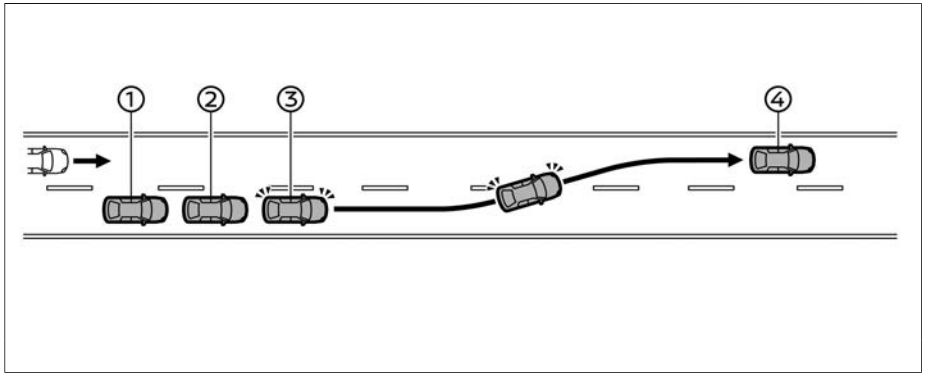


知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

追い越し支援機能により、遅い車両を追い抜いたとき

① 左側に車両がいないことを検出すると、ヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動表示が白色で点灯し、「 で左に車線変更します」と表示されます。
② 目視により左側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って車線変更支援スイッチ を押します。
③ 車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により左側の車線への移動を支援します。
④ 左側の車線へ移動が完了すると方向指示表示灯は消灯し、再び車線維持機能が作動します。



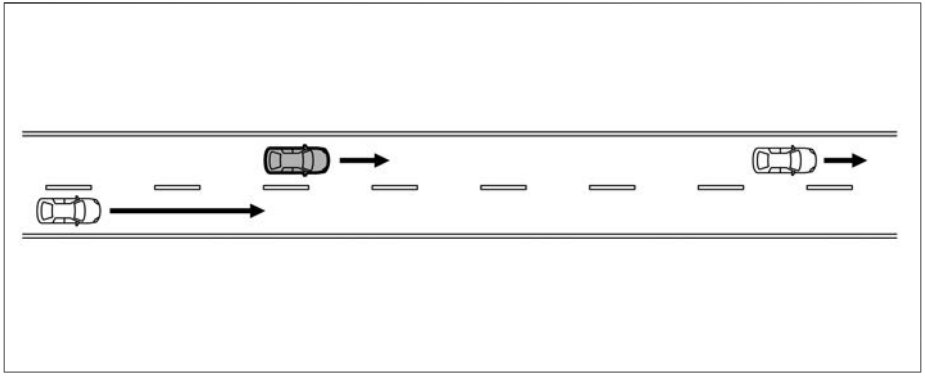
知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

次ページに続く

目的の車線に車両を検出している場合に、車線変更支援スイッチを押したとき

- 目的の車線に車両を検出している場合、車線変更支援スイッチ を押すと、車線変更支援作動表示が白色でアニメーション表示され、最大約10秒間、目的の車線の車線変更スペースの検出を行います。
- 目的の車線に車線変更のスペースを検出すると、車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により目的の車線への移動を支援します。



知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。
- 目的の車線に車両を検出しているときに車線変更支援スイッチ を押すと、車線変更支援作動表示が白色でアニメーション表示されます。

- 車線変更支援スイッチ を押した後、約10秒以内に車線変更スペースが検出できなかった場合、車線変更の支援を中止します。

追い越し支援機能の中止

次のいずれかの操作で、追い越し支援機能による車線変更の支援を中止します。

- 車線変更支援スイッチ を押したとき（長押し）
- 方向指示器を目的の方向とは反対方向の位置に操作したとき
- ハンドル操作をしたとき

追い越し支援機能が中止されると、車線変更支援作動表示が消灯します。

次のような状況では、音とともに車線変更支援表示が消灯し、追い越し支援機能による車線変更の支援を中止します。

- 車線変更支援スイッチ を押した後、約10秒以内に車線変更できるスペースを検出できなかったとき
- 方向指示器が作動した後、目的の車線に車両を検出したとき
- レーンマーカーが検出できなくなったとき
- 車速が約60km/hを下回ったとき
- 運転者がハンドルを持っていないことを検出したとき
- 車速･車間制御機能が解除されたとき

車速･車間制御機能について (P.264)

知識

- 車線変更の支援を開始した車線内で中止したときは、開始した車線の中央付近に戻る方向にステアリングを制御します。
- 追い越し支援機能による車線変更の支援が中止されたとき、方向指示表示灯は自動で消灯します。

次ページに続く

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき

- 運転者がハンドルを持っている、または操作しているかモニターしています。
- 車線変更の支援をしているとき、運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断すると、運転者にハンドルを操作するよう表示により警告をします。
- 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しない場合には音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに「減速します」と表示され、自車を減速、緊急停止させます。

⚠ 警告

- **車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。**

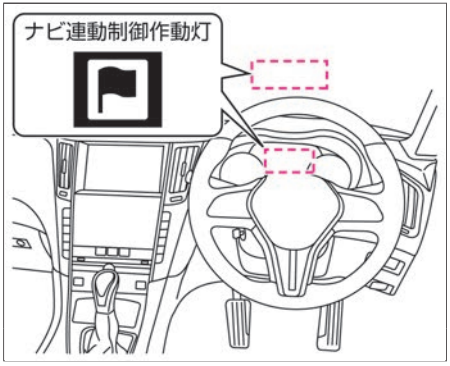
アドバイス

- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  - 運転者が手袋を着用しているとき
  - ハンドルにカバーが取り付けられているとき
  - 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき

ルート走行支援機能について

運転者がナビゲーションシステムで目的地を設定している場合、ナビゲーションのルートに従って走行するために必要な車線変更地点に到達すると、表示により運転者に車線変更を提案します。
運転者が車線変更支援スイッチ を押した場合、ステアリングを制御し車線変更の操作を支援します。

- ナビゲーションシステムで目的地を設定し、自動車専用道路本線をプロパイロット2.0で走行すると、ナビ連動制御作動灯 が点灯します。
- ナビ連動制御作動灯 が点灯しているときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「ナビ連動制御中」と表示されます。

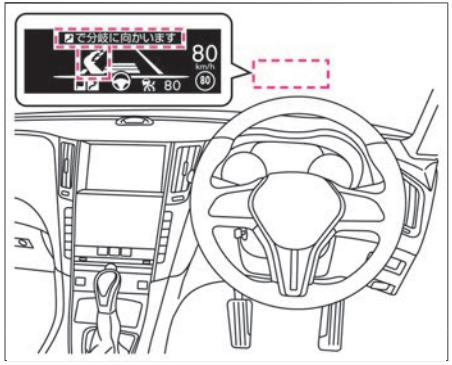


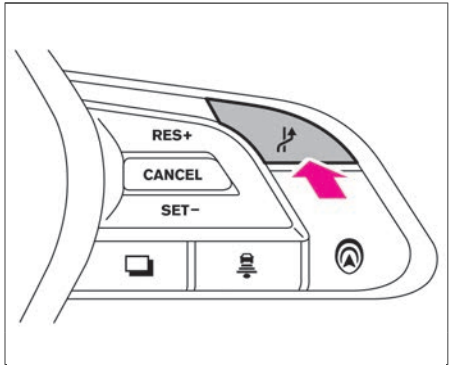
⚠ 警告

- **運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。**
  車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。
- **ルート走行支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。**
  車線変更をするときは必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

次ページに続く

- 車線変更支援作動灯 が青色であるとき、出口･分岐路または、車線数が減少する地点に近づくと、表示により運転者に車線変更を提案します。
- 運転者がハンドルを持ち、車線変更支援スイッチ を押すと、ルート走行支援機能による車線変更支援を開始します。





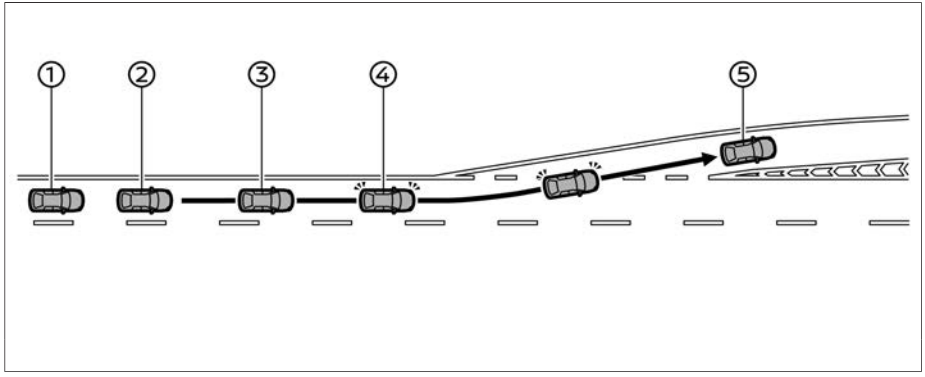
知識

- ナビ連動制御作動灯 が青色で点灯している場合でも、車線変更支援作動灯 が青色で点灯していないときは、ルート走行支援機能による車線変更の提案をしません。
- ナビゲーションシステムで次の設定がOFFの場合、ルート走行支援機能は車線変更の提案をしません。
  MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 車線変更支援 ⇒ ルート走行支援
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

ルート走行支援機能の作動

第1走行車線を走行し、左側の出口･分岐路に進むとき

① ナビゲーションのルート上にある出口･分岐路に近づくと、音とともにヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動表示が白色で点灯し、「まもなく、分岐を左方向です 安全を確認してください で分岐路に進みます」と表示されます。
② 目視により左側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って車線変更支援スイッチ を押します。
③ 車線変更支援作動表示が白色のアニメーション表示になります。
④ 出口･分岐路手前で、車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により出口･分岐路への移動を支援します。
⑤ 出口･分岐路への移動が完了すると方向指示表示灯は自動で消灯し、再び車線維持機能が作動します。



⚠ 警告

- **出口･分岐路に停止車両がいる場合など、ルート走行支援機能による出口･分岐路への移動を支援できないことがあります。**
  運転者は常に周囲の状況を確認し、状況に応じて自らハンドルを操作し、出口･分岐路に進んでください。

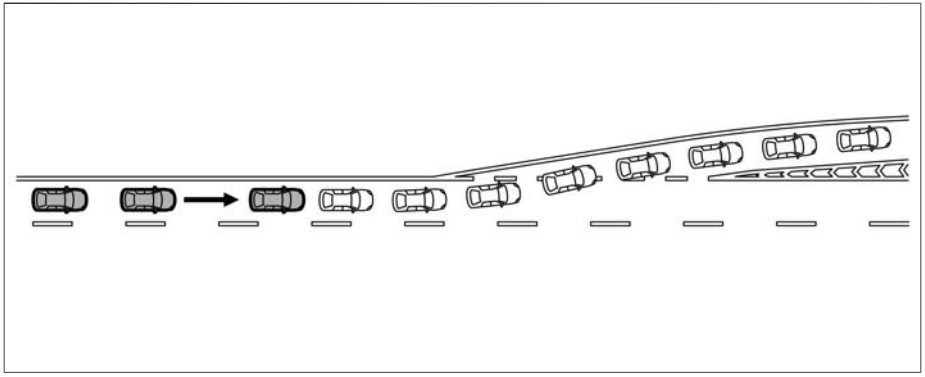
知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。
- 出口･分岐路に進まず通過する場合は、車線変更支援スイッチ を押さないでください。
  出口･分岐路手前で車線変更支援作動表示が消灯し、ルート走行支援機能が解除されます。ナビゲーションにより新しいルートが設定され、再び作動条件が成立するとルート走行支援機能の作動を再開します。

次ページに続く

第1走行車線を走行し、出口･分岐路に進むとき（出口･分岐路が渋滞している場合）

- 車線変更支援スイッチ を押して、ルート走行支援機能の作動が開始した後、車速が約60km/hを下回ると、音とともに車線変更支援作動表示が消灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「車線変更支援を中止しました」と表示され、出口･分岐路への移動の支援を中止します。

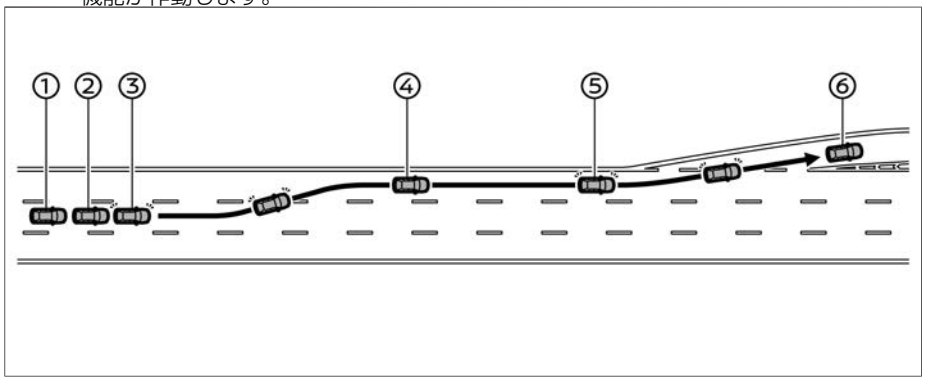


知識

- 出口･分岐路への移動の支援が中止された後、再び条件が成立すると、運転者にルートに従って走行するために車線変更を提案します。

第2走行車線を走行し、左側の出口･分岐路に進むとき

① ナビゲーションのルート上にある出口･分岐路に近づくと、音とともにヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動表示が白色で点灯し、「この先、分岐を左方向です 安全を確認してください で分岐に向かいます」と表示されます。
② 目視により左側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って車線変更支援スイッチ を押します。
③ 車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により第1走行車線への移動を支援します。
④ 第1走行車線への移動が完了すると、自動で方向指示表示灯は消灯し、車線変更支援作動表示が白色のアニメーション表示になります。
⑤ 出口･分岐路手前で車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により出口･分岐路への移動を支援します。
⑥ 出口･分岐路への移動が完了すると方向指示表示灯は自動で消灯し、再び車線維持機能が作動します。



⚠ 警告

- **出口･分岐路に停止車両がいる場合など、ルート走行支援機能による出口･分岐路への移動を支援できないことがあります。**
  運転者は常に周囲の状況を確認し、状況に応じて自らハンドルを操作し、出口･分岐路に進んでください。

知識

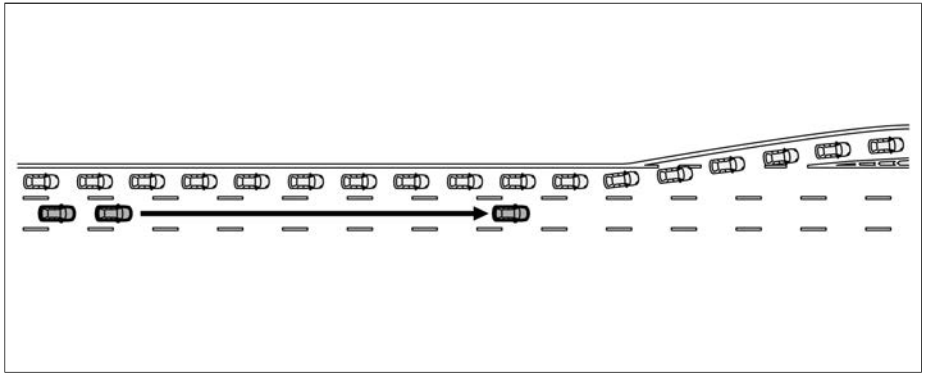
- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。
- ルート走行支援機能により第1走行車線に移動し、出口･分岐路までの距離がある場合、条件が成立するとプロパイロット2.0の表示が青色になることがあります。
- ナビゲーションシステムの設定で連続した車線変更操作の支援をせず、1車線毎の車線変更操作の支援にすることができます。
  MENU ⇒ 運転支援 ⇒ ドライビングスタイル ⇒ ルート走行支援モード
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法

次ページに続く

知識
は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

第2走行車線を走行し、出口･分岐路に進むとき（第1走行車線が渋滞している場合）

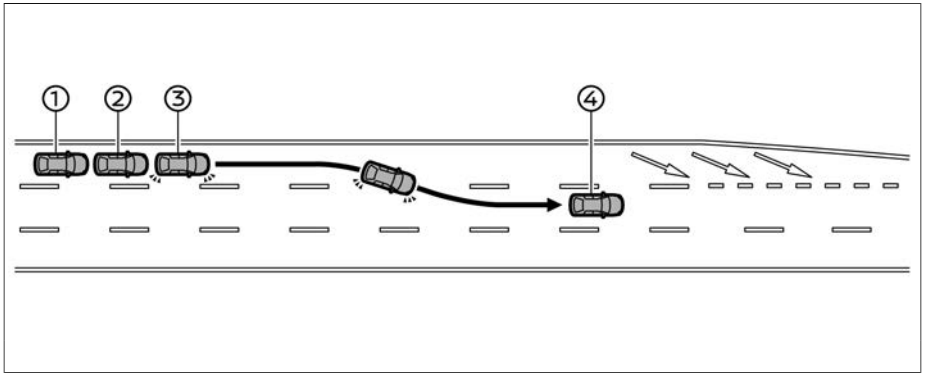
- 出口･分岐路の方向の車線変更に必要なスペースを検出できずに出口･分岐路に近づいてしまった場合、音とともに車線変更支援作動表示が消灯し、「車線変更支援を中止しました」と表示され、出口･分岐路への移動の支援を中止します。運転者は周囲の交通状況に応じて進路を決め、自ら方向指示器とハンドルを操作してください。



次ページに続く

走行している車線がなくなるとき

① ナビゲーションのルート上を走行し、走行している車線がなくなるとき、音とともにヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動表示が白色で点灯し、「この先、車線減少 安全を確認してください で右に車線変更します」と表示されます。
② 目視により右側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って車線変更支援スイッチ を押します。
③ 車線変更支援作動表示が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により右側の車線への移動を支援します。
④ 右側の車線への移動が完了すると方向指示表示灯は自動で消灯し、再び車線維持機能が作動します。



知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

ルート走行支援機能の中止

次のいずれかの操作で、ルート走行支援機能による車線変更の支援を中止します。

- 車線変更支援スイッチ を押したとき（長押し）
- 方向指示器を目的の方向とは反対方向の位置に操作したとき
- ハンドル操作をしたとき

ルート走行支援機能が中止されると、車線変更支援作動表示が消灯します。

次のような状況では、音とともに車線変更支援表示が消灯し、ルート走行支援機能の作動を中止します。

- 車線変更支援スイッチ を押した後、車線変更できるスペースを検出できずに出口・分岐路、または車線数が減少する地点に近づいてしまったとき
- 方向指示器が作動した後、目的の車線に車両を検出したとき
- 車速が約60km/hを下回ったとき
- レーンマーカーが検出できなくなったとき
- 運転者がハンドルを持っていないことを検出したとき
- 車速・車間制御機能が解除されたとき

車速・車間制御機能について (P.264)

知識

- 車線変更の支援を開始した車線内で中止したときは、開始した車線の中央付近に戻る方向にステアリングを制御します。
- ルート走行支援機能による車線変更の支援が中止されたとき、方向指示表示灯は自動で消灯します。

次ページに続く

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき

- 運転者がハンドルを持っている、または操作しているかモニターしています。
- 車線変更の支援をしているとき、運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断すると、運転者にハンドルを操作するよう表示により警告をします。
- 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しない場合には音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに「減速します」と表示され、自車を減速、緊急停止させます。

⚠ 警告

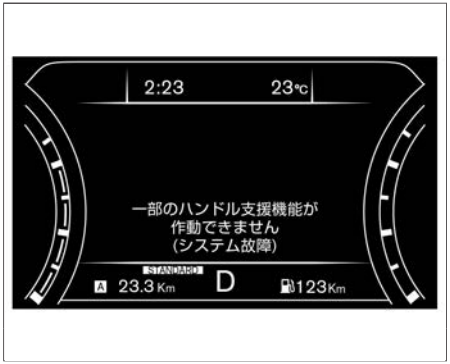
- **車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。**

アドバイス

- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  - 運転者が手袋を着用しているとき
  - ハンドルにカバーが取り付けられているとき
  - 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき

車線変更支援機能に異常があるとき

- 車線変更支援機能に異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「一部のハンドル支援機能が作動できません（システム故障）」と表示されます。
プロパイロット2.0警告メッセージ (P.324)



アドバイス

- 車線維持機能が作動していないときは、車線変更支援機能の異常によるメッセージは表示されません。
- 異常によりメッセージが表示されたときは、安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動した後でプロパイロット2.0の作動を開始してください。
上記の操作をしても、メッセージが表示されるときは、通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

3D高精度地図データについて

プロパイロット2.0は3D高精度地図データを使用しており、利用するためには別途ご契約が必要です。契約内容や契約のしかた、契約の解除のしかた、3D高精度地図データの整備状況については日産販売会社にお問い合わせください。
ご契約がされている場合、ハイブリッドシステムをONにすると3D高精度地図データの新しいデータがあれば自動で更新が行われます。ご契約をしていない、または解除した場合、3D高精度地図データを利用している機能が制限され次の状態になります。

- 車線維持支援機能が作動しているとき、プロパイロット2.0の表示が青色にならず、ハンドルから手を離すことが可能な状態になりません。
- 車線変更支援機能が作動しません。
- 追い越し支援機能が作動しません。
- ルート走行支援機能が作動しません。
- 速度標識検知機能が作動せず、速度標識の速度を設定車速に反映しません。
- カーブの大きさに応じた減速を行いません。
- 車速･車間制御機能で先行車に続いて停止した後、追従走行をしません。（先行車が発進した後、RES+スイッチ（上押）を押す、またはアクセルペダルを踏むと、再び車速･車間制御機能による追従走行を開始します。）

知識

- 3D高精度地図データを利用するための契約がされていない場合にプロパイロット2.0のシステムを使用すると、「一部のハンドル支援機能が制限されています（高精度地図ライセンス切れ）」と表示されます。

車両データの記録･蓄積について

プロパイロット2.0は下記の車両データを車両内のコントローラー、およびデータ記録用のサーバーに記録･蓄積する機能を備えています。

- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 運転者の顔の向き、眼の開閉状態などの検知状況
- プロパイロット2.0の作動状況
- 先行車両や周囲車両、レーンマーカー、道路構造の情報
- 車速、GPSなどの車両情報
- カメラの画像情報（SRSエアバッグ、インテリジェント エマージェンシーブレーキ作動時）

知識

- 会話などの音声やドライバーモニターカメラの画像情報は記録しません。

データの扱いについて

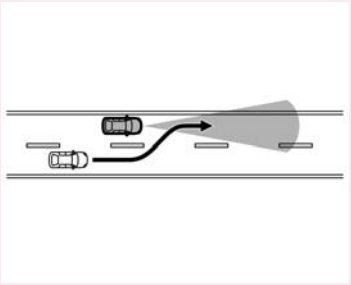
- 日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、記録･蓄積されたデータを日産自動車の車両の向上を目的として、取得･利用することがあります。
  なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示･提供することはありません。
  - 車両の使用者の同意がある場合
  - 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
  - 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

次ページに続く

プロパイロット2.0に関する注意事項

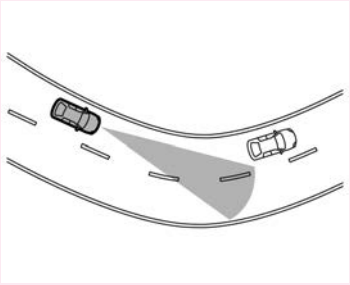
⚠ 警告

- **プロパイロット2.0は次のような障害物に反応しません。**
  - 歩行者、動物など
  - 落下物
  - 工事などで設置されるパイロンなど
- **次のような状況では先行車の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキやハンドルを操作してください。**
  - 前方に急な割り込みがあったとき

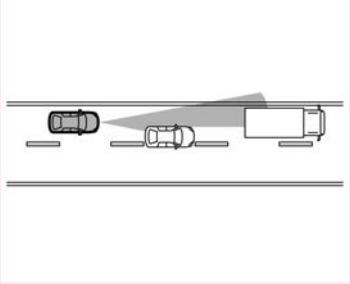


⚠ 警告

– 見通しの悪いカーブを走行しているとき



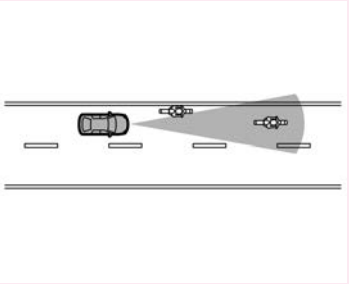
– 前方の車両が車線変更した後で、さらに前方に停止中の車両や自車速よりも極端に遅い車両がいたとき



次ページに続く

⚠ 警告

– 前方に車線の端を走行する二輪車がいるとき



– フロントレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
– 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
– 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
– 後席シートやトランクルームに極端に重い荷物を積んだとき

- **カーブを走行しているときや車線変更を行っているときなど、道路形状や自車の状況によっては、隣の車線の車両や周辺のものを検出して減速したり、警報が作動したりする場合があります。**
- **高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどに進入する（本線から出る）とき本線上で車速･車間制御機能により設定車速よりも遅い車速で走行する先行車に追従走行している場合には、自車または先行車の車線変更などで、自車線上に先行車を検出しなくなることにより設定車速まで自動的に加速するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

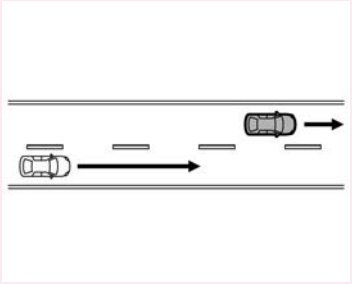
⚠ 警告

- **次のような状況では正しくレーンマーカーの検出ができず車線維持機能、車線変更支援機能が使用できないことがあります。**
  - レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき
  - レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき
  - レーンマーカーが多重に描かれているとき
  - 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき
  - 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき
  - 料金所や交差点手前などでレーンマーカーが大きく変化しているとき
  - 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - 停止禁止部分、または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
  - 出口路、分岐路など車線数が増えるとき
  - 濡れているまたは水たまりのある路面を走行しているとき
  - 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスが曇っているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - トンネルの出入り口や日陰など急に明るさの変化が起こったとき
  - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
  - 後席シートやトランクルームに極端に重い荷物を積んでいるとき

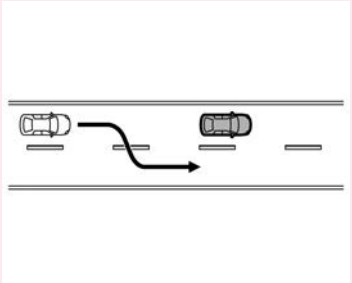
次ページに続く

⚠ 警告

- **次のような状況では隣の車線の車両の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に周囲の状況に注意し、必要に応じてハンドルを操作してください。**
  - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両が走行しているとき
  - 後方から速い速度で接近してくる車両が走行しているとき



  - 後方から近づいてくる車両が車線変更などにより隣の車線に移動したとき

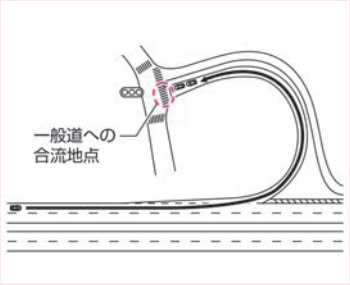


⚠ 警告

– サイドレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
– 自車や周囲の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
– 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
– 後席シートやトランクルームに極端に重い荷物を積んだとき

● **次のような場合はルート走行支援機能は適切に作動できません。**

– 出口･分岐路の距離が極端に短いとき



– 登坂路の先に出口･分岐路があるとき
– 出口･分岐路付近で複数回、車線変更が必要な道路を走行するとき

次ページに続く

⚠ 注意

- **次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。**
  - 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき
  - 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき
  - サングラス、マスク、眼帯、帽子、マフラーなどを着用している場合など目、鼻、口や顔の輪郭が隠れているとき
  - 顔とシステムとの間に遮る物があるとき
  - ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき
  - 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき
  - 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしているとき
- **フロントレーダー、サイドレーダーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**
  状況によってはレーダーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。
  このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に周囲に注意して走行してください。またフロントレーダー、サイドレーダーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。
  ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.587)
- **フロントカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**
  状況によってはフロントカメラが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

⚠ 注意

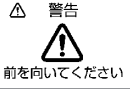
このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。またフロントカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。
➔ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.588)

- **状況によっては外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

次ページに続く

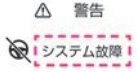
プロパイロット2.0警告メッセージ

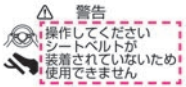
警告メッセージが表示されたときは、次の「説明･対処方法」に従ってください。メーター内の表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

ヘッドアップディスプレイ	アドバンスドドライブアシストディスプレイ	表示する条件	説明･対処方法
		● 運転者が前方の状況に注意していないと判断したとき	● 運転者は前を向き、常に前方の状況に注意して運転してください。 ● 運転者が前を向くと警告は消灯します。
		● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないとき ● 3D高精度地図データと実際の道路が異なっていると判断したとき ● 車線逸脱警報が作動したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
		● 運転者が前方の状況に注意していない状態が継続したとき ● 運転者にハンドル操作を要求するとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
		● 運転者のハンドル操作がないため、自車を減速、緊急停止させるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、プロパイロット2.0が解除されます。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	システム故障	● プロパイロット2.0に異常があるとき	● 安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	フロントレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● 安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動してください。 ➔レーダーセンサーの取り扱い (P.587)
	シートベルトが 装着されていないため 使用できません	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合は、プロパイロット2.0は使用することができません。
	パーキングブレーキが 作動しているため 現在使用できません	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときは、プロパイロット2.0は使用することができません。

次ページに続く

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	滑りやすい路面のため 現在使用できません	● VDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき ● タイヤが空転したとき	● VDC／TCSが作動する、またはタイヤが空転するような状況では、プロパイロット2.0は使用できません。
	作動範囲外のため 現在使用できません	● ドライブモードをSNOWにしたとき ● VDCをOFFにしたとき	● ドライブモードがSNOW、またはVDCがOFFの場合は、プロパイロット2.0は使用できません。
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	システム故障	● 車線維持機能に異常があるとき	● 安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	悪天候のため 現在使用できません	● ワイパーが高速で作動しているとき	● 状況が改善すると、車線維持機能を使用することができます。
	カメラが認識できないため 現在使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光を受けたとき	● 状況が改善すると、車線維持機能を使用することができます。
	カメラが高温のため 現在使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 状況が改善すると、車線維持機能を使用することができます。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	操作してください システム故障	● プロパイロット2.0に異常があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	操作してください フロントレーダーが 汚れているため 使用できません	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動してください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.587)
	操作してください サイドレーダーが 汚れているため 使用できません	● 車両前部と車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動してください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.587)

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	操作してください シートベルトが 装着されていないため 使用できません	● 運転者のシートベルトを解除したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転席のシートベルトが解除されている場合はプロパイロット2.0は使用することができません。
	操作してください パーキングブレーキが 作動しているため 使用できません	● 電動パーキングブレーキをかけたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 電動パーキングブレーキが作動しているときはプロパイロット2.0は使用することができません。
	操作してください 作動範囲外のため 使用できません	● ドライブモードをSNOWにしたとき ● VDCをOFFにしたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● ドライブモードがSNOW、またはVDCがOFFの場合は、プロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください 滑りやすい路面のため 現在使用できません	● VDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき ● タイヤが空転したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● VDC/TCSが作動する、またはタイヤが空転するような状況では、プロパイロット2.0は使用できません。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	操作してください	● 先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき ● 運転席、助手席、後席シートのいずれかのドアを開けたとき ● 車速･車間制御機能により自車が停止後、約3分が経過したとき ● セレクトレバーをD、またはマニュアルモード以外にしたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、プロパイロット2.0を使用することができます。
	操作してください レーンを認識できません	● レーンマーカーを検出できなくなったとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、車線維持機能を使用することができます。
	操作してください 悪天候のため 使用できません	● ワイパーが高速で作動しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、車線維持機能を使用することができます。
	操作してください 視界不良のため 使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光を受けたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、車線維持機能を使用することができます。

次ページに続く

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	操作してください カメラが高温のため 使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 室内の温度が下がると車線維持機能を使用することができます。
	操作してください この先、料金所です	● 前方に料金所があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください この先、 車線減少します	● 前方に車線数が減少する地点があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください この先、 急カーブです	● 前方に急なカーブがあるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	操作してください この先、交差点です	● 前方に交差点があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください	● 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口があるとき ● 3D高精度地図データがない区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	ハンドルを持ってください （車速 作動範囲外）	● 標識検知機能が検出している速度を超えて走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください （カーブ、分合流、道幅等）	● 急カーブに近づいたとき ● 分合流が続く区間を走行しているとき ● 車線幅の狭い道路を走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 車線減少します	● 車線数が減少する地点に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。

次ページに続く

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	ハンドルを持ってください 合流があります	● 合流に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください （交通規制）	● 工事区間など交通規制のある区間を検出したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 高精度地図がありません	● 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき ● 3D高精度地図データのない区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください GPS信号を受信できません	● GPS信号を受信できなくなったとき ● トンネル内を走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 悪天候のため使用できません	● ワイパーが低速で作動しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 対面通行区間です	● 対面通行区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください ドライバーを認識できません	● 運転者を認識できなくなったとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● ドライバーモニターカメラと運転者の間に遮るものがある場合は、取り除いてください。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	ハンドルを持ってください	● 接近警報が作動したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 必要に応じてブレーキを操作し、車間距離を確保してください。
	一部のハンドル支援が作動できません （システム故障）	● システムの一部に異常があり、ハンドル支援機能の一部が作動できないとき	● 安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	一部のハンドル支援が作動できません （サイドレーダー汚れ）	● 車両前部と車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しており、ハンドル支援機能の一部が作動できないとき	● レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを再びONにしてください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.587)
	一部のハンドル支援が作動できません ドライバーを認識できません	● 運転者を検出できないとき	● 運転者を検出できない場合は、一部のハンドル支援機能は使用できません。
	一部のハンドル支援が作動できません 高精度地図が使用できません	● ナビゲーションからの情報がこないなど、ハンドル支援機能の一部が作動できないとき	● 安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。 ● 上記操作をしてもメッセージが表示される場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

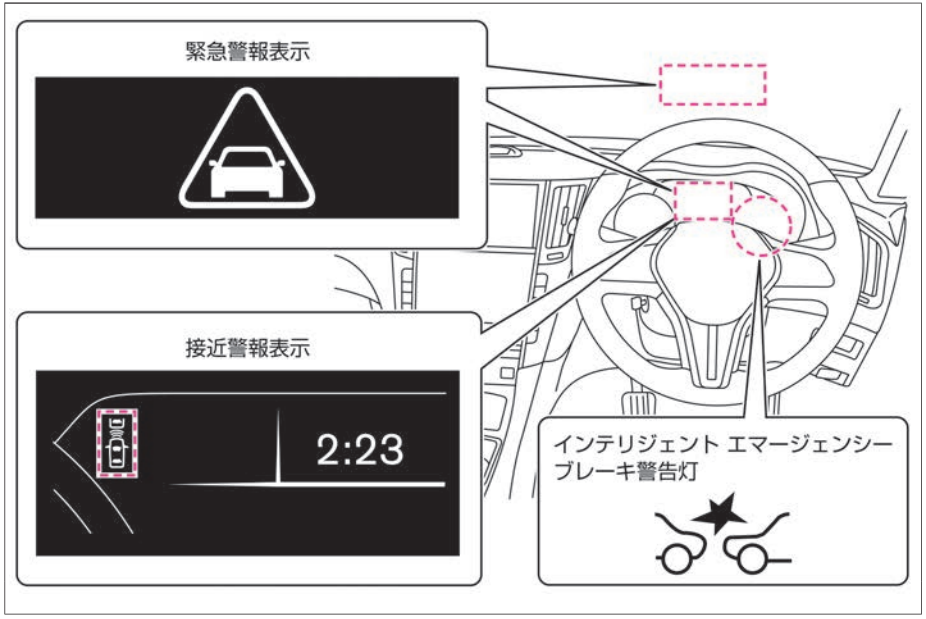
次ページに続く

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	一部のハンドル支援が 作動できません （高精度地図ライセンス切れ）	● 3D高精度地図データを利用するための契約がされていないとき	● 3D高精度地図データを利用するための契約については、日産販売会社にお問い合わせください。
	車線変更支援を中止しました 車速が低すぎます	● 車速が約60km/hを下回り、車線変更支援が中止したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました 車両を検知しました	● 目的の車線に車両を検出したため、車線変更支援機能が中止したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました スペースがありません	● 車線変更のスペースが検出できず、追い越し支援機能が中止したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました 分岐まで近すぎます	● 車線変更のスペースが検出できず、出口･分岐路近くになったとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました	● レーンマーカーが検出できなくなったとき ● 目的の車線の方向のレーンマーカーが白、または黄色の実線になったとき ● サイドレーダー部が汚れ、周辺車両との距離の測定が困難になったとき ● 車線変更支援機能に異常があるとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。

システムに関連する表示



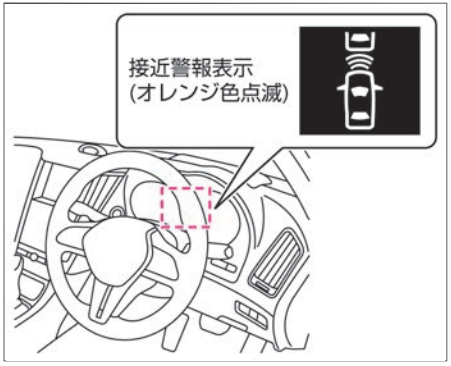
⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。
  必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して安全運転を心がけて走行してください。

次ページに続く

インテリジェント エマージェンシーブレーキについて

- 車速が約5km/h以上（歩行者には約10km/h以上）で作動します。（車速が約60km/h以上では、歩行者に対して作動しません。車速が約80km/h以上では、停止車両に対して作動しません。）
- 衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイの接近警報表示がオレンジ色に点滅します。アクセルペダルを踏んでいる場合は、アクセルペダルを押し戻す力を発生させ、ブレーキペダルへの踏み替え操作を支援します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突の危険性が高まったときには、アドバンスドドライブアシストディスプレイとヘッドアップディスプレイが赤色の緊急警報表示になり、警報音とともに軽いブレーキがかかります。
- さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。



知識

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより前方の車両や歩行者を検知します。
- 車両前部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の車両との距離を計測します。
- 次の場合、システムによるブレーキの作動が解除されます。
  - アクセルペダルを強く踏み込んだとき
  - ハンドルを大きく、または素早くきったとき
  - 前方の車両や歩行者との衝突の危険がなくなったと判断したとき
- システムによるブレーキで車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除されます。
- 運転者がハンドルやアクセル、ブレーキを操作している場合は、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が遅れたり、作動しない場合があります。
- システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。
- システムによるブレーキ作動中にブレーキペダルを踏んだとき、ブレー

知識

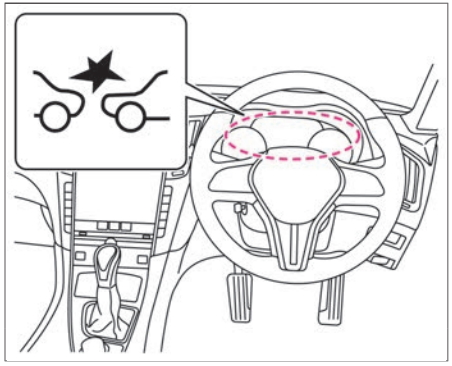
キペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生することがありますが異常ではありません。また踏力を加えることで、ブレーキ力を増すことができます。

- 前方車両と自車の速度の差が小さいときには作動しません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「走行支援」に切り替えると、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、アドバンスドドライブアシストディスプレイとは (P.80)をお読みください。

次ページに続く

インテリジェント エマージェンシーブレーキの停止のしかた

- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 緊急支援 ⇒ エマージェンシーブレーキ を選択すると、インテリジェント エマージェンシーブレーキ機能のON･OFFを切り替えることができます。
  詳しくは、➔ 運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
- 機能をOFFにすると、システムが停止します。
  （インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯）



知識

- ナビゲーションシステムで機能をOFFにしても、一度パワースイッチをOFFにし、再度ハイブリッドシステムを始動するとONに切り替わります。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキのON･OFFを切り替えると、踏み間違い衝突防止アシスト、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）も連動してON･OFFされます。
  ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.346)
  ➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.407)

インテリジェント エマージェンシーブレーキに関する注意事項

知識

- 次のような障害物は検知しません。
  - 子供などの背の低い人、動物、自転車
  - 対向車両
  - 道路構造物(ガードレール、ポールなど車両と歩行者以外の障害物)
- システムは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
  - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
  - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
  - 前方を横切って通過する車両
  - 斜めもしくは前向きに止まっている車両
- 次のような場合は、前方の車両、歩行者が検知できないことがあります。
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などの付着やワイパーの拭き残しがあるとき
  - カメラ前方のフロントガラスが曇っているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき

次ページに続く

知識

- トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
- カーブを走行しているとき
- 勾配の変化があるところを走行しているとき
- 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
- 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
- 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
- 対象物の位置や動きが大きく変化した場合(自車の車線変更･右左折、前方車両の右左折･急ハンドル･急加速･急減速など)
- 始動してから約15秒間
- カメラの視界がさえぎられているとき(フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード)
- カメラの向きがずれているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき

● 以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。

- 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
- 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
- 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合(周りの風景が水たまりに映りこむなど)
- 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
- 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき

知識

- 以下の対象物にはシステムが作動しない場合があります。
  - 歩行者の移動速度が速いとき
  - 対向して接近する歩行者
  - 歩行者の姿勢や手足の状態（手を上げているときなど）により歩行していると特定できないとき
  - 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
  - 車高の低い車両
  - 最低地上高(地面から車体までの高さ)が極端に低いもしくは極端に高い車両
  - 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
  - 前方の至近距離に割り込んだ車両
  - 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者
  - 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者
  - 後端面積が小さい車両(空荷のトラックなど)
  - リヤタイヤから車両後端までが長い車両
  - 四輪車以外の車両(二輪車など)
  - 荷台から荷物や幌がはみ出している車両
  - ショッピングカートやベビーカーなどを押しているとき
- 以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。
  - 複数の対象物同士が近接している場合
  - 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合
- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。
- 次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。

次ページに続く

知識

- 滑りやすい路面を走行しているとき
- 勾配のある路面を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- 車両が傾いているとき（後席シートやトランクルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）

● 路面または壁面の影や模様·ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示、濡れた路面に映り込んだ模様、わだちなどや光の反射を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール、カーブミラー、電柱や電線、看板）などで構成される形状が、車両や歩行者の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ·位置などと似通っている場合、システムが作動する場合があります。

● 右左折中の前の車両にシステムが作動を継続する場合があります。

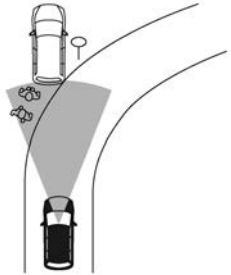
● 前の車両に接近し追い越す場合、システムが作動する場合があります。

● 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、ワインディング道、車線規制や工事中など）によっては、一時的に自車正面の対向車にシステムが作動する場合があります。

● 自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。

知識

- 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。
  - 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、車両など）



  - 道路上方にある物（低い橋、道路標識など）
  - 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
  - 駐車場内にある物（梁など）
  - 走行路にある物（近接する樹木など）

次ページに続く

インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき

- 次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯し、作動が停止します。
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにしたとき
  - VDCをOFFにしたとき
  - 周辺の電波源の影響を受けているとき

  この場合は、停止したときの状態が改善または変更されるとシステムは作動を再開します。
- 次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点滅し、システムが一時的に作動しなくなります。
  - フロントガラスの汚れなどにより、カメラが前方を認識できなくなったとき
  - 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき
  - 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき
    （室内の温度が下がると、作動が復帰します。）
- 次の場合は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「アクセルペダルが高温のため使用できません」と表示され、警告灯が点灯し作動が停止します。
  - アクセルペダルを戻す力を発生させているモーターが高温になったとき

  モーターの温度が下がると、システムは作動を再開します。

アドバイス

- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからハイブリッドシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（P.587）をお読みください。
- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.588）をお読みください。
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。

  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

  警告灯（P.495）

- 次の場合は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「フロントレーダー及びその周辺が汚れています　拭いてください」と表示され、警告灯が点灯し作動が停止します。
  - 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき
    システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止してレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから再始動し、再びインテリジェント エマージェンシーブレーキのシステムをONにしてください。
  - 道路形状や周辺の建造物により、レーダーが先行車を正確に検知できないとき
    （例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
    システムを再び作動させる場合は、上記の状況から離れるとシステムは作動を再開します。
- 次の場合は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障」と表示され、警告灯が点灯し作動が停止します。
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムに異常があるとき
    システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びインテリジェント　エマージェンシーブレーキのシステムをONにしてください。
- システムに異常があると、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
  警告灯（P.495）
  警告メッセージ（P.512）

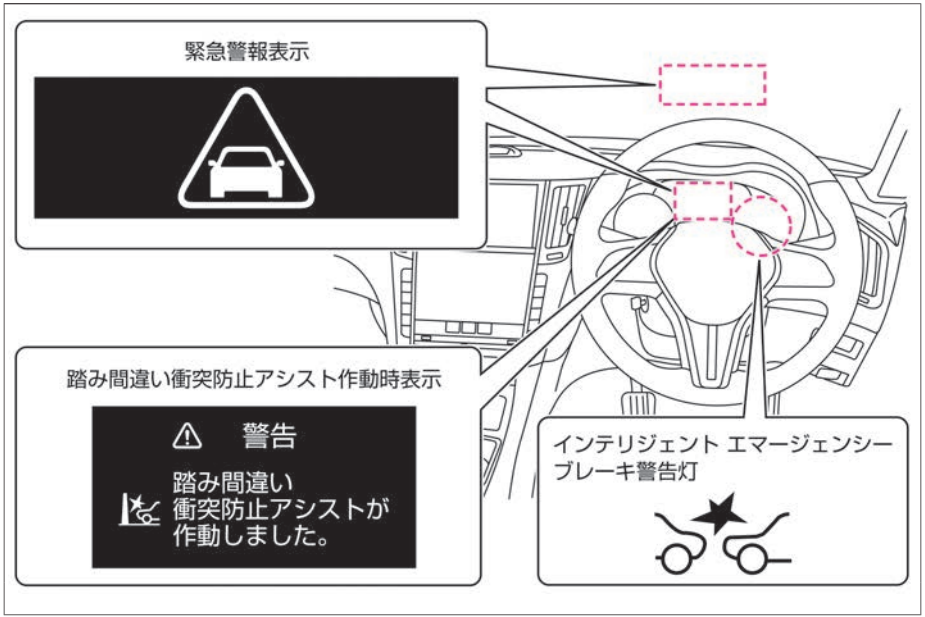
知識

- VDCをOFFにしたときは、メーターの表示と警報音のみ作動します。
- 夜間、ライトをつけずに走行するなどで、カメラの視界が真っ暗な状態になった場合は、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点滅する場合があります。

踏み間違い衝突防止アシスト

踏み間違い衝突防止アシストは、進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者（前進時のみ）などがいる場所で、駐車操作時など低速のときにアクセルペダルとブレーキペダルを間違えて踏み込む、あるいはブレーキ操作が遅れたときに運転者に音と表示で警告します。
さらにエンジン出力やブレーキを制御することで、過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。

システムに関連する表示



警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  踏み間違い衝突防止アシストは、アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えることにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

踏み間違い衝突防止アシストについて

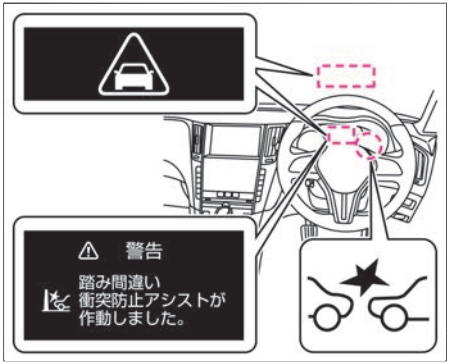
前進時

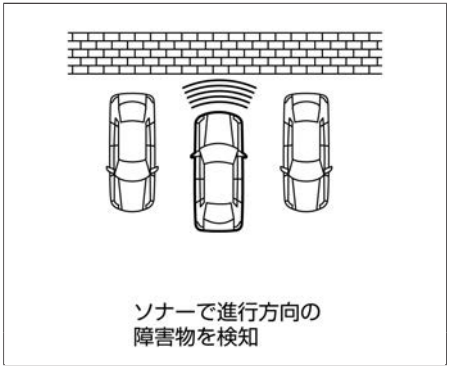
- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより前方の車両や歩行者を検知します。
- フロントバンパーに取り付けられたソナーにより、進行方向の障害物を検知します。

後退時

- リヤバンパーに取り付けられたソナーにより、進行方向の障害物を検知します。

踏み間違い衝突防止アシストには、2つの機能があります。次ページ以降をお読みください。



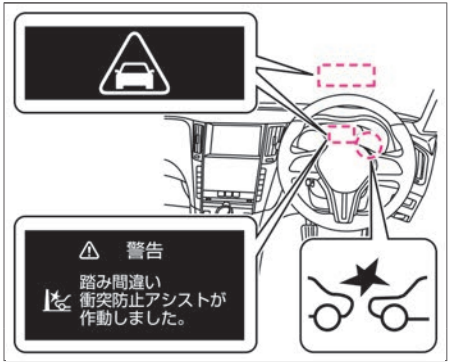


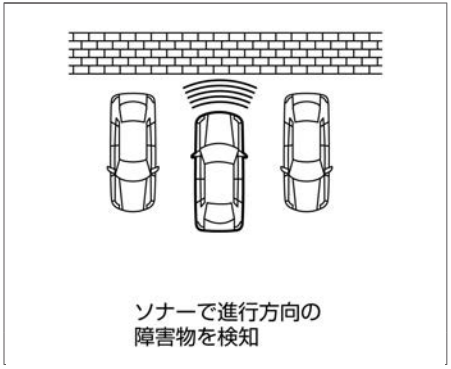
次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

低速加速抑制機能

- 前進時（停車時含む）、進行方向に車両や歩行者、壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 後退時（停車時含む）、進行方向に壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 車両、歩行者に対しては、車速約0～25km/h の範囲で作動します。
- 壁などの障害物に対しては、車速約0～15km/hの範囲で作動します。
- 低速加速抑制機能が作動しているときは、警報音と警告灯の点滅、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイとヘッドアップディスプレイの表示によって運転者に警告します。
  警告灯（➔P.495）
  警告メッセージ（➔P.511）



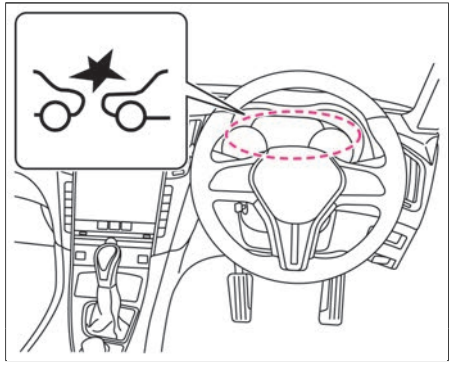


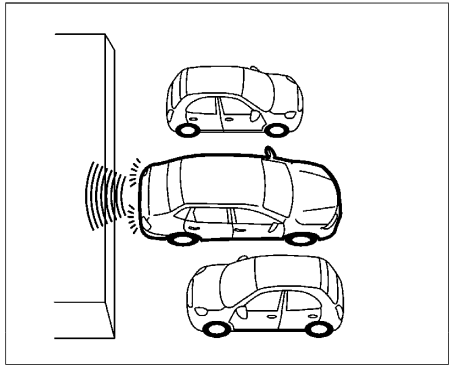
⚠ 警告

- **故意にアクセルペダルを踏み込まない。**
  低速加速抑制機能は、アクセルペダルをゆっくりと深く踏み込んだときには作動しません。故意にアクセルペダルを踏み込まないでください。車両が急に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

低速衝突軽減ブレーキ機能

- 前進、または後退時、進行方向の障害物を検知し、衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、エンジン出力の制御、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能は、車速約2～15km/h の範囲で作動します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動すると、警報音と警告灯の点滅によって運転者に警告します。
警告灯（P.495）





知識

- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは制動灯が点灯します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動しているときは、作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

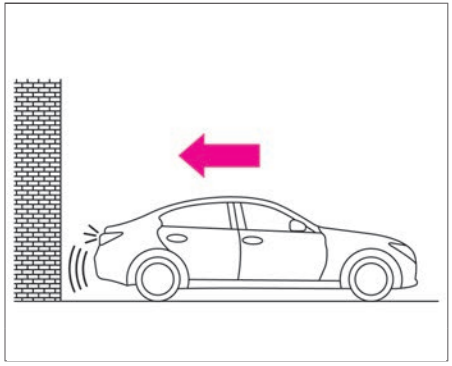
次ページに続く

低速衝突軽減ブレーキが作動するとき･しないとき

クルマ止めのない駐車場などで、壁などに衝突しそうになったとき

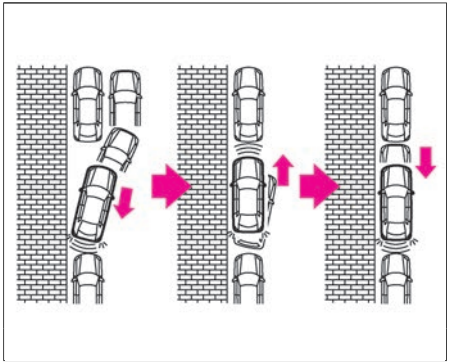
万一、運転者のブレーキ操作が遅れ、壁などに衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音と警告灯が点滅し、ブレーキをかけて衝突を回避または被害を軽減します。

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいたときは作動しません。
- システムは、ブレーキペダルを踏みながら車両を移動する（駐車場での操作）など低速における支援を目的にしています。
  アクセルペダルを踏んで前進･後退する状況などでは作動が遅れ十分に機能しない場合があります。

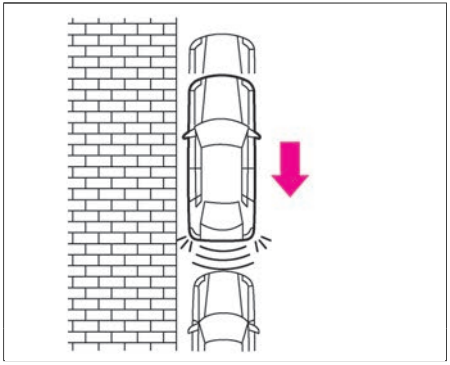


縦列駐車をするとき

セレクトレバーを D から R、または R から D に切り替えたときは、セレクトレバーの操作を繰り返すたびに進行方向の障害物を検知してブレーキ制御が作動します。



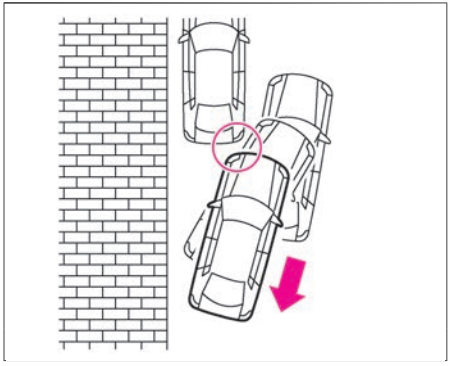
- ブレーキ制御が作動したあと、セレクトレバーを切り替えずにさらに同じ障害物に向かって前進、または後退をした場合、ブレーキ制御は作動しません。
- アクセルペダルを踏んでいるときは作動が遅れることがあります。



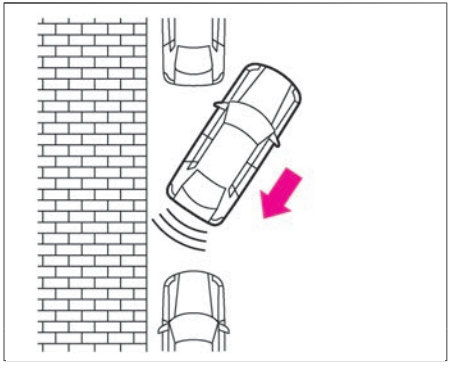
次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

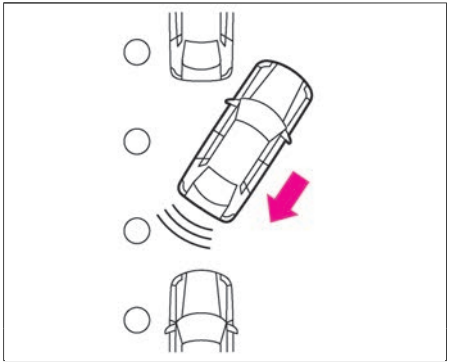
- 後退中は、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、前進中は後方の障害物に対して作動しません。



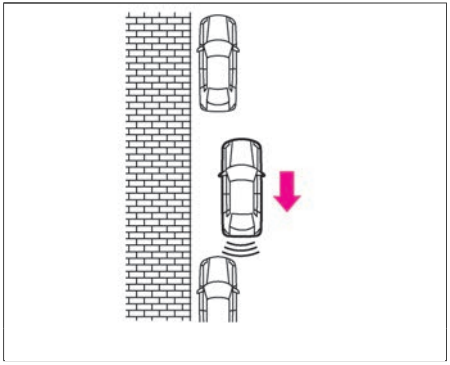
- 障害物に対し斜めに接近すると作動しないことがあります。



- 幅の狭い障害物に対しては作動しないことがあります。



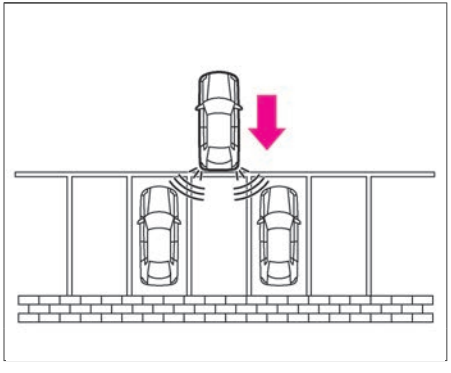
- 他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。



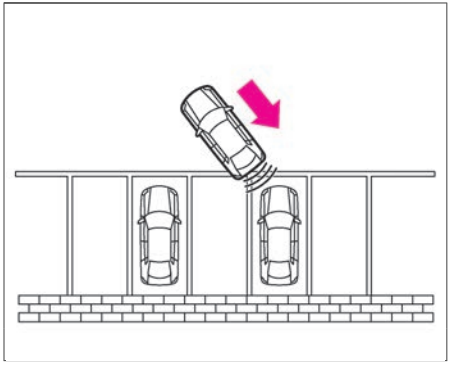
次ページに続く

並列駐車をするとき

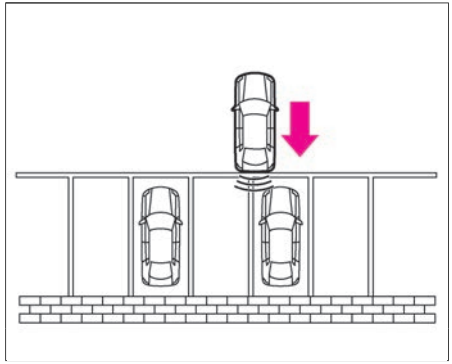
- 狭いスペースに進入するときに作動することがあります。



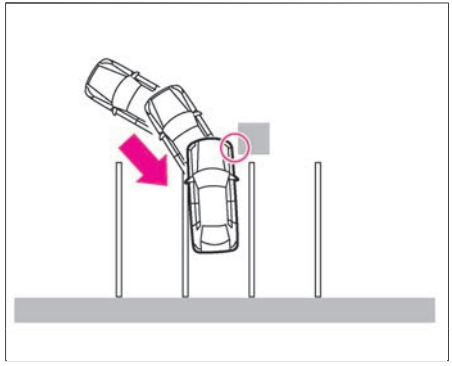
- 他の車両の角部に向かって接近したときは作動しません。



- 他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

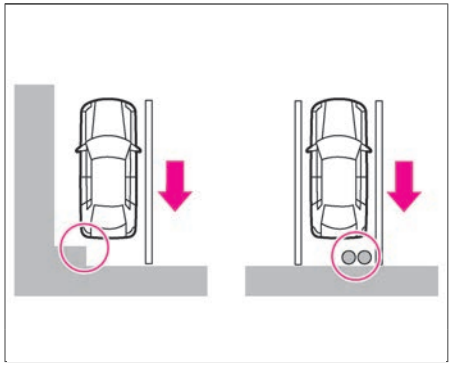


- 後退中は、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、前進中は後方の障害物に対しては作動しません。



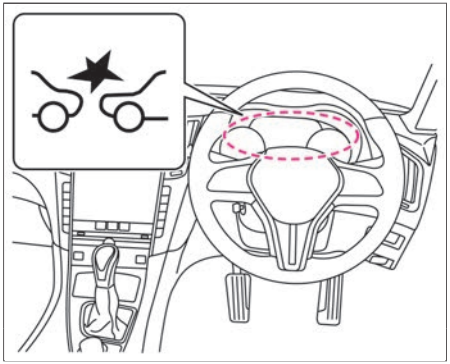
次ページに続く

- 壁から突き出している柱や配管などに対しては作動しません。



踏み間違い衝突防止アシストの停止のしかた

- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 緊急支援 ⇒ エマージェンシーブレーキ を選択すると、踏み間違い衝突防止アシスト機能のON・OFFを切り替えることができます。
  詳しくは、➔ 運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
- 機能をOFFにすると、システムが停止します。
  （インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯）



知識

- 踏み間違い衝突防止アシストの設定は、インテリジェント エマージェンシーブレーキ、インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）の設定と連動しています。
- ナビゲーションシステムで機能をOFFにしても、ハイブリッドシステムを再始動するとONに切り替わります。

次ページに続く

踏み間違い衝突防止アシストに関する注意事項

⚠ 警告

- **次の場合は、予期せずシステムが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあるため、踏み間違い衝突防止アシストをOFFにする。**
  - けん引するとき
  - トレーラーなどに積載するとき
  - 点検などでシャシーダイナモを使用するとき
  - 純正品以外のサスペンション部品を使用しているとき
    （車高や車両の傾きが変わると正しく障害物を検知できないことがあります）
- **ソナーは次のような障害物は検知しません。**
  - 背の低い障害物
  - 幅の狭い障害物
  - 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - バンパーに非常に近い障害物
  - 急に進行方向に現れた障害物
- **ソナーは次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**
  - 地面から高い位置に存在する障害物
  - 周囲で大きな音が鳴っているとき
  - 周囲に超音波を発するものがあるとき
  - スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- **ソナーは次のような場合は検知しないことがあります。**
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

⚠ 警告

- 周囲で大きな音が鳴っているとき
- 周囲に超音波を発するものがあるとき
- 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき

● **ソナーは次のような場合は検知することがあります。**

- 周囲に草が生い茂っているとき
- 車両側面の近くに壁があるとき
- 路面上に段差や突起物があるとき
- 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
- 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
- 車両感応センサーや他車のソナーなど、超音波を発生するものが付近にいたとき
- 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき
- 背が高く上部が張り出しているものがあるとき

● **マルチセンシングフロントカメラは次のような障害物は検知しません。**

- 子供などの背の低い人、動物、自転車
- 対向車両
- 道路構造物(ガードレール、ポールなど車両と歩行者以外の障害物)

● **マルチセンシングフロントカメラは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。**

- バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
- 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
- 前方を横切って通過する車両
- 斜めもしくは前向きに止まっている車両

次ページに続く

⚠ 警告

- **マルチセンシングフロントカメラは次のような場合、前方の車両、歩行者が検知できないことがあります。**
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスが曇っているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - カーブを走行しているとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
  - 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
  - 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
  - 対象物の位置や動きが大きく変化した場合(自車の車線変更･右左折、前方車両の右左折･急ハンドル･急加速･急減速など)
  - 始動してから約15秒間
  - カメラの視界がさえぎられているとき(フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード)
  - カメラの向きがずれているとき

⚠ 警告

- **マルチセンシングフロントカメラは以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。**
  - 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
  - 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
  - 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合(周りの風景が水たまりに映りこむなど)
  - 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
  - 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
- **以下の対象物にはマルチセンシングフロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。**
  - 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
  - 車高の低い車両
  - 最低地上高(地面から車体までの高さ)が極端に低いもしくは極端に高い車両
  - 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
  - 前方の至近距離に割り込んだ車両
  - 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者
  - 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者
  - 後端面積が小さい車両(空荷のトラックなど)
  - リヤタイヤから車両後端までが長い車両
  - 四輪車以外の車両(二輪車など)
  - 荷台から荷物や幌がはみ出している車両
- **マルチセンシングフロントカメラは以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。**

次ページに続く

⚠ 警告

– 複数の対象物同士が近接している場合
– 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合

- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **ブレーキ制御は短時間しか作動しません。必ず運転者がブレーキペダルを踏んでください。**
- **車両を停止させる場合は、必ず運転者がブレーキペダルを踏む。**
  低速加速抑制機能が作動したあとに低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除され、車両が動き出します。
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

⚠ 注意

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **システムの作動を待たず、すみやかにブレーキ操作を行う。**
  車両の状態、走行状況、交通環境、天候、路面状況などにより作動しない場合や、本来の性能を発揮できないことがあります。
- **アクセルペダルを踏んだ状態で障害物に接近したときは、作動が遅れることがあります。**

アドバイス

- 次の場合は、システムが正常に作動しなかったり、機能を十分に発揮できないことがあります。
  - 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
  - 勾配が急な坂道を走行しているとき
  - 段差などをまたいでいるときなど車両姿勢が変化しているとき
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - ハンドルを大きく切って旋回しているとき
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
  - 車両が傾いているとき(後席シートやトランクルームに極端に重い荷物を積んでいるとき)
- 動いている物体に対しては踏み間違い衝突防止アシストは作動しません。（前方の車両、歩行者を除く）

次ページに続く

知識

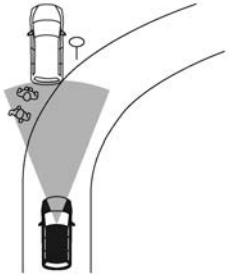
低速加速抑制機能について

- ソナーで検出した壁や車両などの大きな障害物に対して作動します。車両の幅以下の障害物は検知しません。
- マルチセンシングフロントカメラで検出した衝突のおそれのある前方の車両や歩行者に対して作動します。
- 低速加速抑制機能は、運転者がアクセルペダルを戻すと解除されます。
- アクセルペダルを踏み続けた場合は、作動を開始してから約6秒後に解除されます。
- 渋滞中などで前方にいる車両を追い越すときなどに低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 信号待ちや右折待ちなどで、車間距離の短い状態から前の車に続いて発進する際、アクセルペダルを素早く深く踏み込むと低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 次の場合は作動しません。
  - 車速が約15km/h以上のとき（前方の車両、歩行者に対しては約25km/h以上）
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - セレクトレバーが D、マニュアルシフトゲート、R 以外のとき
  - トラクションコントロール機能（TCS）が作動しているとき
  - タイヤが空転しているとき
- 路面または壁面の模様·ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車

知識

両や歩行者の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ·位置などと似通っている場合、マルチセンシングフロントカメラが対象物の形状を正しく検出できず、システムが作動する場合があります。

- 自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。
- 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。
  - 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、車両など）



  - 道路上方にある物（低い橋、道路標識など）
  - 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
  - 駐車場内にある物（梁など）

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいても作動しません。
- 次の場合は作動しません。

次ページに続く

知識
– 車速が約2km/h未満、または約15km/h以上のとき – セレクトレバーが D、マニュアルシフトゲート、R 以外のとき ● 前進時は車両後方の障害物に対しては作動しません。同様に、後退時は車両前方の障害物に対しては作動しません。

踏み間違い衝突防止アシストの作動が停止するとき

- 次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯し、作動が停止します。
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにしたとき
  - VDCをOFFにしたとき
  - 周辺の電波源の影響を受けているとき
- インテリジェント エマージェンシーブレーキが一時的に作動できなくなったときは、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点滅し、踏み間違い衝突防止アシストも一時的に作動しなくなります。
  詳しくは、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき (P.344)をお読みください。
- システムに異常があると、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯し、システムが停止します。
  警告灯（P.495）

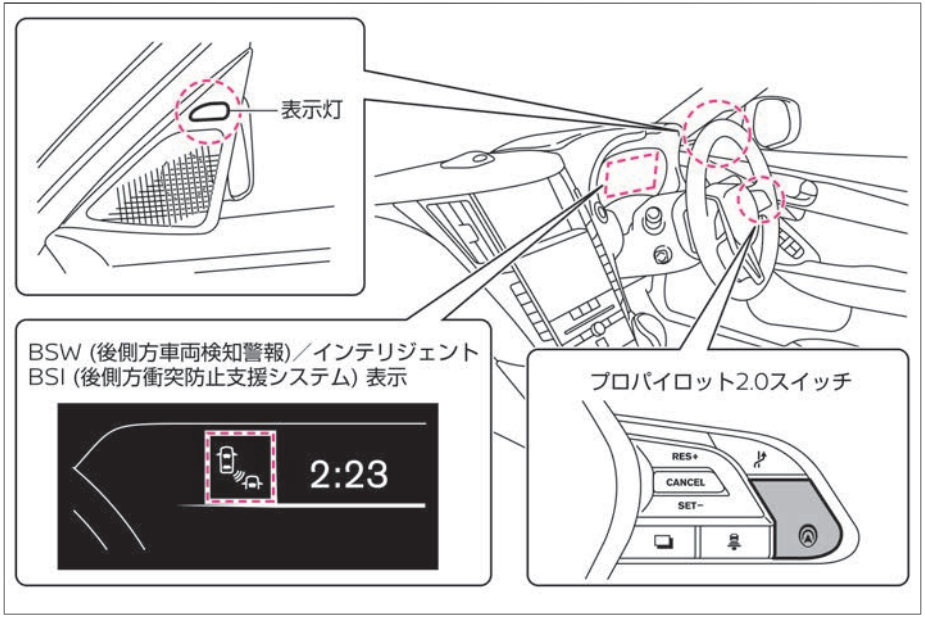
アドバイス

- システムを正しく作動させるためにソナーはいつもきれいにしておいてください。ソナーの取り扱いについては、（P.591）をお読みください。
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。
  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
  警告灯（P.495）

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）

BSW（後側方車両検知警報）は、車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合には警報によって運転者に注意を促します。
インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）は、隣接車線に車両がいるときに運転者が車線変更を開始した場合、警報とともに車両をもとの車線内に戻す方向に力を発生し、隣接車両との接触を回避するよう支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



⚠ 警告

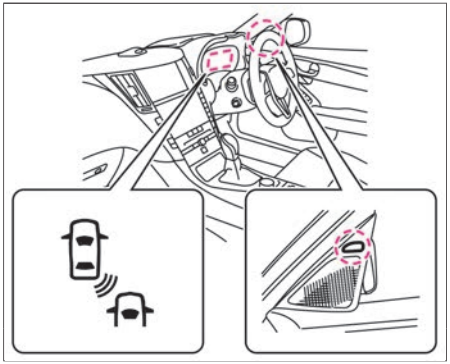
- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  BSW（後側方車両検知警報）およびインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり、車両や障害物との接触を防ぐ機能ではありません。車線変更を行うときは、機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。
- **レーダーセンサーおよびカメラには限界があるため、機能を過信しない。**
  道路の状態、天候、交通状況などによりシステムが正常に作動しないことがあります。

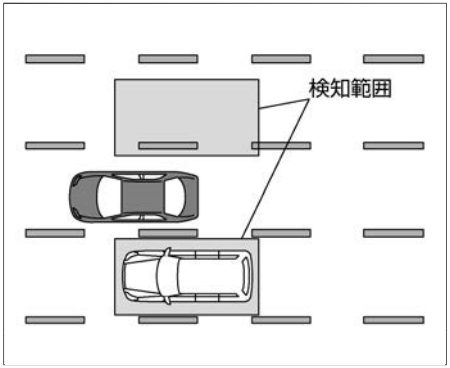
BSW（後側方車両検知警報）について

- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。
- 車速が約30km/h以上で作動します。
- レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知すると、検知した側のドアミラー付近にある表示灯が点灯します。
- 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると、警報音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー付近にある表示灯が点滅します。

検知範囲について

- レーダーセンサーは、自車両の左右にある範囲内に車両の前端部があるとき、車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーからリヤバンパーの後方に約3m、車両の側面から横方向に約3mです。





知識

- ドアミラー付近の表示灯はパワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー付近にある表示灯は、ヘッドランプの点灯状況に合わせて夜間は減光します。
- 方向指示器が作動しているときに、レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知した場合には、表示灯は点滅しますが音は鳴りません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「走行支援」に切り替えると、BSW（後側方車両検知警報)の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、アドバンスドドライブアシストディスプレイとは (P.80)をお読みください。

次ページに続く

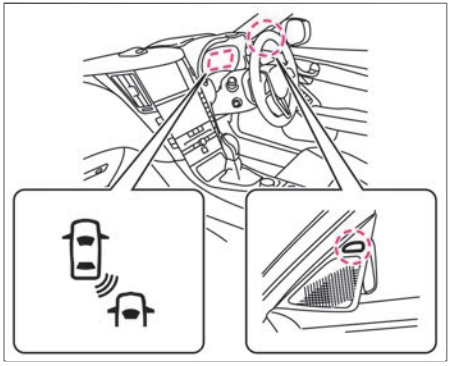
インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）について

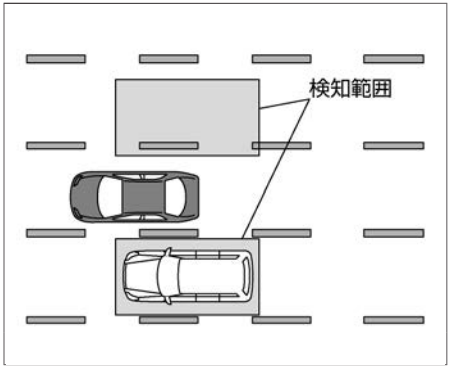
- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。また、ルームミラー上方に取り付けられたカメラを使用し、走行している車線のレーンマーカーを検知します。
- 約60km/h以上で走行中に隣車線の車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに自車両が接近すると、警報音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー付近にある表示灯が点滅します。
  同時にブレーキを制御し、車両をもとの車線に戻す方向に制御力を短時間発生させ、自車をもとの車線に戻す操作を促します。

レーンマーカーとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。

検知範囲について

- レーダーセンサーは、自車両の左右にある範囲内に車両の前端部があるとき、車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーからリヤバンパーの後方に約3m、車両の側面から横方向に約3mです。





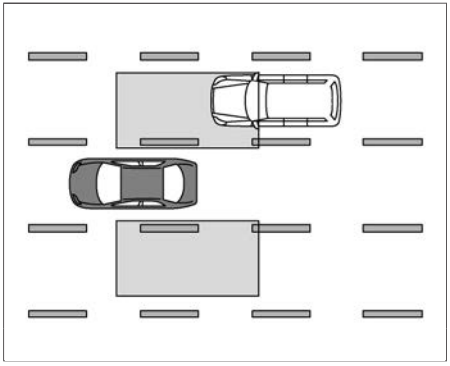
知識

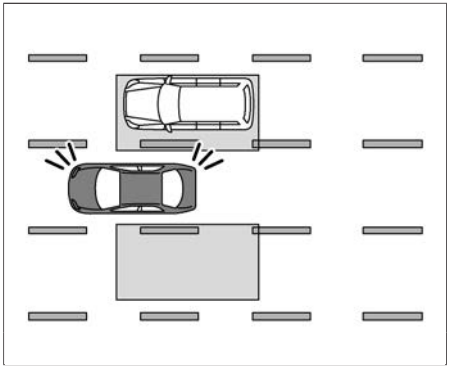
- あらかじめ表示灯が点灯した状態で自車両がレーンマーカーに接近すると、警報とブレーキ制御の両方が作動します。
  ただし、自車両がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とブレーキ制御は作動しません。
- インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）は、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）よりも先に作動します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「走行支援」に切り替えると、システムの作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、アドバンスドドライブアシストディスプレイとは (P.80)をお読みください。

作動するとき･しないとき

後方から車両が接近してくるとき

- 後方から車両が接近してくる場合、その車両が検知範囲内に入るとドアミラー付近にある表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音が鳴るとともに、ドアミラー付近にある表示灯が点滅します。





⚠ 注意

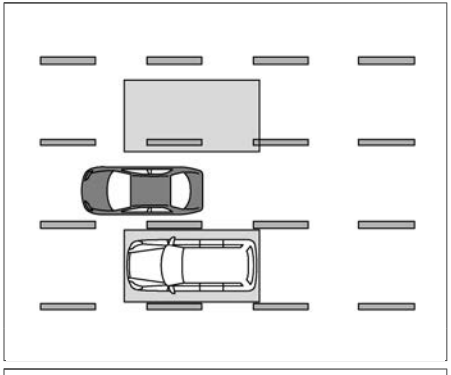
- **車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用して周囲の安全を確認する。**
  自車両より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。

知識

- 方向指示器を作動した後に、検知範囲に車両が入ってきたときは、表示灯は点滅しますが警報音は鳴りません。
- 自車両がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とブレーキ制御は作動しません。

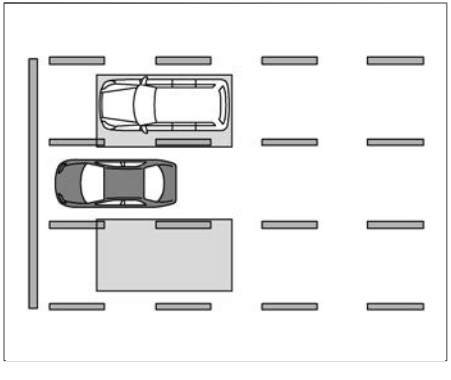
次ページに続く

● 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近の表示灯が点滅します。 同時にブレーキを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。



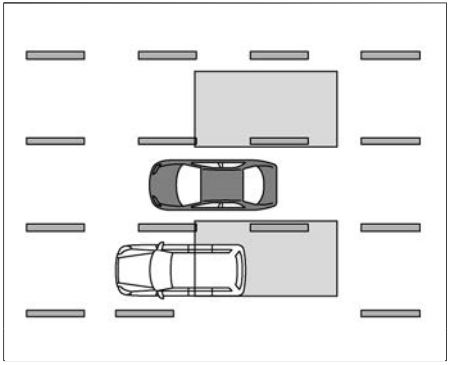
発進するとき

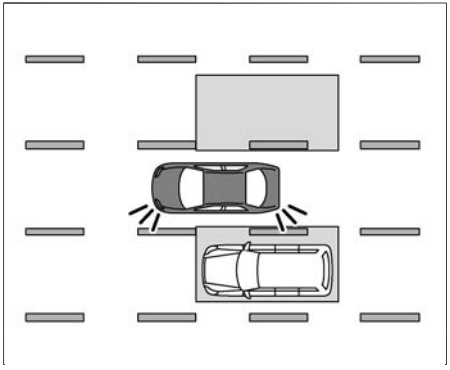
● 停車状態から検知範囲に居続ける車両は検知できないことがあります。



他の車両を追い越すとき

- 他の車両を追い越すとき、追い越される車両が検知範囲内に3秒以上とどまるとドアミラー付近の表示灯が点灯します。
- 車両を検知し表示灯が点灯しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音が鳴るとともに、ドアミラー付近にある表示灯が点滅します。



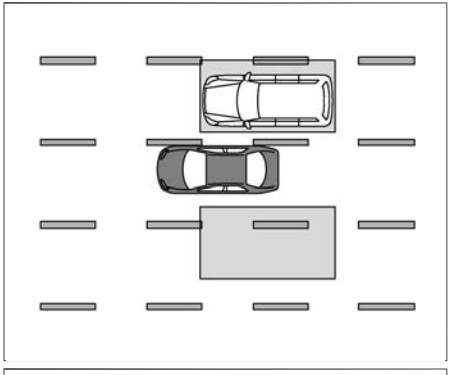


知識

- 速度の遅い車両を素早く追い越したときはシステムが検知しません。

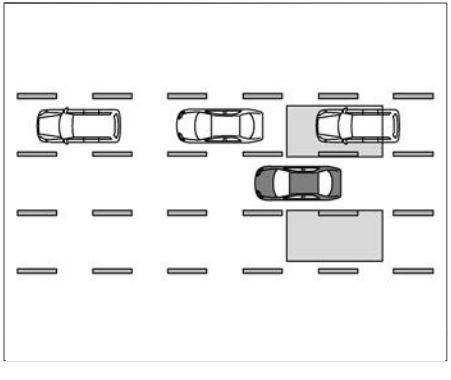
次ページに続く

● 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近の表示灯が点滅します。
同時にブレーキを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。



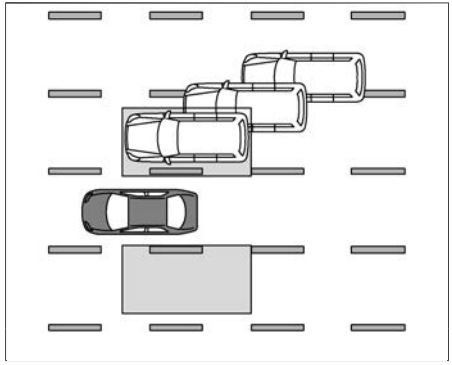
他の車両に追い越されるとき

● 複数の車両に一度に追い越されるとき、追い越す車両の車間距離が短い場合は、1台目の車両以外が検出されないことがあります。



他の車線から車両が接近してきたとき

- 車線変更などで車両が接近してきたときは、検知範囲内に入るとドアミラー付近の表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音が鳴るとともに、ドアミラー付近の表示灯が点滅します。

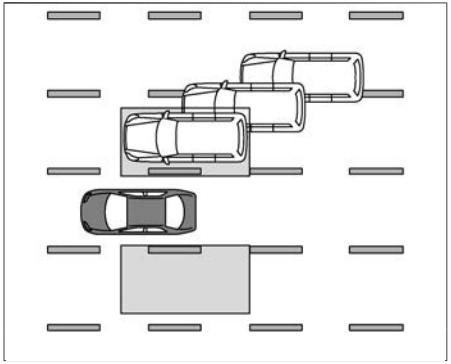


知識

- 自車両とほぼ同じ速度で走行する車両が車線変更してきた場合、検出できないことがあります。
- 方向指示器を作動させたあとに、検知範囲に車両が入ってきたときは、表示灯は点滅しますが警報音は鳴りません。

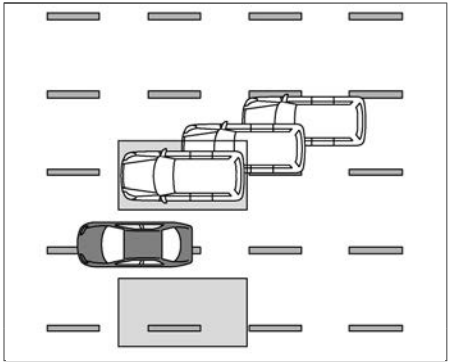
次ページに続く

● 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近の表示灯が点滅します。
同時にブレーキを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。



自車両がレーンマーカーの上を走行しているとき

● 検知範囲に車両が入ってもインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）は作動しません。
この場合、BSW（後側方車両検知警報）のみが作動します。



BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の使いかた

BSW（後側方車両検知警報）

- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 後側方支援 ⇒ 後側方車両検知警報 を選択すると、機能のON·OFFを切り替えることができます。
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）

- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 後側方支援 ⇒ 後側方衝突防止支援 をONにしているとき、プロパイロット2.0スイッチ を押すとシステムがONになります。
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

ドアミラー付近の表示灯の明るさ

- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 後側方支援 ⇒ インジケータ輝度 を選択すると、ドアミラー付近の表示灯の明るさを切り替えることができます。
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

知識

- ステアリングにあるプロパイロット2.0スイッチ を押すと、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）のON·OFFを同時に切り替えることができます。
- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 後側方支援 ⇒ 後側方衝突防止支援 でOFFにすると、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）だけをOFFにできます。
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
- ハイブリッドシステムを停止するとインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）はOFFになります。
- ナビゲーションシステムのON·OFF

次ページに続く

知識

設定は、ハイブリッドシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。また、ON・OFFの設定はパーソナルアシスタント機能によりユーザーごとに設定が保存されます。

パーソナルアシスタント機能 (P.111)

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますのでインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）を使用しないでください。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 急なカーブ、急な上り坂·下り坂が繰り返されるとき
  - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
  - 純正部品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- **次のような車両は、正確に検知できず、システムが正しく作動しないおそれがあります。**
  - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
  - 停車状態から検知範囲に居続ける車両
  - 後方から速い速度で接近してくる車両
  - 自車両が速い速度で追い越した車両
  - 合流や車線変更で自車両の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両
- **次のような状況は、隣の車線の車両を検知できないことがあります。**

次ページに続く

⚠ 警告

- 強い光（太陽光など）を受けているとき
- 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
- 車線の幅が極端に広い道路を運転しているとき
- 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
- 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき

● **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**

- 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり･汚れ･雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
- 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報したり、制御する場合があります）
- 車線の分岐･合流のある道路を走行したとき
- 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
- 先行車との車間距離が短く、マルチセンシングフロントカメラの検出範囲が遮られるとき
- 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき

⚠ 警告

– 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
– 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

⚠ 注意

● **レーダーセンサーは次のような障害物は検知しません。**
– 歩行者、自転車、動物など
– 対向車

アドバイス

● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

知識

● 車線の幅が極端に広い道路を運転する場合、隣の車線にいる車両を検知できないことがあります。また、車線の幅が極端に狭い道路を運転する場合、2つ隣の車線にいる車両を検知することがあります。
● レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、植物、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。
● 次の場合はブレーキ制御を行いません。
– ブレーキペダルを踏んでいるとき
– 素早いハンドル操作を行ったとき
– プロパイロット2.0の接近警報が鳴っているとき

次ページに続く

知識

– インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）が作動しているとき
– インテリジェント エマージェンシーブレーキが作動しているとき
– 非常点滅表示灯を作動させているとき
– カーブ路でスピードを出して走行しているとき

● ブレーキ制御しているとき、運転者がアクセルペダルを踏み増すとブレーキ制御を中止します。

BSW（後側方車両検知警報）の作動が停止するとき

- 次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに「サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示されるとともに、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示（オレンジ色）が点滅し、一時的にシステムが停止します。
  - 雪や氷、泥などがサイドレーダー周辺に付着しているとき
  - 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- システムに異常があると、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障」と警告が表示され、システムが停止します。
  警告メッセージ（➔P.512）

アドバイス

- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからハイブリッドシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.587）をお読みください。
- BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。
  ハイブリッドシステム再始動後もシステムがONにできない、またはオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

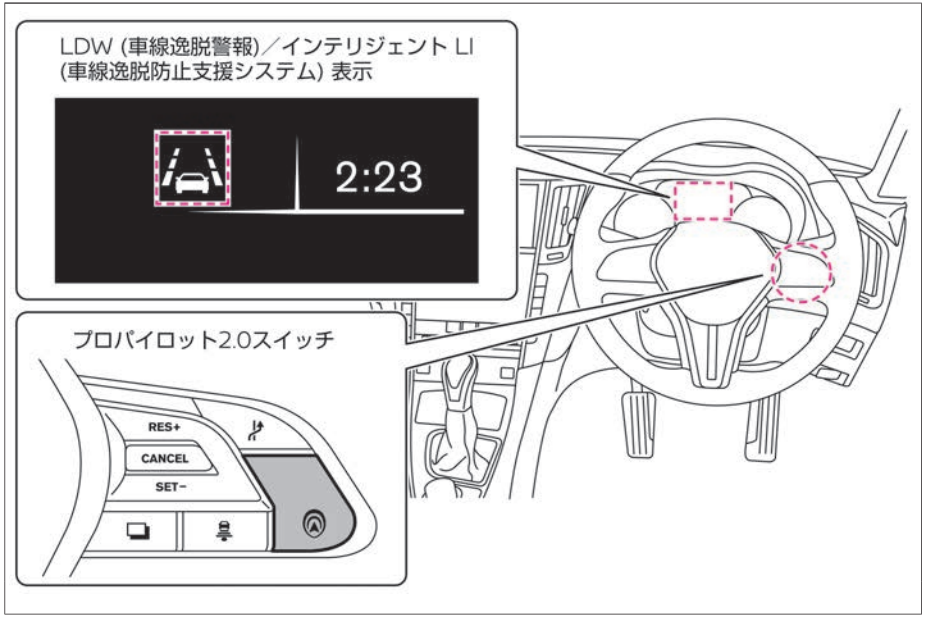
インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の作動が停止するとき

- 次の場合は“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「作動範囲外のため現在使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。
  - ドライブモードをSNOWにしたとき
  - ABSまたはVDC（トラクションコントロールは含まない）が作動したとき
  - VDCをOFFにしたとき
- システムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてからステアリングスイッチで再びシステムをONにしてください。
- 炎天下に駐車したときなどマルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「車線認識カメラ その周辺が高温のため使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。システムを再び作動させる場合は、室内の温度が下がってからステアリングスイッチで再びシステムをONにしてください。
- 次の場合は“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「サイドレーダー及びその周辺が汚れています　拭いてください」と警告が表示され、システムが停止します。
  - サイドレーダー周辺が汚れているとき
  - サイドレーダー周辺に雨、雪、氷などが付着しているとき
- システムに異常があると、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障」と警告が表示され、システムが停止します。
  警告メッセージ（➔P.512）

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

LDW（車線逸脱警報）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。
インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



⚠ 警告

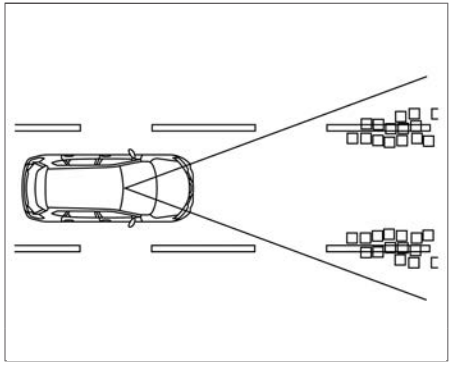
- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）は、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転に心がけてください。
- **カメラには限界があるため、機能を過信しない。**
  道路の状態、天候、交通状況などによりシステムが正常に作動しないことがあります。

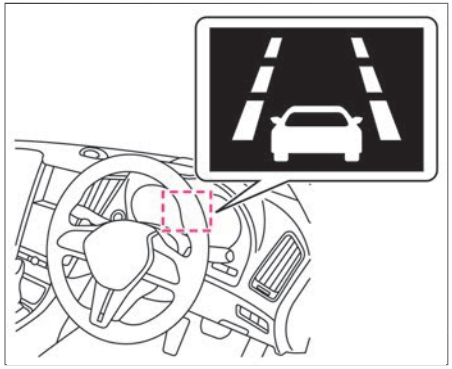
次ページに続く

LDW（車線逸脱警報）について

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速が約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのLDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点滅します。

レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。





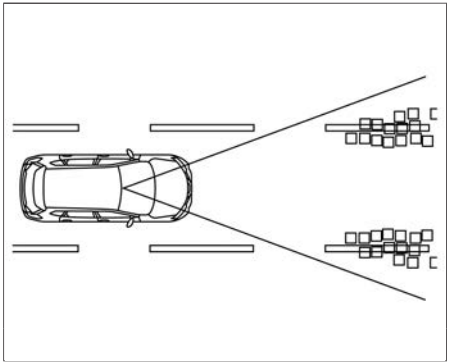
知識

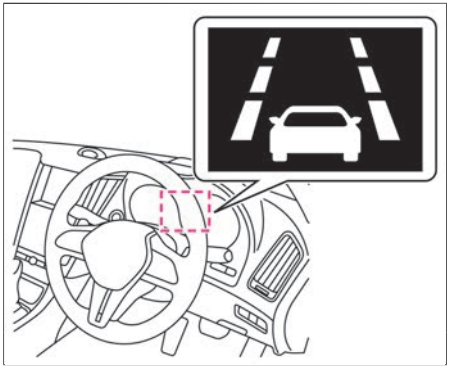
- 次の場合は警報を行いません。
  - 車両の移動する方向に方向指示器を使用しているとき
    （方向指示器を解除した後、約2秒間は作動しません）
  - 車速が約60km/hを下回っているとき
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「走行支援」に切り替えると、システムの作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、アドバンスドドライブアシストディスプレイとは (P.80)をお読みください。

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）について

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速が約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのLDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点滅します。
  同時にブレーキを短時間制御し、車両を車線内に戻す方向に制御力を短時間発生させて車両を車線内に戻す操作を促します。

レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。





知識

- 車両の移動する方向に方向指示器を作動させている場合は警報もブレーキ制御も行いません。
  （方向指示器を解除したあと、約2秒間は作動しません。）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「走行支援」に切り替えると、システムの作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、➔ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは (P.80)をお読みください。

次ページに続く

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）の使いかた

LDW（車線逸脱警報）

- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 側方支援 ⇒ 車線逸脱警報 を選択すると、システムのON·OFFが切り替わります。
  詳しくは、➔ 運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 側方支援 ⇒ 車線逸脱防止支援 をONにしているとき、プロパイロット2.0スイッチ を押すとシステムがONになります。
  詳しくは、➔ 運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

知識

- ステアリングにあるプロパイロット2.0スイッチ を押すと、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）のON·OFFを同時に切り替えることができます。
- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 側方支援 ⇒ 車線逸脱防止支援 でOFFを選択すると、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）だけをOFFにすることができます。
  詳しくは、➔ 運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
- ハイブリッドシステムを停止するとインテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）はOFFになります。
- ナビゲーションシステムのON·OFF設定は、ハイブリッドシステムを停

知識

止しても再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。また、ON·OFFの設定は、パーソナルアシスタント機能によりユーザーごとに設定が保存されます。

パーソナルアシスタント機能 (P.111)

次ページに続く

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるため、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）を使用しないでください。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 急なカーブ、急な上り坂·下り坂が繰り返されるとき
  - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
  - 純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**
  - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり·汚れ·雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき
  - 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
  - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります）

⚠ 警告

- 車線の分岐･合流のある道路を走行したとき
- 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
- 先行車との車間距離が短く、カメラの検出範囲が遮られるとき
- 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
- 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
- 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

アドバイス

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

知識

- 次の場合は、警報もブレーキ制御も行いません。
  - 方向指示器を使用しているとき（方向指示器を解除した後、約2秒間は作動しません）
  - 車速が約60km/hを下回っているとき
- 次の場合は、ブレーキ制御を行いません。
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - 車線変更に相当する程度にハンドル操作をしたとき
  - プロパイロット2.0の接近警報が鳴っているとき
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキが作動しているとき

次ページに続く

知識
– 非常点滅表示灯を作動させているとき – カーブ路でスピードを出して走行しているとき ● ブレーキを制御しているとき、運転者がアクセルペダルを踏み増すと制御を中止します。

作動が停止するとき

LDW（車線逸脱警報）

- 炎天下に駐車したときなどマルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「車線認識カメラ その周辺が高温のため使用できません」と警告が表示されると同時にLDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示（オレンジ色）が点滅し、一時的に作動が停止します。（室内の温度が下がると作動が復帰します。）
- システムに異常があると、LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障」と警告が表示され、システムが停止します。
警告メッセージ（P.512）

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.588）をお読みください。
- LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。
ハイブリッドシステム再始動後もシステムがONにできないまたはオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

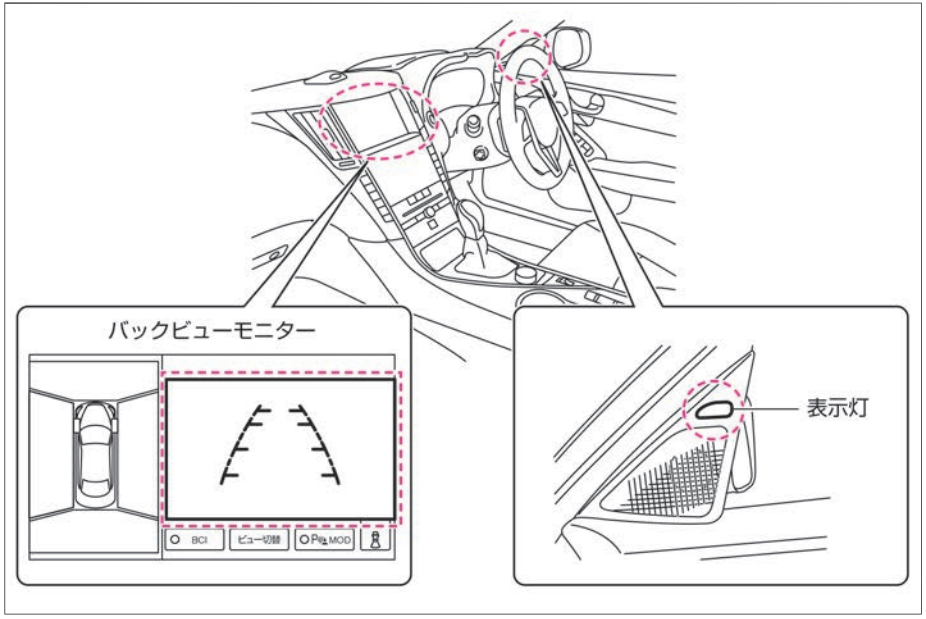
- 次の場合は、“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「作動範囲外のため現在使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。
  - ドライブモードをSNOWにしたとき
  - ABSまたはVDC（トラクションコントロールは含まない）が作動したとき
  - VDCをOFFにしたとき

  システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度プロパイロット2.0スイッチ をOFFにし、再度インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）をONにしてください。
- 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「車線認識カメラ その周辺が高温のため使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。システムを再び作動させる場合は、室内の温度が下がってから再びシステムをONにしてください。
- システムに異常があると、LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障」と警告が表示され、システムが停止します。
  警告メッセージ（P.512）

インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）

インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）は、後退時に後方の障害物や、後方を横切ろうとする車両に衝突するおそれがあるとき、警報と短時間のブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援するシステムです。

システムに関する表示



⚠ 警告

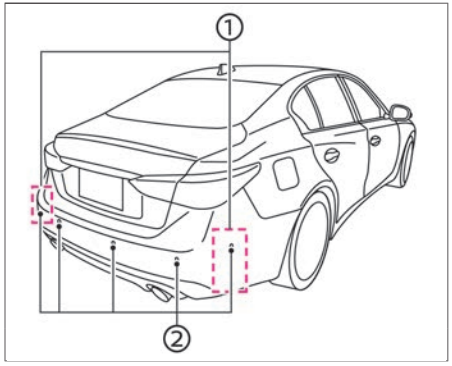
- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）は、運転者の代わりに周囲を確認したり、車両や障害物との接触を防ぐ機能ではありません。駐車スペースから後退するときは、機能に頼った確認をせず、必ず運転者自身で周囲の安全を確認してください。
- **レーダーセンサーおよびソナーセンサーには限界があるため、機能を過信しない。**
  道路の状態、天候、交通状況などにより、システムが正常に作動しないことがあります。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

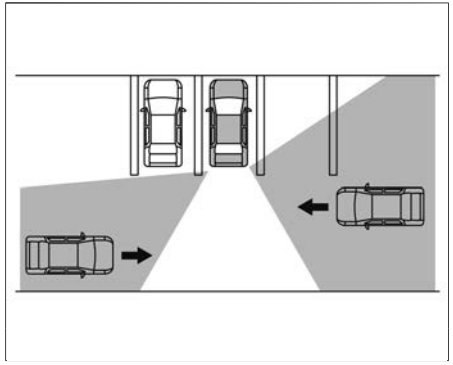
インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）について

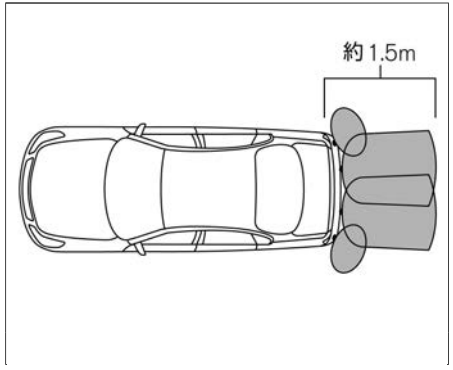
- インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）はセレクトレバーがRで、車速が約8km/h以下で作動します。
- インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）は リヤバンパー付近に取り付けられたレーダーセンサー①により、後方を横切ろうとする車両を検知します。また、リヤバンパーに取り付けられたソナー②により、後方の障害物を検知します。



検知範囲について

- レーダーセンサーは、約15m先から近づいてくる車両を検知します。
- ソナーは、リヤバンパーから約1.5m以内の障害物を検知します。



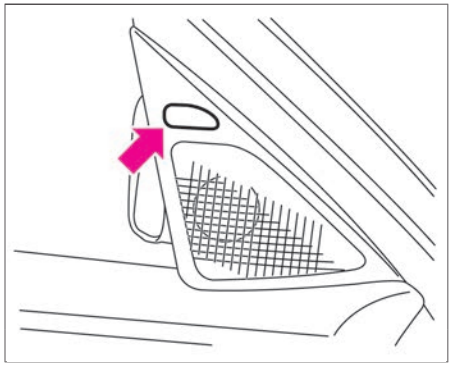


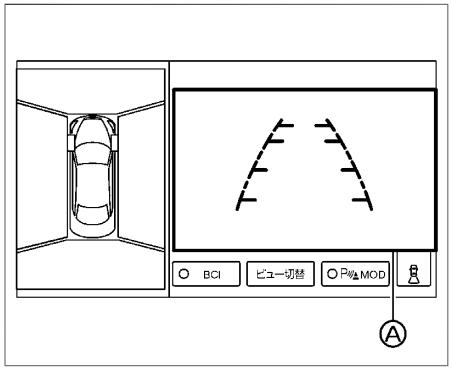
次ページに続く

作動するとき･しないとき

検知したとき

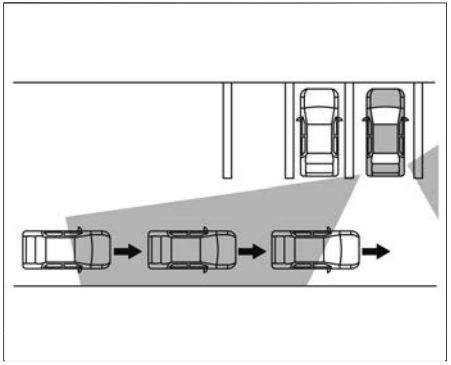
- レーダーセンサーが後方を通り過ぎようとする車両を検知すると、警報音が鳴るとともに車両が接近している側のドアミラー付近の表示灯が点滅します。同時にナビゲーションシステムのバックビューモニターのフレームⒶが黄色くなります。





作動しないとき

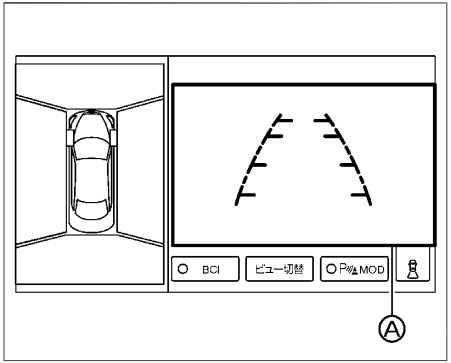
- 複数の車両が連続して後方を通過する場合や、最初に検知した車両と逆方向からも車両が接近してきた場合、2台目以降に対して警報が作動しない場合があります。
- ソナーによる警報（移動物 検知機能）が作動しているときは、車両の接近による警報は作動しません。



次ページに続く

検知して制御するとき

- 後方を通り過ぎようとする車両を検知している、または後方の障害物を検知しているときに、自車両が後退すると警報音が鳴り、ナビゲーション画面のバックビューモニターのフレームⒶが赤色になるとともに、システムがブレーキをかけ、運転者の回避操作を支援します。
  システムによるブレーキは短時間で解除されます。停車するためには、運転者はブレーキペダルを踏んでください。
- システムが作動したとき、運転者がアクセルペダルを踏んでいると、ブレーキペダルへの踏み替えを促すため、アクセルペダルを押し戻す方向に力を発生させます。このとき、運転者がアクセルペダルを踏み続けると、ブレーキは作動しません。

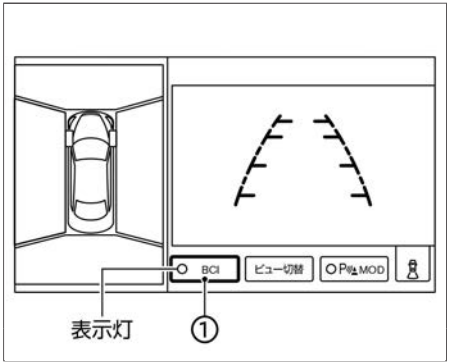


知識

- 後方の障害物と車両のリヤバンパーの距離が非常に近い場合は、インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）は作動しません。

インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）の使いかた

- セレクトレバーを R にすると、ナビゲーション画面がバックビューに切り替わり、インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）の表示灯が点灯します。
- レーダーセンサーおよびソナーが、接近する車両または後方の障害物を検知するとシステムが作動します。
- セレクトレバーが R でナビゲーション画面にバックビューが表示されているとき、インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）のアイコン①にタッチすると、システムを一時的にOFFにできます。



ドアミラー付近の表示灯の明るさ

- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 後側方支援 ⇒ インジケータ輝度 を選択すると、ドアミラー付近の表示灯の明るさを切り替えることができます。
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

知識

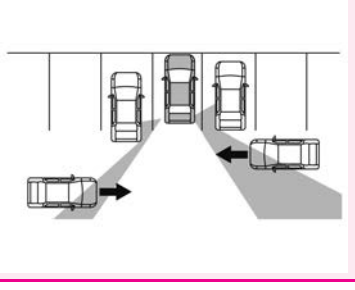
- インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）を一時的にOFFにしたときは、セレクトレバーを一旦 R 以外にしてから再度 R にするか、ハイブリッドシステムを一旦停止してから再始動すると、システムはONになります。

次ページに続く

インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）に関する注意事項

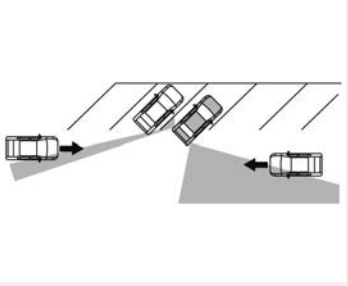
⚠ 警告

- **レーダーセンサーは、次のようなものを検知できないことがあります。**
  - 歩行者、自転車、動物など
  - 約24km/h以上の速度で通過する車両
- **次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できないことがあります。**
  - 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき

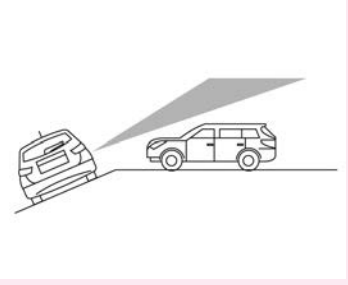


⚠ 警告

– 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき



– 傾斜した地面に駐車しているとき

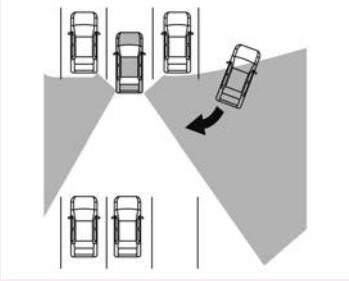


次ページに続く

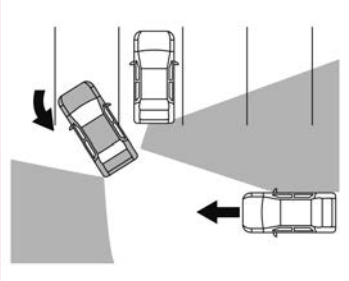
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 警告

– 回り込むようにして自車両後方へ車両が接近してきたとき



– 接近してきた車両の向きが、自車両の向きと同じまたはそれに近いとき



● **次のような場合は、思わぬ事故につながるおそれがありますので、システムを使用しないでください。**

– 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき

⚠ 警告

- 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
- 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき

- **レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが、状況によってはガードレール、壁、駐車された車両などを検知することがあります。**
- **ソナーは、次のようなものを検知できないことがあります。**
  - 小さいもの、または動いているもの
  - くさび形のもの
  - リヤバンパーに極端に近い障害物（約30cm未満）
  - ロープ、チェーン、ワイヤーなどの細いもの
- **急斜面ではシステムによるブレーキの効きが弱くなることがあります。**
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

次ページに続く

インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）の作動が停止するとき

- 次の場合は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「アクセルペダルが高温のため使用できません」と警告が表示され、システムが停止します。
  – アクセルペダルを戻す力を発生させているモーターが高温になったとき
  モーターの温度が下がると、システムは作動を再開します。
- 次の場合、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示され、システムが停止します。
  – 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  – 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動してください。
- 次の場合は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障」と警告が表示され、システムが停止します。
  – インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）に異常があるとき
  上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。

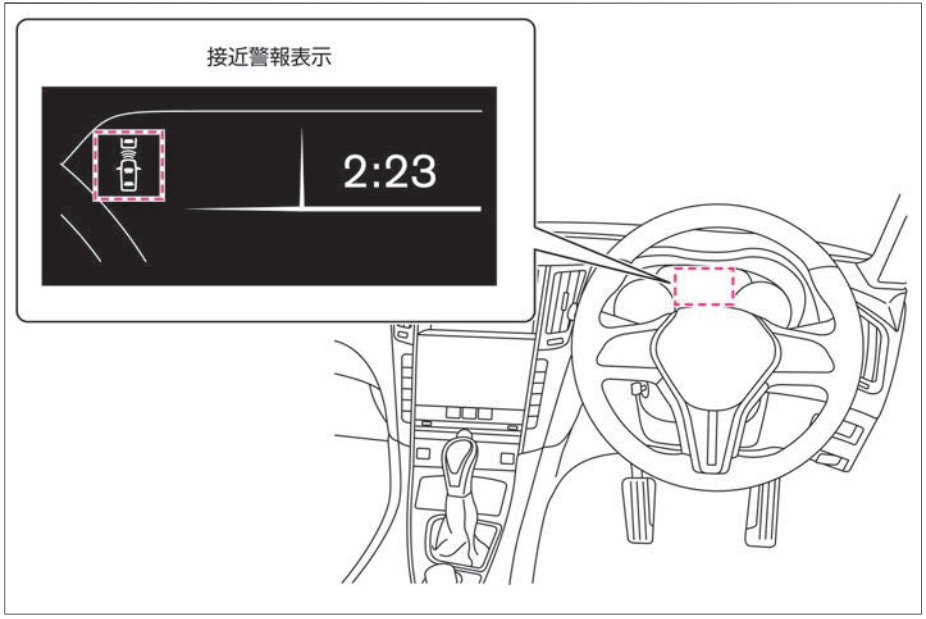
アドバイス

- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからハイブリッドシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.587）をお読みください。
- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）

前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、
自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。

システムに関する表示



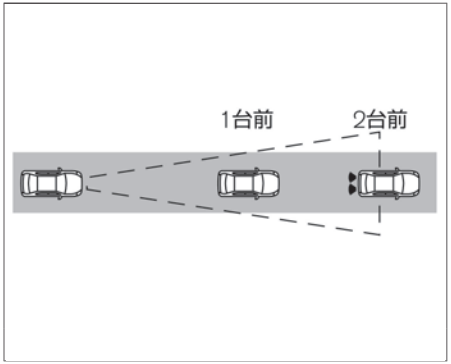
⚠ 警告

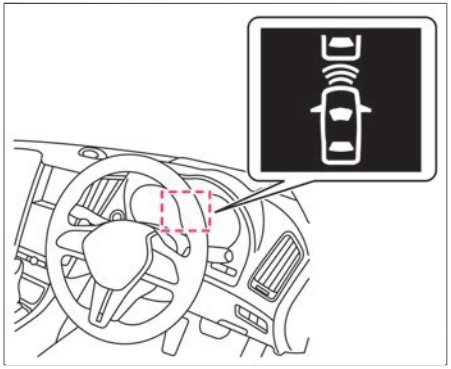
- **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は前方を走行する2台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行いますが、衝突を回避する機能はありません。**
- **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。**
  前方の車両との車間距離、周囲の状態に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

次ページに続く

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）について

- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は車速が約5km/h以上で作動します。
- 車両前部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の2台前の車両との距離を計測します。
- 自車の回避操作が必要と判断すると、アドバンスドドライブアシストディスプレイの接近警報表示がオレンジ色に点滅するとともに警報音を鳴らして、運転者に注意を促します。





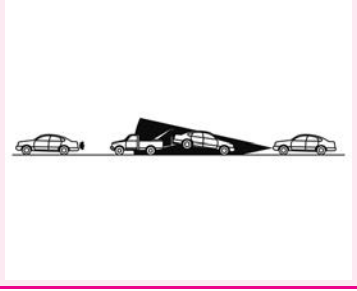
知識

- インテリジェント エマージェンシーブレーキのON･OFFを切り替えると、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）、踏み間違い衝突防止アシストも連動してON･OFFされます。
  ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.335)
  ➔踏み間違い衝突防止アシスト (P.346)

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）に関する注意事項

⚠ 警告

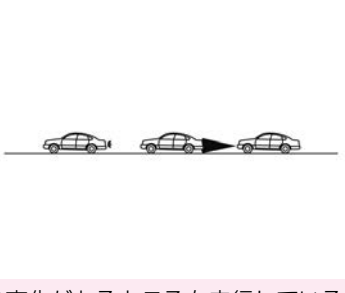
- **次のような障害物は検知しません。**
  - 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
  - 対向車両
  - 前方を横切って通過する車両
- **次のような場合は、前方の２台前の車両を検知できないことがあります。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - トンネル内を走行しているとき
  - 前方の車両がけん引を行っているとき



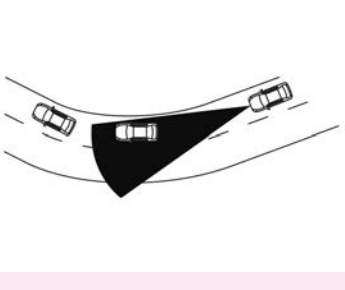
次ページに続く

⚠ 警告

– 前方の車両との距離が極端に近いとき

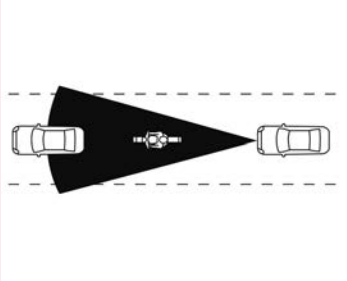


– 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき



● **前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）により警報を行わないことがあります。**

⚠ 警告



- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

次ページに続く

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）の作動が停止するとき

- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯し、作動が停止します。
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキが異常により作動を停止したとき
  - VDCをOFFにしたとき
  - 周辺の電波源の影響を受けているとき

  停止したときの状態が改善されるとシステムは作動を再開します。
- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯するとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「フロントレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示され、システムが停止します。
  - 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき

  上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動してください。
- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯するとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障」と警告が表示され、システムが停止します。
  - インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）に異常があるとき

  上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。

アドバイス

- インテリジェント エマージェンシーブレーキをONにできない、または警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
  警告灯（P.495）
- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからハイブリッドシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（P.587）をお読みください。

インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）

インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）は、先行車との車間距離や相対速度に応じてブレーキを制御するとともに、アクセルペダルを踏んでいる場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させることで、運転者の車間距離維持操作を支援するシステムです。

ナビ協調機能について

具体的には次の制御を行います。

- ナビゲーションシステムからの情報をもとに前方のカーブの大きさに応じてブレーキを制御するとともに、アクセルペダルを踏んでいる場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させることで、運転者の減速操作の支援を行います。

インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）について

一定速走行するとき、加速したいとき

- 運転者自身がアクセルペダルを踏んで走行します。

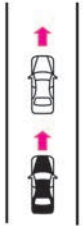
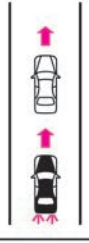
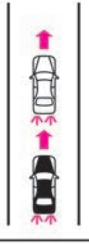
追従走行中の先行車に近づいたとき

- 運転者がアクセルペダルを戻すと、システムが滑らかにブレーキをかけて減速します。また先行車両が停止したときには、自車もそれに応じて停止します。
- 運転者がアクセルペダルを踏んだままの場合は、システムがペダルを押し戻す方向に力を発生させ、アクセルペダルを戻す操作を支援します。

運転者によるブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき

- ブザーと表示で注意を促すとともに、運転者がアクセルペダルを踏んだままのときは、アクセルペダルを押し戻す力を発生させ、運転者がアクセルペダルからブレーキペダルへ踏み替える操作を支援します。

次ページに続く

先行車が一定速度で走行している場合	先行車が加速した場合
 運転者のアクセル操作により走行します。	運転者のアクセル操作により加速します。
先行車に近づいた場合	**運転者によるブレーキ操作が必要だと判断した場合**
 運転者のアクセルを戻すと減速します。アクセルを踏んだままの場合は、ペダルを押し戻す力を発生させ、アクセルを戻す操作を支援します。	 ブザーと表示で注意を促すとともに、アクセルを踏んだままの場合は、ペダルを押し戻す力を発生させ、ブレーキへの踏み替え操作を支援します。

インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- **システムにより停止までブレーキ制御を行うが、停止状態を保持する機能はない。**
  自車が停止したとシステムが判断すると、ブザー音とともにブレーキ制御が解除され、クリープ現象によりゆっくりと車両が動き出します。停止状態を保持するためのブレーキ操作は、必ず運転者が行ってください。
- **アクセルペダルを踏んでいるときは、システムの制御によるブレーキ操作は行わない。**
- **インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）には限界があるため、機能を過信しない。**
  脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨･霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。また、追突を防止する機能はありません。
- **インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）の減速能力には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転に心がける。**
  自車の前へ他車が割り込んだときや先行車が急ブレーキをかけたとき、先行車との車間距離が十分でないとき、下り坂で追従走行しているときなどは、十分に減速できず先行車に接近することがあります。
  先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転に心がけてください。
- **先行車が停止した場合、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）によるブレーキ制御により停止まで制御を行うが、状況（先行車との車間距離が短いときや、下り坂を走行しているときなど）により停止できないことがある。**
  このような場合には、停止させるためのブレーキ操作を、必ず運転者が行ってください。
- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるので、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）を使わない。**

次ページに続く

⚠ 警告

- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
- 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
  先行車との車間距離が正確に検出できない場合があります
- センサー部に雨滴、雪などが付着しているとき
  先行車との車間距離が正確に検出できない場合があります
- 急な下り坂
  先行車を検出していてブレーキ制御をしている場合、ブレーキが過熱してしまうおそれがあります
- 急なカーブ、急な上り坂、下り坂が繰り返される道
  先行車を正確に検出できず、先行車に近づきすぎて思わぬ事故につながるおそれがあります

- **思わぬ事故につながるおそれがあるので、 インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）を使用しない場合はシステムをOFFにする。**
- **停止中の車両や自車速より極端に遅い車両に対しては、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）による制御も接近警報も行わない。**
  料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や極端に速度の遅い車両などには十分注意してください。
- **急な割り込み車両、歩行者や自転車などの車両以外のものに対しては、制御または接近警報を行わない。**
- **次の場合には、先行車を正確に検出できず、車間距離が適切に保てなくなる場合があります。周囲の状況に十分注意し、必要に応じてブレーキ操作をしてください。**
  - 先行車や他車線の車が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
  - 後席シートやトランクルームに極端に重い荷物を積んだとき
  - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき

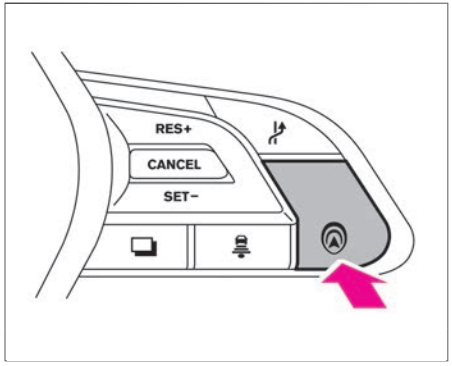
⚠ 警告

- **近距離ではセンサーの検出エリアが狭いため、自車線の端を走行する二輪車を検出できなかったり、間近に割り込んでくる先行車の検出が遅れたりして、適切な作動ができない場合があります。**
- **センサーの汚れを自動で判定する機能を備えておりますが、万全ではありません。**
  状況によってはセンサーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では、適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。また、レーダーセンサー部の周辺はいつもきれいにしておいてください。なお、汚れを判定した場合は、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）は作動を中止します。
- **道路形状（急な上り坂や下り坂、カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や自車の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に先行車を検出できなくなったり、隣の車線の車両や周辺のものを検出して制御したり、警報が作動する場合があります。また、一時的に先行車を検出できず、適切な作動ができなくなる場合があります。**

次ページに続く

ステアリングスイッチ

- システムのON･OFFができます。



知識

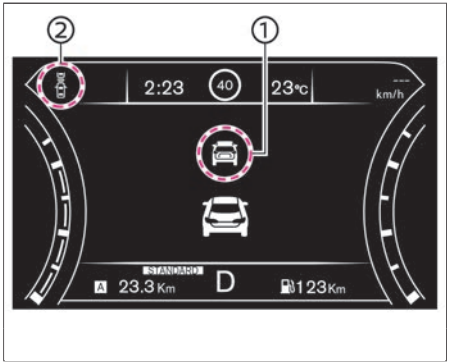
- ナビゲーションシステムでシステムをONに設定していると、プロパイロット2.0スイッチ でシステムのON･OFFを切り替えることができます。
  MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 前方支援 ⇒ インテリジェントペダル
  詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイはメーター内にあります。

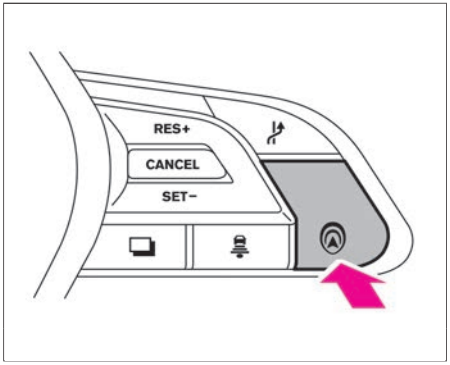
① 先行車検出表示
先行車検出の有無をお知らせします。

② 接近警報表示
システムの作動状態を表示します。
システムが作動するとオレンジ色に点滅します。



インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）の使いかた

- プロパイロット2.0スイッチ を押してシステムをONにします。
（表示が点灯します。）
- 車速が約5km/h以上になると、制御を開始します。



次ページに続く

■ ON･OFFのしかた

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON･OFFが切り替わります。

MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 前方支援 ⇒ インテリジェントペダル

詳しくは、運転支援設定 (P.167)をお読みください。

ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

知識

- ステアリングにあるプロパイロット 2.0スイッチ を押すと、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）のON･OFFを同時に切り替えることができます。
- ナビゲーションシステムでON･OFF設定した場合は、ハイブリッドシステムを停止しても再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。
- ハイブリッドシステムを停止するとインテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）はOFFになります。

インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）の作動

先行車を検出したとき

- 先行車検出表示が点灯します。

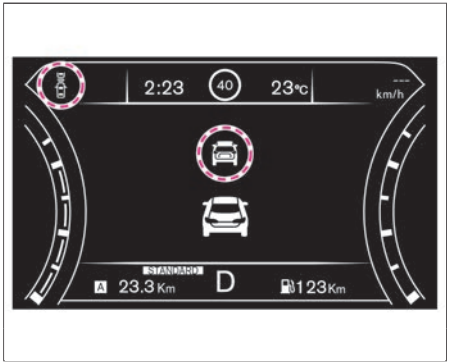
先行車に近づいたとき

- アクセルペダルを戻すと、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）がブレーキをかけ減速します。先行車が停止した場合は、停止まで制御を行います。
- 運転者がアクセルペダルを踏んだままの場合は、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）がペダルを押し戻し、アクセルペダルを戻す操作を支援します。

運転者によるブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき

- アドバンスドドライブアシストディスプレイの接近警報表示をオレンジ色に点滅させるとともにブザーを鳴らして警告を行います。
- 同時に、ブレーキペダルへの踏み替えを促すため、アクセルペダルが上向きに押し上げられます。

➔ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは (P.80)



⚠ 注意

- **先行車検出表示が点灯していないときは、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）による制御も警報も行わない。**
- **アクセルペダルの踏み方や踏み込み量により、アクセルペダルを押し戻す力が十分に発生できない場合があります。**
- **インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）の制御により自車が停止したときは、“ピー”というブザー音とともにシステムは作動を中止します。（車速が再び約5km/hを上回ると、作動が復帰）**
- **停止状態を保持する機能はありません。**
  自車が停止したときは、ブレーキを踏んで車両を停止させてください。また、状況によって停止できない場合があります。必要に応じてブレーキを踏み、車両を停止させてください。

次ページに続く

知識

- インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）の制御によりブレーキが作動したときは、自車の制動灯が点灯します。
- ブレーキが作動したとき、音がすることがありますが異常ではありません。

運転者操作時の作動

次の場合は運転者の操作を優先します。

- アクセルペダルを踏み増したとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき

⚠ 注意

- **アクセルペダルを踏んでいるときは、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）の制御によるブレーキ操作は行わない。**
- **ブレーキペダルを踏んでいるときは、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）の制御によるブレーキ操作も警報も行わない。（先行車検出表示が消灯）**
- **プロパイロット2.0が作動しているときは、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）の作動が停止する。**

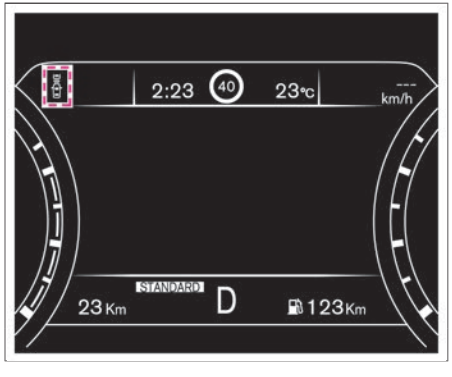
次ページに続く

接近警報

先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、次のようにブザーとアドバンスドドライブアシストディスプレイの接近警報表示によって運転者に注意を促します。

- ブザーが“ピッ、ピッ、ピッ…”と鳴ります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイの接近警報表示がオレンジ色に点滅します。

この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。



⚠ 注意

- **警報ブザーが頻繁に鳴るような状況では、システムを使用しない。**
- **短い車間距離でも、次の場合には警報が作動しないことがあります。**
  - 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
  - 先行車のほうが自車より早いとき（車間距離が次第に離れていくとき）
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき
- **料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や、自車速より極端に車速が遅い車両に対しては警報が作動しません。**
- **道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や、自車および周辺車両の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に隣車線の車両や、車道脇に設置されている物体などを検出して、接近警報が作動する場合があります。**

インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）の作動が停止するとき

- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「作動範囲外のため現在使用できません」と警告が表示され、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）が解除されます。
  - ABSまたはVDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき
  - VDCをOFFにしたとき
  - ドライブモードをSNOWにしたとき
  - タイヤが空転したとき

  システムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再びONにしてください。
- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「フロントレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」 と警告が表示され、システムが停止します。
  - センサー部が汚れ、車間距離の測定が困難になったとき

    システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止してレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから再始動し、再びシステムをONにしてください。
  - 道路形状や周辺の建造物により、レーダーが先行車を正確に検知できないとき

    （例：長い橋、雪原、長い壁の横など）

    システムを再び作動させる場合は、上記の状況から離れるとシステムは作動を再開します。
- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障」と警告が表示され、作動が停止します。
  - インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）に異常があるとき

  システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。

アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからハイブリッドシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては（P.587）をお読みください。

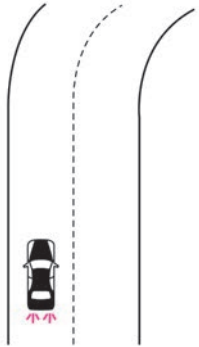
ナビ協調機能（インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム））

ナビゲーションシステムからの情報をもとに前方のカーブの大きさに応じてブレーキを制御するとともに、アクセルペダルを踏んでいる場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させることで、運転者の減速操作の支援を行う機能です。

ナビ協調機能（インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム））について

ナビ協調機能は、次の条件がすべて満たされている場合に作動します。

- インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）を使用しているとき。（先行車を検出していないとき）
- ナビ協調機能がONのとき。
➔ ナビ協調機能（インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム））の使いかた (P.428)

走行状況	カーブ路に近づいたとき
例	 カーブに近づいた場合は、運転者がアクセルを戻すと、カーブの大きさに応じて滑らかにブレーキをかけ減速します。 運転者がアクセルを踏んだままの場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させ、運転者がアクセルペダルを戻す操作を支援します。

⚠ 注意

- **ナビ協調機能は、前方のカーブの大きさに応じて、システムの減速能力の範囲内で減速するものであり、カーブを走行したり、法定速度を遵守した走行を支援するものではありません。**
  法定速度を守り、安全にカーブを走行するためのブレーキ操作は、必ず運転者が行ってください。
- **アクセルペダルを踏んでいるときは、システムの制御によるブレーキ操作は行いません。**
- **ナビ協調機能には限界があり、状況により作動しない場合があるので、ナビ協調機能を過信しない。**
  脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨･霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。
  周囲の状況に十分注意し、安全運転に心がけてください。
- **ナビ協調機能の減速能力には限界があります。十分に減速できないとシ**

⚠ 注意

ステムが判断した場合は、ブザーおよび表示による警報で注意を促します。

- **この機能はナビゲーションシステムからのカーブ情報を利用しているため、次のような状況では制御や警報のタイミングがずれたり、適切に制御や警報を行えない場合があります。周囲の状況に十分注意し、必要に応じてブレーキまたはアクセル操作を行って走行してください。**
  - ナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないとき
  - ナビゲーションシステムの地図に無い道路を走行しているとき
  - 車線規制や工事などで、ナビゲーションシステムの地図情報と実際の道路形状が異なっているとき
    詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ナビゲーション」の章をお読みください。
  - 分岐路等前方に複数の道路があるとき
- **カーブ走行路での運転支援を目的としているので、それ以外の道路（カーブと認識されないT字路や交差点）では作動しません。**

⚠ 注意

- **道路形状（急な上り坂や下り坂のカーブ路など）によっては、制御や警報のタイミングがずれたり、適切に制御や警報を行えない場合があります。**
- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、システムを使わないでください。**
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
  - 急な下り坂でカーブが連続する道
    カーブを検出していてブレーキ制御をしている場合、ブレーキが加熱してしまうおそれがあります。
- **道路から自車マークが外れた状態から、道路上に戻ってきたあとしばらくの間は制御が作動しない場合があります。**
  - 駐車場を出たあと
  - SA（サービスエリア）、PA（パーキングエリア）を出たあと
  - 地図にない道路を走行したあと

次ページに続く

ナビ協調機能（インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム））の使いかた

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON･OFF設定をステアリングスイッチで切り替えることができます。
  MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 前方支援 ⇒ インテリジェントペダル ／ カーブ減速支援
  詳しくは、➔ 運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

⚠ 注意

- **ナビ協調機能を使用しないときは、設定をOFFにする。**
- **設定をOFFにした場合、ナビ協調機能による制御も警報も行わない。**
  ナビ協調機能を作動させたいときは、設定をONに戻してください。

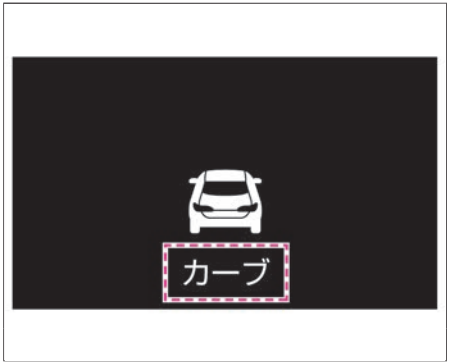
知識

- ナビ協調機能のON･OFF設定は、ハイブリッドシステムを停止しても、再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。

ナビ協調機能の作動

制御対象となるカーブに近づいたとき

- アクセルペダルを戻すと、システムがブレーキをかけて減速します。
- 運転者がアクセルペダルを踏んだままの場合は、システムがペダルを押し戻し、アクセルペダルを戻す操作を支援します。
- 十分に減速できないとシステムが判断したとき ブザーが“ピッピッピッ”となり、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「カーブ」と表示されます。この場合はブレーキを踏んで減速し、適切な車速で走行してください。



知識

- 自車の推定進路は以下のように判定します。

ルートガイドを行っている場合

- ナビゲーションシステムのルートを進路と推定します。

ルートガイドを行っていない場合

- ナビゲーションシステムの自車マーク 前方道路を進路と推定します。
  また、分岐路の場合は以下のように進路方向の推定を行います。
- 道路種別による進路方向の推定
  例：国道と県道での分岐路の場合は、国道を進路方向として推定します。
- 道路種別が同様の場合は、みちなりの道路を進路方向として推定します。

次ページに続く

運転者操作時の作動

次の場合は運転者の操作を優先します。
●アクセルペダルを踏み増ししたとき。
●ブレーキペダルを踏んでいるとき。

⚠ 注意

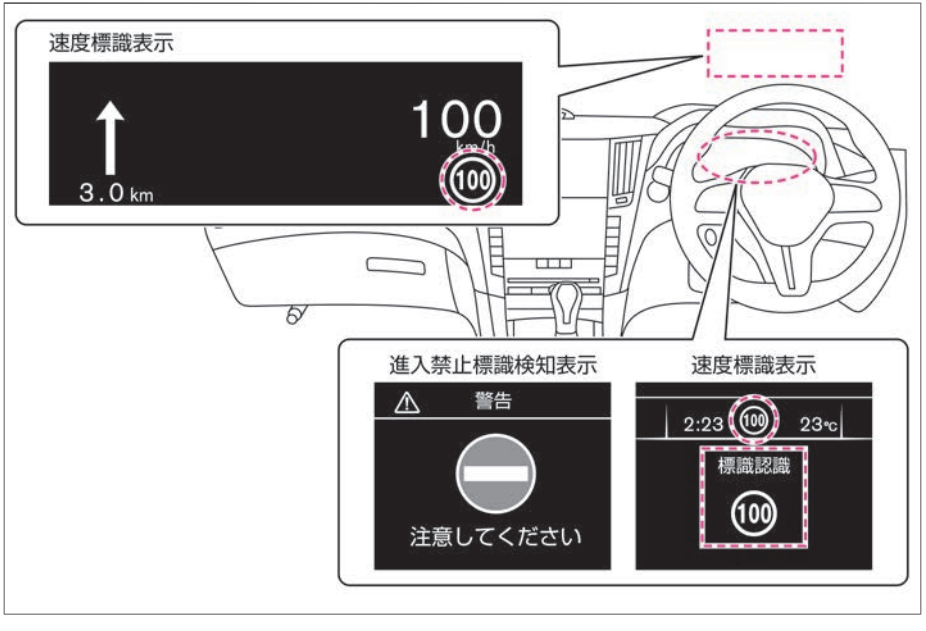
- **アクセルペダルを踏んでいるときは、システムの制御によるブレーキ操作は行いません。**
- **ブレーキペダルを踏んでいるときは、システムの制御によるブレーキ操作も警報も行わない。（ナビ協調機能表示が消灯）**
- **プロパイロット2.0が作動しているときは、インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）の作動が中止されるため、ナビ協調機能の作動も中止する。**
- **ナビ協調機能表示が点灯していないときは、システムによる制御も警報も行わない。**
- **ナビ協調機能作動中に先行車を検出した場合は、先行車に対する車間制御を優先するため、ナビ協調機能は作動しない。（ナビ協調機能表示が消灯）**
  機能によって制御内容が異なりますので、作動中の機能をアドバンスドドライブアシストディスプレイの表示で必ず確認してください。

知識
● ナビ協調機能の制御によりブレーキが作動したときは、自車の制動灯が点灯します。

標識検知機能

フロントガラス上部にあるマルチセンシングフロントカメラにより標識を検知し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ、またはヘッドアップディスプレイに表示します。

システムに関連する表示



警告

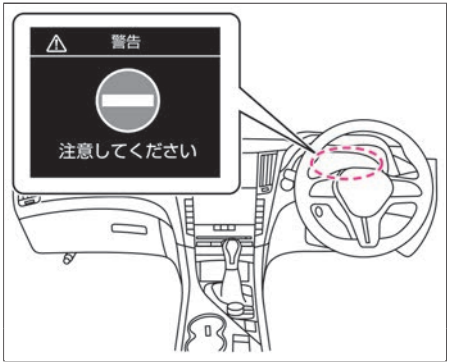
- **走行中は運転者の責任で実際の標識を確認する。**
  標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。
  標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。
  運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

標識検知機能について

● 標識検知機能には次の機能があります。

進入禁止標識検知

● 前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合にはアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告表示します。
● 万一、車両進入禁止標識を通過した場合には警告音が鳴ります。



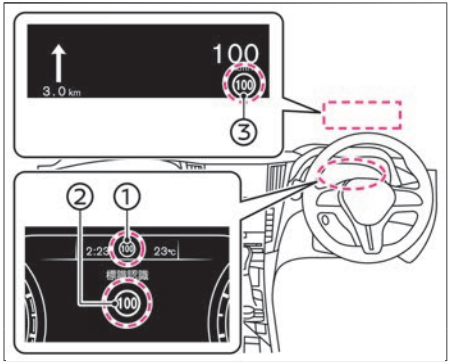
知識

● 次のような道路標識は検知しません。
　– 電光式の速度標識
　– 補助標識（時間帯、区間の終わりなど）

次ページに続く

速度標識表示

- 前方の速度標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイ①②、およびヘッドアップディスプレイ③に表示されます。
  車両情報（表示項目） (P.81)
  ヘッドアップディスプレイ (P.95)
- 次の場合は、速度標識の表示が切り替わります。
  - 表示中の速度と異なる速度標識を検知したとき



知識

- 標識検知機能は、一般道路では表示しません。
- 標識検知機能は、ナビ連動制御が作動しているときに表示します。

進入禁止標識の停止のしかた

- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 標識検知支援 ⇒ 進入禁止標識表示 を選択すると、標識検知機能のON·OFFを切り替えることができます。
  詳しくは、➔ 運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

知識

- 進入禁止標識の設定は、ハイブリッドシステムを再始動しても維持されます。

速度標識検知の停止のしかた

- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 標識検知支援 ⇒ 制限速度標識表示 を選択すると、標識検知機能のON·OFFを切り替えることができます。
  詳しくは、➔ 運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

次ページに続く

標識検知機能に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような場合は、標識の検知が遅れたり、検知できないことがあります。**
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、虫汚れなどが付着しカメラの視界がさえぎられているとき
  - カメラ前方のフロントガラスが曇っているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方車両から反射した強い光（太陽光など）を受けているとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
  - 隣を走る車で視界がさえぎられているとき
  - 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
  - 標識の周辺が煩雑で標識を認識しにくいとき
  - 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
  - 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
  - 標識が色あせたり、折れ曲がっているとき
  - 標識が破損しているなど形状が変わってしまっているとき
  - 標識が泥、雪、または霜などで覆われたとき

⚠ 警告

- 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき
- 標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき
- 標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
- 標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
- 標識が明るすぎたり、暗すぎたりしたとき
- カメラの向きがずれているとき
- 始動してからしばらくの間は標識を検知しません

- **次のような場合は、標識の検知が適正に行えず、実際の規制内容とは異なるものを表示したり、 実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。（速度標識においては、実際の制限速度よりも高い数字や、低い数字を表示したりすることがあります）**
  - 数字が認識しにくい標識（数字が消えかかっているなど)
  - 検知対象となる標識の色、形に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

次ページに続く

⚠ 警告

– 自車の路線に対しての標識ではないが、自車の路線付近にあり、その標識が自車の路線に向いている場合（本線から分岐する側道の一時停止標識や速度標識など)

⚠ 注意

- **標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。
標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる表示をしたりする場合があります。
運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。**
- **標識の近傍にある補助標識は検知しないため、実際の規制内容と異なる表示をする場**

⚠ 注意

合があります。必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（➔P.588）をお読みください。

知識

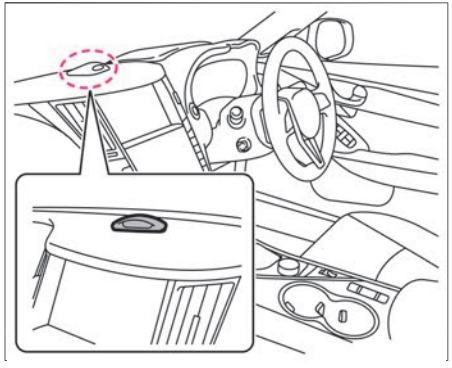
- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

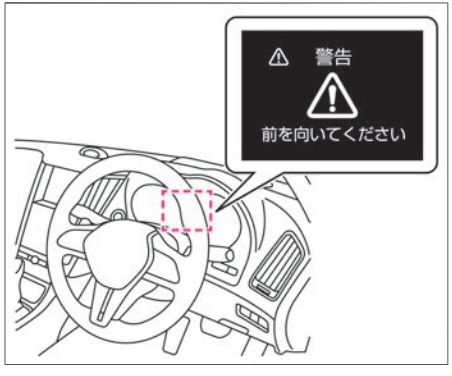
ドライバーモニターシステム

ドライバーモニターシステムは、カメラにより運転者の状態を認識して安全運転を支援する機能です。

ドライバーモニターシステムについて

- 走行中に運転者が一定時間以上、眼を閉じたり顔の向きを前方から大きく外したりするなどして、居眠りや脇見などをしているとシステムが判断した場合、音と表示で警告します。





⚠ 注意

- **ドライバーモニターシステムの機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がけてください。**
- **ドライバーモニターシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。**
  疲労時の運転は重大な事故に至る危険がありますので、運転前に十分に休憩をとり、安全運転に努めてください。
- **ドライバーモニターシステムは、脇見運転などの前方不注意での運転を補助するものではありません。**
  脇見運転は重大な事故に至る危険がありますので、常に進行方向の交通状況、道路状況を確認し、安全運転に努めてください。

ドライバーモニターシステムの停止のしかた

- ナビゲーションシステムで MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 前方支援 ⇒ ドライバーモニター を選択すると、ドライバーモニターシステムのON·OFFを切り替えることができます。
  詳しくは、➔ 運転支援設定 (P.167)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

知識

- ドライバーモニターの設定は、ハイブリッドシステムを再始動しても維持されます。
- ナビゲーションシステムでOFFを選択している場合でも、プロパイロット2.0が作動しているときは警告をすることがあります。

ドライバーモニターシステムに異常があるとき

- ドライバーモニターシステムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「ドライバーモニターカメラ故障」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。

アドバイス

- ドライバーモニターカメラ部の汚れにより警告が表示されたときは安全な場所に停車し、カメラ部の汚れを取り除いてからハイブリッドシステムを一旦停止して再始動してください。
  上記の操作をしても、警告が表示されるときは通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
  ➔ ドライバーモニターカメラの取り扱い (P.443)

次ページに続く

ドライバーモニターシステムに関する注意事項

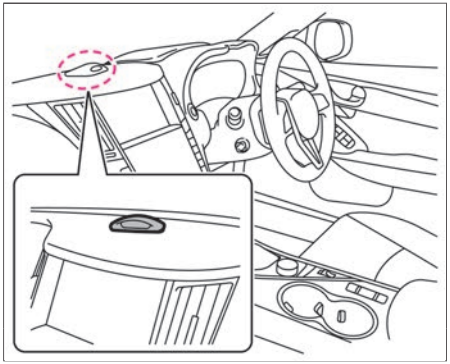
⚠ 注意

- **次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。**
  - 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき
  - 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき
  - 眼鏡やサングラス、帽子、マスク、眼帯などを着用している場合など目、鼻、口のいずれかが隠れていたり、顔や頭の形を変える衣服を着用しているとき
  - 顔とシステムとの間に遮る物があるとき
  - ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき
  - 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき
  - 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしているとき
- **状況によっては外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

ドライバーモニターカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために次のことを守りください。

- ドライバーモニターカメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。
- 硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。
- ドライバーモニターカメラ周辺にものをおいたり、ステッカー（透明な物を含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けたりしないでください。誤作動の原因になります。
- ドライバーモニターカメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。またカメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。
- 事故などでドライバーモニターカメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。



MEMO

室内灯

マップランプ／リヤパーソナルランプ P.446

収納装備

グローブボックス P.450
小物入れ P.452
センターコンソールボックス P.453
カップホルダー／ボトルホルダー P.454
オーバーヘッドコンソール P.457

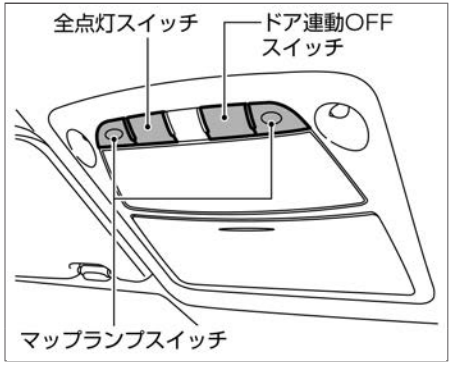
その他の室内装備

ヒーターシート★ P.458
電源ソケット P.460
フロアカーペット P.462
サンバイザー／バニティミラー（照明付き） P.464
アシストグリップ／コートハンガー P.466
トランクフック P.467
ゴルフバッグの収納 P.468
アクティブ･ノイズ･コントロール／アクティブ･サウンド･コントロール P.469

マップランプの使いかた

- マップランプは、フロントシート天井部の中央にあります。
- 次のように点灯･消灯します。

スイッチ	点灯･消灯のしかた
全点灯スイッチ	スイッチを押すと、マップランプおよびリヤパーソナルランプが常時点灯します。もう一度押すと消灯します。
ドア連動OFFスイッチ	スイッチを押すと、常時消灯します。
マップランプスイッチ	スイッチを押した方のマップランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。



アドバイス

- パワースイッチがOFFのときは、マップランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

知識

キー連動室内照明システム

- ドア連動OFFスイッチが押し込まれていないときは、次の条件で点灯します。
  - パワースイッチをOFFにしてから約15秒間
  - パワースイッチがOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - パワースイッチがOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間
  - ドアが開いているとき
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、室内照明の設定ができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両 ⇒ ドアロック解除時自動ルームランプ点灯
  詳しくは、車両 (P.172)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法

知識

は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

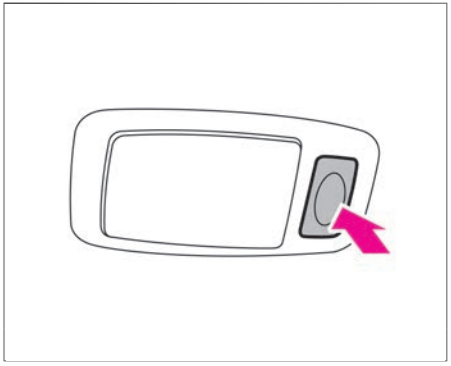
バッテリーセーバー

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、室内照明は15分以上点灯し続けると消灯します。

次ページに続く

リヤパーソナルランプの使いかた

- リヤパーソナルランプは、後席天井部の左右にあります。
- スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



アドバイス

- パワースイッチがOFFのときは、リヤパーソナルランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

知識

キー連動室内照明システム

- マップランプのドア連動OFFスイッチが押し込まれていないときは、次の条件で点灯します。
  - パワースイッチをOFFにしてから約15秒間
  - パワースイッチがOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - パワースイッチがOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間
  - ドアが開いているとき
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、室内照明の設定ができます。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両 ⇒ ドアロック解除時自動ルームランプ点灯
  詳しくは、車両 (P.172)をお読みください。
  ナビゲーションシステムの操作方法

知識

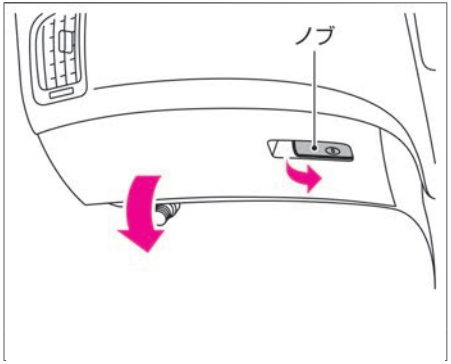
は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

バッテリーセーバー

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、室内照明は15分以上点灯し続けると消灯します。

グローブボックスの使いかた

- 開けるときは、ノブを手前に引き矢印の方向に開けます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。



⚠ 注意

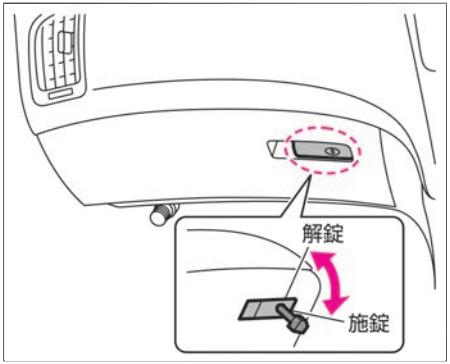
- **グローブボックスを開けたまま走行しない。**
  走行中に収納したものが飛び出したり、開いたふたが身体に当たるなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ふたを開けるときは、ゆっくり開ける。**
  ふたを全開にしたとき身体に当たるおそれがあります。

アドバイス

- グローブボックスを閉めるときは、ケーブルなどを挟み込まないでください。ふたが変形するおそれがあります。

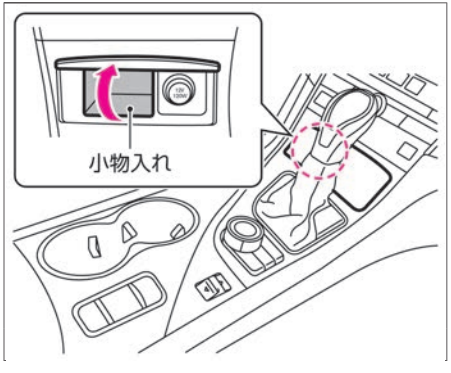
グローブボックスの施錠・解錠のしかた

- 内蔵キー（メカニカルキー）（P.481）で施錠・解錠します。
- 内蔵キー（メカニカルキー）は半分ぐらい差し込んだ状態で止まります。



小物入れの使いかた

- ふたを押すと開きます。
- 閉めるときは、ふたを押し戻します。

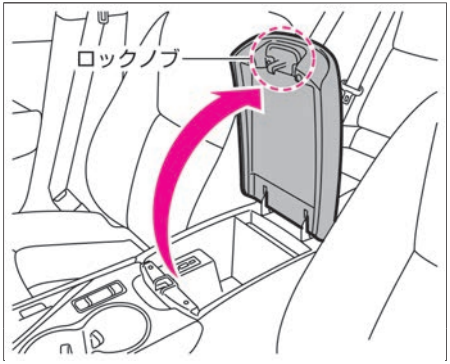


知識

- 小物入れ内には電源ソケットがあります。
電源ソケット (P.460)

センターコンソールボックスの使いかた

- 開けるときは、ロックノブを引き上げながら、ふたを開けます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。



⚠ 注意

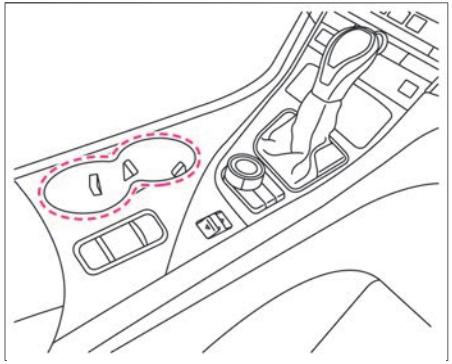
- **センターコンソールボックスを開けたままにしない。**
  開けたふたで思わぬケガをするおそれがあります。

知識

- コンソールボックス内には、電源ソケット、USBソケット、外部機器の入力端子（オーディオ）があります。
  USBソケット、外部機器の入力端子（オーディオ）については別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
  電源ソケット (P.460)

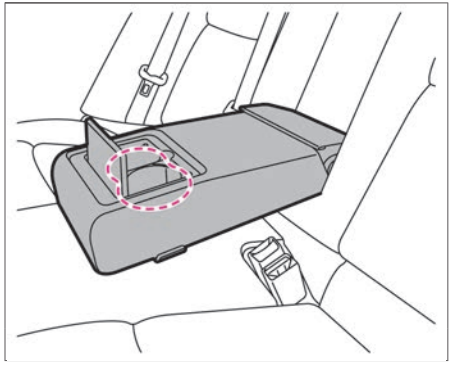
前席用カップホルダーについて

- センターコンソールにあります。



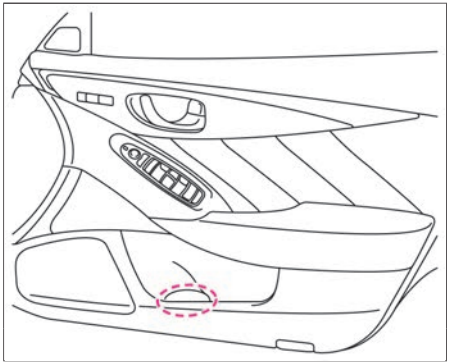
後席用カップホルダーについて

- アームレストを前に倒し、ふたを開けて使います。
- 使わないときは、ふたを閉めます。
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。



ボトルホルダーについて

- ボトルホルダーは、運転席および助手席のドアポケットにあります。



次ページに続く

カップホルダー／ボトルホルダーに関する注意事項

⚠ 警告

- **走行中に飲み物を出し入れしない。**
  走行中に飲み物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中は信号待ちなどの停車中に飲み物を出し入れしてください。
- **ビンなどの硬いものは入れない。**
  側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **熱い飲み物を置かない。**
  熱い飲み物をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、飛び散ったりして、乗員がやけどを負うおそれがあります。
- **飲み物をこぼさないように注意する。**
  飲み物の容器の形によっては、確実に固定されないおそれがあります。
- **車室内のスイッチや画面などに飲み物をこぼさないようにする。**
  故障や火災のおそれがあります。

アドバイス

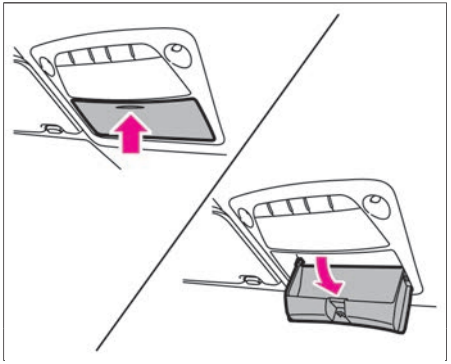
- 飲み物や液体がいっぱいに満たされた容器をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、漏れ出したりして、車両の電子機器などに損傷を与えるおそれがあります。いっぱいに満たされた容器を置かないでください。

オーバーヘッドコンソール

サングラスなどを収納できます。

オーバーヘッドコンソールの使いかた

- 開けるときは、ふたを押します。
- 閉めるときは、ロックするまで押し戻します。



⚠ 警告

- **炎天下で駐車するときは、サングラス、メガネ、ライターなどを入れたままにしない。**
  炎天下での駐車は大変高温になるため、サングラスやメガネが変形したり、ライターが爆発するおそれがあります。

⚠ 注意

- **オーバーヘッドコンソールを開けたまま走行しない。また、重いものを入れない。**
  収納物が落下して思わぬケガをするおそれがあります。開閉は停車中に行い、重いものを入れないでください。

ヒーターシート★

前席シートを温めます。
パワースイッチがONのときに使えます。

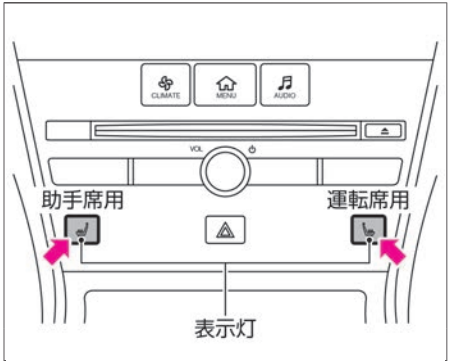
ヒーターシートの使いかた

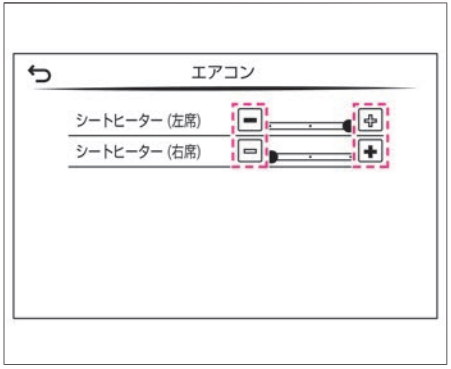
- スイッチを押すと、作動します。
  （スイッチの表示灯が点灯）
- スイッチを押すごとに、AUTO⇒High⇒Mid⇒Low⇒OFFが切り替わります。

スイッチ	働き
AUTO	車室内の温度に応じて温度調節およびON･OFFを切り替え
High	強
Mid	中
Low	弱
OFF	停止

ヒーターシートの設定について

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ヒーターシートをAUTOにしたときのシート温度を調整します。
  ＋：温度を高めに設定
  －：温度を低めに設定
  MENU ⇒ 設定 ⇒ その他の設定 ⇒ エアコン ⇒ シートヒーター（左席） / シートヒーター（右席）
  ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。





⚠ 注意

- **長時間の連続使用はしない。**
  低温やけどの原因になります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意してください。
- **硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。**

アドバイス

- 過熱するおそれがあるため、シートに毛皮や座布団を載せたり、シートカバーを使用しないでください。
- シートを清掃するときは、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。
- 水などをこぼしたときは、乾いた布ですぐにふき取ってください。
- 12Vバッテリーあがりを防止するため、ハイブリッドシステムを始動した状態でご使用ください。また、アイドリング状態での連続使用は避けてください。

ヒーターシート★

知識

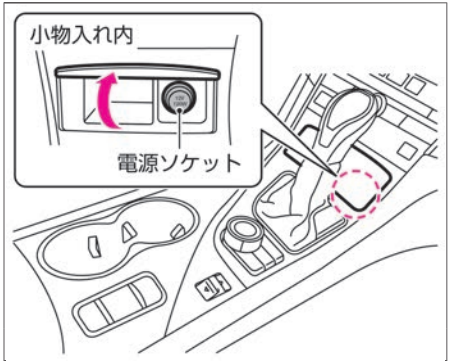
- ナビゲーションシステムのエアコン操作画面で をタッチしても、画面内でAUTO、High、Mid、Low、OFFを切り替えることができます。

電源ソケット

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。パワースイッチがONまたはアクセサリーのとき使えます。

電源ソケットの使いかた

- 電源ソケットは以下の場所にあります。
  - インストルメントパネルの小物入れ内
    小物入れ (P.452)
  - センターコンソールボックス内
    センターコンソールボックスの使いかた (P.453)
- キャップ（ふた）を外して（開けて）使います。
- 使わないときは、キャップ（ふた）をします。
- 容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。
- プラグを挿入したり抜いたりするときは、使用機器側の電源をOFFにするか、パワースイッチをOFFにしてください。



⚠ 警告

- **電源ソケットを使うときは、次のことを守る。**
  電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどのおそれがあります。
  - 2マタソケットなどでタコ足配線をしない
  - 消費電力120W以下のものを使用する
  - 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入する
  - 使用中や使用後はソケットやプラグに注意する
  - シガーライターをソケットに差し込まない
  - ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、ハイブリッドシステムを始動した状態で使用してください。また、長時

電源ソケット

アドバイス

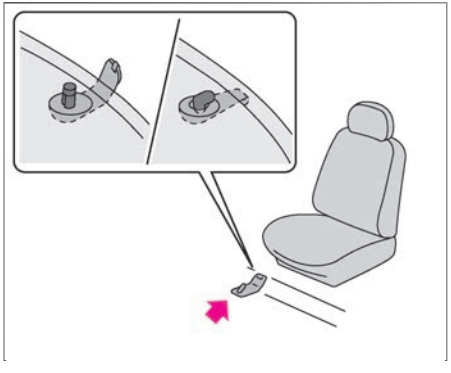
間使用したり、エアコン、ヘッドランプ、リヤウインドーデフォッガーなどを同時に使用しないでください。

フロアカーペット

この車（年式）専用のフロアカーペットが設定されています。
床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。

固定のしかた

- 床面には日産純正フロアカーペット用の固定クリップが付いています。
- フロアカーペットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。
- 車種により、固定クリップ·ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、日産販売会社にお問い合わせください。



⚠ 警告

- **この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用する。**
  フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬ速度が出る、またはブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことを守る。**
  - 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しない
  - フロアカーペットでペダルを覆わない
  - フロアカーペットを重ねて敷かない
  - 運転席専用のフロアカーペットを使用する
  - フロアカーペットを前後さかさまにしたり、裏返して使用しない
- **運転する前にフロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。**
- **運転に支障がないことを確認する。**
  運転する前、パワースイッチがOFF

⚠ 警告

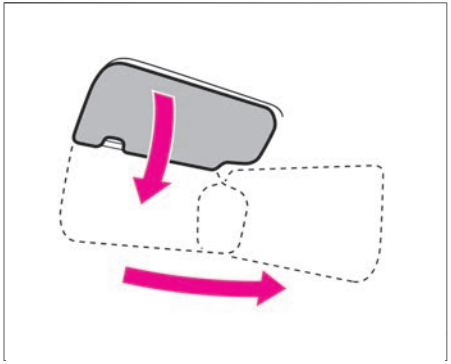
の状態でセレクトレバーがPのとき、各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないことを確認してください。

- **タバコの火種をフロアカーペットなどに落とさない。**
  火災につながるおそれがあります。

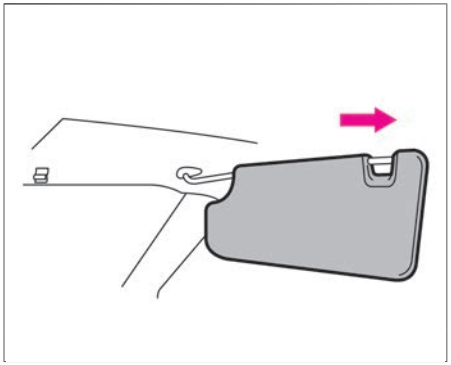
サンバイザー／バニティミラー（照明付き）

サンバイザーの使いかた

- 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。
- 横からの日差しを防ぐときは、下に下げて、フックから外し、横にして使います。



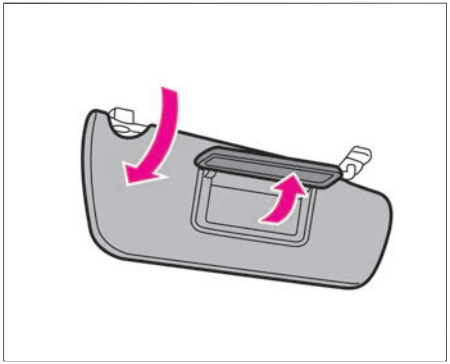
- サンバイザーを横方向に引き出すと、より横からの日差しを防ぐことができます。



サンバイザー／バニティミラー（照明付き）

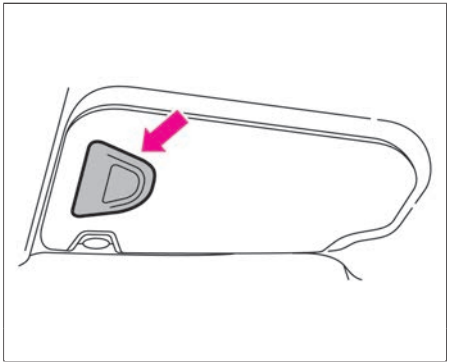
バニティミラー（照明付き）の使いかた

- サンバイザー裏側に照明付きのバニティミラー（鏡）が付いています。
- サンバイザーを下に下げて、カバーを開けて使います。



カードホルダーの使いかた

- 領収書や通行券などを挟みます。

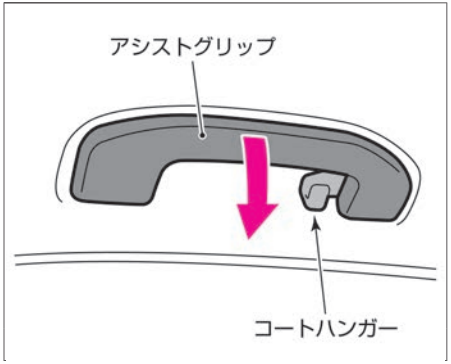


アドバイス

- 炎天下での駐車は車室内が大変高温になるため、カードを入れたままにしないでください。カードが変形するおそれがあります。

アシストグリップ／コートハンガーの使いかた

- アシストグリップは、前席および後席シート左右にあります。
- 後席シート左右にはコートハンガーが付いています。



⚠ 注意

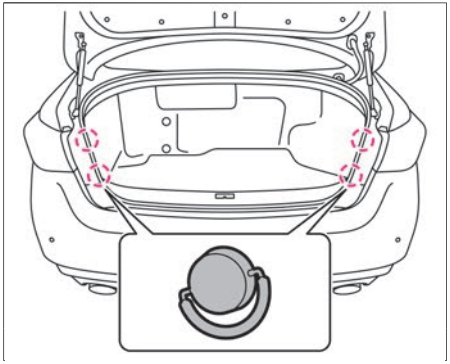
- **コートハンガーにハンガーなど先のとがった物をかけない。**
  SRSエアバッグが作動したときに飛ばされて、思わぬ傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

- コートハンガーには1kg以上の物をかけないでください。

トランクフックの使いかた

荷物の固定用としてネットなどをかけるときに使います。



アドバイス

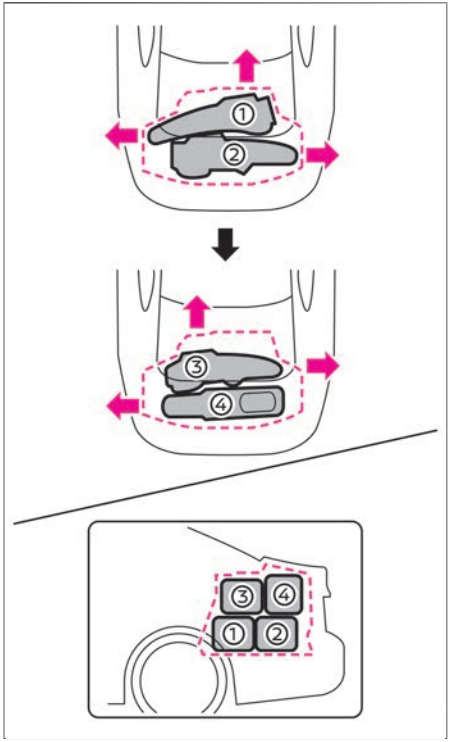
- フックには大きな力がかからないようにしてください。フックが破損するおそれがあります。
- 3kg以上の物をかけないでください。フックが破損するおそれがあります。

ゴルフバッグの収納

トランクにゴルフバッグを4個載せるときは、次のように組み合わせると乗せやすくなります。

ゴルフバッグの収納のしかた

① 1個目のゴルフバッグのヘッド側を左に向けて入れ、そのまま奥まで押し込みます。
② 2個目のゴルフバッグのヘッド側を右に向けて入れます。
③ 3個目のゴルフバッグのヘッド側を右に向けて入れ、①の上に押し込みます。
④ 4個目のゴルフバッグのヘッド側を左に向けて入れます。

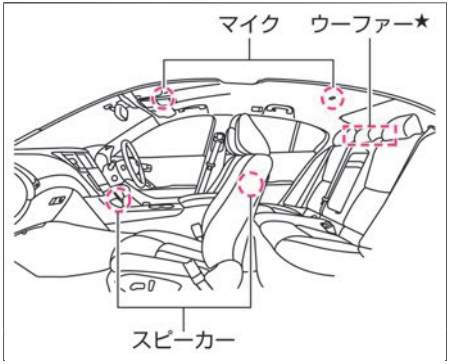


知識

- 9インチのゴルフバッグまで収納できますが、形状･大きさにより収納できない場合があります。

アクティブ･ノイズ･コントロールについて

- 天井のマイクでエンジンのこもり音を検知し、スピーカーからこもり音を打ち消す音を出すことで車室内の静粛性を高めます。



アドバイス

- アクティブ･ノイズ･コントロールを正常に作動させるために以下のことをお守りください。
  - スピーカーの周辺に物を置かない
  - マイクの穴をふさがない
  - スピーカー（BOSE®サウンドシステム付車はウーファーも含む）、パワーアンプなどのオーディオ機器を交換または改造しない
  - スピーカーやマイク取り付け部周辺を改造（デッドニングなど）しない

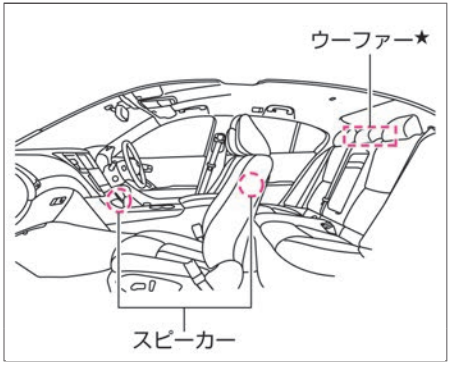
知識

- 車両前方のマイクはマップランプにあります。
- スピーカーは全ドアにあります。
- マイクおよびマイク周辺をたたくと、スピーカーから音が出ることがありますが、異常ではありません。

次ページに続く

アクティブ･サウンド･コントロールについて

- 走行時、エンジン回転数やドライブモードに応じた音をスピーカーから出すことで、車室内で聞こえるエンジンサウンドの音質を高めます。



アドバイス

- アクティブ･サウンド･コントロールを正常に作動させるために次のことをお守りください。
  - スピーカーの周辺に物を置かない
  - スピーカー（BOSE®サウンドシステム付車はウーファーも含む）、パワーアンプなどのオーディオ機器を交換または改造しない
  - スピーカー取り付け部周辺を改造（デッドニングなど）しない

知識

- スピーカーは全ドアにあります。

まずはじめに

故障したときは P.472
発炎筒 P.473
けん引について P.474

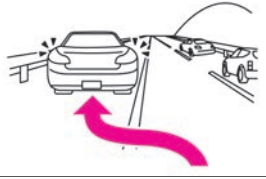
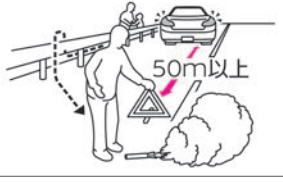
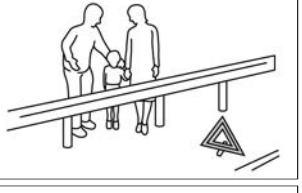
緊急時の対処方法

ランフラットタイヤ P.479
ドアが開かないときは P.481
キー（インテリジェントキー）で始動できないときは P.482
ハンドルがロックし、ハイブリッドシステムの始動ができないときは P.483
12Vバッテリーがあがったときは P.484
警告灯がついたときは P.489
表示灯がついたときは P.501
警告メッセージが表示されたときは P.504
ブザー（警報音）が鳴ったときは P.531
窓ガラスがくもったときは P.533
オーバーヒートしたときは P.535
セレクトレバーが動かないときは P.537
雪道やぬかるみにはまったときは P.538
水没したときは P.539
ヒューズが切れたときは P.541
電球（バルブ）が切れたときは P.546

故障したときは

車両が故障したときは、次の手順で対処してください。

故障したときの対処のしかた

1	非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。 路肩が無い場所では、可能な限り広いところまで自走します。	
2	同乗者をガードレールの外側などに避難させ、車両の50m以上後方に発炎筒と停止表示板（停止表示灯）を置きます。 発炎筒 (P.473)	
3	運転者もガードレールの外側などに避難します。 避難するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないよう注意してください。	
4	非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。	

⚠ 警告

- **発炎筒はトンネル内では使用しない。**
  煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。このときは非常点滅表示灯をご使用ください。

⚠ 注意

- **ハイブリッドシステムが停止しているときは慎重に運転する。**
  故障によりハイブリッドシステムが停止していると、ブレーキやパワーステアリングが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなるので慎重に運転してください。

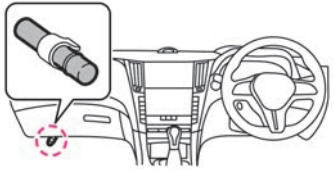
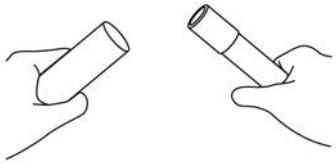
アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務づけられています。
- 高速道路上では1kmごとに非常電話が設置されています。

発炎筒

高速道路や踏み切りなどで故障･事故により緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎時間は約5分です。非常点滅表示灯と併用してください。

発炎筒の使いかた

1	助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。	
2	本体を回しながらケースから引き抜き、本体を逆さにして差し込みます。	
3	先端のふたを取り、ケースのすり薬で発炎筒の先端をこすって着火します。	

⚠ 警告

- **お子さまには触らせない。**
  いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- **可燃物の近くで使用しない。**
  引火するおそれがあります。
- **点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけない。**
  やけどをするおそれがあります。
- **トンネル内では使用しない。**
  煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。このときは非常点滅表示灯をご使用ください。

アドバイス

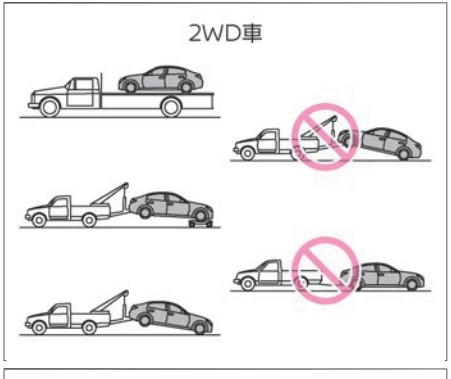
- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。

けん引について

けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。
やむをえずけん引するときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。

けん引時の注意事項

- 車両が動かなかったり、異常な音がしたりするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、2WD車は後輪または4輪を、4WD車は4輪を持ち上げてください。
- やむをえず 4輪接地の状態でけん引されるときは、セレクトレバーを N に入れてください。
- 4輪接地でけん引してもらうときは、速度30km/h以下、距離30km以内にしてください。高速走行や長距離走行をすると、トランスミッションが破損するおそれがあります。できるだけレッカー車、またはトレーラーを依頼してください。
- けん引ロープはできるだけソフトロープを使い、バンパーに傷をつけないように注意してください。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。
- トレーラーに車載するときは、車両をウインチ（巻き上げ機）などで引き上げてください。

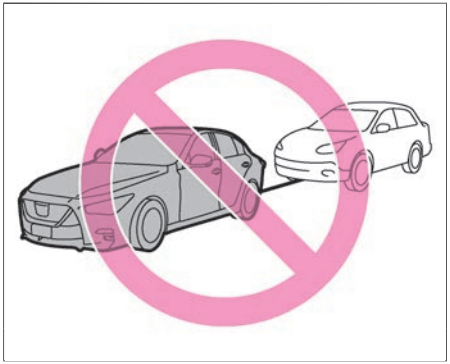


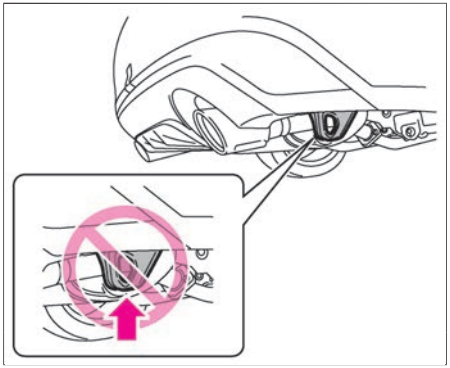
⚠ 注意

- **前輪を持ち上げてけん引するときは、パワースイッチをONにしない。**
  VDCが作動し、ブレーキがかかることがあります。

リヤフックについて

この車両で他車をけん引することはできません。後ろ側についているフック（リヤフック）は船舶輸送時の固定専用です。
けん引やトレーラー輸送時などの固定には絶対使用しないでください。



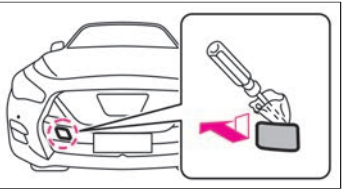
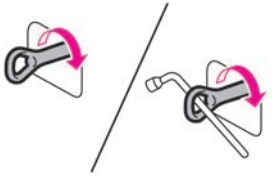
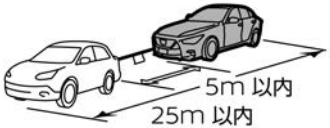


アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。

次ページに続く

やむをえず4輪接地でけん引されるときは

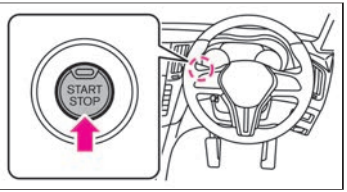
1	先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外します。	
2	ホイールナットレンチを使用して、けん引フックを取り付けます。 ➔ 工具の格納場所 (P.549)	
3	自車および他車のけん引フックにロープを掛け、ロープ中央に30cm×30cm以上の白い布を取り付けます。 ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平になるようにかけてください。	
4	ハイブリッドシステムを始動しセレクトレバーをNに入れ、パーキングブレーキを解除します。 ➔ ハイブリッドシステムの始動のしかた (P.177)	

⚠ 警告

- **4輪接地でけん引されるときは、パワースイッチをOFFにしない。**
  パワースイッチがOFFで12Vバッテリーがあがると、ハンドルロック（ステアリングロック）の解除ができなくなるため、このままの状態でけん引しないでください。けん引するときは救援車の12Vバッテリーとつなぎ、パワースイッチをアクセサリーまたはONにしてハンドル操作ができる状態で行ってください。また、けん引中はパワースイッチをOFFにしないでください。ハンドル操作ができなくなり危険です。

⚠ 注意

- **ハイブリッドシステムが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作力が重くなるので注意する。**

5	ハイブリッドシステムを始動できないときはパワースイッチをONにし、セレクトレバーを**N**に入れてください。	

⚠ 注意

- **けん引フックに指定以外のフックは絶対に使用しない。**
  フック部が破損するおそれがあります。
- **長い下り坂ではけん引しない。**
  ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。
- **4WD車はトレーラーに車載するか、4輪接地の状態でけん引してもらう。**
  2輪を上げた状態でけん引すると、上げた車輪が回転して、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

アドバイス

- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。
- けん引してもらうときは、速度30km/h以下、距離30km以内にしてください。高速走行や長距離走行をすると、トランスミッションが破損

次ページに続く

アドバイス

するおそれがあります。できるだけレッカー車、またはトレーラーを依頼してください。

知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

ランフラットタイヤ

この車両はランフラットタイヤを装着しているため、スペアタイヤを搭載していません。
ランフラットタイヤは、パンクした場合でも一時的に走行することができます。

ランフラットタイヤについて

- パンクしたときは、タイヤ空気圧警告灯の点灯およびアドバンスドドライブアシストディスプレイの警告表示（➔P.516）と合わせて警報が鳴ります。
- 次のことを守って走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
  - 急加速、急ハンドル、急ブレーキを避ける
  - 時速80km/h以下で走行する
  - タイヤ交換まで150km以上走行しない
  - 段差などの乗り越えに注意する
- タイヤの損傷が激しいときは、タイヤを交換してください。

⚠ 注意

- **パンクした状態で走行しない。**
  パンクした状態での走行は一時的な応急用です。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- **パンクした状態での走行中、異常な音や振動を感じたときは、ただちに安全な場所へ停車し、日産販売会社へ連絡する。**
- **走行中に異常を感じる場合はトレーラーに車載する。**
- **パンクした状態での走行可能距離は外気温や路面状況、その他の走行条件により変化します。**
- **正常時に比べ、走行安定性が損なわれるため、規定の速度内においても急加速や急ブレーキ、急旋回は避けて注意して走行する。**
- **パンク修理剤は使用しない。**
  タイヤ空気圧警報システムが故障する原因になります。
  ➔タイヤ空気圧警報システム (P.566)
- **パンクした状態で、タイヤチェーンは使用しない。**
- **パンクした状態で、洗車機に入れない。**

次ページに続く

ランフラットタイヤ

⚠ 注意

車が洗車機と干渉し、損傷するおそれがあります。

アドバイス

- タイヤまたはロードホイールの交換をしたときは、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。
➔ タイヤ空気圧警報システム (P.566)

知識

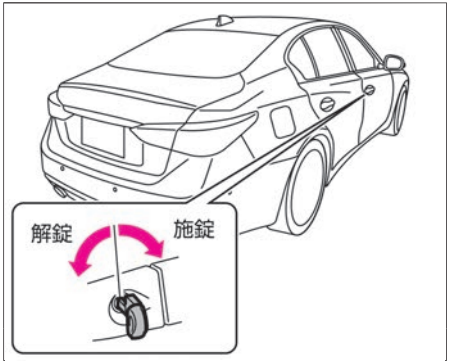
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで4輪のタイヤ空気圧を確認することができます。
➔ アドバンスドドライブアシストディスプレイとは (P.80)

ドアが開かないときは

キー（インテリジェントキー）の電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどドアが開かないときは、次の方法で施錠･解錠してください。

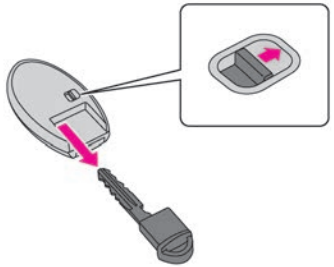
内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた

運転席ドアにある鍵穴に内蔵キーを差し込んで車両前方に内蔵キーを回すと施錠します。解錠するときは、車両後方に内蔵キーを回します。



知識

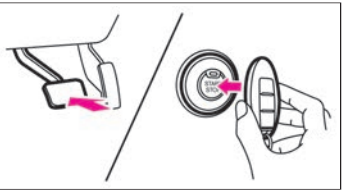
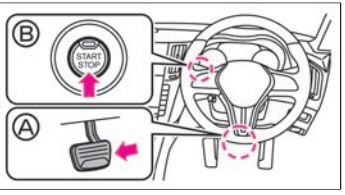
- 内蔵キーはキーに内蔵されています。



キー（インテリジェントキー）で始動できないときは

キーの電池が切れたときや、使用環境によりキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

1	ブレーキペダルを踏み、キー（インテリジェントキー）の裏面をパワースイッチに接触させます。 （ブザーが“ピピッ”と鳴ります。）	
2	ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルⒶをしっかりと踏みながら、パワースイッチⒷを押します。	

アドバイス

- 左記の手順でハイブリッドシステムを始動できない場合は、早めに日産販売会社にご連絡ください。

知識

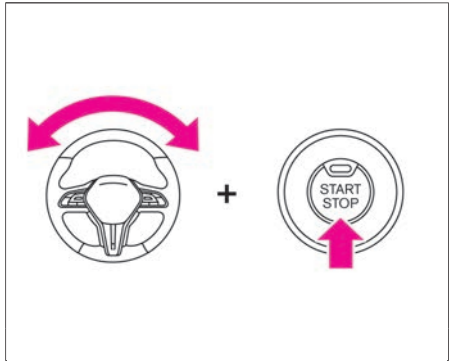
- 停止操作は通常と同じ手順です。
- ドアの施錠･解錠は、内蔵キー（メカニカルキー）（➔P.481）をご使用ください。
- キーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
  ➔キー（インテリジェントキー）の電池交換 (P.575)

ハンドルがロックし、ハイブリッドシステムの始動ができないときは

ハンドルがロックされているときはパワースイッチを押してもモードが切り替わらない場合があります。次の手順でハンドルロック（ステアリングロック）を解除してください。

ハンドルロック（ステアリングロック）の解除のしかた

- ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押します。ロックが解除できないときは、繰り返し行ってください。
  ハイブリッドシステムの始動のしかた
  （P.177）

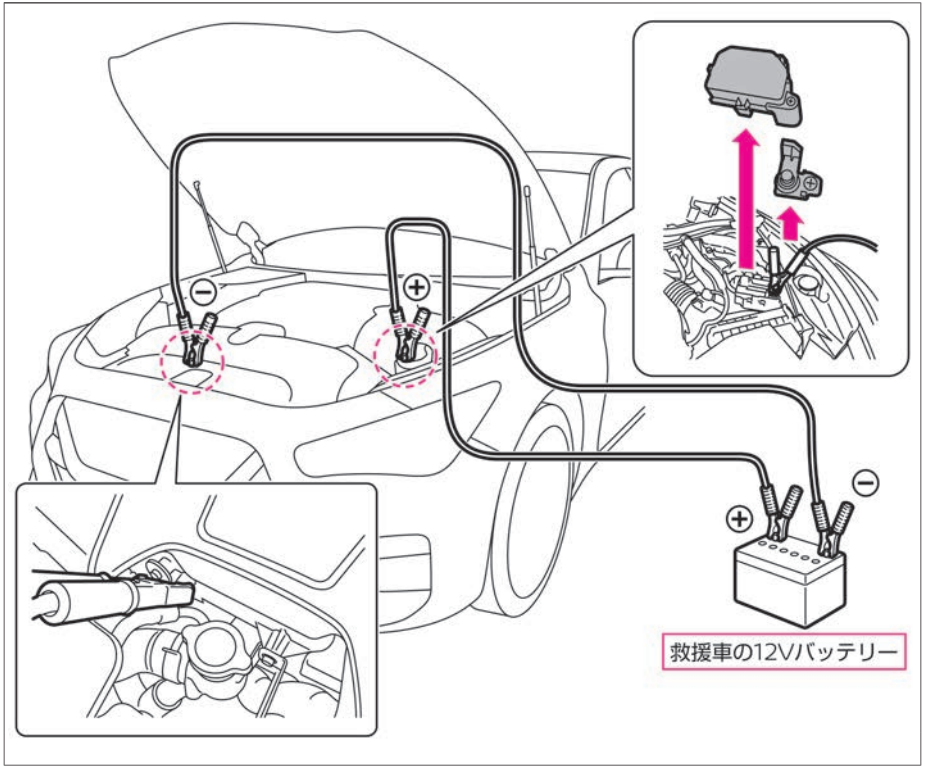


アドバイス

- ハンドルがロックされていても、数mm～数cmだけ動かすことができます。その範囲内でハンドルを左右にゆっくり回しながらパワースイッチを押してください。
- ハンドルがロックされているときはハンドルが重く、力を入れないと回すことができないことがあります。
- 12Vバッテリーがあがるとハンドルロック（ステアリングロック）の解除が行えず、パワースイッチのモードが切り替わらなくなります。すみやかに12Vバッテリーを充電してください。

12Vバッテリーがあがったときは

12Vバッテリーがあがり、パワースイッチをONにできなくなったときは、救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。



⚠ 警告

- **ジャンプスタートを行うときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**
  12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受ける。**
  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。**
- **ブースターケーブルを自車の12Vバッテリーの⊖端子に直接つながない。**
- **ブースターケーブルの⊕端子と⊖端子を接触させない。**
  火花が発生し、12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **12Vバッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**
  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12V

12Vバッテリーがあがったときは

⚠ 警告

バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。

- **12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**
  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

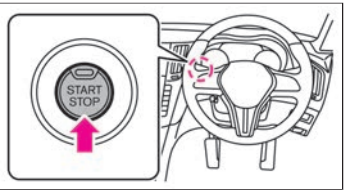
- この車には、12Vバッテリーとバックアップバッテリーの2つのバッテリーを使用しています。
- 12Vバッテリーがあがるとハイブリッドシステムが始動できません。バッテリーがあがったときは、12Vバッテリーの処置をしてください。
- トランク右側にあるバッテリーは、プロパイロット2.0専用のバックアップバッテリーです。バッテリーの端子を取り外すと、プロパイロット2.0機能の一部が使用できなくなります。もし誤って取り外してしまった場合は、日産販売会社にご相談ください。

次ページに続く

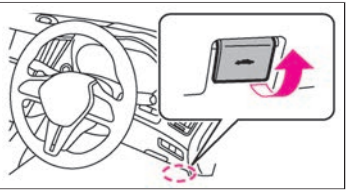
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ジャンプスタートのしかた

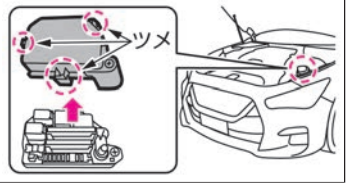
1 自車と救援車のパワースイッチをOFFにします。
パワースイッチでのモードの切り替えかた (P.180)



2 運転席の右下にあるフードオープナーを引いて、フードを開けます。
フードの開けかた、閉めかた (P.555)



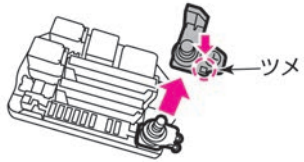
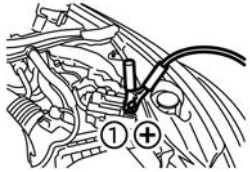
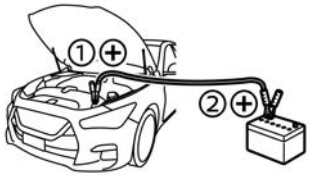
3 ヒューズボックスのカバーをツメを押しながら外します。



⚠ 注意

- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触しないように注意する。**
- **ブースターケーブルは、確実に接続する。**
  エンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。
- **冷却ファンやベルトに注意する。**
  ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

12Vバッテリーがあがったときは

4	ヒューズボックス内のカバーをツメを押しながら外します。	
5	ブースターケーブル①を自車のヒューズボックスの⊕端子に接続します。 ※手前のボルトを挟みます。	
6	手順5で接続したケーブルの反対側②を救援車の12Vバッテリーの⊕端子に接続します。	

アドバイス

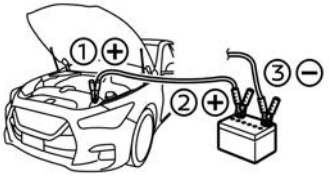
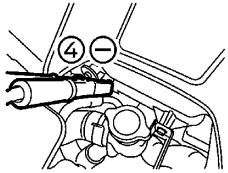
- 押しがけによる始動はできません。
- この車両を救援車として使用しないでください。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。
- ハイブリッドシステムが始動できない場合には、一旦パワースイッチをOFFにして、10秒以上待ってから再始動してください。
- ハイブリッドシステムを始動するときは、ヘッドランプやエアコンなどはOFFにしてください。
- ハイブリッドシステムが始動しても、しばらくエアコンやオーディオを使用しないでください。

知識

- 12Vバッテリーがあがるとハンドルロック（ステアリングロック）の解除が行えず、パワースイッチのON·OFFができなくなります。すみやかに12Vバッテリーを充電してください。

次ページに続く

12Vバッテリーがあがったときは

7	もう1本のブースターケーブル③を救援車の12Vバッテリーの⊖端子に接続します。	
8	手順7で接続したケーブルの反対側④を右記のような自車の車体（手順5で接続した位置から離れた未塗装の金属部）に接続します。	
9	救援車のエンジンを始動し、エンジン回転数を少し高めにします。	
10	自車のハイブリッドシステムを始動します。 ➔ ハイブリッドシステムの始動のしかた (P.177) ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。	

警告灯がついたときは

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯または点滅したときは、次の対処方法に従ってください。
メーター内の警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	油圧警告灯	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● ハイブリッドシステムが作動しているとき、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。 ⚠ 注意 ● **油圧警告灯が点灯したまま走行しない。** エンジンを破損するおそれがあります。
	故障警告灯（MIL）	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● パワースイッチがONのとき、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	● 点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。
	12V系充電警告灯	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● パワースイッチがONのとき、12Vバッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。 ⚠ 注意 ● **12V系充電警告灯が点灯したまま走行しない。** 12Vバッテリーが破損したり、エンジンが突然停止したりし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	ABS警告灯	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● パワースイッチがONのとき、ABSのシステムに異常があると点灯します。	● パワースイッチをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 **アドバイス** ● ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。
	電動パーキングブレーキ警告灯	● 正常なときは、パワースイッチがONのとき、電動パーキングブレーキがかかっていると点灯し、電動パーキングブレーキを解除すると消灯します。 ● パワースイッチがONのとき電動パーキングブレーキのシステムに異常があると点滅します。	● パワースイッチがONで警告灯が点滅しているときに、電動パーキングブレーキを解除しても点滅が続くときは、すみやかに車両を安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。 **アドバイス** ● 電動パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると、ブザーが鳴ります。

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	ブレーキ警告灯（赤色表示）	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● パワースイッチがONのとき、次の場合は点灯し続けます。 – ブレーキ液が不足しているとき – ブレーキシステムに異常があるとき	● 走行中にブレーキ警告灯（赤色表示）が点灯した場合は、車両を停止し、以下の確認を行ってください。（ブレーキシステム警告灯（黄色表示）と同時にVDC警告灯も点灯します。） – ブレーキ液の量が規定通りに入っていることを確認してください。ブレーキ液が不足している場合は、ブレーキ液を補充し日産販売会社で点検を受けてください。 – ブレーキ液の量が適正のときは、他に原因があることが考えられますので、日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	ブレーキシステム警告灯（黄色表示）	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● パワースイッチがONのとき、次の機能に異常があると点灯します。 – ブレーキシステム – 回生協調ブレーキ – ヒルスタートアシスト – ブレーキ効き感向上機能 – 電動パーキングブレーキ	● パーキングブレーキを解除し、ブレーキ液量が正常でブレーキ警告灯（赤色表示）と同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車して、日産販売会社に連絡してください。このときは、ブレーキの効きが極度に悪くなっているおそれがあります。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ警告灯（赤色表示）と同時に点灯していないときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 アドバイス ● ブレーキシステム警告灯（黄色表示）が点灯しているときは、回生ブレーキが作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。 知識 ● ブレーキシステムの電源系統に異常があるときは、ブザーが鳴ります。
	SRSエアバッグ警告灯	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。 ● パワースイッチがONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯または点滅を続けます。	警告 ● **パワースイッチをONにしても点灯しないとき、または点灯や点滅を続けるときは、放置したまま走行しない。** 万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	シートベルト警告灯	● パワースイッチがONのとき、シートベルトを着用していないと点灯します。 ● 後席シートベルト警告灯はパワースイッチをONにしたあとに初めて車速が約15km/h以上になったとき、後席シートベルトを着用していない座席の警告灯が約35秒間点灯します。 ● シートベルト警告灯は各座席ごとに点灯し、後席のシートベルト警告灯は、非常点滅表示灯スイッチの右側にあります。 **シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）** ● 運転者がシートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、約95秒間ブザーが鳴ります。	● シートベルトを着用してください。 ⚠ 警告 ● **走行中は全員がシートベルトを着用する。** 着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

次ページに続く

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	燃料残量警告灯	● パワースイッチがONのとき、燃料の残量が少ないと点灯します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。 アドバイス ● 燃料切れでエンジンが停止したときは、ハイブリッドシステムの始動操作を繰り返さないでください。リチウムイオンバッテリー保護のため、始動できない場合があります。燃料を補給しても始動できない場合は、日産販売会社にご連絡ください。 ● 燃料の残量が約12 ℓ 以下で点灯します。なお、走行に使用できる燃料容量は、上記残量より若干少なくなります。 ● 車両姿勢、走行状況などによっては燃料がタンク内で移動するため、警告灯の点灯するタイミングが変わる場合があります。
	VDC警告灯	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● パワースイッチがONのとき、VDCが作動すると点滅します。 ● パワースイッチがONのとき、VDC、左右制動力分配機能、ブレーキアシスト機能に異常があると点灯します。	● 点灯中は、左記のシステムとインテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）の作動は停止しますが、それらのシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ➔VDC（ビークルダイナミクスコントロール） (P.235)

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● 次の場合は点灯します。 – ナビゲーションシステムで、インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにしているとき – ナビゲーションシステムで、VDCをOFFにしているとき – 周辺の電波源の影響を受けているとき – センサーの汚れなどで、インテリジェント エマージェンシーブレーキが一時的に作動できない状態になっているとき – インテリジェント エマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシスト、またはインテリジェント FCW（前方衝突予測警報）のシステムに異常が発生しているとき ●次の場合は点滅します。 – 踏み間違い衝突防止アシストが作動したとき	● ナビゲーションシステムでインテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。 ● ナビゲーションシステムでVDCをOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ➔VDCのON･OFFのしかた (P.237) ● ハイブリッドシステム再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ● フロントガラスが汚れているときは、フロントガラスを清掃し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ● 室内の温度が高いときなどは、温度が下がると作動を復帰します。 各システムについては、インテリジェント エマージェンシーブレーキ(➔P.335)、踏み間違い衝突防止アシスト（➔P.346）、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（➔P.407）をお読みください。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
		● 次の場合はゆっくり点滅します。 – フロントガラスの汚れなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき – 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき – 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき – フロントガラスの結露や曇りなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき	
	ハイブリッドシステム警告灯	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● モーターや高電圧システムなどに異常が発生すると点灯します。 ● 走行中にリチウムイオンバッテリーの残量が低下し、走行できなくなるおそれがあると点滅します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。 ● 点滅したときは、ブレーキを踏みすみやかに安全な場所に停車してください。点滅が消えたあとは、走行可能な状態になります。

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	タイヤ空気圧警告灯	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● タイヤ空気圧警報システムに異常があると、約１分間点滅したあと点灯します。 ● タイヤ空気圧が低下すると点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されます。 ● タイヤがパンクすると点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、タイヤ空気圧警報が約10秒間鳴ります。 ● バースト（破裂）や急激な空気圧低下をした場合は、メーター内の警告表示がすぐに作動しない場合があります。	● タイヤ空気圧警報システムに異常があったときは、日産販売会社で点検を受けてください。 ● タイヤ空気圧が低下したときは、安全な場所に停車し、タイヤを確認してください。 ● パンクではなく、タイヤ空気圧が低下しているときは、指定の空気圧に調整してください。 ➔タイヤの点検項目 (P.561) ● タイヤがパンクしたときは、すみやかに日産販売店で点検を受けてください。 ● タイヤ空気圧の調整後は、必ずシステムのリセット操作をしてください。リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯とアドバンスドドライブアシストディスプレイの警告表示が消灯します。 ➔タイヤ空気圧警報システム (P.566) ● パワースイッチをONにしても警告灯が点灯しない場合は、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 **⚠ 警告** ● **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。** バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
			知識 ● 温度による空気圧の変化や自然に空気圧が減少したときにも点灯しますが、適切な空気圧に調整して消灯すれば故障ではありません。 ● 高速走行時はタイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯することがありますが、減速して消灯すれば故障ではありません。
	ポップアップエンジンフード警告灯	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。 ● パワースイッチがONのとき、ポップアップエンジンフードの電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。	● パワースイッチをONにしても点灯しないとき、点灯、または点滅し続けるときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 警告 ● **パワースイッチをONにしても点灯しないときや、点灯を続けるときは、放置したままで走行しない。** 万一のときポップアップエンジンフードが正常に作動せず、歩行者の頭部への衝撃を緩和できないおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	パワーステアリング警告灯	● 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● ハイブリッドシステム作動中、パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 点灯しているときは、パワーステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。 アドバイス ● ハンドルに長時間力をかけた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作力に戻ります。 知識 ● ハンドル操作時に、車両前方から機械が作動するような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。 ● 素早いハンドル操作を行うと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえてくることがありますが、異常ではありません。
	車両接近通報システム警告灯	● 車両接近通報装置に異常があると点滅します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	マスターウォーニング	● アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。	● 同時に表示した警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。 ➔ 警告メッセージ (P.87)

表示灯がついたときは

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。
点灯している理由は、次の説明をお読みください。
メーター内の警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	方向指示表示灯	● 非常点滅表示灯スイッチを押すと左右同時に点滅します。 ● パワースイッチがONのとき、方向指示器を作動させると、作動させた側のみ点滅します。	● 点滅が速くなった場合は、日産販売会社で点検を受けてください。 ➔ 方向指示器の使いかた (P.220)
	ヘッドランプ上向き表示灯	● ヘッドランプのハイビーム（上向き）を点灯させると点灯します。	➔ ハイビーム（上向き）への切り替えかた (P.219)
	テールランプ表示灯	● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。	➔ ライトスイッチの使いかた (P.211)
	フォグランプ表示灯	● フォグランプを点灯させると点灯します。	➔ フォグランプの使いかた (P.222)
	ハイビームアシスト表示灯★	● ハイビームアシストがONのときヘッドランプが点灯していると、ヘッドランプの上向き、下向きにかかわらず点灯します。	➔ ハイビームアシスト★について (P.217)
	VDC OFF表示灯	● パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● パワースイッチがONのとき、運転者の操作によりVDC機能がOFFにされていると点灯します。	➔ VDC（ビークルダイナミクスコントロール） (P.235)

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

表示灯がついたときは

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	セキュリティーインジケーター	● パワースイッチがON以外のときに点滅します。 ➔ イモビライザー（盗難防止装置） (P.66)	● パワースイッチをONにしたあとも点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。
	オートブレーキホールド表示灯（白色表示）	● オートブレーキホールドが待機状態のとき白色に点灯します。	➔ オートブレーキホールド (P.196)
	オートブレーキホールド表示灯（緑色表示）	● オートブレーキホールドが作動しているとき緑色に点灯します。	➔ オートブレーキホールド (P.196)
	ECOペダルインジケーター	● パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ドライブモードセレクターでドライブモードをECOにして走行中に点灯または点滅します。	➔ ドライブモードセレクター (P.206) ➔ ECOペダルインジケーター (P.209)
	低水温表示灯	● パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● エンジン冷却水の温度が低いと点灯します。 ● エンジン冷却水温が低いときは、低水温表示灯が消灯せずに点灯し続けますが、エンジンの暖機により、しばらくすると規定の水温以上に達して、消灯します。	アドバイス ● しばらく走行したあとも点灯し続けるときは、水温センサーの異常が考えられます。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

表示灯がついたときは

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	走行可能表示灯	● パワースイッチがONのとき、走行できる状態になると、点灯します。（走行中も点灯し続けます。） ● ハイブリッドシステム始動時、走行可能な状態になるまで点滅します。	アドバイス ● 走行可能表示灯が点灯するまでは、セレクトレバーをPのままにしてください。
	EV表示灯	● モーターのみで走行している間点灯します。	-

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明･対処方法」に従ってください。表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告メッセージ

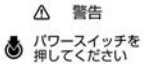
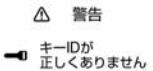
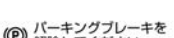
画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	ハイブリッドシステム始動操作表示	● ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、ハイブリッドシステムを始動することを表示します。	● ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押してください。ハイブリッドシステムが始動します。 知識 ● 次の場合、表示が消えます。 – ハイブリッドシステムを始動したとき – 約15秒経過したとき – リモコン機能、またはドアハンドルのスイッチでドアを施錠したとき – セレクトレバーをP以外に入れたとき
	インテリジェントキー非作動時ハイブリッドシステム始動表示	● キー（インテリジェントキー）の電池が切れたときや、使用環境により、キーと車両の通信が正常に行われないときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら、キーの裏面をパワースイッチに接触させてください。 ➔キー（インテリジェントキー）で始動できないときは (P.482)
	インテリジェントキー電池切れ表示	● キー（インテリジェントキー）の電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。	● 新しい電池に交換してください。 ➔キー（インテリジェントキー）の電池交換 (P.575) 知識 ● 次の場合、キー電池切れ表示が消えます。 – 表示から約30秒経過したとき – パワースイッチをON以外にしたとき

警告メッセージが表示されたときは

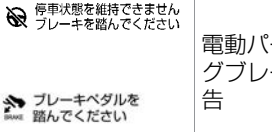
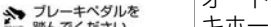
画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
⚠ 警告 キーが見つかりません	インテリジェントキー持ち出し警告	● パワースイッチがアクセサリーまたはONのとき、キー（インテリジェントキー）が車外に持ち出されると表示します。	● キーが車外に持ち出されていないか確認してください。
⚠ 警告 	ドア開き警告	● ドアまたはトランクが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。	● ドアやトランクを確実に閉めてください。 知識 ● 走行前に表示が消えていることを確認してください。ドア、トランクが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
⚠ 警告 キーシステム故障	キーシステム警告	● ハンドルロック（ステアリングロック）やキーシステムに異常があると表示します。	● 日産販売会社にご連絡ください。ハイブリッドシステムが始動できないことやパワースイッチが切り替わらないことがあります。
⚠ 警告 Pレンジに入れてください	P戻し忘れ警告	● 次のような場合に表示します。 – セレクトレバーがP以外のとき、パワースイッチをONからOFFにしたとき – 走行可能表示灯が点滅中にセレクトレバーを操作したとき – セレクトレバーがDで走行可能表示灯が点灯中に運転席ドアを開けたとき – ハイブリッドシステムの温度が異常に高くなり、走行できなくなったとき – 寒冷時に急減速してエンジンが停止したとき – 上記以外で、エンジンが始動できないような故障が発生したとき	● セレクトレバーをPに入れてください。 ● パワースイッチをONにしたときも表示が消えます。

次ページに続く

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	電源ポジションOFF忘れ警告	● パワースイッチがアクセサリーでアドバンスドドライブアシストディスプレイに「Pレンジに入れてください」とメッセージが表示されているとき、セレクトレバーを操作してPにすると表示します。 ● 上記を操作後、パワースイッチをONにしたときに表示します。	● パワースイッチをOFFにしてください。 知識 ● 次の場合に表示が消えます。 – パワースイッチをOFFにしたとき – ハイブリッドシステムを始動したとき – セレクトレバーをP以外にしたとき
	キーID警告	● 次のときにパワースイッチを切り替えようとすると表示します。 – キー（インテリジェントキー）を携帯していないとき – 携帯しているキーの電池が切れているとき – 登録されていないキーを携帯しているとき	● キーを携帯してください。 ● 新しい電池に交換してください。 ➔ キー（インテリジェントキー）の電池交換 (P.575) ● 自車のキーであることを確認してください。
	電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告	● 電動パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると表示し、ブザーが鳴ります。 ● 電動パーキングブレーキをかけ、運転席シートベルトを着用せずにアクセルペダルを踏み、発進すると表示します。	● すみやかに電動パーキングブレーキを解除してください。 ➔ 電動パーキングブレーキ (P.191) アドバイス ● 運転するときは必ずシートベルトを着用してください。

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	電動パーキングブレーキ警告	● 急な坂道などで電動パーキングブレーキがかかった状態で車両が動くと表示し、ブザーが鳴ります。 ● 電動パーキングブレーキがかかった状態で、ブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチを押した場合に表示します。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 解除する場合は、ブレーキペダルを踏んでから電動パーキングブレーキスイッチを押し下げてください。 ➔ 電動パーキングブレーキ (P.191)
	オートブレーキホールド警告	● オートブレーキホールドが作動中に車両が動いたときに表示します。	● ブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。 知識 ● オートブレーキホールドについては、（➔P.196）をお読みください。
	ハンドルロック（ステアリングロック）未解除表示	● ハンドルロック（ステアリングロック）を解除できないときに表示します。	● ハンドルを軽く左右に回しながらパワースイッチを押してください。ハンドルロック（ステアリングロック）を解除すると表示が消えます。

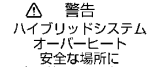
次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
⚠ 警告 給油してください	燃料残量警告	● 燃料が少なくなると表示します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。 アドバイス ● 燃料切れでエンジンが停止したときは、ハイブリッドシステムの始動操作を繰り返さないでください。リチウムイオンバッテリー保護のため、始動できない場合があります。燃料を補給しても始動できない場合は、日産販売会社にご連絡ください。 知識 ● 燃料の残量が約12ℓ以下で表示します。 ● 車両姿勢、走行状況によっては、燃料がタンク内で移動するため、警告が表示されるタイミングが変わる場合があります。

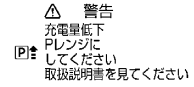
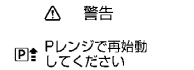
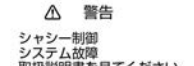
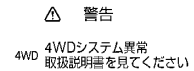
警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	ハイブリッドシステムオーバーヒート警告	● ハイブリッドシステムの温度が異常に高くなると表示します。	● すみやかに安全な場所に停車してください。すぐに停車できない場合は、急発進･急加速を避け、安全な場所まで移動して停止してください。表示が消えたら走行できます。 ● 表示が消えたあと、またすぐに表示するようなときは、日産販売会社で点検を受けてください。 **アドバイス** ● 表示したまま走行を続けると、走行できなくなることがあります。その場合は、セレクトレバーを P に入れ、表示が消えるまでしばらく停車してください。 ● 表示したまま走行しないでください。ハイブリッドシステムが破損するおそれがあります。 ● 上り坂ではクリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停止状態を保つような停車はしないでください。トランスミッションが故障する原因となります。坂道で停車するときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
	オーバーヒート警告	● エンジン冷却水の温度が異常に高くなると表示します。	● 点灯したときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置してください。 オーバーヒートしたときは (P.535) **注意** ● **表示したまま走行をしない。** そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

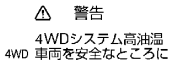
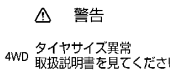
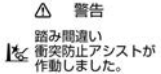
次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	充電量低下 P戻し警告	● セレクトレバーが、N、R、Dでリチウムイオンバッテリーの残量が少ないと表示します。	● セレクトレバーをPにしてください。
	Pレンジ再始動警告	● 「充電量低下 Pレンジにしてください 取扱説明書を見てください」と表示されたあと、さらにリチウムイオンバッテリーの充電量が低下すると表示します。	● セレクトレバーをPにしてから再始動してください。
	シャシー制御表示	● シャシー制御のシステムに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
	4WD警告	● ハイブリッドシステム作動中、4WDシステムに異常があると表示します。	● 4WDシステムに異常が発生しているため2WD状態になっています。高速走行をせず、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 アドバイス ● メッセージが表示されている間は、4WDシステムが2WDまたは弱4WDになりますが、通常の走行は可能です。ただし、スピードは控えめにしてください。

警告メッセージが表示されたときは

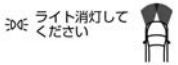
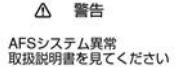
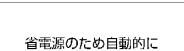
画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	4WD高油温警告	● 走行中、前後輪の回転数の差が大きい状態が続き、駆動系部品の油温が異常に高くなると表示します。（4WD車）	● すみやかに安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムON状態のまま駆動系部品の油温が下がるのをお待ちください。メッセージが表示されている間は駆動系部品の保護のため、2WD状態になっています。しばらくして表示が消えると、4WDに復帰し、通常通り走行できます。 アドバイス ● メッセージが表示されている間は、4WDシステムが2WDまたは弱4WDになりますが、通常の走行は可能です。ただし、スピードは控えめにしてください。
	タイヤサイズ警告	● 前後輪のタイヤ径差が大きすぎると表示します。（4WD車）	● 装着タイヤの種類とサイズ、およびタイヤ空気圧などを点検してください。タイヤの種類やサイズが異なるときは同一銘柄、同一サイズのタイヤを装着してください。また、タイヤ空気圧が不足しているときは空気を入れてください。 それでも表示が消えないときは、高速走行をせず、最寄りの日産販売会社で点検を受けてください。
	AT故障警告	● ATのシステムに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
	踏み間違い衝突防止アシスト作動時表示	● 踏み間違い衝突防止アシストが作動すると表示します。	● 進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者などを検知している場合に、アクセルペダルが素早く深く踏み込まれたとシステムが判断したときに作動します。 踏み間違い衝突防止アシスト (P.346)

次ページに続く

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
⚠ 警告 ヘッドランプ システム異常 取扱説明書を見てください	ヘッドランプ警告	● LEDヘッドランプに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
⚠ 警告 システム故障	システム故障警告	● プロパイロット2.0、インテリジェント エマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシスト、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）、LDW（車線逸脱警報）、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）、 BSW（後側方車両検知警報）、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）、インテリジェントペダル（車間距離維持支援システム）が故障すると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ➔ プロパイロット2.0 (P.249) ➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.335) ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.346) ➔ インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）について (P.387) ➔ LDW（車線逸脱警報）について (P.386) ➔ インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）について (P.370) ➔ BSW（後側方車両検知警報）について (P.369) ➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.407) ➔ インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム） (P.413) ● システムに異常があると、メッセージの横にアイコンが表示されます。

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	ライト消し忘れ警告	● パワースイッチがON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合に表示し、ブザーが鳴ります。 – ライトスイッチが の位置にあるとき – ライトスイッチを /OFFの位置に回して、メーター内のテールランプ表示灯 が点灯しているとき	● ライトスイッチをAUTOの位置にする、または /OFFの位置に回して、メーター内のテールランプ表示灯 を消灯してください。 ➔ ライトスイッチ (P.211)
	AFSシステム異常警告	● アクティブAFSに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
	自動電源OFF表示A	● パワースイッチがONのとき、セレクトレバーをPに入れたまましばらくすると表示します。	● そのままパワースイッチを切り替えたり、セレクトレバーを操作したりしないと、省エネのためパワースイッチがOFFになります。 ● ナビゲーションシステムで次の操作をすると機能のON･OFFを切り替えることができます。 MENU ⇒ 設定 ⇒ 車両 ⇒ バッテリーセーバーモード 詳しくは、➔ 車両 (P.172)をお読みください。 ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。
	自動電源OFF表示B	● パワースイッチがONのとき、セレクトレバーがPのまま時間が経過し、パワースイッチがOFFになると表示します。	

次ページに続く

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
オイル/オイルフィルター交換してください	オイル/オイルフィルター交換表示	● 設定したオイル/オイルフィルター交換距離に達すると表示します。	● オイル/オイルフィルター交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 ● 走行距離を元にお知らせしているもので、実際の車両状態を示したものではありません。目安としてお使いください。 ● ナビゲーションシステムで次の操作をすると設定できます。 MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ メンテナンス ⇒ オイル／オイルフィルター 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
タイヤ	タイヤ交換表示	● 設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。	● タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 ● 走行距離を元にお知らせしているもので、実際の車両状態を示したものではありません。目安としてお使いください。 ● ナビゲーションシステムで次の操作をすると設定できます。 MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ メンテナンス ⇒ タイヤ 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

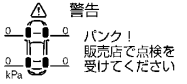
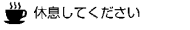
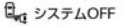
警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
ユーザー	メンテナンス距離表示	● オイル/オイルフィルター、タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。	● その他の整備項目には、例えばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検／交換距離は設定したり、リセットしたりできます。 ● 走行距離を元にお知らせしているもので、実際の車両状態を示したものではありません。目安としてお使いください。 ● ナビゲーションシステムで次の操作をすると設定できます。 MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ メンテナンス ⇒ ユーザー 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
警告 タイヤ空気圧不足 点検してください kPa	タイヤ空気圧不足表示	● タイヤ空気圧が低下すると、表示します。	● 安全な場所に停車し、タイヤを確認してください。 ● パンクではなく、タイヤ空気圧が低下しているときには、指定の空気圧に調整してください。 知識 ● 同時にタイヤ空気圧警告灯が点灯します。 ● 温度による空気圧の変化や、自然に空気圧が減少したときにも点灯しますが、適切な空気圧に調整して消灯すれば故障ではありません。 ● 高速走行時はタイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯することがありますが、減速して消灯すれば故障ではありません。 タイヤ空気圧警報システム (P.566)

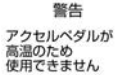
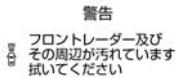
次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告メッセージが表示されたときは

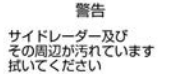
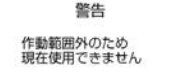
画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	パンク表示	● タイヤ空気圧が大きく低下すると、表示します。	● パンクしているおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 知識 ● 同時にタイヤ空気圧警告灯が点灯し、警報が鳴ります。しばらくすると警報は止まりますが、警告灯は点灯し続けます。 ➔ タイヤ空気圧警報システム (P.566)
	走行時間アラーム表示	● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。	● ナビゲーションシステムで次の操作をすると設定できます。 MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ アラーム ⇒ 走行時間 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。
	進入禁止標識検知表示	● 前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告表示します。	● 表示･非表示の設定ができます。 ➔ 標識検知機能 (P.432)
	速度標識表示	● 前方の速度標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイおよびヘッドアップディスプレイに表示されます。	● 表示･非表示の設定ができます。 ➔ 標識検知機能 (P.432)
	システムOFF表示	● インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）の作動が停止すると表示します。 ➔ インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム） (P.395)	● セレクトレバーがRでナビゲーション画面にバックビューが表示されているとき、インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム）のアイコンにタッチすると、システムを一時的にOFFにできます。

警告メッセージが表示されたときは

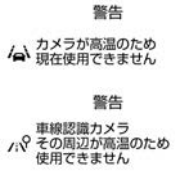
画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	アクセルペダル高温警告	● アクセルペダルを戻す力を発生させているモー ターが高温になり、次のシステムが作動を停止すると表示します。 – インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.335) – インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム） (P.413) – インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム） (P.395)	● モーターの温度が下がると、システムは作動を再開します。
	フロントレーダーシステム停止警告	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 – プロパイロット2.0 (P.249) – インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.407) – インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム） (P.413) – インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.335) ●次のような道路形状、または建造物がある場合は、レーダーが先行車を正確に検知できず、メーター内の警告灯が点灯し作動が停止します。 – 長い橋を走行しているとき – 砂地や雪原を走行しているとき – 長い壁の近くを走行しているとき	● 安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動してください。 ● 停止したときの状態が改善、または変更されると、システムは作動を再開します。（再開するまでに時間がかかることがあります）

次ページに続く

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	サイドレーダーシステム停止警告	● 車両前部と車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 – プロパイロット2.0 (P.249) – インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）について (P.370) – BSW（後側方車両検知警報）について (P.369) – インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム） (P.395)	● レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを一旦OFFにしたあと、再びONにしてください。
	作動範囲外警告	● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。 – プロパイロット2.0 (P.249) – インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム） (P.413) – インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）について (P.387) – インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）について (P.370) ●VDCをOFFにしたとき ●ドライブモードをSNOWにしたとき	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再びONにしてください。 ● システムに異常があると、メッセージの横にアイコンが表示されます。

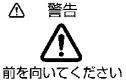
警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
	車線認識カメラ高温警告	● 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になり、次のシステムが停止すると表示します。 – プロパイロット2.0 (P.249) – インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）について (P.387) – LDW（車線逸脱警報）について (P.386) – インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）について (P.370) – 標識検知機能 (P.432)	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、マルチセンシングフロントカメラ周辺の温度が下がってから、スイッチで再びONにしてください。 ● システムに異常があると、メッセージの横にアイコンが表示されます。

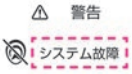
次ページに続く

プロパイロット2.0警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明･対処方法」に従ってください。メーター内の表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

ヘッドアップディスプレイ	アドバンスドドライブアシストディスプレイ	表示する条件	説明･対処方法
		● 運転者が前方の状況に注意していないと判断したとき	● 運転者は前を向き、常に前方の状況に注意して運転してください。 ● 運転者が前を向くと警告は消灯します。
		● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないとき ● 3D高精度地図データと実際の道路が異なっていると判断したとき ● 車線逸脱警報が作動したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
		● 運転者が前方の状況に注意していない状態が継続したとき ● 運転者にハンドル操作を要求するとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
		● 運転者のハンドル操作がないため、自車を減速、緊急停止させるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、プロパイロット2.0が解除されます。

警告メッセージが表示されたときは

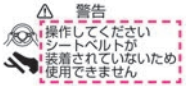
画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	システム故障	● プロパイロット2.0に異常があるとき	● 安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	フロントレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● 安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動してください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.587)
	シートベルトが 装着されていないため 使用できません	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合は、プロパイロット2.0は使用することができません。
	パーキングブレーキが 作動しているため 現在使用できません	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときは、プロパイロット2.0は使用することができません。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	滑りやすい路面のため 現在使用できません	● VDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき ● タイヤが空転したとき	● VDC／TCSが作動する、またはタイヤが空転するような状況では、プロパイロット2.0は使用できません。
	作動範囲外のため 現在使用できません	● ドライブモードをSNOWにしたとき ● VDCをOFFにしたとき	● ドライブモードがSNOW、またはVDCがOFFの場合は、プロパイロット2.0は使用できません。
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	システム故障	● 車線維持機能に異常があるとき	● 安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	悪天候のため 現在使用できません	● ワイパーが高速で作動しているとき	● 状況が改善すると、車線維持機能を使用することができます。
	カメラが認識できないため 現在使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光を受けたとき	● 状況が改善すると、車線維持機能を使用することができます。
	カメラが高温のため 現在使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 状況が改善すると、車線維持機能を使用することができます。

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	操作してください システム故障	● プロパイロット2.0に異常があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	操作してください フロントレーダーが 汚れているため 使用できません	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動してください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.587)
	操作してください サイドレーダーが 汚れているため 使用できません	● 車両前部と車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動してください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.587)

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	操作してください シートベルトが 装着されていないため 使用できません	● 運転者のシートベルトを解除したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転席のシートベルトが解除されている場合はプロパイロット2.0は使用することができません。
	操作してください パーキングブレーキが 作動しているため 使用できません	● 電動パーキングブレーキをかけたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 電動パーキングブレーキが作動しているときはプロパイロット2.0は使用することができません。
	操作してください 作動範囲外のため 使用できません	● ドライブモードをSNOWにしたとき ● VDCをOFFにしたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● ドライブモードがSNOW、またはVDCがOFFの場合は、プロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください 滑りやすい路面のため 現在使用できません	● VDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき ● タイヤが空転したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● VDC/TCSが作動する、またはタイヤが空転するような状況では、プロパイロット2.0は使用できません。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	操作してください	● 先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき ● 運転席、助手席、後席シートのいずれかのドアを開けたとき ● 車速･車間制御機能により自車が停止後、約3分が経過したとき ● セレクトレバーをD、またはマニュアルモード以外にしたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、プロパイロット2.0を使用することができます。
	操作してください レーンを認識できません	● レーンマーカーを検出できなくなったとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、車線維持機能を使用することができます。
	操作してください 悪天候のため 使用できません	● ワイパーが高速で作動しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、車線維持機能を使用することができます。
	操作してください 視界不良のため 使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光を受けたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、車線維持機能を使用することができます。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	操作してください カメラが高温のため 使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 室内の温度が下がると車線維持機能を使用することができます。
	操作してください この先、料金所です	● 前方に料金所があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください この先、 車線減少します	● 前方に車線数が減少する地点があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください この先、 急カーブです	● 前方に急なカーブがあるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	操作してください この先、交差点です	● 前方に交差点があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください	● 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口があるとき ● 3D高精度地図データがない区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	ハンドルを持ってください （車速 作動範囲外）	● 標識検知機能が検出している速度を超えて走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください （カーブ、分合流、道幅等）	● 急カーブに近づいたとき ● 分合流が続く区間を走行しているとき ● 車線幅の狭い道路を走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 車線減少します	● 車線数が減少する地点に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。

次ページに続く

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	ハンドルを持ってください 合流があります	● 合流に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください （交通規制）	● 工事区間など交通規制のある区間を検出したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 高精度地図がありません	● 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき ● 3D高精度地図データのない区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください GPS信号を受信できません	● GPS信号を受信できなくなったとき ● トンネル内を走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 悪天候のため使用できません	● ワイパーが低速で作動しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 対面通行区間です	● 対面通行区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください ドライバーを認識できません	● 運転者を認識できなくなったとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● ドライバーモニターカメラと運転者の間に遮るものがある場合は、取り除いてください。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	ハンドルを持ってください	● 接近警報が作動したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 必要に応じてブレーキを操作し、車間距離を確保してください。
	一部のハンドル支援が作動できません （システム故障）	● システムの一部に異常があり、ハンドル支援機能の一部が作動できないとき	● 安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	一部のハンドル支援が作動できません （サイドレーダー汚れ）	● 車両前部と車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しており、ハンドル支援機能の一部が作動できないとき	● レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを再びONにしてください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.587)
	一部のハンドル支援が作動できません ドライバーを認識できません	● 運転者を検出できないとき	● 運転者を検出できない場合は、一部のハンドル支援機能は使用できません。
	一部のハンドル支援が作動できません 高精度地図が使用できません	● ナビゲーションからの情報がこないなど、ハンドル支援機能の一部が作動できないとき	● 安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。 ● 上記操作をしてもメッセージが表示される場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明･対処方法
	一部のハンドル支援が 作動できません （高精度地図ライセンス切れ）	● 3D高精度地図データを利用するための契約がされていないとき	● 3D高精度地図データを利用するための契約については、日産販売会社にお問い合わせください。
	車線変更支援を中止しました 車速が低すぎます	● 車速が約60km/hを下回り、車線変更支援が中止したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました 車両を検知しました	● 目的の車線に車両を検出したため、車線変更支援機能が中止したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました スペースがありません	● 車線変更のスペースが検出できず、追い越し支援機能が中止したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました 分岐まで近すぎます	● 車線変更のスペースが検出できず、出口･分岐路近くになったとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました	● レーンマーカーが検出できなくなったとき ● 目的の車線の方向のレーンマーカーが白、または黄色の実線になったとき ● サイドレーダー部が汚れ、周辺車両との距離の測定が困難になったとき ● 車線変更支援機能に異常があるとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。

ブザー（警報音）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車室内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ…（数秒間）	ドアハンドルのスイッチを押したとき	● パワースイッチはOFFになっているか ● キー（インテリジェントキー）を車室内またはトランク内に置き忘れていないか ● いずれかのドアが半ドアになっていないか ● ドアを閉める前にドアハンドルのスイッチを押していないか
		キーのドア施錠スイッチを押したとき	● いずれかのドアが半ドアになっていないか ● ドアを閉める前に施錠スイッチを押してはいないか
		ドアを閉めたとき	● 無意識にドアハンドルのスイッチを押していないか
	ピッピッピッ（3回）	ドアを閉めたとき	● パワースイッチがアクセサリーまたはONのまま、キーが車外に持ち出されていないか
	ピー（継続）	ドアを閉めたとき	● セレクトレバーがPになっているか
		トランクを閉めたとき	● キーをトランク内または車室内に置き忘れていないか
	キー（金属音）	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	● ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗していないか ● 金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

ブザー（警報音）が鳴ったときは

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車室内	ポーン、ポーン、ポーン…（繰り返し）	パワースイッチを押したとき	● 運転席ドアが開いていないか
	ピピッピピッピピッ（3回）	ドアを閉めたとき	● パワースイッチがアクセサリーまたはONのまま、キーが車外に持ち出されていないか
		パワースイッチを押したとき	● キーを携帯しているか ● キーを携帯してもブザーが鳴るときは、キーの電池を交換してください
	ピピッピピッ…（繰り返し）	運転席ドアを開けたとき	● ハイブリッドシステムが始動したままになっていないか ● セレクトレバーをPに入れているか
		パワースイッチを押したとき	● セレクトレバーをPに入れているか
	ピーピーピー…（繰り返し）	運転席ドアを開けたとき	● ETCカードを抜き忘れていないか
	ピー（継続）	発進または停車させようとしたとき	● ソナー周辺に雨、雪、泥などが付着していないか – 付着しているときは、取り除いてください。 ● ソナー機能が作動していないか – インテリジェント アラウンドビューモニター画面のPを押すと、一時的に機能を停止することができます – 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「カメラシステム、ETC」の章をお読みください。

窓ガラスがくもったときは

パワースイッチがONのとき使えます。

フロントガラスのくもりの取りかた

- デフロスタースイッチを押すとエアコンが作動し、外気導入に切り替わります。（スイッチの表示灯が点灯）
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。（スイッチの表示灯が消灯）

⚠ 注意

- **デフロスタースイッチをONにしているときは、エアコンの設定温度を低くしない。**
  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

- デフロスタースイッチをONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。

知識

- エアコンがOFFのとき、デフロスタースイッチを押すとエアコンも作動します。
- 早くくもりを取りたいときは、風量を強くしてください。
  詳しくは、オートエアコン★／インテリジェントエアコンシステム★(P.155)の説明をお読みください。

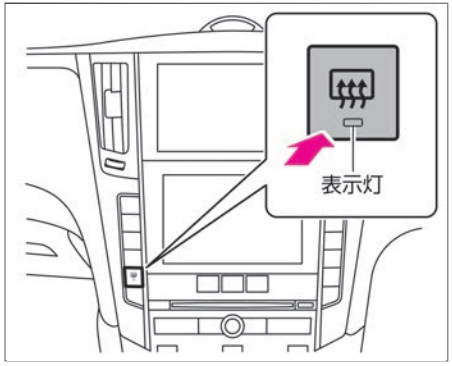
次ページに続く

窓ガラスがくもったときは

パワースイッチがONのとき使えます。

リヤガラスのくもりの取りかた

- リヤウインドーデフォッガースイッチを押すと約15分間作動し、リヤウインドーの熱線が暖まります。
  （スイッチの表示灯が点灯）
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。
  （スイッチの表示灯が消灯）



アドバイス

- 連続して長時間使用しないでください。消費電力が多いため12Vバッテリーあがりの原因になります。

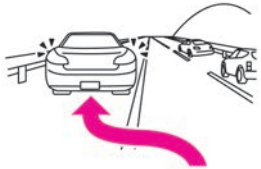
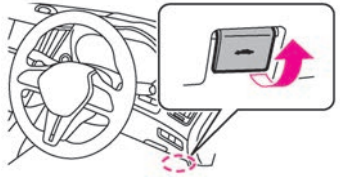
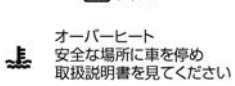
知識

- リヤウインドーデフォッガースイッチを押すと、ドアミラーヒーターも同時に作動します。

オーバーヒートしたときは

アドバンスドドライブアシストディスプレイに「オーバーヒート」と表示したときや、エンジンルームのすき間から蒸気が出ているときはオーバーヒートしています。次の方法で処置してください。

処置のしかた

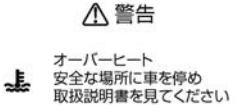
1	ただちに安全な場所に停車します。 故障したときの対処のしかた (P.472)	
2	ハイブリッドシステムを作動させたままエンジンフードを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。 万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにハイブリッドシステムを停止し、自然冷却してください。	
3	アドバンスドドライブアシストディスプレイのオーバーヒート警告メッセージが消えたら、ハイブリッドシステムを停止させしばらく待ちます。 エンジンが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。	
4	冷却水が不足しているときは、エンジン冷却用のラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補充してください。 エンジンルーム内の配置図 (P.554) 補充後は、しっかりキャップを閉めてください。	

⚠ 警告

- **エンジンフードを開けるときは十分に注意する。**
  エンジンルーム内は高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **蒸気が出ているときは、エンジンフードを開けない。**
  やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
  エンジンを停止し、蒸気が出なくなるまで待ち、エンジンフードを開けてください。
- **エンジンが十分に冷えていないときは、ラジエーターやリザーバータンクのキャップを外さない。**
  蒸気や熱湯が噴き出し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **オーバーヒートしたときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置をする。**
  そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

次ページに続く

オーバーヒートしたときは

5	走行中、再度アドバンスドドライブアシストディスプレイにオーバーヒート警告が表示されたら、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。	
6	早めに日産販売会社で点検を受けてください。	

アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、できるだけ早くエンジンクーラントを交換してください。

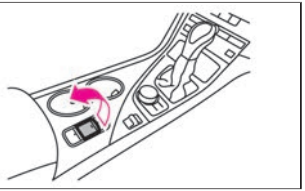
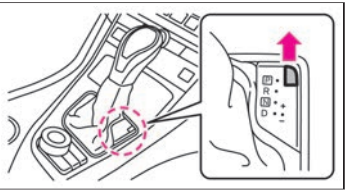
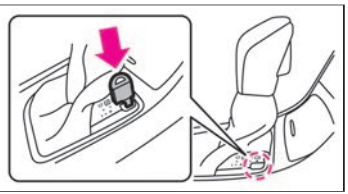
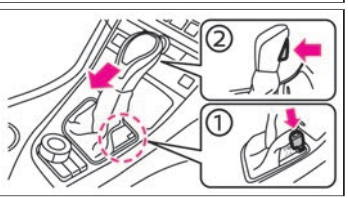
知識

- ハイブリッドシステムがオーバーヒートしたときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「ハイブリッドシステムオーバーヒート 安全な場所に車を停めてください」と表示されます。
  ハイブリッドシステムのオーバーヒートについては、警告メッセージ(P.509)をお読みください。

セレクトレバーが動かないときは

万一12Vバッテリーあがりなどでセレクトレバーを P から動かせないときは、次の方法で動かすことができます。

セレクトレバーの動かしかた

1	安全のためパーキングブレーキをかけ、ブレーキペダルを踏み続けます。	
2	お手持ちのマイナスドライバーなどでふたを外します。 傷つきを防ぐため、ドライバーに布などを当てて外してください。	
3	内蔵キー（メカニカルキー）を、挿入口に対して垂直方向に差し込みます。 内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた (P.481)	
4	内蔵キー（メカニカルキー）①を差して押し込んだままセレクトレバーのボタン②を押して動かします。	

アドバイス

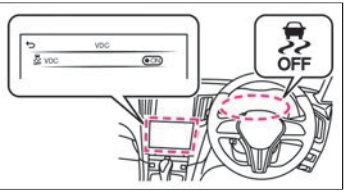
- セレクトレバーを P から動かせないときは、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

雪道やぬかるみにはまったときは

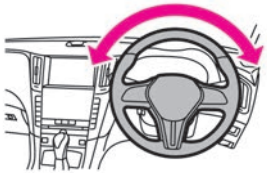
雪道、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

脱出のしかた

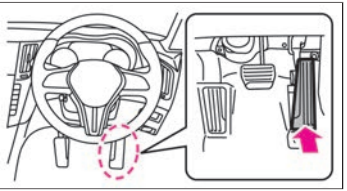
1 ナビゲーションシステムでVDCをOFFにします。
VDCのON･OFFのしかた (P.237)



2 車両の前後に障害物が無いことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。
必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。



3 ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。
周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。



⚠ 警告

- **周囲の安全を必ず確認する。**
  周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- **必要以上にアクセルペダルを踏み込まない。**
  急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **脱出するときは、過度にタイヤを空転させない。**
  タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

水没したときの対処のしかた

水没したときは、次のような対処方法で車外に脱出してください。

- シートベルトを外して車外に脱出してください。
- ドアが開く水位が低いうちにドアを開けて、車外に脱出してください。
- ドアが開かなかった場合、パワーウインドーのスイッチを押し窓ガラスを開け、窓から車外に脱出してください。
- パワーウインドースイッチを押しても窓ガラスが開かない場合、以下の方法で脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がある場合、窓ガラスを割り窓から車外に脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がない場合、または緊急脱出用ハンマーで窓ガラスが割れない場合には、車内外の水位が同じ高さくらいまで浸水するのを待ち、ドアを強く押し開けて車外に脱出してください。
    （車内外の水圧差がなくなると、ドアを開けることができます。）

⚠ 警告

- **水位が窓ガラスよりも高いとき、緊急脱出用ハンマーを使用した場合、割れたガラスが車内に入り、ケガをするおそれがあります。**

緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）について

- **フロントウインドーガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマーで割ることはできません。リヤドアガラス、リヤウインドーガラスを割って脱出してください。**
  ※ドアガラスについては、車両の仕様変更により合わせガラスの場合があります。
  合わせ、または強化ガラスの見分け方法については、ガラスの断面、もしくは刻印（マーク）を確認することで見分けることができます。

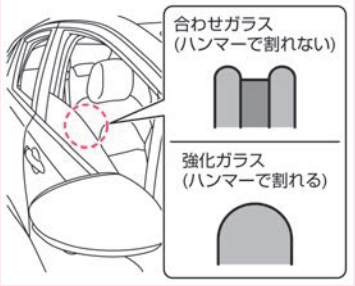
次ページに続く

水没したときは

⚠ 警告

ガラスの断面で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスを半分ほど開け、断面を上から確認し、2枚のガラスが貼り合わせられている場合は合わせガラスとなります。



ガラスにある刻印（マーク）で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスには次のような刻印（マーク）が表示されています。この表示によって、合わせガラスかどうかを見分けることができます。

⚠ 警告

※車両によっては、刻印（マーク）が表示されていない場合があります。

ヒューズが切れたときは

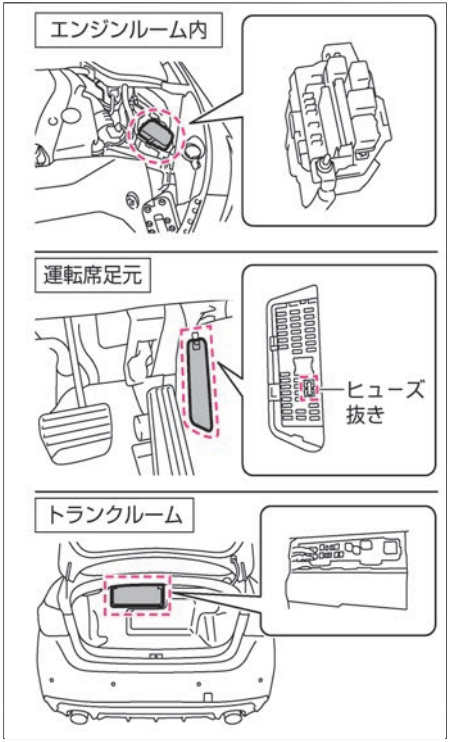
ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。
故障の状況から、関係するヒューズを確認してください。

ヒューズボックスの位置

- ヒューズが切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。
- ヒューズボックスは、次の位置にあります。
  - エンジンルーム内
  - 運転席足元
  - トランクルーム
- 各ヒューズの位置はエンジンルーム、運転席足元はヒューズボックスのふたの裏側、トランクルームはふたの表側に表示してあります。

ヒューズ抜きについて

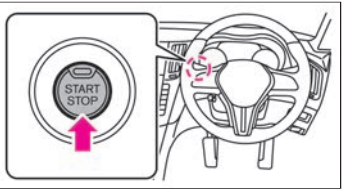
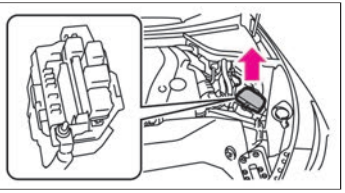
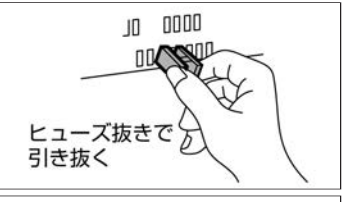
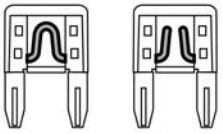
- 運転席足元のヒューズボックス内にヒューズ抜きがあります。



次ページに続く

ヒューズが切れたときは

ヒューズの点検･交換のしかた（エンジンルーム内）

1	パワースイッチをOFFにし、フードを開けます。 ➔ フードの開けかた、閉めかた (P.555)	
2	ツメを押しながら持ち上げて、ふたを外します。	
3	ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。 ➔ ヒューズボックスの位置 (P.541)	
4	ヒューズが切れていないか点検します。 切れているときは新しいヒューズと交換します。	ヒューズの参考画像 

⚠ 警告

- **高電圧部位、サービス･プラグ、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターに触れたり、取り外し、分解などは絶対に行わない。**
  重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

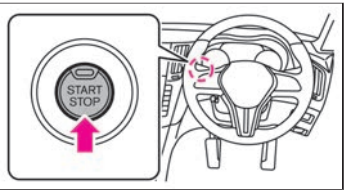
アドバイス

- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。

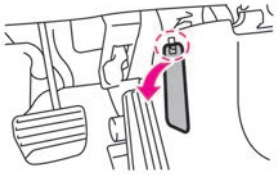
ヒューズが切れたときは

ヒューズの点検･交換のしかた（運転席足元）

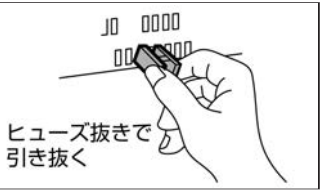
1 パワースイッチをOFFにします。



2 運転席足元にあるふたのツメを押しながら手前に引いて外します。



3 ヒューズ抜きでヒューズを取り外します。
ヒューズボックスの位置 (P.541)



⚠ 警告

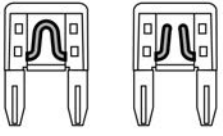
- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。

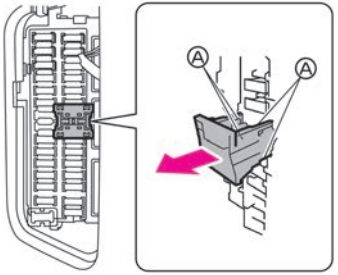
次ページに続く

ヒューズが切れたときは

4	ヒューズが切れていないか点検します。 切れているときは新しいヒューズと交換します。	ヒューズの参考画像 

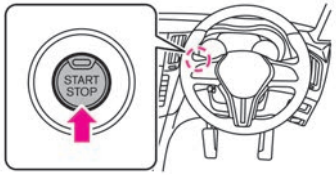
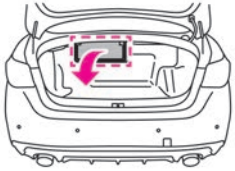
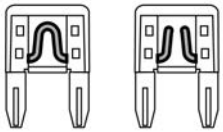
アドバイス

- 次のイラストのような部品が付いている場合は、その部品の中にもヒューズがあります。中のヒューズを点検･交換するときは、Ⓐを上下につまみながら矢印の方向に引き抜いてください。



ヒューズが切れたときは

ヒューズの点検･交換のしかた（トランクルーム）

1	パワースイッチをOFFにし、トランクを開けます。 ➔ トランクの開けかた (P.122)	
2	トランクカバーの中央を下に押し下げてカバーを外し、ツメを押しながらふたを開けます。	
3	ヒューズ抜きでヒューズを取り外します。 ➔ ヒューズボックスの位置 (P.541)	
4	ヒューズが切れていないか点検します。 切れているときは新しいヒューズと交換します。	ヒューズの参考画像 

⚠ 警告

- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

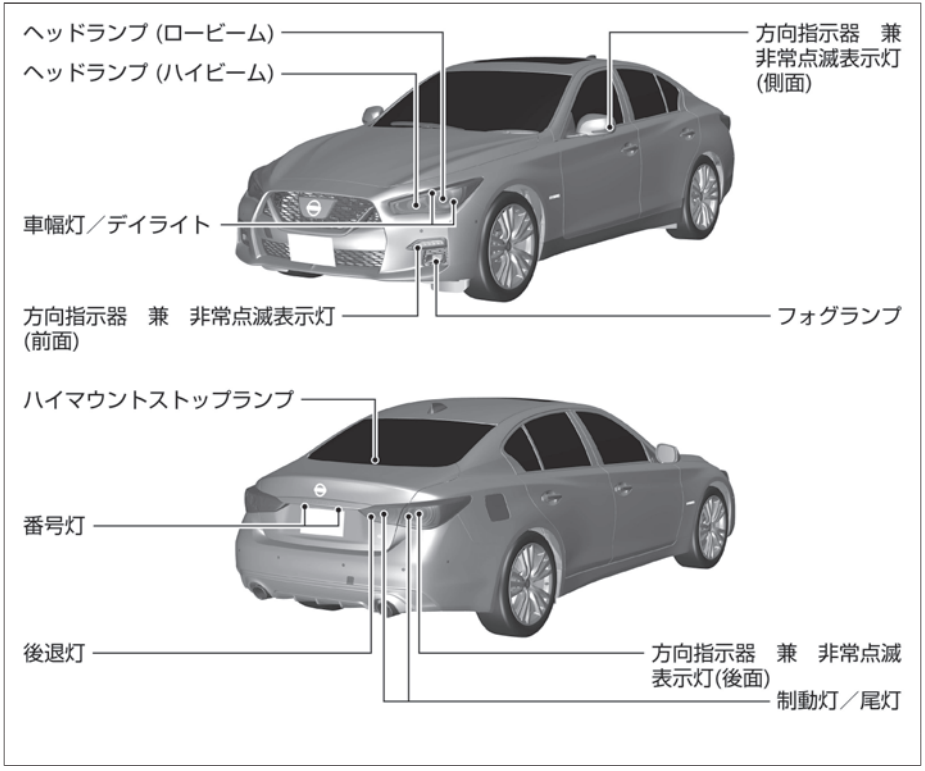
アドバイス

- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。

電球（バルブ）が切れたときは

外装ランプが点灯しないときは、日産販売会社にご相談ください。

各電球（バルブ）の位置



知識

- ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の現象で、機能上の問題ではありません。また、レンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。ただし、ランプ内に水がたまっている場合やレンズ内面に大粒の水滴が付着している場合は、日産販売会社にご相談ください。

メンテナンスの前に

点検整備について P.548

工具･ジャッキ

工具･ジャッキ★について P.549

点検と整備

エンジンルーム P.554
ウォッシャー液の補給 P.557
寒冷時の取り扱い P.558
タイヤ P.561
タイヤ空気圧警報システム P.566
冬用タイヤ･タイヤチェーン P.571
ワイパー P.573
キー（インテリジェントキー）の電池交換 P.575
12Vバッテリー P.576
エンジンオイル P.579

清掃･お手入れ

外装のお手入れ P.580
内装のお手入れ P.592

サービスデータ

点検値／交換油脂類 P.595
車両仕様 P.598
イベントデータレコーダ（EDR） P.600
車両状態記録機能 P.602

点検整備について

道路運送車両法により、定期点検と日常点検が義務付けられています。正しい点検整備を行いお車を安全にお使いください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検整備の種類

- **日常点検**
  走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。
  いつもと違うことに気がついたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水もれ、油もれなど）
- **定期点検**
  1年ごとに実施する点検です。12か月点検および24か月点検があります。
- **その他の点検**
  新車時の無料点検や、厳しい使われかたをしたときに必要な点検があります。

車検、点検整備のとき

- 車検、点検整備については、日産販売会社にご相談ください。

■ 検査標章（ステッカー）の貼り付け位置について

- フロントガラスにあるマルチセンシングフロントカメラを避け、車室内から貼り付けます。車外から見やすい位置に貼り付けてください。
  マルチセンシングフロントカメラ（➔P.588）

廃車にするとき

- 高電圧部品を搭載しているため、廃車にする場合は必ず日産販売会社にご相談ください。

知識

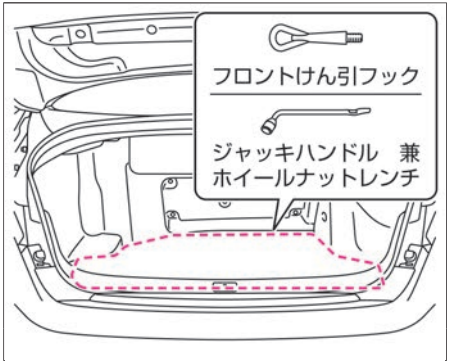
- 点検･整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。

工具･ジャッキ★について

ジャッキとジャッキハンドルバーは標準で搭載されていませんので、必要に応じて準備してください。
ジャッキ、ジャッキハンドルバーのご購入については、日産販売会社にご相談ください。

工具の格納場所

- 工具は、トランクルーム下部に格納されています。

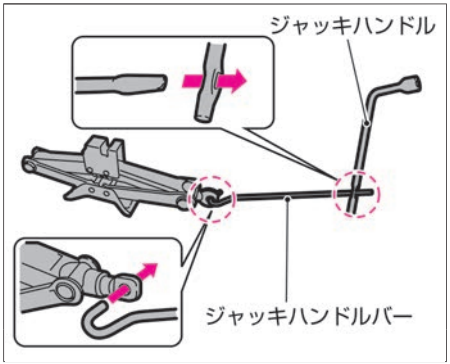


⚠ 注意

- **工具、ジャッキを使ったあとは、元の場所に格納する。**
  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキの使いかた

- ジャッキにジャッキハンドルバーとジャッキハンドルをセットします。
- ジャッキを使って車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを設置してください。



⚠ 警告

- **ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らない。**
  ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。

⚠ 注意

- **工具、ジャッキを使ったあとは、元の場所に収納する。**
  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

工具･ジャッキ★について

⚠ 注意

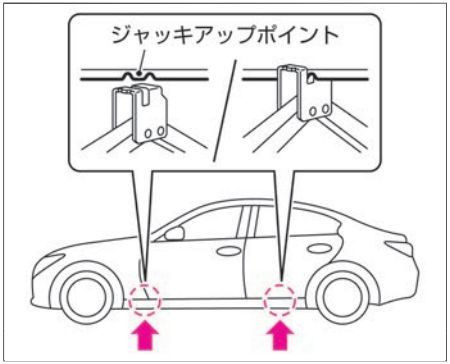
- **ジャッキハンドルを回すときは、ジャッキハンドルバーをしっかり握って回す。**
  ジャッキハンドルバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ジャッキハンドルバーは、確実にジャッキハンドルの穴に差し込む。**
  ジャッキハンドルバーが確実に差し込まれていないと、外れて思わぬケガをするおそれがあります。
- **ジャッキアップ中はハイブリッドシステムを始動しない。**
  車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- ジャッキとジャッキハンドルバーは標準で搭載されていませんので、必要に応じて準備してください。ジャッキ、ジャッキハンドルバーのご購入については、日産販売会社にご相談ください。

ジャッキアップポイント

- 矢印の位置がジャッキアップポイントです。



⚠ 注意

- **ジャッキを使うときは、次のことを必ず守る。**
  - ジャッキは必ずこの車両専用のものを使い、他車のジャッキは使わないでください。また、この車両専用のジャッキは他車に使わないでください。
  - 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
  - 使用前にパーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを**P**にしてください。
  - 輪止めなどで車を固定してください。
  - ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
  - 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

アドバイス

- ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使わないでください。
- ジャッキアップポイント以外のとこ

次ページに続く

工具･ジャッキ★について

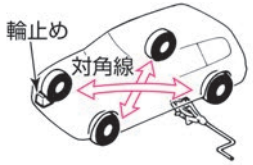
アドバイス

ろにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

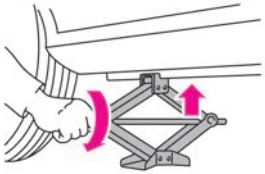
ジャッキアップのしかた

1 交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面（平坦な硬い場所）に停車し、人や荷物を車から降ろします。
停車･駐車のしかた (P.204)

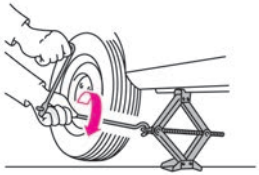
2 ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。
前輪をジャッキアップするとき：後輪の後ろ側
後輪をジャッキアップするとき：前輪の前側



3 ジャッキの上部がジャッキアップポイントに接触するまで、ジャッキを矢印の方向に手で回します。



4 ジャッキハンドルを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。



⚠ 注意

- **やわらかい地面の上ではジャッキアップしない。**
  ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- **やむをえず傾斜地で作業する場合は、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにする。**

アドバイス

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

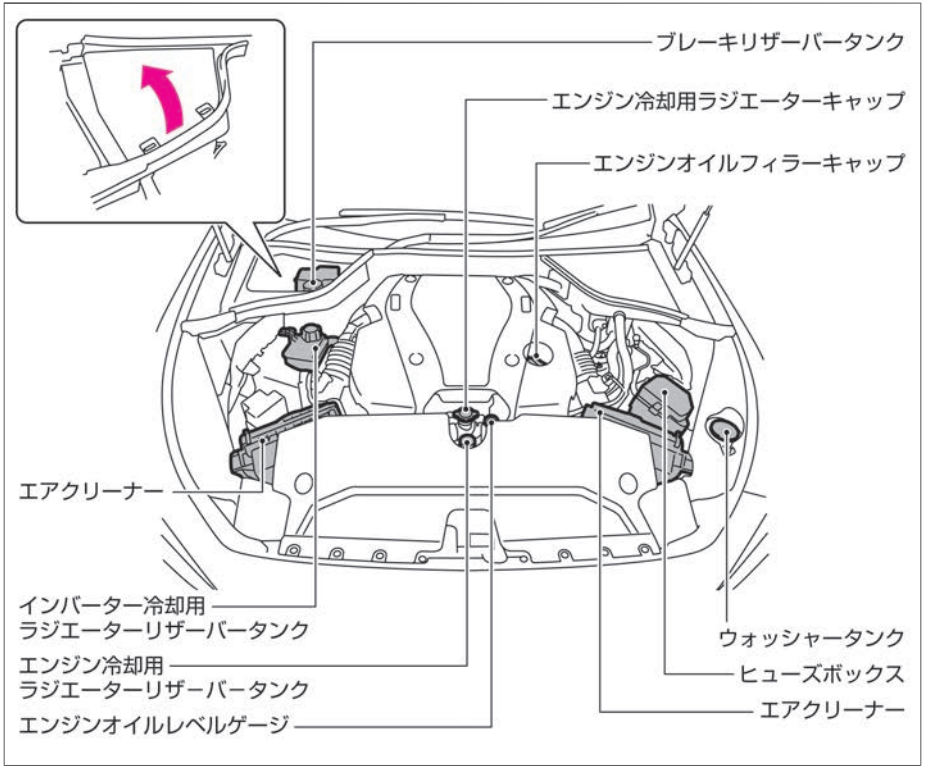
知識

- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

エンジンルーム

エンジンルーム内を点検するときは安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけた状態でフードを開けます。

エンジンルーム内の配置図



⚠ 警告

- **点検や整備に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れない。**
  故障や車両火災につながるおそれがあります。

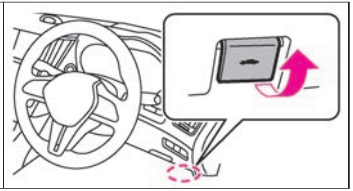
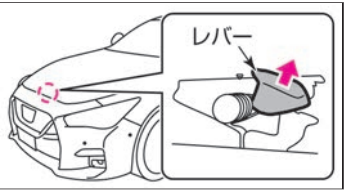
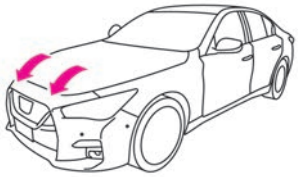
⚠ 注意

- **エンジンルーム内の作業をするときは、パワースイッチをOFFにする。**
  ハイブリッドシステム作動中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- ワイパーアームを起こしたままフードを開けないでください。フードやワイパーが損傷します。
- 点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

フードの開けかた、閉めかた

1	運転席の右下にあるフードオープナーを引きます。 フードが少し浮き上がります。	
2	フード先端のすき間に手を入れ、レバーを引き上げながらフードを持ち上げます。	
3	閉めるときはフードをゆっくり降ろし、左右の先端を押しつけ、確実にロックします。	

⚠ 警告

- **走行前、フードが確実に閉まっていることを、必ず確認する。**
  ロックされていないと、走行中にフードが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **風が強いときは、フードをしっかり持ってゆっくりと開ける。**
- **フードを開けたときは、フードに頭などをぶつけないよう注意する。**
- **ラジエーターなどの高温部には触れない。**
  やけどをするおそれがあります。
- **フードを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろす。**
- **ポップアップエンジンフードが作動したときは、フードオープナーを引かない。**
  フードオープナーを引くと、さらにフードが上がり視界の妨げとなるため危険です。また、フードを無理に押し戻さないでください。手動では下げることができないため、フードが変形したり、思わぬケガをするお

次ページに続く

⚠ 注意

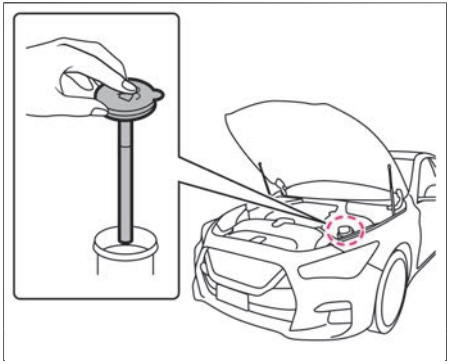
それがあります。ポップアップエンジンフードが作動したときは、必ず日産販売会社にご相談ください。

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

補給のしかた

- ウォッシャータンクのふたの穴を押さえて引き抜くと、スポイト式にウォッシャー液の残量が確認できます。
- 減っているときは、ウォッシャータンクのふたを外し、ウォッシャー液を補給してください。
- ウォッシャー液は、必要に応じ水で薄めてください。希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にします。



⚠ 注意

- **ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけない。**
  出火するおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

知識

- ウォッシャー液の残量を確認したとき、ウォッシャー液がチューブ下端にしか入らないと、ウォッシャータンクはほぼ空の状態です。
- 日産純正ウインドウォッシャー液をおすすめします。
  ウォッシャータンク容量（➔P.597）

寒冷時の取り扱い

寒冷時に備えて、準備や点検などを正しく行ってください。

冬の前の準備

■ 冷却水の濃度点検

- 冷却水の凍結を防ぐため、冷却水の濃度を点検してください。

冷却水の濃度	凍結温度
30%	約-15°C
50%	約-35°C

- 冷却水を補充･交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント（50%希釈品）をお使いください。
  サービスデータ（冷却水）（P.597）

アドバイス

- 冷却水は工場出荷時に50%にしてあります。
- 冷却水の点検･補充･交換は日産販売会社にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーなどが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。
- ガラスに雪や霜が積もっているときは、プラスチックの板などを使用して、ガラスを傷つけないように雪を取り除いてください。
- 足回り（ブレーキ周辺、フェンダーの裏側など）が凍りついているときは、部品が破損しないように注意しながら、付着した氷塊を取り除いてください。
- 車室内に乗り込むときは、靴についた雪を取り除いてください。

⚠ 警告

- **ルーフに積もった雪は落とす。**
  窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- アンテナに雪が積もっている場合は、雪を落としてください。アンテナの受信感度が低下し、一時的にプロパイロット2.0が使えなくなることがあります。
- ルーフから雪を落とすときは、アンテナに強い力をかけないようにして

アドバイス

ください。アンテナが破損したり、車体がへこんだりするおそれがあります。

- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷するおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。

次ページに続く

雪道の走行のしかた

■ 滑りやすい路面に注意

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。
  ➔ タイヤチェーンについて (P.571)
  ➔ タイヤ空気圧警報システムについて (P.566)

■ 走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

■ 駐車するときの注意

- セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

タイヤ

タイヤが摩耗･損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。
日常的に点検を行ってください。

タイヤの点検項目

安全な走行のため、タイヤの点検は次の項目を点検してください。
詳細は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

タイヤ空気圧

- すべてのタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあります。
- タイヤ空気圧の調整後は、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯とアドバンスドドライブアシストディスプレイの警告表示が消灯します。

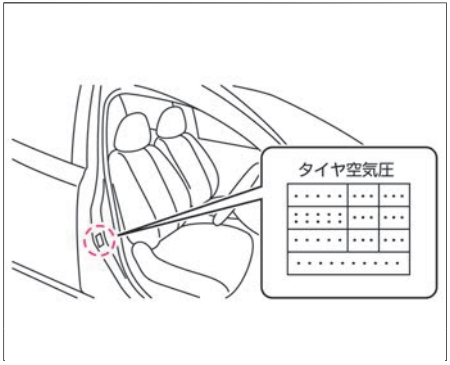
タイヤ空気圧警報システム (P.566)

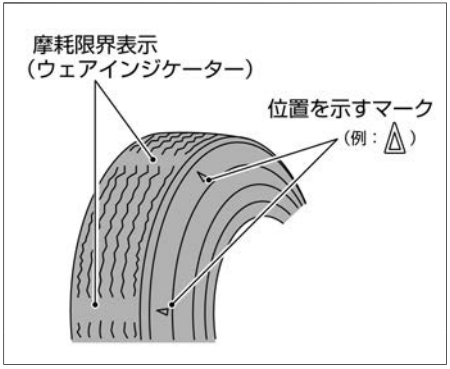
タイヤの亀裂･損傷の有無

- タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷および針などの異物が刺さっていないか点検してください。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

- タイヤの溝の深さが十分であるか、ウェアインジケーター（摩耗限界表示）が表れていないか点検してください。
- タイヤが摩耗して接地面とウェアインジケーター（摩耗限界表示）が同じ高さになったらタイヤを交換してください。





⚠ 警告

- **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。**
  気温や高度の変化により、タイヤの空気圧は変化します。タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **使用開始後5～7年を目安に必ず点検する。**
  タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。引き続き使用する場合は安全走行を確保するため、必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社へご相談ください。
- **タイヤ空気圧警報システムのリセット操作後も警告灯が点灯する場合は、日産販売会社で点検を受ける。**

知識

- タイヤの空気は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用して点検してください。

次ページに続く

知識

- タイヤ空気圧の点検は、走行前のタイヤが冷えているときに点検･調整してください。
- タイヤ側面の厚みが薄いタイヤは、空気圧が減っていることを目視で確認することが困難なため、必ずタイヤエアゲージを使用して点検してください。
- 走行するとタイヤ内温度が上昇し、タイヤ空気圧が約1割程度上がることがあります。

タイヤ･ロードホイールを交換するときは

- タイヤ交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。
- タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。
  ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。
- タイヤまたはロードホイールを交換したときは、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。
  ➔ タイヤ空気圧警報システム (P.566)

⚠ 注意

- **指定サイズ以外のタイヤ･ロードホイールは絶対に取り付けない。**
  不適合なタイヤ･ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付ける。**
  特に4WD車は、径が異なるタイヤを装着すると車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。
  - 摩耗差の大きいタイヤの装着
  - 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着
  - サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着

次ページに続く

アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- アルミホイールには荷重制限がありますので、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- バルブキャップは日産純正品を使用してください。日産純正品以外のバルブキャップを使用すると腐食して固着し、外れなくなる場合があります。

アドバイス

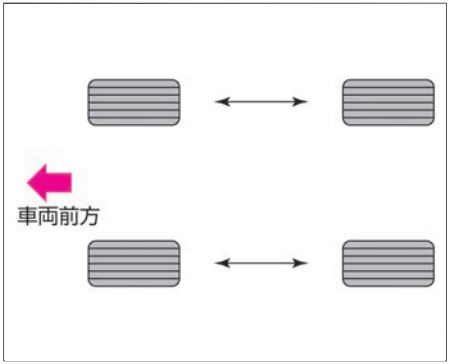
- バルブキャップを工具などを使用して締め付けると、バルブキャップが破損するおそれがあります。
- ホイールナットの締め付けトルクは、108N·m（11kg·m）です。

タイヤ空気圧警報システムについて

- タイヤ空気圧センサーが付いていないロードホイールを装着すると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後、点灯します。元のタイヤ空気圧センサーが付いているロードホイールを取り付けたあとは、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯は消灯します。
- 新しいタイヤ空気圧センサーを取り付けた場合は、専用のIDコードを登録する必要があります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。
- タイヤ空気圧センサーのシールゴム、コア、キャップはセンサーの付け替えと一緒に交換してください。シールゴムが摩擦などで劣化すると、タイヤのエア漏れの原因となります。

タイヤローテーションのしかた

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。



⚠ 注意

- **著しく摩耗差のあるタイヤや空気圧が規定値と著しく異なるタイヤを装着しない。**
  車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換をしたときは、タイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。
  タイヤ空気圧警報システム (P.566)
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。

タイヤ空気圧警報システム

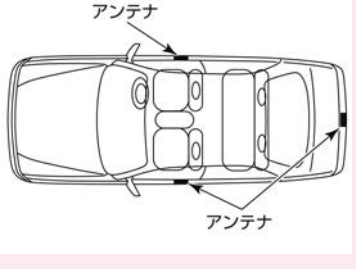
タイヤ空気圧警報システムは、タイヤ空気圧が不足していることを知らせるシステムです。

タイヤ空気圧警報システムについて

- 25km/h以上で走行したときに、作動します。
- タイヤ空気圧が低下すると、メーター内のタイヤ空気圧警告灯が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示します。
- 空気圧を正しく調整したあと、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯とアドバンスドドライブアシストディスプレイの警告表示（P.515）が消灯します。
- 気温や高度の変化により、タイヤの空気圧が減少し、タイヤ空気圧警報システムが作動する場合があります。
- バーストや急激な空気圧低下をした場合は、メーター内の警告表示がすぐに作動しないことがあります。
- システムに異常があるときは、タイヤ空気圧警告灯（P.497）が約1分間点滅したあとに点灯を続けます。なお適正な空気圧に設定しない限り、その後ハイブリッドシステムを始動するたびにこの動作が繰り返されます。

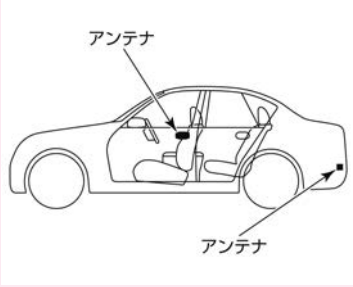
⚠ 警告

- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**
  タイヤ空気圧警報システムの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。



タイヤ空気圧警報システム

⚠ 警告



- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**
  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。
- **タイヤ空気圧警告灯が点灯し、警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、タイヤを確認する。**
  放置して走行し続けると、タイヤがバースト（破裂）したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯を続けたときは、日産販売会社で点検を受けてください。**
- **パンク修理剤を使用する場合は、必ず日産純正品を使用する。**

アドバイス

- タイヤ空気圧警報システムは、日常点検を補助するものです。必ず日常点検でタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤ空気圧センサーは、日本の電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
  - 日本国内のみで使用する。
  - 正しい使用方法以外では使用しない。
  - 分解や改造はしない。（分解や改造したものを使用することは法律で禁止されています。）
- タイヤ空気圧センサーにはお客さまの車に適合する固有のIDコードが登録されています。他の車のタイヤ空気圧センサーを使用すると、システムが作動しません。
- タイヤを修理･交換するときはタイヤ空気圧センサーの取り付けやIDコードの登録をする必要があるため、日産販売会社へご相談ください。
- 以下の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しない場合があります。
  - タイヤ交換後や空気圧調整後に、タイヤ空気圧警報システムのリセットを行っていないとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - 日産純正品以外のロードホイールを使用したとき
  - 日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用したとき
  - 近くに同じような無線周波数を使っている施設や器具があるとき
  - 車両、特にロードホイールハウスの周りに多くの雪や氷などが付いたとき
  - タイヤ空気圧センサーのIDコードがシステムに登録されていないとき
  - この車両の指定の空気圧センサーが取り付けられていないとき

次ページに続く

アドバイス

– タイヤ空気圧センサーが装着されていないホイールを装着したとき
– タイヤ空気圧センサーの電池が消耗したとき
– 窓ガラスに金属性の部品を装着しているとき

- タイヤ空気圧センサーには、車両と通信するための電池が内蔵されています。走行中は、常時車両と通信しているため電池を消耗しており、電池が切れると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後、点灯します。電池が消耗したときは、日産販売会社にご相談ください。電池単品での交換はできません。
- 凹凸のある道路を走行するときは注意して走行してください。タイヤ空気圧センサーを破損させるおそれがあります。
- 以下の場合は、電波の障害を受けるため正しく作動しない場合があります。
  – 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき
  – 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき

アドバイス

– 近くで電波式リモートコントロールエントリーを使用しているとき
– パソコン（または同様の装置）やDC/ACコンバータなどの電化製品が、車室内または車両の近くにあるとき
– 近くに本システムと同じような周波数を使っている施設、器具がある場合、または地域にいるとき
– 同じような周波数を使った無線機や器具を使用しているとき
– 電子情報機器を車室内で使用しているとき

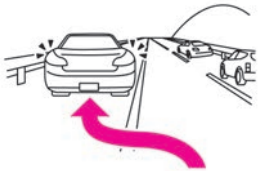
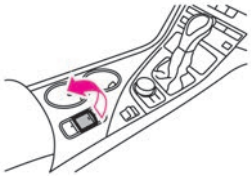
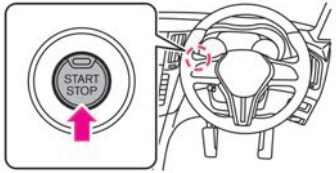
知識

- 温度による空気圧の変化や自然に空気圧が減少したときにもタイヤ空気圧警告灯が点灯しますが、適切な空気圧に調整して消灯すれば故障ではありません。
  タイヤの点検項目 (P.561)
- 高速走行時はタイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯することがありますが、減速して消灯すれば故障ではありません。

知識

- 走行するとタイヤ空気圧は指定空気圧よりも上昇しますが、運転後にタイヤ空気圧を下げないでください。
- 外気温が低いとタイヤ内部の空気温度が低下することで、タイヤの空気圧が指定空気圧よりも低下する可能性があります。

タイヤ空気圧警報システムのリセットのしかた

1	安全な場所に停車します。	
2	パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを**P**にします。	
3	タイヤエアゲージを使用して、4輪すべてのタイヤを指定の空気圧に調整し確認します。	
4	ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押して、ONにします。ハイブリッドシステムは始動させないでください。	

次ページに続く

5 ナビゲーションシステムで次の操作をして、タイヤ空気圧警報システムをリセットします。
MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ タイヤ空気圧警報システム設定 ⇒ システムリセット ⇒ はい ⇒ OK
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「車両情報」の章をお読みください。

6 リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯とアドバンスドドライブアシストディスプレイの警告表示が消灯します。その後、しばらく走行することでデータが更新されます。

アドバイス

- 以下の場合はタイヤ空気圧警報システムのリセット操作が必要となります。
  - タイヤ空気圧を調整したとき
  - タイヤまたはホイールを交換したとき
  - タイヤの位置交換（ローテーション）をしたとき
- リセット操作後も警告灯が点灯する場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
  タイヤ空気圧警告灯（P.497）

冬用タイヤ·タイヤチェーン

雪道や凍結した道路を走行するときは、冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤについて

冬用タイヤを装着するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンを装着するときは、次のことを守ってください。

- タイヤチェーンを装着するときは、安全に作業できる平坦な場所に停車し、パワースイッチをOFFにして作業してください。
- タイヤチェーンは必ず後2輪に装着してください。4WD車も後2輪に装着してください。
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書で指定された速度で走行してください。
- お客様のタイヤサイズに合ったタイヤチェーンでも使用できない場合があります。
- タイヤチェーンはお客様の車に適合した日産純正品をおすすめします。
- 適合するタイヤチェーンについては日産販売会社にご相談ください。

⚠ 注意

- **タイヤチェーンを不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものを使用しない。**
  ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

アドバイス

- タイヤチェーンを装着すると、アルミホイールに傷をつけるおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときはタイヤチェーンに付属の取扱説明書で指示された速度で走行してください。安全が損なわれたりタイヤチェーンが切れやすくなります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。また、4WD車は機構に無理がかかり故障の原因となります。
- タイヤチェーンを装着しているとき

次ページに続く

アドバイス

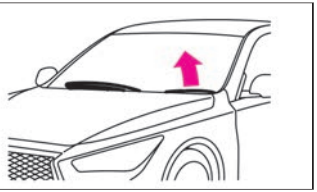
は、突起しているところや穴の上を走行したり、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパー

ワイパーゴムが傷んでいると、きれいにふき取れなかったり、窓ガラスを傷つけたりします。
定期的に点検し、傷んでいるときは次の手順に従って交換してください。

ワイパーブレードの交換のしかた

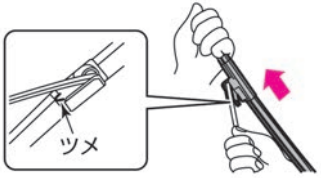
1 ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを少し傾けます。
ワイパーアームの起こしかた（ライズアップ機能）（P.227）



2 ワイパーブレードのツメを押したままにします。

3 ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。

4 新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。



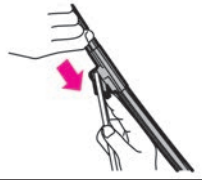
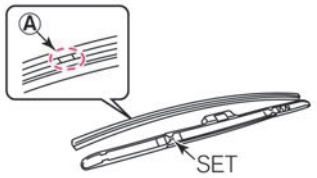
アドバイス

- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気をつけてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。
- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ワイパーゴムの交換のしかた

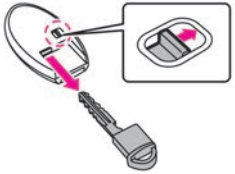
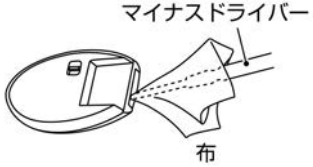
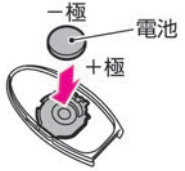
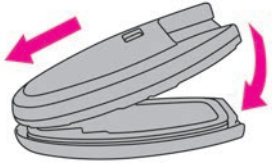
1	ワイパーアームからワイパーブレードを取り外します。	
2	ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。	
3	取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。 ● ワイパーゴムのストッパーがない方からブレードに沿って差し込みます。 ● ワイパーゴムのⒶ部をワイパーブレードの「SET」の位置で確実に押し込み、固定します。	

知識

- ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。

キー（インテリジェントキー）の電池交換

キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
次の手順に沿って、電池を交換してください。

1	キー裏側のロックを外しながら、内蔵キー（メカニカルキー）を引き抜きます。	
2	すき間にマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください。）	
3	消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、+極を下にして取り付けてください。） 使用電池：CR2032	
4	カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。	

⚠ 警告

- **電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。**

アドバイス

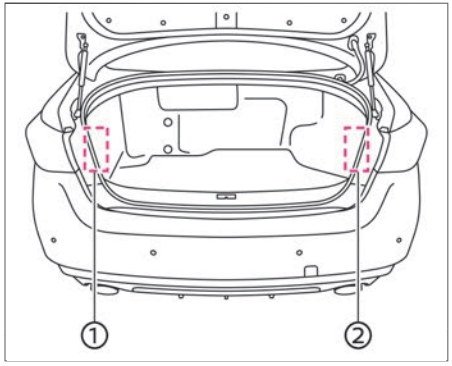
- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 本体に傷をつけるおそれがあるため、ドライバーに布などを当てて外してください。ドライバーを奥に差し込みすぎると内部の基板を傷つけるおそれがあります。
- 電池交換後は、キーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、日産販売会社にご相談ください。

12Vバッテリー

12Vバッテリーのメンテナンスについては、メンテナンスノートをお読みください。
詳しくは日産販売会社にご相談ください。

バッテリーの搭載位置

この車両には、2種類のバッテリーが搭載されています。
①12Vバッテリー：トランクルーム内（左側）
（エンジン始動･補機駆動用）
②バックアップバッテリー（プロパイロット2.0専用）：トランクルーム内（右側）
（12V電源関連部品の故障時専用）



12Vバッテリーに関する注意事項

⚠ 警告

- **12Vバッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**
  12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診断を受ける。**
  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **12Vバッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**
  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- **12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**
  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

次ページに続く

バックアップバッテリー（プロパイロット2.0専用）に関する注意事項

アドバイス

- トランク右側にあるバッテリーは、プロパイロット2.0専用のバックアップバッテリーです。バッテリーの端子を取り外すと、プロパイロット2.0機能の一部が使用できなくなります。もし誤って取り外してしまった場合は、日産販売会社にご相談ください。
- バックアップバッテリーは、駐車中の放電を避けるため、駐車中は車両電源回路と遮断されています。点検整備時や、長期保管時にバックアップバッテリーの端子を外す必要はありません。

エンジンオイル

エンジンオイルの交換時期はメンテナンスノートをお読みください。
また、指定のエンジンオイルについては、巻末のサービスデータ(P.596)をお読みください。

エンジンオイルに関する注意事項

⚠ 注意

- **オイルの点検後は、オイルレベルゲージを確実に差し込む。**
  オイルレベルゲージが根元まで差し込まれていないと、オイルが噴き出し火災の原因になるおそれがあります。
- **エンジンオイルフィラーキャップは確実に閉める。**
  走行時にキャップが外れてエンジンオイルが噴き出すと、火災の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 適切にオイル交換が行われないと、エンジンの破損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

外装のお手入れ

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 洗車やふき取りなどでワイパーアームを持ち上げるときは、エンジンフードに当たらないようにしてください。
  ➔ ワイパーアームの起こしかた（ライズアップ機能の使いかた） (P.227)
- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
  - ばい煙、虫の死がいや鳥のふん、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
  - 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ほこり、汚れがひどいとき

⚠ 注意

- **下回りを洗うときは、ケガをしないように注意する。**
- **エンジンルーム内に水をかけない。**
  ハイブリッドシステムの始動不良や不調などの原因になるおそれがあります。また、電装品などに水がかかると、故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使用しないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意

アドバイス
してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

水洗いするときは

① 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
② 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
③ はん点が残らないように水をふき取ります。

アドバイス

- 洗車をするときに、車体に体重をかけるなどして、強い力で押したときに、場所によっては車体がへこむおそれがあります。

洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納してください。
ドアミラー (P.138)
- 高圧洗浄機を使用するときは、洗車ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、塗装の劣化を早めたりすることがあります。

アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車室内に水が漏れるおそれがあります。
- 高圧洗車機を使用するときは、アンテナのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。シール部が変形、破損するおそれがあります。

ワックスをかけるときは

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

- ワックスがけは 1 か月に 1 回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

ワックスのかけかた

① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。
② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

ワックスの選びかた

- コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスをご使用ください。日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラのレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

アルミホイールのお手入れ

- 中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあるため、次のことをお守りください。
  - 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使用しない
  - 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）

次ページに続く

アドバイス

- 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
- 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使用しない

軽い補修のしかた

- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺以外は、塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。
- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺はタッチアップペイント含め塗装修理はできません。塗装する場合は日産販売会社にご相談ください。
➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.587)

バンパーの修理

バンパーにはレーダーセンサーが内蔵されているため、修理には細心の注意が必要です。

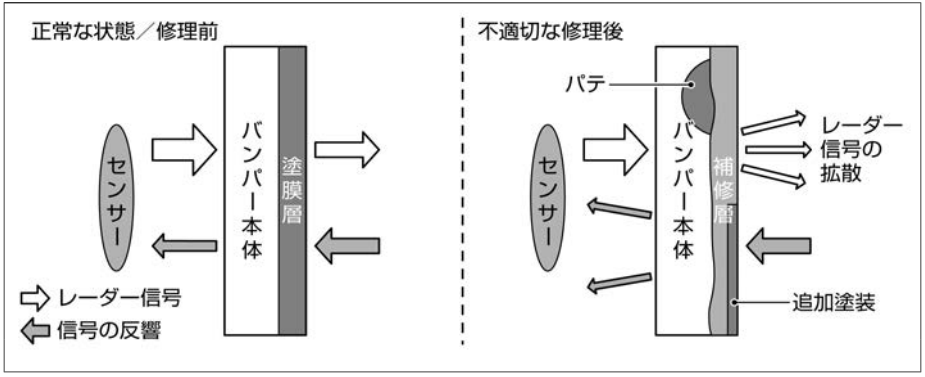
■ レーダーセンサーの仕組み

レーダーセンサーからレーダー信号を発生させ、その信号の反響により障害物を検出します。

次ページに続く

■ バンパーの修理

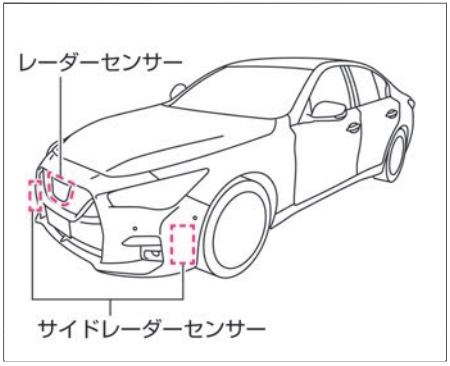
不適切なバンパー修理（異なる素材のパテ使用や追加塗装など）を行うと、レーダー信号が弱まったり、正しく発信できなかったりするため、障害物を正しく検出することができなくなります。

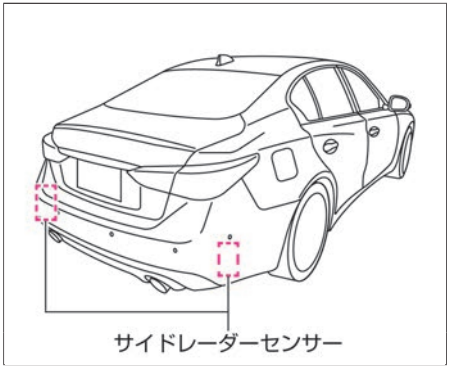


レーダーセンサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- レーダーセンサーの性能が発揮できない可能性がありますので、以下は行わないでください。
  - レーダーセンサー周辺へのステッカー貼り付け、後付け部品の取り付け
  - お客様の手による塗装、修理
  - フロントバンパー、リヤバンパーを改造、脱着
  - レーダーセンサー周辺の鳥糞、虫、泥などの付着の放置
  - 衝突などによるレーダーセンサー周辺の破損、傷つきの放置
- フロントバンパー、リヤバンパーを塗装、修理する場合は必ず日産販売会社にご相談ください。





アドバイス

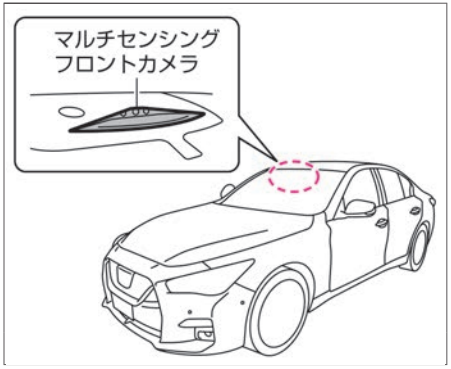
- レーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着している場合は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。
  フロントレーダーシステム停止警告（P.517）
  システム故障警告（P.512）
- フロントレーダー周辺の遮蔽物を取り除いて走行すると、システムの作動は再開します。再開しない場合は日産販売会社にご連絡ください。

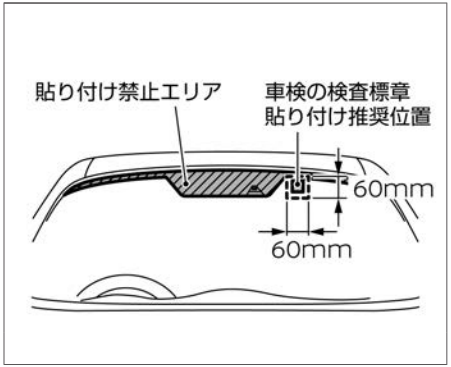
次ページに続く

マルチセンシングフロントカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ前方のフロントガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
- フロントガラスに車検の検査標章（ステッカー）を貼り付ける場合は、貼り付け禁止エリアを避けて貼り付けてください。
  貼り付け推奨位置は、フロントガラスのプリントコーナー部を起点とした範囲です。
- インストルメントパネル上に鏡などの光を反射しやすいものや白い紙などを置かないでください。太陽光が反射し、カメラの検知性能に影響がでるおそれがあります。
- カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。またカメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。
  事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。

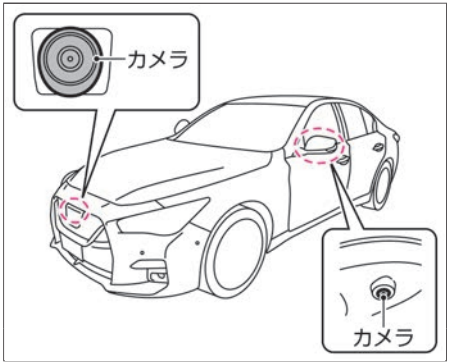




フロントビュー／サイドビューカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ周辺部に強い衝撃を与えないでください。衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。



⚠ 警告

- **カメラ部に強い衝撃を与えない。**
  カメラ部は精密機械のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災または感電のおそれがあります。

アドバイス

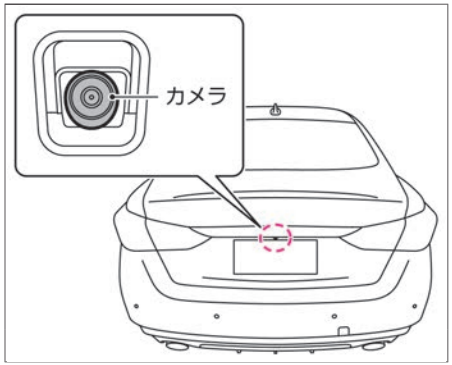
- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、ぬれた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。映像へ影響が出ることがあります。

次ページに続く

リヤビューカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- 光が反射するため、ナンバープレートのアクセサリーを取り付けないでください。
- カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。



⚠ 警告

- **カメラ部に強い衝撃を与えない。**
  カメラ部は精密機械のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災または感電のおそれがあります。

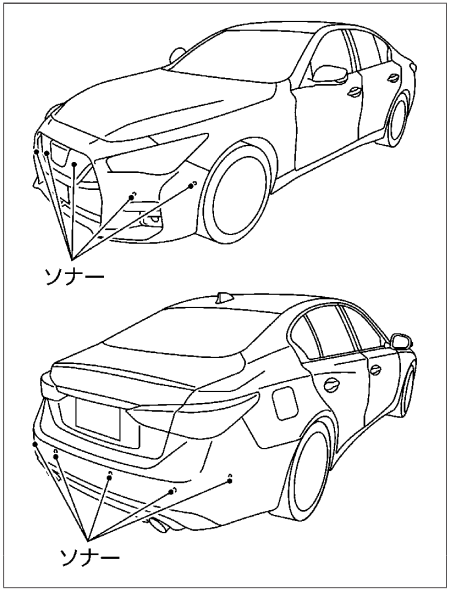
アドバイス

- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、ぬれた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。映像へ影響が出ることがあります。
- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

ソナーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、以下のことをお守りください。

- ソナーはいつもきれいにしておいてください。
  汚れているときは、柔らかい布で傷つけないように注意してふき取ってください。
- 強い力で乾拭きしないでください。また、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーで清掃するときは、ソナーから十分に離して使用してください。ソナーを損傷するおそれがあります。
- ソナーまたはその周辺に強い衝撃を与えないでください。またソナーの取り外し、分解などをしないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでソナーの取り付け部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- ソナーまたはその周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。故障、誤作動の原因になります。



内装のお手入れについて

アドバイス

- 車室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤を使用しないでください。変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、確認してからご使用ください。
- 消臭剤･芳香剤、化粧品･日焼け止めなどは、容器からこぼしたりしないでください。また、吊り下げタイプの消臭剤･芳香剤などは、内装部品に接触しないようにしてください。含まれる成分によっては、内装部品に付着すると変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあるため、付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取ってください。
- 塩素系（二酸化塩素や次亜塩素酸）の洗浄液を使用しないでください。塗装はがれや錆などの原因となるおそれがあります。やむをえず洗浄（除菌）する場合は、エタノール75%以下をご使用ください。エタノールを乾いた布に含ませ、内装部品をふいてください。エタノールがなくなるまでふき取ってください。ふき残しがあると塗装はがれや色落ちなどの原因となるおそれがあります。エタノールは、引火性ですので、火気に注意してください。
- 内装部品を固いもので擦ったり引っかいたりしないでください。傷がつき、破損するおそれがあります。

カーペットの汚れ取り

- 電気掃除機でほこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーペットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカーペットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。
フロアカーペット (P.462)

布、ビニールレザーの汚れ取り

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

本革シートのお手入れ★

通常のお手入れ

- ガーゼなど柔らかい布でふきます。

水溶性の汚れを取るとき

- 柔らかい布をぬるま湯に浸し、固くしぼってからふき取ります。次に乾いた柔らかい布でふきます。

油性の汚れを取るとき

① ぬるま湯に中性洗剤を溶かし（濃度2～3%）、柔らかい布に含ませ汚れを取ります。
② 真水に浸した布を固くしぼってふき取ります。
③ 乾いた柔らかい布でふき、風通しのよい日陰で乾燥させます。

アドバイス

- 本革シートは、直射日光により変色、変質することがあるため、日よけに心がけてください。
- 本革シートが水などでぬれたときは早めにふき取ってください。皮革が硬化、収縮する原因となります。

知識

- 本革シートのお手入れ用品（クリーナーなど）のご購入については、日産販売会社にご相談ください。

次ページに続く

メーター表面やその他光沢のあるプラスチック部品の汚れ取り

- 塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。
  硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色の原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

ガラスの汚れ取り

- ガラスクリーナー、洗剤などは使用しないでください。
- ガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。

点検値

項目		点検値
ブレーキペダル※	遊び	2～10mm
	床板とのすき間 ハイブリッドシステム作動中、踏力約196N（20kg）で踏んだとき	132mm以上

※: ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの床板とのすき間の調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。

次ページに続く

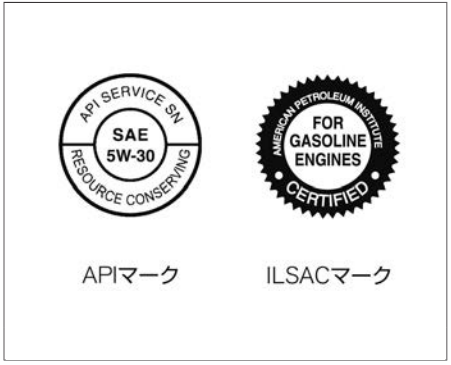
交換油脂類

お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。
指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品質のものをお使いください。
下記は、おおよその規定量です。実際の量は、わずかに異なることがあります。
交換時期についてはメンテナンスノートをお読みください。

項目	適用		規定量（ ℓ ）	指定銘柄
エンジンオイル	VQ35HR	オイルのみ交換	4.6	日産純正SNストロングセーブ·X Eスペシャル5W-30 （API: SN、SAE: 5W-30）
		オイルとオイルフィルター交換	4.9	

■ 指定銘柄以外のエンジンオイルについて

指定銘柄以外をお使いになる場合は、下記に適合したエンジンオイルをお使いください。
グレード：API規格SNをお使いください。ILSACマークのついたものをお勧めします。



粘度：5W-30（SAE規格）のものをご使用ください。

項目	適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
オートマチックトランスミッションフルード	全車	7.0	日産純正マチックフルードS※1
フロントディファレンシャルオイル	4WD	0.65	日産純正デフオイルハイポイドスーパー（API: GL-5、SAE: 80W-90）
リヤディファレンシャルオイル	全車	1.05	日産純正ハイポイドフルードS1（API: GL-5、SAE: 75W-80）
トランスファーオイル	4WD	1.0	日産純正マチックフルードJ
ブレーキフルード	全車	–	日産純正ブレーキフルードNo.2500（DOT3）
エンジン冷却水	2WD	9.8※2	日産純正スーパーロングライフクーラント※3
	4WD	10.3※2	
インバーター冷却水	全車	2.4※4	
ウォッシャー液	全車	4.5	日産純正ウインドウォッシャー液※5

※1： 必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用するとオートマチックトランスミッションが破損するおそれがあります。
※2： リザーバータンクのMAXレベル容量（0.8ℓ）を含みます。
※3： 走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。
※4： リザーバータンクのMAXレベル容量（0.4ℓ）を含みます。
※5： 外気温に応じて濃度を調節してください。

電球（バルブ）の容量

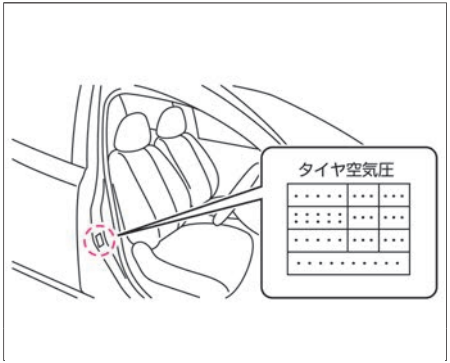
電球		容量（V-W）	電球のタイプ
前照灯（ヘッドランプ）	ロービーム	–	LED※
	ハイビーム	–	LED※
前部霧灯（フォグランプ）		–	LED※
車幅灯／デイライト		–	LED※
番号灯		–	LED※
制動灯／尾灯		-	LED※
ハイマウントストップランプ		–	LED※
後退灯		–	LED※
方向指示器 兼 非常点滅表示灯	前面、側面	–	LED※
	後面	–	LED※

※：　電球が点灯しないときは日産販売会社で点検を受けてください。

タイヤ･ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D	インセット
245/40RF19	19×8–1/2J	114.3mm（5穴）	50mm
225/50RF18	18×7–1/2J		45mm

タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してありますので、確認してください。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車両データの記録･蓄積について

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターはイベントデータレコーダ機能を備えています。
以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、イベントデータレコーダで車両が衝突したときなどの車両データを記録･蓄積しています。

知識

- イベントデータレコーダは一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声は記録しません。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したときに下記車両データを記録･蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

■ プロパイロット2.0システム

プロパイロット2.0システムは車両データを記録･蓄積します。
車両データの記録･蓄積について (P.315)

■ ポップアップエンジンフード

ポップアップエンジンフードが作動したときに下記車両データを記録･蓄積します。

- 車両速度
- ポップアップエンジンフードの作動に関する情報
- ポップアップエンジンフードの故障診断情報

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、イベントデータレコーダに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得·利用することがあります。
なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示·提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両状態記録機能

車両状態の記録･蓄積について

車両状態記録機能は、下記車両データを記録･蓄積します。

- 車輪速などの車両走行情報

車両状態記録機能

車両状態記録機能は品質維持を目的として、車両の運行状態を記録･蓄積します。
車両状態記録機能から得られたデータを元に的確なサービスを提供することができます。

知識

- 車両状態記録機能は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、車両状態記録機能に記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得･利用することがあります。
なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示･提供することがありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

3

3 点式シートベルト P.27

4

4WD
- 4WD（4輪駆動）車の扱いかた P.229
- 4WD システム異常（警告メッセージ） P.504
- タイヤサイズ異常（警告メッセージ） P.504

A

A/C（エアコン） P.155
- インテリジェントエアコン P.155
- エアコンスイッチ P.155
- エアコンを使うときに注意すること P.163
- オートエアコン P.155
- 吹き出し口 P.162
- プラズマクラスターイオン®インテリジェントエアコン P.160

ABS
- ABS P.234
- ABS 警告灯 P.75

AUXオーディオ入力端子 ..... N

B

BSI（後側方衝突防止支援システム）
- BSI（後側方衝突防止支援システム） P.368
- BSI（後側方衝突防止支援システム）表示 P.90

BSW（後側方車両検知警報）
- BSW（後側方車両検知警報） P.368
- BSW（後側方車両検知警報）表示 P.91

BUI（後退時衝突防止支援システム） P.395

E

ECOペダル P.208
ECOペダルインジケーター P.209
EDR（イベントデータレコーダ） P.600
ELR（緊急固定）付シートベルト P.27
ETC ..... N
EV 表示灯 P.78

F

FCW（前方衝突予測警報）
- FCW（前方衝突予測警報） P.407

H

HEV パワー計 P.70

I

ISO FIX 対応チャイルドシート用アンカー P.64

L

LDW（車線逸脱警報）
- LDW（車線逸脱警報） P.385
- LDW（車線逸脱警報）表示 P.90

M

MIST（ワイパー） P.223

O

ODO （オドメーター） P.71

P

PERSONALモード P.206
P戻し忘れ警告（警告メッセージ） P.504

M 「メンテナンスノート」をお読みください。
S 「自動車検査証」をご参照ください。
N 「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

Pレンジに入れてください（警告メッセージ） P.504

S

SRS エアバッグ P.34
SRS エアバッグ警告灯 P.75

T

TRIP （トリップメーター） P.71

U

USBソケット P.453

V

VDC P.235
　VDC OFF 表示灯 P.78
　VDC 警告灯 P.75

W

W数（電球の容量） P.598

ア

アームレスト P.134
アウターミラー（ドアミラー） P.138
アクティブ･サウンド･コントロール P.469
アクティブ･ノイズ･コントロール P.469
アクティブAFS P.221
アシストグリップ P.466
アダプティブシフトコントロール P.186
アテーサE-TS P.231
アドバンスドドライブアシストディスプレイ
　アドバンスドドライブアシストディスプレイ P.80
　警告メッセージ P.87
　車両情報画面 P.81
　ステアリングスイッチ P.80
　走行支援機能画面 P.88
アラーム（インテリジェントキー） P.531
アルミホイールのお手入れ P.583
アンサーバックエクステリアライト機能 P.109
アンサーバック機能 P.109

イ

ETCユニット N
EV 表示灯 P.78
イベントデータレコーダ（EDR） P.600
イモビライザー（盗難防止装置） P.66
イルミネーションコントロール P.105
インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）
　インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） P.368
インテリジェント BUI（後退時衝突防止支援システム） P.395
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）
　インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） P.407
　インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）表示 P.91
インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）
　インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） P.385
　インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示 P.89
インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付） N
インテリジェント エマージェンシーブレーキ
　インテリジェント エマージェンシーブレーキ P.335
　インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯 P.75

インテリジェント エマージェンシーブレーキ表示 P.93
インテリジェント オートライト（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付） P.214
インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム） P.239
インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）
インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム） P.413
インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）表示 P.92
ステアリングスイッチ P.418
ナビ協調機能 P.426
インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム）の使いかた P.419
インテリジェントエアコンシステム P.157
インテリジェントエアコンシステム P.155
インテリジェントエアコンシステムの使いかた P.160
インテリジェントキー P.123
機能·使いかた P.108
電池が切れたとき P.482
電池交換のしかた P.575
トランクの解錠 P.122
メカニカルキー P.481
インナーミラー（ルームミラー） P.136

ウ

ウィンカー（方向指示器） P.220
ウインドーガラス（パワーウインドー） P.141
ウェルカムライト P.109
ウォーニング（警告灯） P.75
ウォッシャー
ウォッシャー液（規定量） P.596
ウォッシャー液の補給 P.557
ウォッシャースイッチ P.226
ウォッシャーの噴霧状態点検 M
動けなくなったときは P.472
運転するときに注意すること P.22
運転前の準備 P.20

エ

エアコン P.157
インテリジェントエアコン P.155
エアコン P.155
エアコンスイッチ P.155
エアコンを使うときに注意すること P.163
オートエアコン P.155
吹き出し口 P.162
プラズマクラスターイオン®インテリジェントエアコン P.160
エアバッグシステム
SRS エアバッグ警告灯 P.75
SRS カーテンエアバッグシステム P.45
運転席·助手席SRS エアバッグシステム P.38
運転席·助手席SRS サイドエアバッグシステム P.43
SRS エアバッグ P.34
ABS
ABS P.234
ABS 警告灯 P.75
AUXオーディオ入力端子 N
ECOペダル P.208
ECOペダルインジケーター P.209
ECOペダルガイド P.210
エネルギーモニター P.85
エマージェンシーストップシグナル P.233
エンジン
エンジンオイル P.579, P.596
エンジンオイル量の点検·補給 M
エンジンルーム P.554
エンジンルームから蒸気が出ているとき P.535
エンジンを始動できないときは P.482
パワースイッチ P.177

M 「メンテナンスノート」をお読みください。
S 「自動車検査証」をご参照ください。
N 「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

フード（ボンネット） P.555
エンジン型式 S
エンジンのかかり具合、異音点検 M
エンジンの低速、加速の状態点検 M

オ

オイル P.596
オーディオ N
オートエアコン P.157
オートブレーキホールド
オートブレーキホールド P.196
オートブレーキホールド表示灯 P.78
オートライトシステム P.214
オーバーヒート P.535
オーバーヘッドコンソール P.457
オープナースイッチ
トランク P.122
お子さまを乗せるときに注意すること P.52
オドメーター（積算距離計） P.71

カ

カードホルダー P.465
外気温度計 P.73
回生協調ブレーキ P.232
回生ブレーキ P.14
外装のお手入れ P.580
カギ P.108
カップホルダー P.454
カメラ
フロントビュー／サイドビューカメラ P.589
マルチセンシングフロントカメラ P.588
リヤビューカメラ P.590
ガラスサンルーフ
ガラスサンルーフ P.144
サンシェード P.144
チルトアップ P.146
寒冷時の取り扱い P.558

キ

キー
インテリジェントキー P.108
キー（インテリジェントキー）に関する注意事項 P.112
キー（インテリジェントキー）の電池交換 P.575
キーシステム警告（警告メッセージ） P.504
キー電池残量が低下しています（警告メッセージ） P.504
メカニカルキー P.481
キースイッチ（パワースイッチ） P.177
キー連動室内照明システム P.446
キックダウン P.202
給油してください（警告メッセージ） P.504
緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルト P.29

ク

空気圧（タイヤ） P.599
くもり取り
デフロスタースイッチ P.533
リヤウインドーデフォッガースイッチ P.534
クラクション（ホーン） P.135
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ P.211
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
グローブボックス P.450

ケ

警告灯 P.75
警告灯がついたときは P.489
警告表示 P.504
警告メッセージ P.87
警告メッセージが表示されたときは P.504

警報ブザー音別一覧表（インテリジェントキー） P.531
けん引について P.474
検査標章 P.588

コ

工具 P.549
後席シート P.133
航続可能距離表示 P.70
航続距離を延ばすためのポイント P.18
後側方車両検知警報（BSW） P.368
後側方衝突防止支援システム（インテリジェント BSI） P.368
後退時衝突防止支援システム（BUI） P.395
後退灯
　電球（バルブ）交換 P.546
　電球（バルブ）容量 P.598
コートハンガー P.466
故障警告灯（MIL） P.75
故障したときは P.472
小物入れ P.452
ゴルフバッグの収納 P.468
コンソールボックス P.453

サ

サービスデータ（車両仕様） P.598
サイドミラー（ドアミラー） P.138
サイドレーダー P.587
サンシェード P.144
サンバイザー P.464
サンルーフ P.144

シ

シート
　お手入れ P.592, P.593
　前席シート P.126
　チャイルドシート P.55
　パーソナルドライビングポジションメモリーシステム P.129
　ヒーターシート P.458
シートベルト
　シートベルト警告灯 P.75
　シートベルトの着用のしかた P.31
　シートベルトの注意事項 P.32
　前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルト P.29
事故が起きたときは P.17
システム故障（警告メッセージ） P.504
室内灯 P.446
始動しない P.482
始動のしかた P.177
シフトロック
　シフトロック解除ボタン P.537
　シフトロックシステム P.537
シャシー制御 P.239
　シャシー制御（警告メッセージ） P.504
車線逸脱警報(LDW) P.385
車線逸脱防止支援システム(インテリジェント LI) P.385
ジャッキ P.549
　ジャッキアップのしかた P.553
車幅灯
　スイッチ P.211
　電球（バルブ）交換 P.546
　電球（バルブ）容量 P.598
車両（ナビゲーションシステム）
　車両 P.172
車両型式 S
車両重量 S
車両仕様 P.598
車両状態記録機能 P.602
車両情報画面 P.81
車両寸法 S
車両接近通報装置
　車両接近通報システム警告灯 P.75
　車両接近通報装置 P.246
ジャンプスタートのしかた P.486
12V 系充電警告灯 P.75
12V バッテリー P.576
乗車定員 S

M 「メンテナンスノート」をお読みください。
S 「自動車検査証」をご参照ください。
N 「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

進入禁止標識検知 P.433

ス

スイッチの操作
イルミネーションコントロールスイッチ P.105
エアコンスイッチ P.155
オートブレーキホールドスイッチ P.196
サンルーフスイッチ P.146, P.147
ステアリングスイッチ（アドバンスドドライブアシストディスプレイ） P.80
ステアリングスイッチ（インテリジェント ペダル） P.418
ステアリングスイッチ（プロパイロット2.0） P.252
デフロスタースイッチ P.533
ドアスイッチ P.115
ドアミラースイッチ P.138
ドアロックスイッチ P.118
トランクオープナースイッチ P.123
TRIP RESET スイッチ P.71
パワーウインドースイッチ P.141
パワースイッチ P.177
ヒーターシートスイッチ P.458
非常点滅表示灯スイッチ P.6
フォグランプスイッチ P.222
ヘッドアップディスプレイスイッチ P.101
方向指示器スイッチ P.220
ライトスイッチ P.211
リヤウインドーデフォッガースイッチ P.534
ワイパー･ウォッシャースイッチ P.223
ワイパースイッチ P.223
水没したときは P.539
ステアリング（ハンドル） P.135
ステアリングスイッチ
アドバンスドドライブアシストディスプレイ P.80
インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム） P.418
ステアリングスイッチ ..... N
プロパイロット2.0 ..... P.252
ステアリングロック（ハンドルロック）
ハンドルがロックしハイブリッドシステムの始動ができないときは P.483
スピードメーター（速度計） P.69
スモールランプ（車幅灯）
スイッチ P.211
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598

セ

制動灯
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
セキュリティーインジケーター P.78
設定（ナビゲーションシステム）
運転支援設定 P.167
ドライブモードセレクター P.171
セレクトレバー
アダプティブシフトコントロール P.186
セレクトレバー P.183
セレクトレバーが動かない P.537
マニュアルモード P.186
洗車のしかた P.580
前照灯（ヘッドランプ）
スイッチ P.211
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルト P.29
前席シート P.126
センターコンソールボックス P.453
前部霧灯（フォグランプ）
スイッチ P.222
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
前方衝突予測警報（インテリジェントFCW） P.407

ソ

走行可能表示灯 P.78
走行支援機能画面 P.88, P.96
走行支援システム表示 P.99
走行のしかた P.202
速度計（スピードメーター） P.69
速度標識表示 P.94, P.433
ソナー
　ソナー ..... N
　ソナーの取り扱い P.591

タ

タイヤ
　アルミホイールのお手入れ P.583
　タイヤ･ホイールを交換するとき P.563
　タイヤ･ロードホイールサイズ P.599
　タイヤ空気圧警報システム P.566
　タイヤチェーン P.571
　タイヤの位置交換（ローテーション） P.565
　タイヤの空気圧 P.561, P.599
　タイヤの点検項目 P.561
　パンク P.479
　冬用タイヤ P.571
ダイレクトアダプティブステアリング P.243
タコメーター（エンジン回転計） P.69
正しい運転姿勢について P.20
ダブルプリテンショナー機構 P.27

チ

チャイルドシート P.55
チャイルドシート適合表 P.56
チャイルドセーフティドアロック P.120
駐車のしかた P.204
チルトアップ P.146

テ

定期点検 ..... M
停車のしかた P.204
低水温表示灯 P.78
低速加速抑制機能 P.347
低速衝突軽減ブレーキ機能 P.347
テールランプ（尾灯）
　スイッチ P.211
　テールランプ表示灯 P.78
　電球（バルブ）交換 P.546
　電球（バルブ）容量 P.598
デフロスタースイッチ P.533
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
点検整備について P.548
電源ソケット P.453, P.460
点検値／交換油脂類 P.595
電池交換のしかた P.575
電動ガラスサンルーフ P.144
電動パーキングブレーキ
　電動パーキングブレーキ P.191
　電動パーキングブレーキ警告灯 P.75
　電動パーキングブレーキ注意事項 P.194

ト

ドア P.115
ドアが開かないときは P.481
ドアミラー P.138
ドアミラーヒーター P.140
ドアロックスイッチ P.118
ドアを室内から開けられないとき（チャイルドセーフティドアロック） P.120
灯火装置（ランプ）の点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 ..... M
盗難防止装置（イモビライザー） P.66
時計 P.73
ドライバーモニターシステム P.440
　ドライバーモニターシステム P.440
ドライビングポジションメモリーシステム P.129
Drive Mode拡張機能（ナビゲーションシステム）
　Drive Mode拡張機能 P.173

M 「メンテナンスノート」をお読みください。
S 「自動車検査証」をご参照ください。
N 「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

ドライブモードセレクター P.206
トラブルがおきたときは
12V バッテリーがあがったときは P.484
インテリジェントキーで始動できないときは P.482
オーバーヒートしたときは P.535
警告灯がついたときは P.489
警告メッセージが表示されたときは P.504
水没したときは P.539
セレクトレバーが動かないときは P.537
ドアが開かないときは P.481
ハンドルがロックしハイブリッドシステムの始動ができないときは P.483
ヒューズが切れたときは P.541
表示灯がついたときは P.501
ブザー（警報音）が鳴ったときは P.531
窓ガラスがくもったときは P.533
雪道やぬかるみにはまったときは P.538
トランク
トランクオープナースイッチ P.122, P.123
トランクフック P.467
トリップメーター（区間距離計） P.71

ナ

内装のお手入れ P.592
ナビ協調機能
インテリジェント ペダル（車間距離維持支援システム） P.426
ナビゲーションシステム ..... N
ナンバー灯（番号灯）
スイッチ P.211
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598

ニ

日常点検 ..... M

ネ

燃料
燃料タンク容量 P.151
燃料補給口 P.151
燃料計 P.69
燃料残量警告灯 P.75

ハ

パーキングブレーキ
電動パーキングブレーキ P.191
パーキングブレーキを解除してください（警告メッセージ） P.504
パーソナルドライビングポジションメモリーシステム P.129
排気量 ..... S
ハイビームアシスト P.217
ハイビームアシスト表示灯 P.78
ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステム（エンジン）の始動のしかた P.177
ハイブリッドシステム（エンジン）の停止のしかた P.179
ハイブリッドシステム警告灯 P.75
ハイブリッド車ってどんな車？ P.12
ハイブリッド車で事故が起きたときの注意事項 P.17
ハイブリッド車の取り扱いに関する注意事項 P.16
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
ハザードスイッチ（非常点滅表示灯） P.6
挟み込み防止機構
ガラスサンルーフ P.148
パワーウインドー P.143
発炎筒 P.473
バックアップバッテリー P.576
バックミラー（ルームミラー） P.136
発進 P.201
バッテリー
12V バッテリー P.576

バックアップバッテリー P.578
バッテリー液量の点検·補給 ..... M
リチウムイオンバッテリー P.14
バッテリーがあがったときは P.484
バッテリーセーバー
ヘッドランプ P.211
マップランプ P.446
リヤパーソナルランプ P.448
パドルシフト P.186
バニティミラー P.465
バルブ（電球）交換 P.546
バルブ（電球）容量 P.598
パワーウインドー P.141
パワーウインドーが正常に作動しないとき P.143
パワースイッチ P.177
パワースイッチでのモードの切り替えかた P.180
パワーステアリング警告灯 P.75
番号灯
スイッチ P.211
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
ハンドル P.135
ハンドルロック（ステアリングロック）
ハンドルがロックしハイブリッドシステムの始動ができないときは P.483

ヒ

ヒーターシート
ヒーターシート P.458
ヒーターシートスイッチ P.458
ヒーター付ドアミラー P.140
非常停止のしかた P.182
非常点滅表示灯
スイッチ P.6
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
尾灯
スイッチ P.211
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
ヒューズ P.541
ヒューズが切れたときは P.541
標識検知機能
進入禁止標識検知 P.433
速度標識表示 P.433
標識検知機能 P.432
標識検知機能に関する注意事項 P.436
表示灯 P.78
表示灯がついたときは P.501
ヒルスタートアシスト P.241

フ

VDC P.235
VDC OFF 表示灯 P.78
VDC 警告灯 P.75
ブースターケーブルのつなぎかた P.484
フード（ボンネット） P.555
フォグランプ
スイッチ P.222
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
フォグランプ表示灯 P.78
吹き出し口 P.162
ブザー（警報音）が鳴ったときは P.531
踏み間違い衝突防止アシスト
低速加速抑制機能 P.347
低速衝突軽減ブレーキ機能 P.347
踏み間違い衝突防止アシスト P.346
フューエルフィラーリッド（燃料補給口） P.151
フューエルメーター（燃料計） P.69
冬用タイヤ·タイヤチェーン P.571
プラズマクラスターイオン®インテリジェントエアコン P.160
ブレーキ（回生ブレーキ） P.14
ブレーキ液量の点検·補給 ..... M
ブレーキ警告灯（赤色表示） P.75
ブレーキシステム警告灯（黄色表示） P.75

M 「メンテナンスノート」をお読みください。
S 「自動車検査証」をご参照ください。
N 「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

ブレーキの効き点検 M
ブレーキペダルの踏みしろ M
フロアカーペット P.462
プロパイロット2.0
3D高精度地図データ P.314
追い越し支援機能 P.296
車線維持機能 P.277
車線変更支援機能 P.291
車速･車間制御機能 P.264
車両情報画面 P.81
ステアリングスイッチ P.252
バックアップバッテリー（プロパイロット2.0専用） P.578
プロパイロット2.0 P.249
プロパイロット2.0の解除のしかた P.262
プロパイロット2.0表示 P.89, P.99
ヘッドアップディスプレイ P.95
ルート走行支援機能 P.303
フロントガラスのくもりの取りかた P.533

へ

ヘッドアップディスプレイ P.95
警告表示 P.87
警告メッセージ P.100
車速表示 P.96
走行支援システム表示 P.99
速度標識表示 P.96
ナビゲーションシステム表示 P.97
プロパイロット2.0 P.99
ヘッドアップディスプレイスイッチ P.101
メッセージ表示 P.98
ヘッドアップディスプレイ（ナビゲーションシステム）
ヘッドアップディスプレイ P.174
ヘッドアップディスプレイの調整のしかた P.104
ヘッドランプ
自動点灯ランプの消灯のしかた P.216
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
ヘッドランプ上向き表示灯 P.78
ヘッドランプシステム異常（警告メッセージ） P.504
ヘッドランプの点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 M
ヘッドレスト
後席シート P.133
前席シート P.128

ホ

ホイールサイズ P.599
ホイールナットレンチ P.549
方向指示器
スイッチ P.220
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
方向指示表示灯 P.78
方向指示器の点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 M
ホーンの鳴らしかた P.135
ポジションインジケーター P.72
ポジションランプ（車幅灯）
電球（バルブ）交換 P.546
電球（バルブ）容量 P.598
ポップアップエンジンフード
ポップアップエンジンフード P.47
ポップアップエンジンフード警告灯 P.75
ボトルホルダー P.455
ボンネット（フード） P.555

マ

マスターウォーニング P.75
マップランプ P.446
窓ガラスがくもったときは P.533
マニュアルモード P.186
マルチセンシングフロントカメラ P.588
マルチファンクションスイッチ N

ミ

ミラー
- ドアミラー P.138
- バニティミラー P.465
- ルームミラー P.136

メ

メーター
- HEV パワー計 P.70
- アドバンスドドライブアシストディスプレイ P.74, P.80
- ECOペダルインジケーター P.209
- オドメーター（積算距離計） P.71
- 外気温度計 P.73
- 警告灯 P.75
- 警告メッセージ P.87, P.504
- 航続可能距離表示 P.70
- 車両情報画面 P.81
- スピードメーター（速度計） P.69
- 時計 P.73
- トリップメーター（区間距離計） P.71
- 表示灯 P.78
- ヘッドアップディスプレイ P.95

メーターの明るさの調節のしかた P.105
メンテナンスデータ（サービスデータ） P.595

ユ

USBソケット ..... N
雪道の走行のしかた P.560
雪道やぬかるみにはまったときは P.538

ヨ

4WD（4輪駆動）車の扱いかた P.229

ラ

ライトスイッチ P.211
ランプ（室内照明）
- マップランプ P.446
- リヤパーソナルランプ P.448

ランプが点灯しないとき（バルブの交換） P.546

リ

リチウムイオンバッテリー P.14
リヤウインドーデフォッガースイッチ P.534
リヤガラスのくもりの取りかた P.534
リヤパーソナルランプ P.448
リヤビューカメラ P.590

ル

ルームミラー P.136
ルームランプ
- マップランプ P.446
- リヤパーソナルランプ P.448

レ

冷却水
- 寒冷時の取り扱い P.558
- 規定量 P.596
- 冷却水量の点検･補給 ..... M

レーダーセンサー P.587

ロ

ロードホイール
- お手入れ P.583
- 交換 P.563
- サイズ P.599

ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト P.27
路上で故障したときは P.472

ワ

ワイパー P.573
- ワイパー P.223

M 「メンテナンスノート」をお読みください。
S 「自動車検査証」をご参照ください。
N 「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

ワイパー･ウォッシャースイッチ P.223
ワイパーアームを起こす P.227
ワイパーゴムの交換 P.574
ワックスをかけるときは P.583

警告灯･表示灯･警告メッセージが表示されたときは

メーター内に警告灯や警告メッセージが表示されたときは、すみやかに適切に対処する必要があります。詳しくは、警告灯（➔P.489）、警告メッセージ（➔P.504）をお読みください。表示灯については、表示灯（➔P.501）をお読みください。

警告灯 例

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯したときは警告灯（➔P.489）に記載されている「説明･対処方法」に従ってください。

警告メッセージ 例

警告メッセージが表示されたときは、警告メッセージ（➔P.504）に記載されている「説明･対処方法」に従ってください。

表示灯 例

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯している理由は、表示灯（➔P.501）をお読みください。

MEMO